

埼玉県加須市

騎西城武家屋敷跡

KB7・8・11・12区

第16・23次調査

—中近世編—

2016

加須市教育委員会

加須市埋蔵文化財調査報告書 第9集

騎西城武家屋敷跡

KB7・8・11・12区

第16・23次調査

—中近世編—

加須市教育委員会

埼玉県加須市

き さいじょう ぶ け や しき あと
騎西城武家屋敷跡

K B 7・8・11・12区

第16・23次調査

—中近世編—

2016

加須市教育委員会



KB7 完掘 (北から)



同 1号溝 完掘

口絵 2



KB7 1号溝 前立 (木-25) 出土



同 竹束 (木-28) 出土



KB7 1号溝 杓子 (木-17) 出土



同 堅杵 (木-23) 出土



同 漆碗 (未凶化) 出土



同 漆碗 (木-11) 出土



同 漆碗 (未凶化) 出土



同 5号井戸 桶底板 (木-2) 出土



同 2号土壙 遺物出土



同 3号土壙 遺物出土

口絵 4



KB8 北調査区完掘 (南から)



同 1号井戸 粉挽臼 (石-25~27) 他出土



同 中調査区完掘 (南から)



同 8号井戸 加工材 (木-27) 出土



同 南調査区完掘 (南から)



同 10号井戸 桶 (木-3・4) 他出土



同 かわらけ (土-329・330) 出土



KB11 完掘（北から）



同 5号溝 前立状製品（木-24）出土



同 5号溝 煙硝播（土-381）出土



同 6号溝 漆椀（木-14）出土

口絵 6



青磁・白磁・染付 (KB 7)



青磁・染付 (KB 8)



青磁・白磁・染付 (KB11・12・第23次)



古瀬戸

口絵 8



向付 (KB7)



III (KB 8)



396



542

Ⅲ



28



67



388

天目茶碗



302



381



456

碗



10



282



316

坏・小坏・小碗

口絵 10



志戸呂・初山



志戸呂播鉢



渥美・備前・丹波信楽



1



4

桶-側板



2

桶-底板



3



5



6

曲物-側板



7

三宝の縁



1



9

漆椀



10

漆椀

木製品 1



11



13



12



14



15



漆碗



箸

16



杓子

17



23

堅杵



24

前立状製品



18



19



20

編具一錘



21



22

木製品 3



26

部材



27

加工材



表

前立

裏

木製品 4



基部拡大 (表)



基部拡大 (裏)



1 火箸

上部拡大

毛抜き

火打金



鉄鏝・小柄



毛抜き・煙管など
金属製品 1



匙



刀装品



弾丸



序

加須市は埼玉県の北東部に位置し、利根川をはじめ多くの河川を擁する豊かな田園地帯であります。

市の南部に位置する騎西地域はその中央に延喜式内社玉敷神社が鎮座する、歴史の古い地域であります。地域には、旧石器時代から江戸時代までの遺跡が多数所在しており、近年進行する都市化にともなう開発により事前に発掘調査を実施しております。

今回の調査報告は、昭和61～平成3年に実施された根古屋地区に所在する騎西城武家屋敷跡KB7・8・11・12区、第16・23次調査の記録であります。調査の結果、当時の堀や井戸の跡、竹束や兜の前立、居住した武士が使用した陶磁器・漆碗など貴重な遺構・遺物が検出され、城館跡を研究する上で、騎西城の重要性を再認識することとなりました。

本報告が文化財の保護に対する理解の一助として、また郷土資料として広く活用されることを望んでおります。

最後になりましたが、調査の実施、本書の刊行に当たりまして深いご理解と多くのご協力をいただきました開発者の方々をはじめ関係各位の皆様に対しまして深く感謝申し上げます。

平成28年3月

加須市教育委員会

教育長 渡邊 義昭

例 言

1 本書は埼玉県加須市騎西地域内遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査は根古屋外川土地地区画整理に先立つもので、昭和61～平成3年に実施したものである。

3 本書の刊行に際して次のように分担して作業に当たった。

(1) 執筆 木製品 嶋村薫

ほか 嶋村英之

※基礎データ 土器類 嶋村範久(～平成23年度)

銭貨 坂本征男(～平成23年度)

板碑は『騎西町史考古資料編2』による。

(2) 写真撮影は現場は調査担当者が、その他は嶋村英之のもと整理協力員が行った。

(3) 出土品の整理・図版の作成は下記の指導者のもと、整理協力員が行った。

指導者

土器類・木・金属・石製品の一部 嶋村範久
(～平成23年度)

銭貨 坂本征男
(～平成23年度)

ほか 嶋村英之

※木製品は嶋村薫氏が実測・修正した。

『騎西町史考古資料編1』掲載のものは本報告を優先する。

※板碑の拓本は『騎西町史考古資料編2』掲載のものを加工した。

4 本書の編集は嶋村英之が行った。

5 資料は加須市教育委員会が保管している。

6 整理報告に際して下記の方からご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します。(敬称略)

嶋村 薫 竹村雅夫 藤澤良祐

調査組織

1 発掘調査組織

調査主体者 騎西町教育委員会

担当者 各調査に記載

調査協力員

青木のい 秋池角蔵 秋山ノリ子 梓沢ユキ子

網野のぶ 新井富子 荒川晃子 飯塚剛一

五十嵐喜一郎 五十嵐清 五十嵐まさ子

五十嵐米太郎 石井たね 石井のゑ 石渡とみ江

伊藤ツネ 猪股榮子 岡田伊一郎 岡田金之助

岡田光子 小川征子 加藤菊代 木下雅子 来須きく

小暮あい子 小暮光 小久保衛 小坂忠一

小林徳次郎 小林妙子 小森谷アサ 小森谷二子

斉藤年治 斉藤はる代 坂本セイ 坂本佐一

坂本藤正 坂巻茂 佐藤ヨシ 篠塚ヨネ 鈴木房子

須永春雄 関口しげ 関口千代 関口のぶ

関口信幸 関口守男 染谷喜美江 高橋和子

田口ひろみ 田口ふみ子 田口島蔵 田村源太郎

土屋とよ 内藤ふく 中島かつ江 中根聡

野本友吉 方波見良子 萩原米 福島利男

細野万次郎 松永鶴子 松村一枝 松村金蔵

松村重昭 谷部千代子 山口保雄 吉田美津

吉野武一 若林クニ子 若林美知子 渡辺サヨ

2 整理組織

(平成27年度) 加須市教育委員会

教育長 渡邊義昭

生涯学習部 部長 綱川敬蔵

副部長 中島隆明

生涯学習課 課長 大原英明

文化財担当 主幹 嶋村英之

主任 山田富実樹

主任 岩淵美恵

再任用主任 古屋 豊

整理協力員

秋山ノリ子 梓沢ユキ子 網野由美子 新井富子

新井博子 五十嵐まさ子 石坂正幸 石渡とみ子

猪股榮子 上野由里子 大塚光枝 小川征子

小川美津子 梶原妙子 加藤菊代 川辺英生
 木下雅子 栗原加奈子 小坂恭子 齊藤はる代
 佐藤ヨシ 塩崎順子 関口千代 田口ひろみ
 塚田好男 中島かつ江 中根聡 野口二三子
 萩原街子 萩原米 長谷川恵 馬場タチ子

方波見良子 松永鶴子 松村一枝 松村順子
 松本千歳 若林クニ子
 (日本大学考古学研究会) 江原英 石井美穂
 江口誠一

凡 例

1 本文および表について

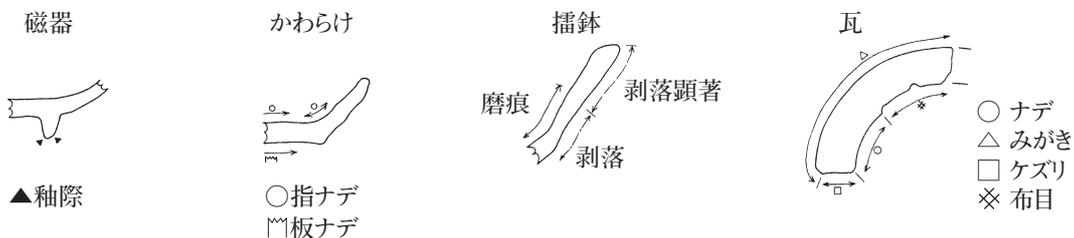
- () の数値は残存値である。
- ※は不確定な推定復元値
- 煩雑な記載を避けるため下記の通り略した。
 井戸状遺構→井戸・井。□号溝→□溝。□号土
 壙→□壙
- 銭貨の文字は欠損等しているが確定できるもの
 は明記した。

2 挿図について

- 縮尺は以下の通りである。
- 遺構 土層堆積 1/40
 溝断面・井戸状遺構・土壙 1/60
 遺物出土 1/40・1/20
- 遺物 陶磁器類・木製品 1/3
 金属製品 1/1~2 (銭貨 1/1)
 土製品・石製品 1/2~4
 石器 1/3 石造物 1/4

- 遺構断面図の基準標高は各々に記載した。
- 遺物の図ナンバーは土器類・木製品類などの製
 品毎に通しとした。必要に応じて遺物のNoに
 種別の略号を冠した。土器類(土)、木製品(木)、
 金属製品(金)、石製品(石)。
- 土層説明は土層色調/含有物の順に記載した。
 略称凡例

- ※テフラ=T、ローム=L、炭化物=C、焼土=S、
 酸化鉄=FE、黒褐色=BB、黒色=B、褐色=Br
- ※粒子=R、ブロック=B
- ※非常に多い=☆、多量=◎、少量=△、微量=▲、
 万遍なく=万
- ※やや明るい=やや明、やや暗い=やや暗
- ※非常に軟らかい=軟度高、軟らかい=軟質、
 やや軟らかい=軟度低、硬い=堅緻
- ※締まり良し=締良、締まり悪し=締悪、粘性強し
 =粘強、粘性有り=粘有



目次

序／例言／目次

第Ⅰ章 遺跡の立地・環境

- 第1節 遺跡の位置……………1
- 第2節 遺跡の地理的環境……………1
- 第3節 遺跡の歴史的環境……………2

第Ⅱ章 調査に至る経過……………9

第Ⅲ章 調査概要と検出された遺構

- 第1節 KB7区……………12
- 第2節 KB8区……………23
- 第3節 KB11区……………34
- 第4節 KB12区……………39
- 第5節 第16次……………48
- 第6節 第23次……………54

第Ⅳ章 出土した遺物

- 第1節 土器類……………61
- 第2節 木製品類……………107
 - (1) 概要……………107
 - (2) 自然科学分析……………116
- 第3節 金属製品……………118
 - (1) 鉄製品……………118
 - (2) 銅製品……………118
 - (3) 銭貨……………119
- 第4節 石製品類……………125
 - (1) 石製品……………125
 - (2) 石造物……………125

第Ⅴ章 出土遺物補遺……………144

第Ⅵ章 まとめ……………149

引用参考文献／図版／報告書抄録

挿図目次

- 第1図 遺跡の位置（騎西地域）……………1
- 第2図 周辺の微地形分類と縄文・古墳時代遺跡……………3
- 第3図 周辺の微地形分類と城館跡……………3
- 第4図 騎西城を取り巻く勢力図……………6
- 第5図 各調査区の位置……………8
- 第6図 KB7・8・11・12区、第16・23次周辺の調査……………10
- 第7図 KB7区遺構位置図……………15
- 第8図 KB7区遺構1……………18
- 第9図 KB7区遺構2……………19
- 第10図 KB7区遺構3……………20
- 第11図 KB7区遺構4……………21
- 第12図 KB7区遺構5……………22
- 第13図 KB8区遺構位置図……………27
- 第14図 KB8区遺構1……………29
- 第15図 KB8区遺構2……………30
- 第16図 KB8区遺構3……………31
- 第17図 KB8区遺構4……………32
- 第18図 KB8区遺構5……………33
- 第19図 KB11区遺構位置図……………35
- 第20図 KB11区遺構1……………37
- 第21図 KB11区遺構2……………38
- 第22図 KB12区遺構位置図……………41
- 第23図 KB12区遺構1……………45
- 第24図 KB12区遺構2……………46
- 第25図 KB12区遺構3……………47
- 第26図 第16次遺構位置図……………49
- 第27図 第16次遺構1……………50
- 第28図 第16次遺構2……………51
- 第29図 第16次遺構3……………52
- 第30図 第16次遺構4……………53
- 第31図 第23次遺構位置図……………56
- 第32図 第23次遺構1……………57
- 第33図 第23次遺構2……………58
- 第34図 第23次遺構3……………59

第35図	第23次遺構 4	60	第66図	木製品 2	110
第36図	土器類 1 (KB 7 区 1)	64	第67図	木製品 3	111
第37図	土器類 2 (KB 7 区 2)	65	第68図	木製品 4	112
第38図	土器類 3 (KB 7 区 3)	66	第69図	木製品 5	113
第39図	土器類 4 (KB 7 区 4)	67	第70図	木製品 6	117
第40図	土器類 5 (KB 7 区 5)	68	第71図	金属製品 1 (鉄)	120
第41図	土器類 6 (KB 7 区 6)	69	第72図	金属製品 2 (銅 1)	121
第42図	土器類 7 (KB 8 区 1)	70	第73図	金属製品 3 (銅 2・鉛)	122
第43図	土器類 8 (KB 8 区 2)	71	第74図	金属製品 4 (銭貨 1)	123
第44図	土器類 9 (KB 8 区 3)	72	第75図	金属製品 5 (銭貨 2)	124
第45図	土器類 10 (KB 8 区 4)	73	第76図	石製品 1 (石臼 1)	126
第46図	土器類 11 (KB 8 区 5)	74	第77図	石製品 2 (石臼 2)	127
第47図	土器類 12 (KB 8 区 6)	75	第78図	石製品 3 (石臼 3)	128
第48図	土器類 13 (KB 8 区 7)	76	第79図	石製品 4 (石臼 4)	129
第49図	土器類 14 (KB 8 区 8)	77	第80図	石製品 5 (石臼 5)	130
第50図	土器類 15 (KB 8 区 9)	78	第81図	石製品 6 (石臼 6)	131
第51図	土器類 16 (KB 8 区 10)	79	第82図	石製品 7 (石臼 7)	132
第52図	土器類 17 (KB 8 区 11)	80	第83図	石製品 8 (硯・砥石 1)	133
第53図	土器類 18 (KB11区 1)	81	第84図	石製品 9 (砥石 2・磨石 1)	134
第54図	土器類 19 (KB11区 2)	82	第85図	石製品 10 (磨石 2)	135
第55図	土器類 20 (KB11区 3)	83	第86図	石製品 11 (磨石 3・火打石)	136
第56図	土器類 21 (KB11区 4)	84	第87図	石製品 12 (板碑 1)	137
第57図	土器類 22 (KB12区 1)	85	第88図	石製品 13 (板碑 2)	138
第58図	土器類 23 (KB12区 2)	86	第89図	石製品 14 (板碑 3)	139
第59図	土器類 24 (KB12区 3)	87	第90図	石製品 15 (五輪塔)	140
第60図	土器類 25 (KB12区 4)	88	第91図	補遺 1	145
第61図	土器類 26 (第16次)	89	第92図	補遺 2	146
第62図	土器類 27 (第23次 1)	90	第93図	補遺 3	147
第63図	土器類 28 (第23次 2)	91	第94図	絵図との対照図	150
第64図	土器類 29 (土製品)	92	第95図	前立の復元	151
第65図	木製品 1	109	第96図	遺跡の変遷	152

表目次

第1表	KB7区遺構一覽表 1	14	第17表	土器類一覽表 8	100
第2表	KB7区遺構一覽表 2	17	第18表	土器類一覽表 9	101
第3表	KB8区遺構一覽表 1	26	第19表	土器類一覽表 10	102
第4表	KB8区遺構一覽表 2	30	第20表	土器類一覽表 11	103
第5表	KB11区遺構一覽表	36	第21表	土器類一覽表 12	104
第6表	KB12区遺構一覽表 1	43	第22表	土器類一覽表 13	105
第7表	KB12区遺構一覽表 2	44	第23表	土器類一覽表 14	106
第8表	第16次遺構一覽表	49	第24表	木製品一覽表 1	114
第9表	第23次遺構一覽表	56	第25表	木製品一覽表 2	115
第10表	土器類一覽表 1	93	第26表	木製品一覽表 3	117
第11表	土器類一覽表 2	94	第27表	金属類一覽表 1	119
第12表	土器類一覽表 3	95	第28表	金属類一覽表 2	124
第13表	土器類一覽表 4	96	第29表	石製品類一覽表 1	141
第14表	土器類一覽表 5	97	第30表	石製品類一覽表 2	142
第15表	土器類一覽表 6	98	第31表	石製品類一覽表 3	143
第16表	土器類一覽表 7	99	第32表	補遺一覽表	148

図版目次

図版 1	遺構 1	KB 7 区 1	図版 17	遺構 17	第 16 次 2
図版 2	遺構 2	KB 7 区 2	図版 18	遺構 18	第 16 次 3
図版 3	遺構 3	KB 7 区 3	図版 19	遺構 19	第 23 次 1
図版 4	遺構 4	KB 7 区 4	図版 20	遺構 20	第 23 次 2
図版 5	遺構 5	KB 8 区 1	図版 21	遺構 21	第 23 次 3
図版 6	遺構 6	KB 8 区 2	図版 22	出土遺物 1	土器類 1
図版 7	遺構 7	KB 8 区 3	図版 23	出土遺物 2	土器類 2
図版 8	遺構 8	KB 8 区 4	図版 24	出土遺物 3	土器類 3
図版 9	遺構 9	KB 8 区 5	図版 25	出土遺物 4	土器類 4
図版 10	遺構 10	KB 8 区 6	図版 26	出土遺物 5	土器類 5
図版 11	遺構 11	KB11区	図版 27	出土遺物 6	土器類 6
図版 12	遺構 12	KB12区 1	図版 28	出土遺物 7	土器類 7
図版 13	遺構 13	KB12区 2	図版 29	出土遺物 8	石製品類 1
図版 14	遺構 14	KB12区 3	図版 30	出土遺物 9	石製品類 2
図版 15	遺構 15	KB12区 4	図版 31	出土遺物 10	石製品類 3
図版 16	遺構 16	第 16 次 1	図版 32	出土遺物 11	補遺

第1章 遺跡の立地・環境

第1節 遺跡の位置 (第1図)

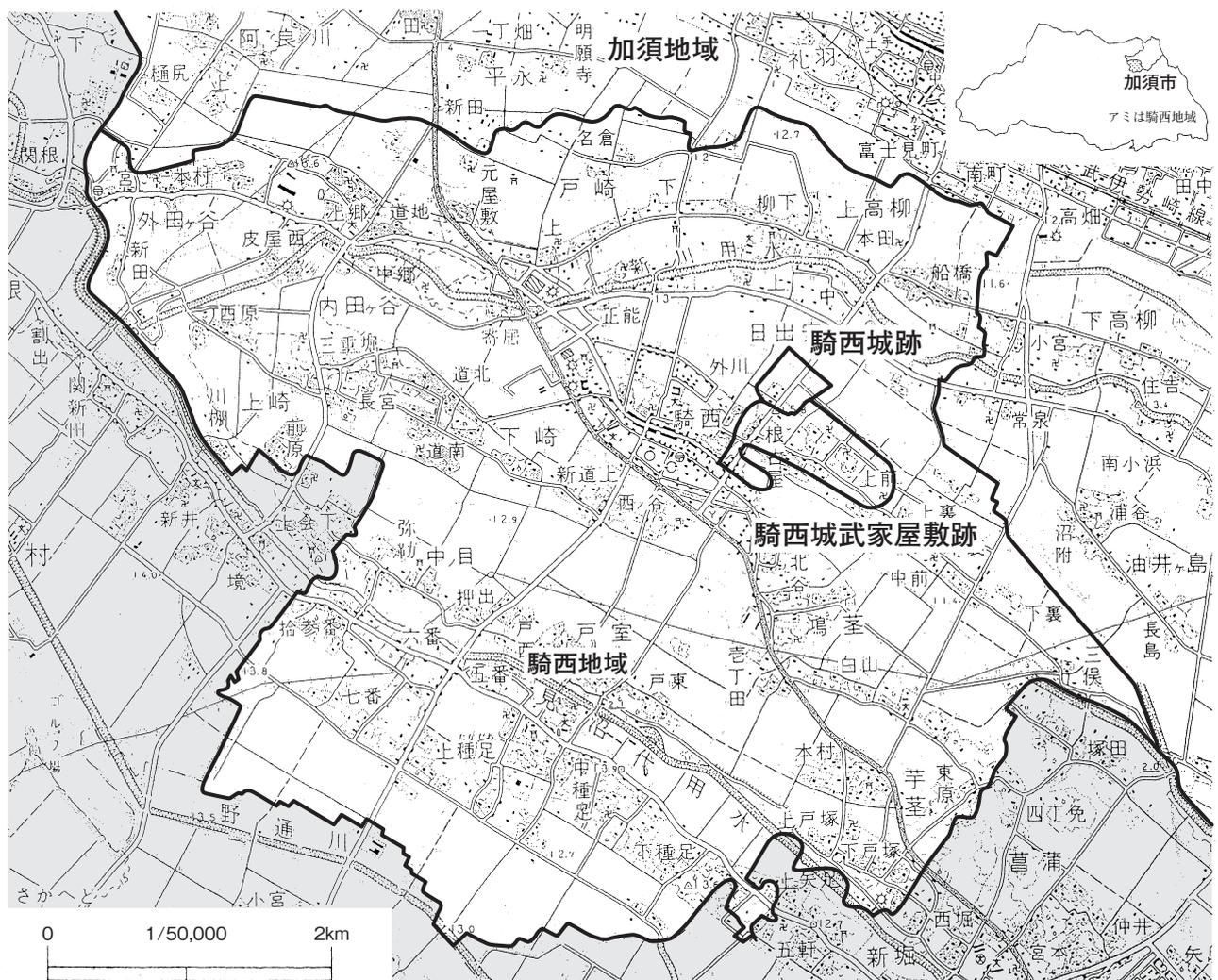
加須市騎西地域は埼玉県北東部に位置し騎西城武家屋敷跡はそのほぼ中央にある。行政上では加須市根古屋字道上・中宿・前・道下、牛重上前・中前・上裏その他に所在する。戦国から江戸時代の城跡で、昭和56年度実施の騎西町遺跡詳細分布調査や明治9年の「地引番号全図根古屋」、江戸時代に描かれた「武州騎西之絵図」などにより城の形状や武家屋敷の範囲が明らかである。遺跡の範囲は騎西生涯学習センターから南東へ1.2km、南西へ約0.5kmである。

地には、騎西島状台地群をはじめとして笠原支台より断続的に続く埋没ローム台地がいくつか存在し、造盆地運動によって台地や低地が沈降した。その上に利根川などの氾濫による河成堆積物が堆積し、自然堤防・埋没ローム台地・後背湿地・沼沢地が形成されたものである。

現在騎西地域内で確認されている原始から近世までの遺跡は埋没ローム台地と自然堤防上に立地していると言われてきた。しかし発掘調査では、旧石器時代から奈良・平安時代の遺跡は自然堤防とされている見沼代用水両岸に位置しいずれもローム台地上に展開している。

第2節 遺跡の地理的環境 (第2図)

大宮台地の北東から南東方向には肥沃な水田地帯である加須低地・中川低地が広がっている。加須低



第1図 遺跡の位置 (騎西地域)

第3節 遺跡の歴史的環境(第2・3図)

※(遺跡名)は『騎西町史考古資料編1』に準じたものである。城館跡名では不適切となるため小字による遺跡名を付け直したものである。

1 旧石器時代

約2万年前以降、ナイフ形石器や尖頭器が盛行した頃、萩原遺跡をはじめ(前)・(中宿)遺跡で該期の遺物が出土している。(前)遺跡では尖頭器及び剥片の集中箇所が2カ所確認されている。

細石刃石器群が出現した約1万5千年前以降では下崎中郷遺跡で北方系の削片、(道上)遺跡では同系の荒屋型彫刻器が出土している。

2 縄文時代

草創期に(中宿)遺跡で有舌尖頭器が見られるのみで土器は発見されていない。早期は修理山・小沼耕地・(前)・(道上)遺跡で撚糸文系土器、(前)遺跡では集石遺構が、(道上)遺跡で沈線文系土器、条痕文系は修理山・(前)・(中宿)・(道上)遺跡で土器が出土しており、特に修理山・(中宿)遺跡では炉穴が確認された。

前期では前半花積下層・関山・黒浜式土器が小沼耕地・(前)・(道上)で出土している。後半諸磯から十三菩提式期までは前半に加え萩原遺跡で諸磯式土器が、小沼耕地遺跡では県内では希少な花積下層式期の住居跡状落ち込みが検出されている。

中期前半に(道上)・萩原遺跡で五領ヶ台式・勝坂式が確認されている。後半は加曾利E式期その後半に(中宿)遺跡で柄鏡形住居・(道上)遺跡で竪穴住居が、萩原・修理山遺跡では集落が展開した。修理山遺跡では10軒の竪穴住居、萩原遺跡では数軒の住居跡と墓壙などが見つかった。

両遺跡は後期前半堀の内期までは集落を継続し少数ながら住居跡や貯蔵穴が検出された。後半になると再び遺物のみの出土となるが萩原・中郷・(前)・(中宿)・(道上)遺跡で加曾利B～後期安行式が出土している。晩期では安行3a～3d式が修理山・町並・(道上)・(前)・(中宿)遺跡で出土している。

3 弥生時代

騎西地域内ではこのころの遺跡は少なく、中期では小沼耕地(※町史では上種足三番)遺跡で磨製石鏃が、(道上)遺跡では後期の壺や器台の破片が出土しており、中種足五番遺跡の絵画土器や小沼耕地遺跡の土器片は弥生時代終末期から古墳時代初頭のものである。

4 古墳時代

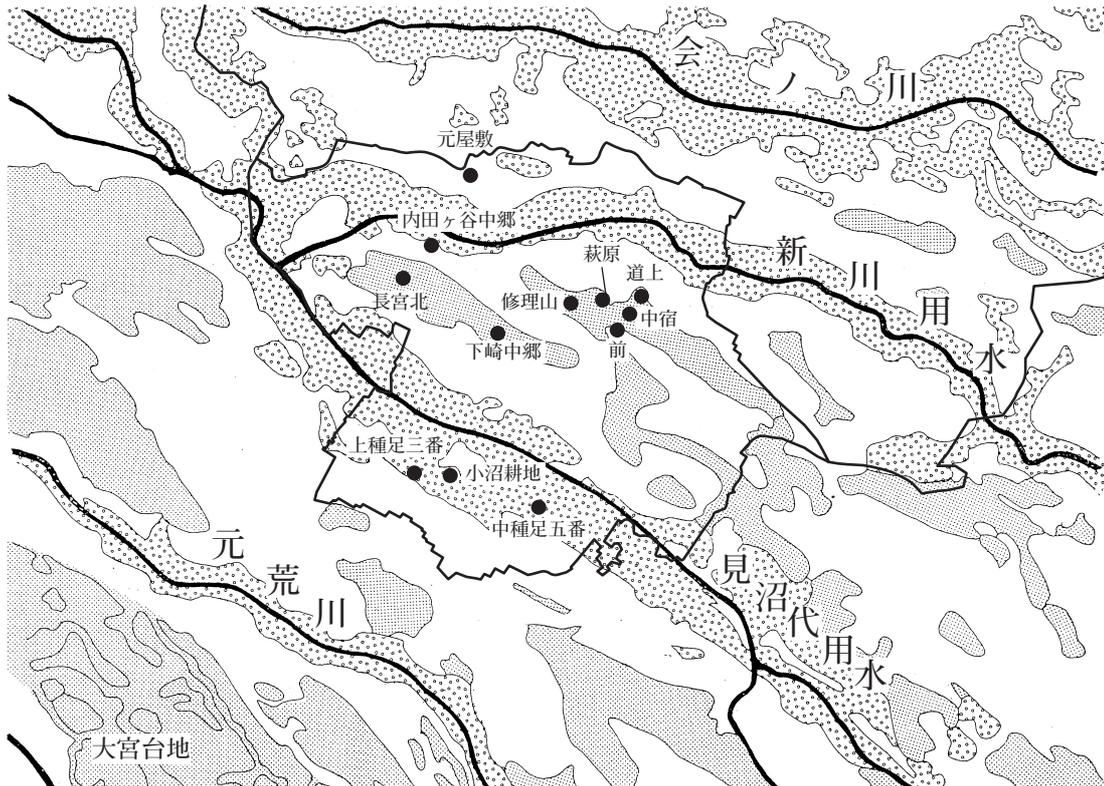
古墳跡は小沼耕地遺跡※で6～7世紀の前方後円墳1基・円墳5基が確認されている。また、(内田ヶ谷中郷)遺跡で勾玉や埴輪片、(前)遺跡の埴輪片や隣接する(中宿)遺跡の切子玉・さらにその周辺で出土したと伝えられる石棺部材(市内の玉敷神社所在)等からこれらの地域にも古墳が所在していたものと考えられる。また、集落は前期の住居跡が小沼耕地遺跡・(中宿)遺跡、中期の住居跡が萩原遺跡、後期の住居跡は萩原遺跡・(道上)遺跡・(中宿)遺跡で確認されており、なかでも萩原遺跡は地域内屈指の集落遺跡である。そのほかにも古墳時代の土師器が中種足五番遺跡・観音堂遺跡から出土し集落の所在を予想させる。他に古墳時代前期の方形周溝墓が修理山遺跡・小沼耕地遺跡で確認されている。

以上のように現在遺跡が確認されている台地には古墳及び集落がそれぞれ所在するものと考えられる。

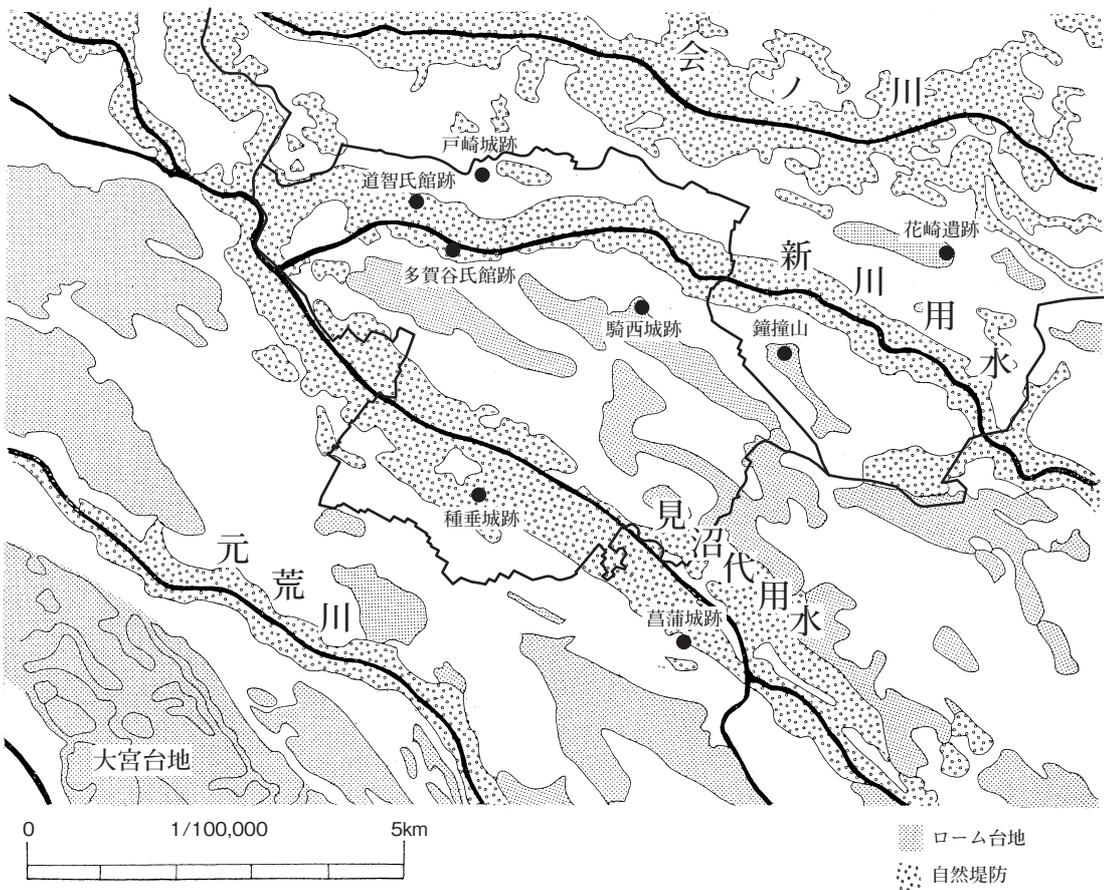
※町史の上種足三番遺跡を含む

5 奈良・平安時代

住居跡が確認されているのは(道上)遺跡・小沼耕地(※町史では上種足三番遺跡)で8世紀代のものである。下崎中郷遺跡では湖西産とみられる須恵器が、観音堂・中種足五番遺跡で須恵器や土師器が、(中宿)遺跡では小金銅仏が出土している。元屋敷遺跡では墨書土器や瓦が出土している。



第2図 周辺の微地形分類と縄文・古墳時代遺跡



第3図 周辺の微地形分類と城館跡

6 中近世

騎西地域内には平安末から鎌倉時代にかけて武蔵武士野与党の道智氏・多賀谷氏が館を構えたといわれる。

多賀谷氏館は、内田ヶ谷の大福寺を中心にあったものと思われ、建久元年（1190）多加谷小三郎が源頼朝の上洛の随兵を、建長3年（1251）多賀谷弥五郎重茂が鎌倉由比ヶ浜での御弓始の射手を務めている『吾妻鏡』。永享年間（1429-41）初め頃に結城に移ったといわれる多賀谷光義は敬神の念厚く郭内に稲荷明神を勧請した『多賀谷旧記』。発掘調査では館跡の東端（1次調査）で、溝から12～14世紀の同安・龍泉窯系青磁碗・常滑広口壺が出土しており、ほぼ中央大福寺の北（4次調査）で、土壌から12～13世紀の同安・龍泉窯系青磁とともに刀身先端や鉄鏃が出土している。

道智氏館は、道地の成就院周辺で建久元年（1190）道智次郎が源頼朝の上洛の随兵を務め、承久3年（1221）の宇治橋の合戦では道智三郎太郎が討ち死にしている『吾妻鏡』。発掘調査では館跡のほぼ中央で13～14世紀の龍泉窯系青磁が、西端で12～13世紀の龍泉窯系青磁などが出土している。

種垂城跡は、上種足種垂城址公園から東へ広がり百石・シロンチ（城の内？）等の地名が残る。雲祥寺縁起には騎西城主小田頭家が養子の助三郎（忍城主成田親泰の子）に家督を譲り種垂村に隠居したという。発掘調査では、溝・井戸・土壌・火葬跡を検出し、漆碗・小柄や13～17世紀の陶磁器類が出土している。

隣接する**旧上種足三番遺跡**（現小沼耕地遺跡）では、溝・土壌・井戸・集石墓が検出されており、12世紀の白磁水注・13世紀の龍泉窯系青磁・常滑甕・在地の蔵骨器・箆状木製品が出土している。

小沼耕地遺跡では、県埋蔵文化財調査事業団の調査で、掘立柱建物跡・基壇状遺構・溝・井戸などが検出され、12～13世紀を主体とする陶磁器類が出土している。種足は、中世前半の弘安10年頃（1287）伊賀光清が所領としており、また応永24年（1417）に日英上人が種垂の講演御堂（布教道場）等の講演職を弟子に任せている。三番・小沼耕地遺跡の成果

はそれらに関わるものとも思われる。

南方の中種足五番遺跡では12～13世紀の龍泉窯系の青磁や15～16世紀の染付、13～17世紀の古瀬戸・常滑・在地の陶磁器類が出土している。

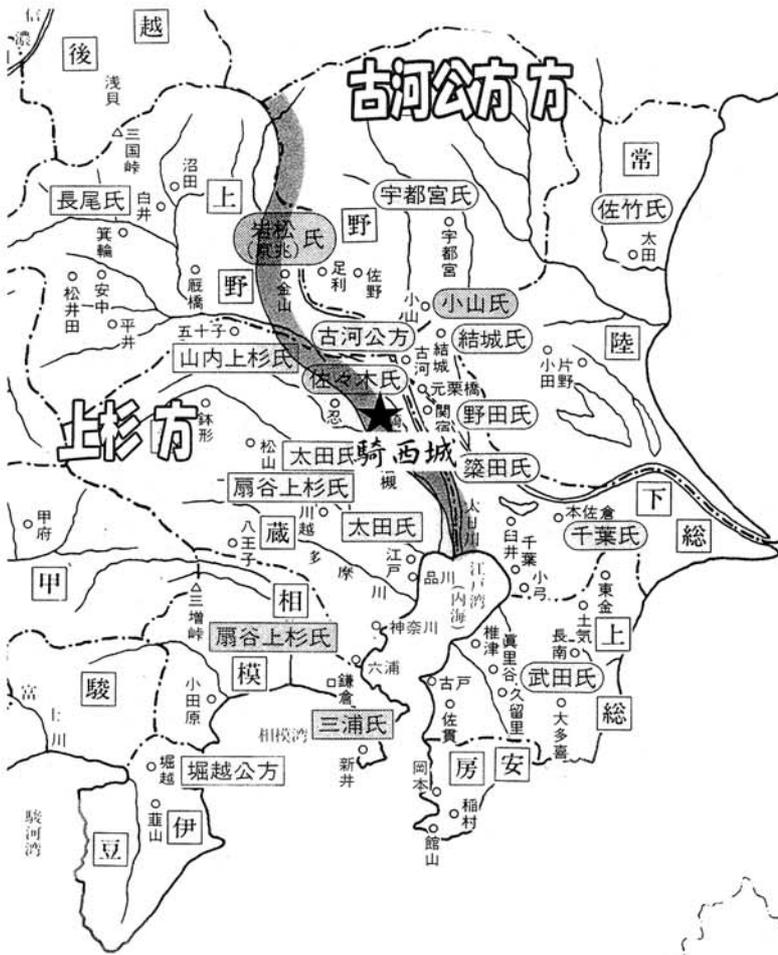
戸崎城跡は、『新編武蔵風土記稿』に戸崎右馬允居跡なりとある。また、『吾妻鏡』に戸崎右馬允国延が寿永3年（1184）源頼朝の御前の射手となることある。発掘調査では土塁跡や13世紀の鉢や17・18世紀の陶磁器類が出土している。

騎西城（騎西城周辺年表参照）は、文献や江戸初期の『武州騎西之絵図』など城の絵図が遺る。遺構は現在土塁跡が僅かに残るだけであるが、昭和55年から80次を超えて発掘調査されており、主に土地区画整理に伴い城郭部や武家屋敷跡西部の成果が顕著である。これまでに溝400条・土壌1600基・井戸状遺構200基・障子堀5ヶ所・橋跡4ヶ所が確認されている。遺物は戦場及び生活の場として武器武具・生活・生業・信仰・流通に関する多様なものが出土している。特に水位が高いことから木製品の遺存がよい。**武器武具**では、兜・前立・刀装品・鉄鏃・火縄挟み・弾丸・馬甲・轡・四方手・野杓・腰刀・薙鎌など、**生活品**では、下駄・鏡・竪杵・鉄鍋・桶・漆碗・杓子・折敷・火打金・天目茶碗・湯釜・将棋の駒など、**生業**では、砥石・紡錘車・鋏・溶解炉・鋳型・埴塙・金銀粒子付着土器など、**信仰**では護符・呪符・舟形・位牌・銅鏡・数珠など、**流通**では金・袋入り銭貨・荷札などがある。年代を比定できる陶磁器は12世紀から19世紀にかけてのもので、主体は16～17世紀前半である。瀬戸美濃をはじめ中国染付・唐津・志戸呂・初山・在地産かわらけ・ほうろく・播鉢などがある。

このほかに、日出安の保寧寺中世墓址では、大量の川原石や板碑、12～14世紀の常滑の甕・壺、13世紀の布目瓦が出土している。墓域の成立は中世前半に遡るものか。また、下崎の道南遺跡で工事の際1978枚の北宋銭が出土している。

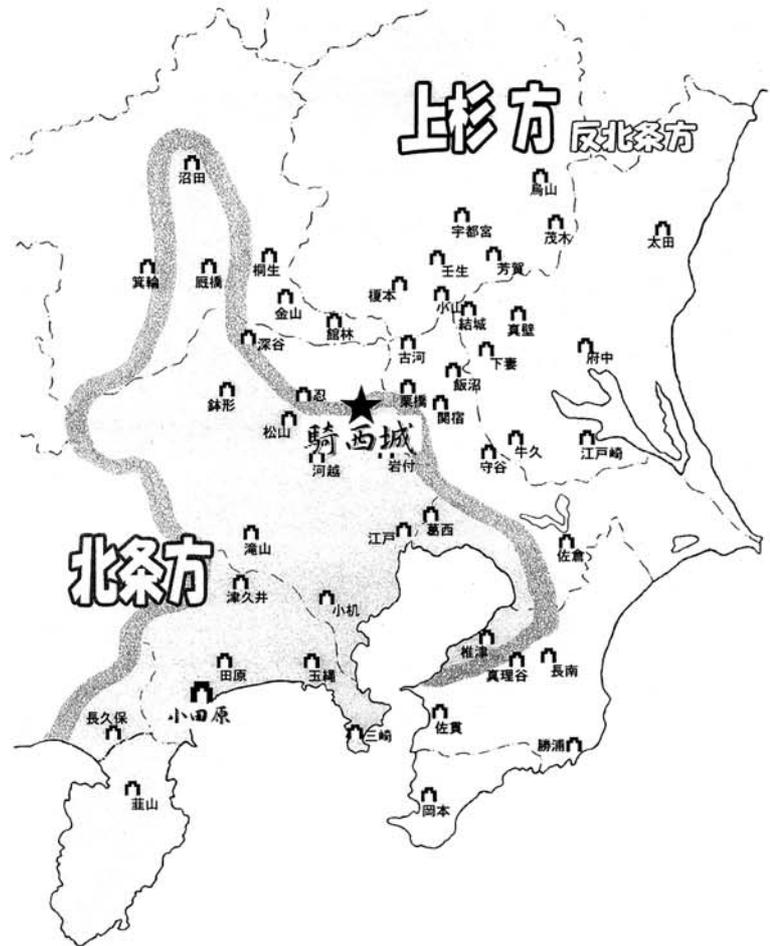
騎西城周辺年表

- 康正元年（1455） 足利成氏、崎西郡（騎西城）に集結する上杉勢（上杉・疍鼻和氏など）を攻略する
- 文正元年（1466） 足利成氏、南多賀谷（田ヶ谷）と北根原（鴻巣市）で上杉勢と合戦に及ぶ
- 応仁元年（1467） ★応仁の乱
- 文明3年（1471） 上杉方に対峙する足利成氏の戦略配置に私市（騎西）の佐々木氏あり
- 文亀2年（1502） 騎西城主小田顕家、上会下（鴻巣市）の雲祥寺を再興。忍城（行田市）主成田親泰の子助三郎家時を娘婿とし騎西城を譲り、自らは種足村に隠居する
- 天文8年（1539） 騎西城主小田顕家没、雲祥寺に葬られる
- 天文12年（1543） ★鉄砲伝来
- 永禄3年（1560） 長尾景虎（上杉謙信）関東の北条方諸城を攻略
- 永禄4年（1561） 騎西城主小田助三郎、兄の忍城主成田長泰と共に景虎の小田原攻めに参加する。長泰、鶴岡八幡宮で上杉政虎（謙信）に辱めを受け、北条方となる。助三郎も従う
- 永禄6年（1563） 北条氏康・武田信玄連合軍が松山城（吉見町）を攻略。報復に上杉輝虎（謙信）、騎西城を攻略
- 永禄12年（1569） 上杉と北条の講和成立（越相同盟）。上杉方は武蔵北部を支配
- 天正2年（1574） 上杉謙信、羽生・関宿城を救援。騎西・古河・栗橋・館林・菖蒲・岩付城を焼き払う
- 天正4年（1576） 成田泰喬（成田氏長カ）、家臣に知行を宛がう
- 天正5年（1577） 小田大炊頭、古河公方への年頭の挨拶を行う
- 天正6年（1578） 小田大炊頭、足利義氏に年頭の挨拶。謙信没
- 天正18年（1590） ★徳川家康、関東へ入国。松平康重に騎西領二万石を与える
- 天正19年（1591） 松平康重大英寺を開基、日出安・保寧寺に田畑1町歩を寄進する
- 文禄2年（1593） 康重、朝鮮出兵のため騎西領民を召し連れる
- 慶長元年（1596） 根古屋の金剛院、日出安から移転する
- 慶長4年（1599） 松平康重の奥方、城内にて死去、大英寺に葬る
- 慶長5年（1600） ★関ヶ原の戦い
- 慶長7年（1602） この頃大久保忠常、騎西領二万石を拝領する
- 慶長8年（1603） ★徳川家康、江戸に幕府を開く
- 慶長11年（1606） 騎西藩の家臣、領内（正能村）を検地する
- 慶長16年（1611） 忠常病死。子の忠職、父の遺領騎西領二万石を拝領する
- 慶長19年（1614） 大久保忠隣改易となり小田原・羽生城を没収、孫の騎西城主忠職は閉門に処せられる
- 寛永2年（1625） 忠職、赦免される
- 寛永4年（1627） 大久保忠職、久伊豆大明神（玉敷神社）に社領を寄進する
- 寛永9年（1632） 忠職、三万石加増され、美濃加納へ転封し五万石を拝領する。騎西城廃され、代官所置かれる



享徳の乱初期の関東
(1454～)

氏康 × 謙信の頃の関東
(永禄・天正年間)



『古河公方展』古河歴史博物館
『中世・下町再発見』葛飾郷土と天文の博物館
掲載の図を改変

第4図 騎西城を取り巻く勢力図

騎西城周辺の歴史的経過 (年表・第4図)

当遺跡では濃密ではないが中世を通して遺物が出土している。12世紀代の常滑甕、舶載白磁、渥美製品、また古瀬戸陶器等が見られる。騎西城以前にも集落・館等が存在していたようである。

【享徳の乱】

文献では騎西城は、康正元年（1455）に初出し寛永9年（1632）年廃城となり姿を消す。享徳の乱では、関東公方足利成氏が古河に移り、関東管領上杉氏と対峙する。その争いの中に崎西郡を舞台として争う場面がある。これが騎西城とされる。残念ながら現在のところ当該期に相当する遺構は確認されていない。だがこの時期に騎西城の前線基地としての重要性は格段に高まり、戦闘の拠点としての城の整備がされたものと思われる。関東管領家臣の太田道灌が岩付城・河越城・江戸城の防衛ラインを張ったとき騎西城はすでに古河方の足場として機能していたのではないだろうか。

【永禄・天正期の軍事的緊張】

また、永禄から天正年間にかけての後北条氏対上杉謙信の覇権争いにおいても境の城であった。騎西城は何度となく厳しい立場に追い込まれている。特に謙信が関東の足掛かりとした羽生城を間近にしており、2度の戦火を被っている。

文献では、永禄6年、北条氏康・武田信玄が松山城を包囲したが、その救援に間に合わなかった謙信は攻める方向を転じ騎西城を攻略したとされる。その後、謙信は武田信玄との敵対関係から北条氏康との和睦（越相同盟）を成し、しばし平安であった。しかし北条氏康没後、甲相同盟の復活によりまた北条・上杉の合戦が再開された。天正2年には謙信が羽生・関宿城援護のため出陣し、古河・栗橋・館林・菖蒲・岩付城とともに騎西城を焼き討ちにしている。

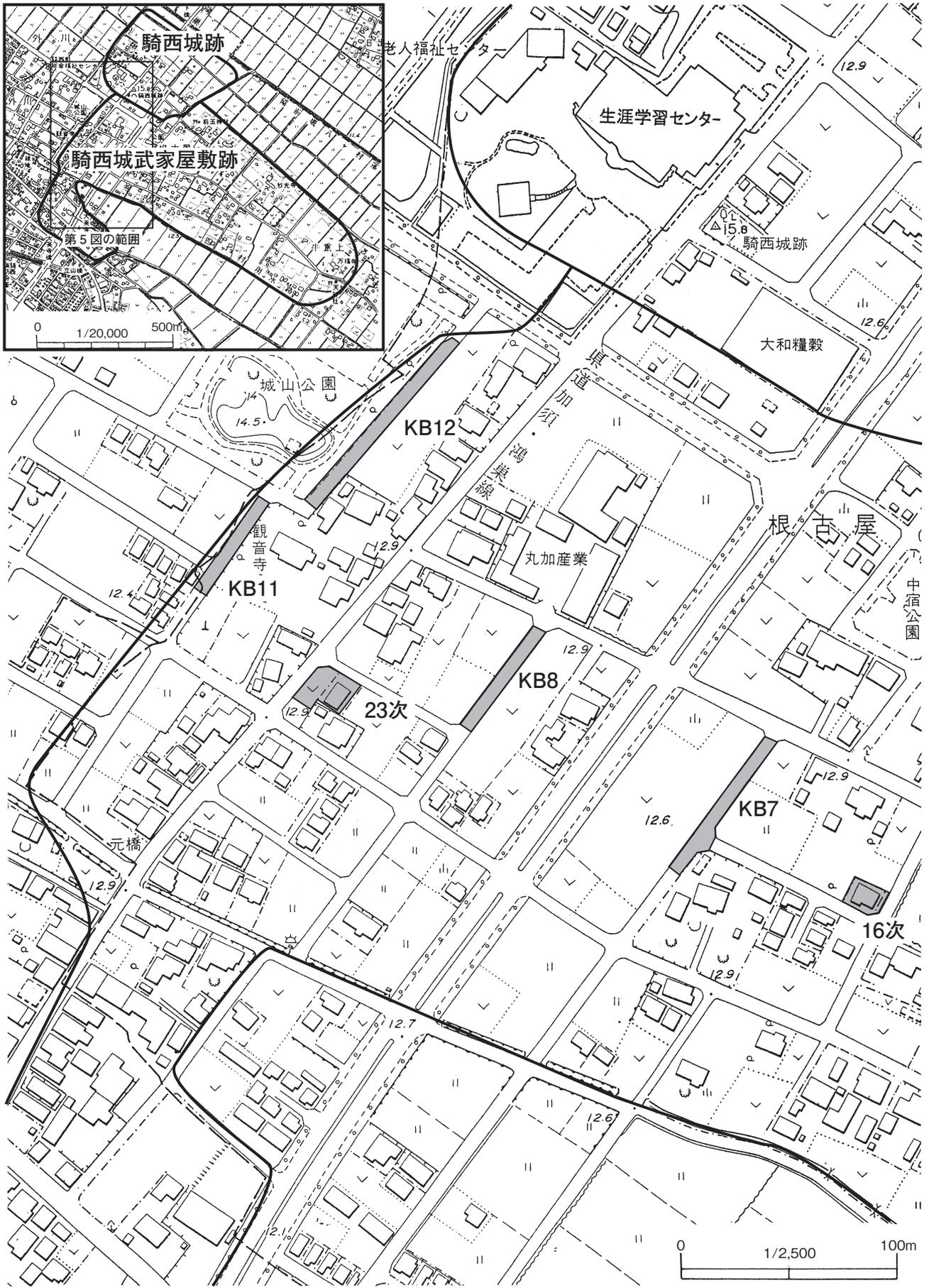
当該期の遺物・遺構は豊富で、城郭部周辺の障子堀（KB15区・騎13次）から炭化物・遺物が多量に出土している。これらはこの頃の戦火に伴う戦後処

理のものと思われる。

【秀吉の小田原攻めと家康の関東入封】

豊臣秀吉が小田原城を攻めたとき、忍城も石田三成に水攻めを受けている。騎西城も備えとして城の拡張・改良を行っているものと思われる。特に城郭部を巡る障子堀を二重にしたり、堀幅を広くしたのはこの時期の可能性がある。

その後家康が関東に入り、騎西城には松平康重、大久保忠常・忠職が藩主となっている。その際に城郭部の縮小や城下の再編成を行っているものと思われる。実際『武州騎西之絵図』に載る御蔵屋舗には外側に障子堀を備えており、戦乱時は城郭部であったことを物語っている。



第5図 各調査区の位置

第Ⅱ章 調査に至る経過

旧騎西町は首都圏50km圏内に位置し、急激な人口の増加に伴う開発が見込まれていた。それに対し計画的な都市整備の一環として大字根古屋及び外川において土地区画整理事業が計画されていた。

町教育委員会では昭和56年度に実施した町内遺跡群分布調査によって町内に15ヶ所の遺跡が所在することを確認しており、とくに区画整理対象区域に所在する騎西城については小田原市に所蔵されていた『武州騎西之絵図』と対照すると南側に江戸初期に武家屋敷が広がっていたことが明らかとなっている。さらに昭和54年に実施した騎西城跡の城郭部の発掘調査では、和鏡や武具などの出土により城の存在を実証し、その内容を具体的に明らかにしたものであった。僅かに残る土塁や水田と畑地に見られる郭の形など遺存状態は良く、地下に埋蔵される遺構は特

に期待されるものであった。

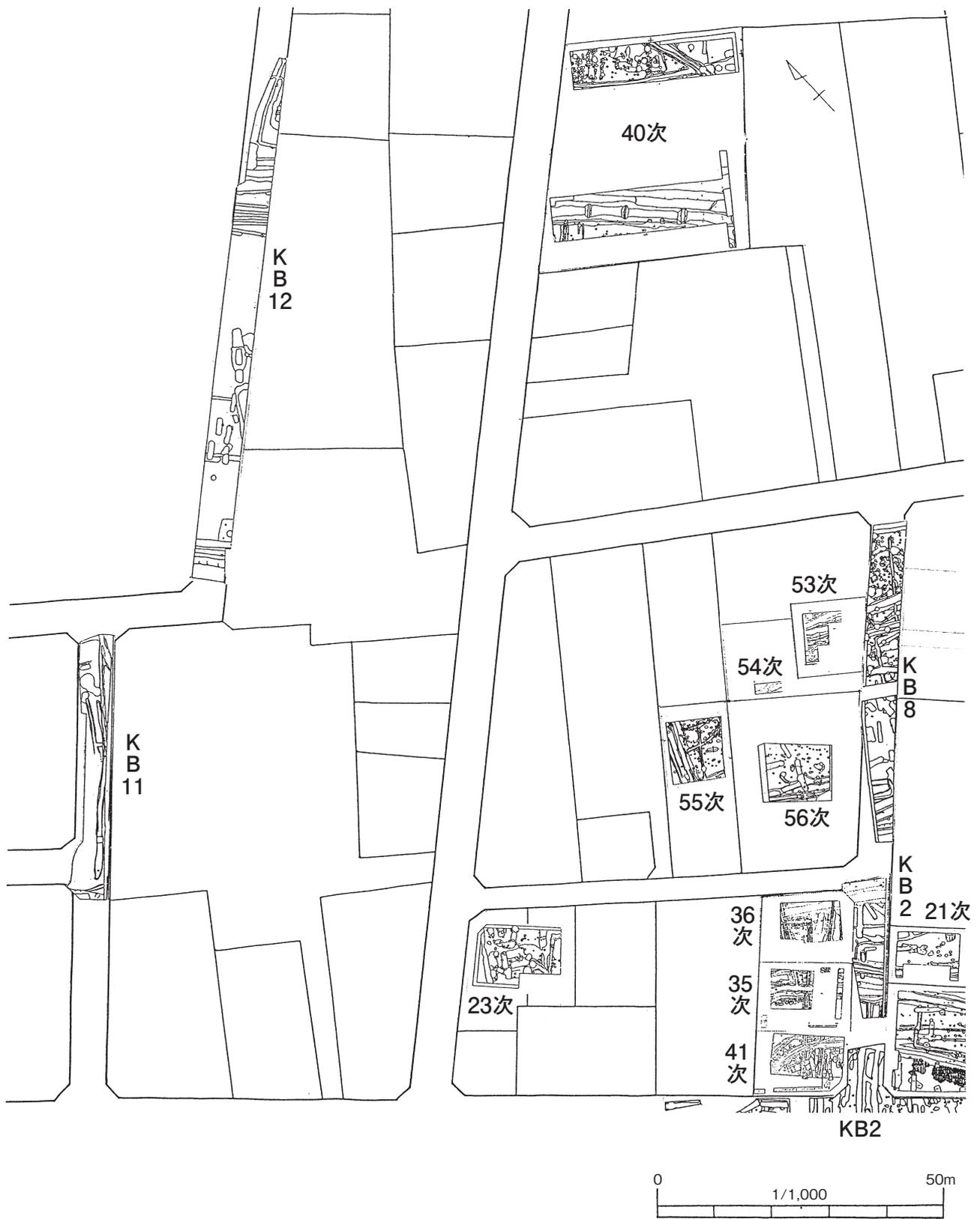
しかしながら、長年の懸案であった根古屋・外川地区土地区画整理事業は町の重要施策であり、計画の中止及び変更は困難な状況であった。

そこで町教育委員会では町部局と協議を重ねた結果、区画整理施工に先立ち破壊される道路分について順次発掘調査を実施することとした。また、区画整理により発生する保留地についても町が原因者として発掘調査をすることとした。

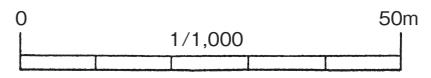
文化財保護法に基づき騎西町から埋蔵文化財発掘通知、騎西町教育委員会から埋蔵文化財発掘調査通知を文化庁長官に提出した。

調査は昭和58年2月9日（騎2次）から開始し、平成7年（第48次）までの13年に亘るものであった。今回の報告は、調査実施区域の南側を主とするもので調査名ではKB7・8・11・12区、第16・23次である。

調査名	所在地（大字根古屋）	文化庁通知番号		
KB7区	字前129-1他	S60.5.24	60委保記第2-761号	道路
KB8区	字前123-1他	S60.5.24	60委保記第2-761号	道路
KB11区	字中宿190他			道路
KB12区	字中宿187他			道路
第16次	仮換地51街区6画地	H2.10.22	2委保記第5-2173号	保留地（住宅）
第23次	仮換地36街区1,7画地	H3.10.11	3委保記第5-3081号	保留地（住宅）



第6図 KB7・8・11・12区、第16・23次周辺の調査



第三章 調査概要と検出された遺構

第1節 KB7区

(1) 調査概要

調査担当 指導課 島村範久 主事嶋村英之

調査期間 昭和61年2月10日～11月28日

調査面積 470㎡

調査の経過

KB3区の北に位置する幅6m長さ72mの調査区をKB7区とした。掘り下げは、確認面まで浅く表土から人力により行った。遺構確認面はローム層とした。調査はKB8区と並行して行なった。

排土置場が確保できたため、ほぼ全面を同時に調査した。降雨による滞水・湧水などが調査の支障となるため、西側に側溝を掘り下げ水中ポンプにより排水した。包含層中の遺物は測量・写真撮影し取り上げた。

遺構調査は1号溝が大規模で遺物量も多いため調査の主体となり並行して他の遺構の調査を行った。溝に関する重複が多くその前後関係を確認しながら慎重に調査した。最後に調査区南部の東側部分は予定になかったが1号溝の行方を確認するために拡張調査をした。

遺物の取り上げ等は方位北に合わせ10m方眼にグリッド設定し、その杭を基準とした。遺構の図化については調査区全体を平板測量により、各遺構を任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

遺物の検出を想定し、各井戸の覆土を洗浄した。最後に縄文時代遺構検出のため精査を行った。その際土器片が確認された。グリッド杭設置及び基準杭の標高は測量業者に委託した。

周辺の調査(第6図)

北に48・17・8・9次、東方に16次、西方にKB4区・26次、南接して3区がある。

48次では並行する2条の溝、多数のピット・井戸・土壇、17・8・9次では斜行する溝が、16次では大規模な楕円形土壇が、確認されている。4区では南と中程に7区と対応しそうな溝や大規模な土壇が

検出された。3区では南北方向に浅い溝が走行している。

(2) 遺構と遺物

【溝状遺構】

溝は総数15条を数える。調査区の南に屈曲する大規模な1号溝が、南北方向に4・5号溝が並行する。調査区中央部には6・7・10号溝が東西方向に並行する。1号溝は木製品などの遺物の出土が多い。

1号溝 断面形は緩やかに立ち上がる。幅414cm深さ118cmを計る。南西隅の底面に障子堀の棧(高さ5cm?程度)のような堀り残しが確認された。また、北の屈曲部にも掘り残しが認められた。4区の2号溝と規模・深さが同様で、つながる可能性があるが断面形態・覆土は同一ではない。出土遺物は土器類では、龍泉窯系青磁碗(土-1・2)・常滑片口鉢(土-3~6)・瀬戸美濃折縁皿(土-7)・同播鉢(土-8・9)・良好な遺存の同端反坏(土-10)・志戸呂播鉢(土-11)・かわらけ(土-12・13)13は完形・焙烙(土-14・15)・土鍋(土-16)・在地片口鉢(土-17)・同播鉢(土-18)がある。木製品では桶側板(木-1)・曲物側板(木-5・6)・三宝の縁(木-7)・漆椀(木-9~12)・杓子(木-17)・編具-錘(木-18~22)・堅杵(木-23)・部材(木-26)など15個体、良好なものが多かったが長期保存のため腐食により図化不能が多数ある。前立(木-25)は下層で水平に出土し、土圧のためか波打つ。下層で溝の長軸方向に竹束(木-28)が水平に出土している。木製品は出土分布図を第8図に掲載した。金属製品では、小柄(金-8)・煙管(金-18)・柄頭(金-33)・銭貨(金-47)がある。石製品では、石臼片(石-1~4)・砥石(石-54)・磨石(石-80)・板碑(石-112~114)・板碑台石(石-138)がある。ほかに板材・樺・炭化米?・炭化物・桃の種115点・不明種子9点・栗の皮1点が出土した。

溝の年代は下層から騎西城I期(15c後半~16世紀前半)の完形かわらけ(土-13)、中位層から登窯1~2期(17c前半)の端反坏(土-10)が出土しており、時間幅が長いものと思われる。

3号溝 幅246cm深さ40cmを計るが、深さ14cm程度の浅い溝の中央に幅60cm深さ40cmの溝がある。

4号溝 幅90cm深さ12cmを計る。5号溝と並行する。

5号溝 幅400cm深さ46cmを計る。3号溝同様、浅い溝の中央に深い溝がある。龍泉窯系青磁碗（土-19）・銭貨（金-48~53）が出土した。

6号溝 断面形は傾斜の緩い箱葉研である。幅310cm深さ100cmを計る。上層にロームブロックを多量に含む。常滑片口鉢（土-20）・かわらけ（土-21）・焙烙（土-22）・磨石（石-81）が出土した。

7号溝 6号溝と併行する。断面形は箱堀である。幅160cm深さ37cmを計る。

11号溝 調査区北に位置し、幅85cm深さ26cmを計る。かわらけ（土-23）・茶臼（石-5）・砥石（石-55・56）が出土した。

12号溝 調査区北に位置し11号溝と隣接する。幅48cm深さ25cmを計る。かわらけ（土-23）が出土した。

15号溝 調査区南調査拡張部に位置し、南北方向に走る。幅90cm深さ70cmを計る。在地片口鉢（土-24）・土鍋（土-25・26）・粉挽臼（石-6）・砥石（石-57）が出土した。

【井戸状遺構】

総数10基を数える。調査区中央寄り以南に2基、北に8基まとまる。いずれも素堀で平面形は円形か楕円形である。規模はほとんどが直径100cm前後で、3・6・7号井戸は断面上部が広がり直径120cmを超える大きなものである。深さでは1・5・6号井戸は160cmを超える深いものである。5・6・9号井戸では完形に近いかわらけが出土した。

1号井戸 直径84cm深さ160cmを計り深い。木片・桃の種3点・不明種子1点が出土した。

2号井戸 直径96cm深さ90cmを計り浅い。断面に足掛けの凹みか。桃の種2点・不明種子1点が出土した。

3号井戸 直径120cm深さ92cmを計る。在地片口鉢（土-27）・磨石（石-82）・板材片・炭化材が出土した。

4号井戸 直径100cm深さ90cmを計る。竹片・桃の種4点・不明種子1点が出土した。

5号井戸 直径118cm深さ165cmを計る。出土土器類は多く、瀬戸美濃天目茶碗（土-28・29）・破碎の略完形のかわらけ（土-33）・焙烙（土-34）が流れ込みのように、桶底板（木-2）が水平に出土した。ほかに、瀬戸美濃稜皿（土-30）・同丸皿（土-31・32）・銭貨（金-54）・板材片・漆碗・炭化材・桃の種10点・不明種子1点が出土した。

6号井戸 直径160cm深さ164cmを計る大規模なものである。断面に足掛けの凹みか。瀬戸美濃端反皿（土-35）・完形のかわらけ（土-36）・焙烙（土-37）・銭貨（金-55）・炭化材・桃の種9点・不明種子1点が出土した。

7号井戸 半分以上調査区外で、直径120cm深さ55cmを計る。かわらけ（土-38）が出土した。

8号井戸 直径92cm深さ90cmを計る。在地片口鉢（土-39）が出土した。

9号井戸 直径85cm深さ100cmを計る。かわらけ（土-40）・粉挽臼（石-7）が出土した。

10号井戸 半分が調査区外で、直径100cm深さ60cm（残存）を計る。

【土壙】

総数17基を数え、調査区北に比較的多く分布する。円形あるいは長方形でほとんどが浅い。3号土壙と17号土壙は深い。1~3号土壙で遺物がまとまって出土している。

1号土壙 平面円形で直径101cm深さ12cmを計り浅い。遺物が多く瀬戸美濃播鉢（土-8・41）・在地播鉢（土-42）・粉挽臼（石-8~11）・板碑などが確認面上層で出土した。

2号土壙 範囲105cm×46cm。かわらけ（土-43~45）45は完形・銭貨（金-56・57）が確認面上層で出土した。墓壙か。

3号土壙 平面円形で直径78cm深さ46cmを計る。在地片口鉢（土-46）・石臼片（石-11~15）・磨石（石-83）・馬?の歯列が出土した。石臼は破碎されていた。馬を埋葬したものか。

7号土壙 平面長方形で396cm×140cm深さ22cmを計る大型のもの。

8号土壙 12号溝とつながり平面不整な円形で直径

164cm 深さ26cm を計る。かわらけ (土-47・48) が出土した。

10号土壙 平面長方形で234cm (残存) ×196cm 深さ27cm を計る。焙烙 (土-49・50) ・炭化種子塊が出土した。

17号土壙 平面長方形で210cm (残存) ×110cm (残存) 深さ70cm を計るしっかりしたものである。瀬戸美濃天目茶碗 (土-51) ・同播鉢 (土-52) が出土した。

【ピット】

調査区中程やや北寄りに分布している。

遺構外出土遺物

舶載磁器は一括取り上げで出土地点は不明である。また、おおよその傾向として調査区全体に16世紀代が、南に17世紀初めの土器類が確認されている。

陶磁器では、龍泉窯系青磁碗 (土-54・55) ・同青磁香炉 (土-56) ・同安窯系青磁碗 (土-57) ・中国白磁碗 (土-58) ・同白磁皿 (土-59・60) ・同染付碗 (土-61・62) ・同染付皿 (土-63~65) ・常滑片口鉢 (土-66) ・瀬戸美濃天目茶碗 (土-67~72) ・同丸碗 (土-73) ・同端反皿 (土-74・75) ・同丸皿 (土-76) ・同稜皿 (土-77) ・同灯明皿 (土-78~80) ・同大皿 (土-81) ・同黄瀬戸鉢 (土-82) ・同播鉢 (土-83~89) ・同徳利 (土-90・91) ・同祖母懷壺 (土-92) ・同瓶子 (土-93) ・唐津碗 (土-94) ・同向付 (土-95) ・志戸呂播鉢 (土-96) ・同徳利 (土-97) ・同壺 (土-98) ・信楽灯明皿 (土-99) ・肥前染付碗 (土-100~102) ・同染付皿 (土-103) ・同香炉 (土-104) ・同猪口 (土-105・106) ・同小坏 (土-107) が

出土した。

在地土器では、かわらけ (土-108~116) ・焙烙 (土-117~120) ・土鍋 (土-121) ・片口鉢 (土-122~124) が出土した。

金属製品では、火打金状製品 (金-5) ・鋸 (金-35) ・銭貨 (金-58~71) が出土した。

石製品では、粉挽臼 (石-16~23) ・砥石 (石-58~62) ・磨石 (石-84~87) ・板碑 (石-115~121) が出土した。

他にスラグ203g が出土した。

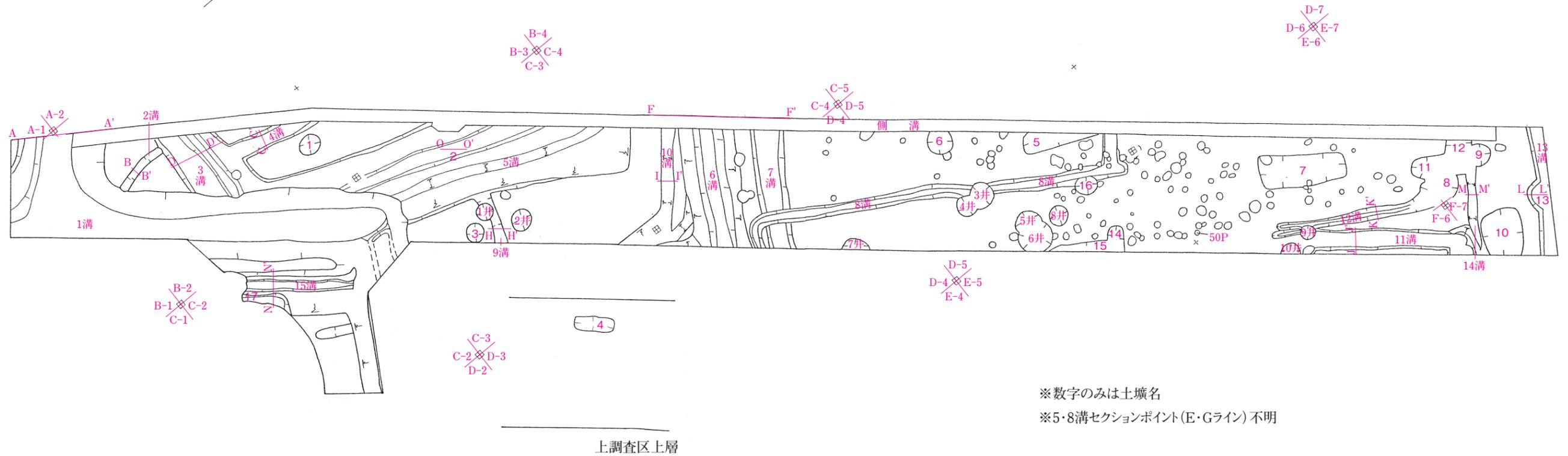


1号溝 調査風景

() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	B-1・2G C-2G	2・3・5溝→○	屈曲	箱薬研	幅☆414	☆118	暗灰褐色	龍泉窯系青磁碗/常滑片口鉢/瀬美 (折縁皿・播鉢・端反坏)/志戸呂播鉢/かわらけ/焙烙/土鍋/在地 (片口鉢・播鉢)/小柄/柄頭/煙管/銭貨/粉挽臼/茶臼/砥石/磨石/板碑/板碑台石/杓子/桶側板/曲物側板/漆碗/三宝の縁/前立/編具-錘/板材/部材/樺/竹束/竪杵/柄頭/炭化米?/炭化物/種子 (桃・不明)/栗の皮	15c 中~ 17c 前	KB4区 2溝と つなが るか。

第1表 KB7区遺構一覧表1

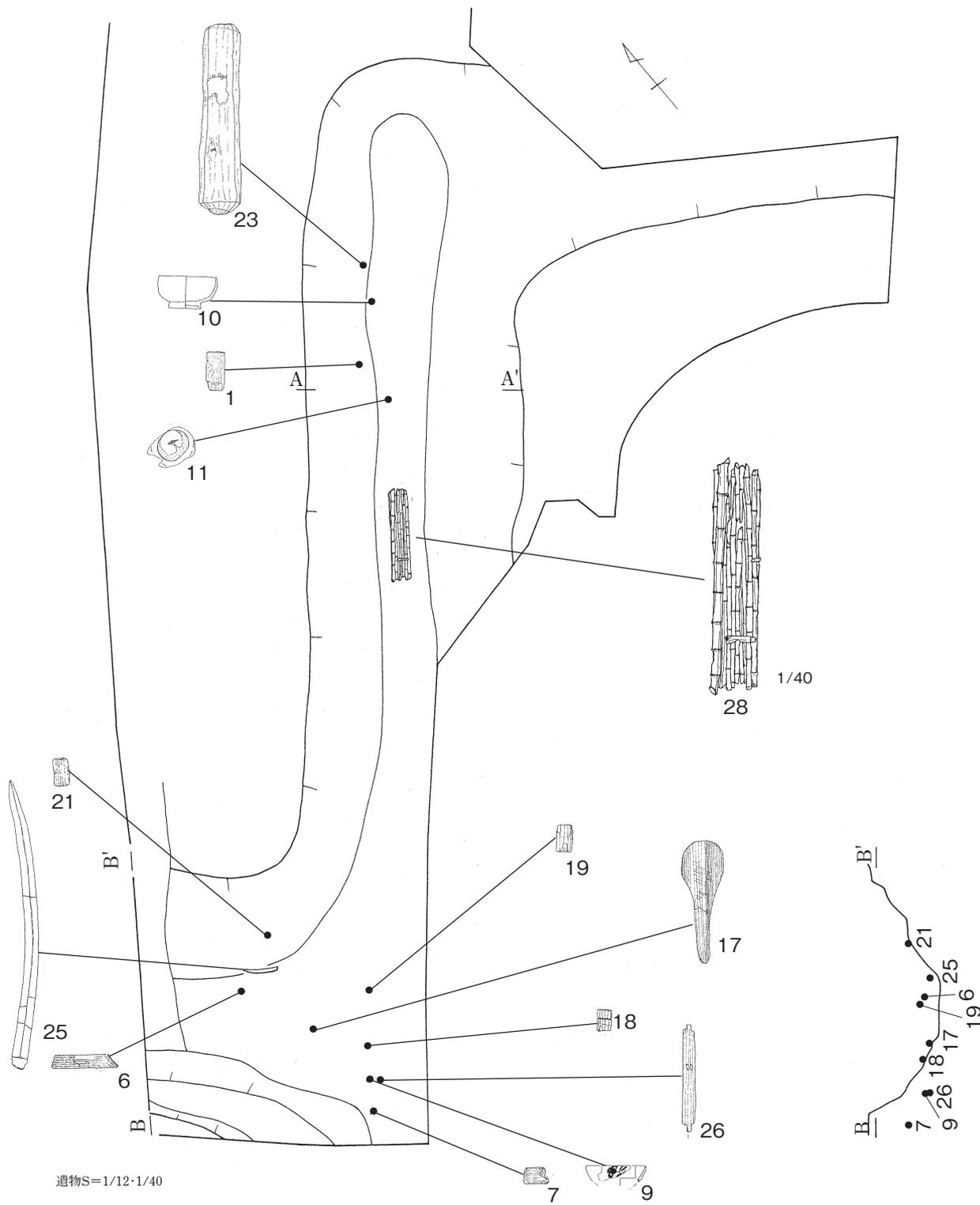


第7図 KB7区遺構位置図

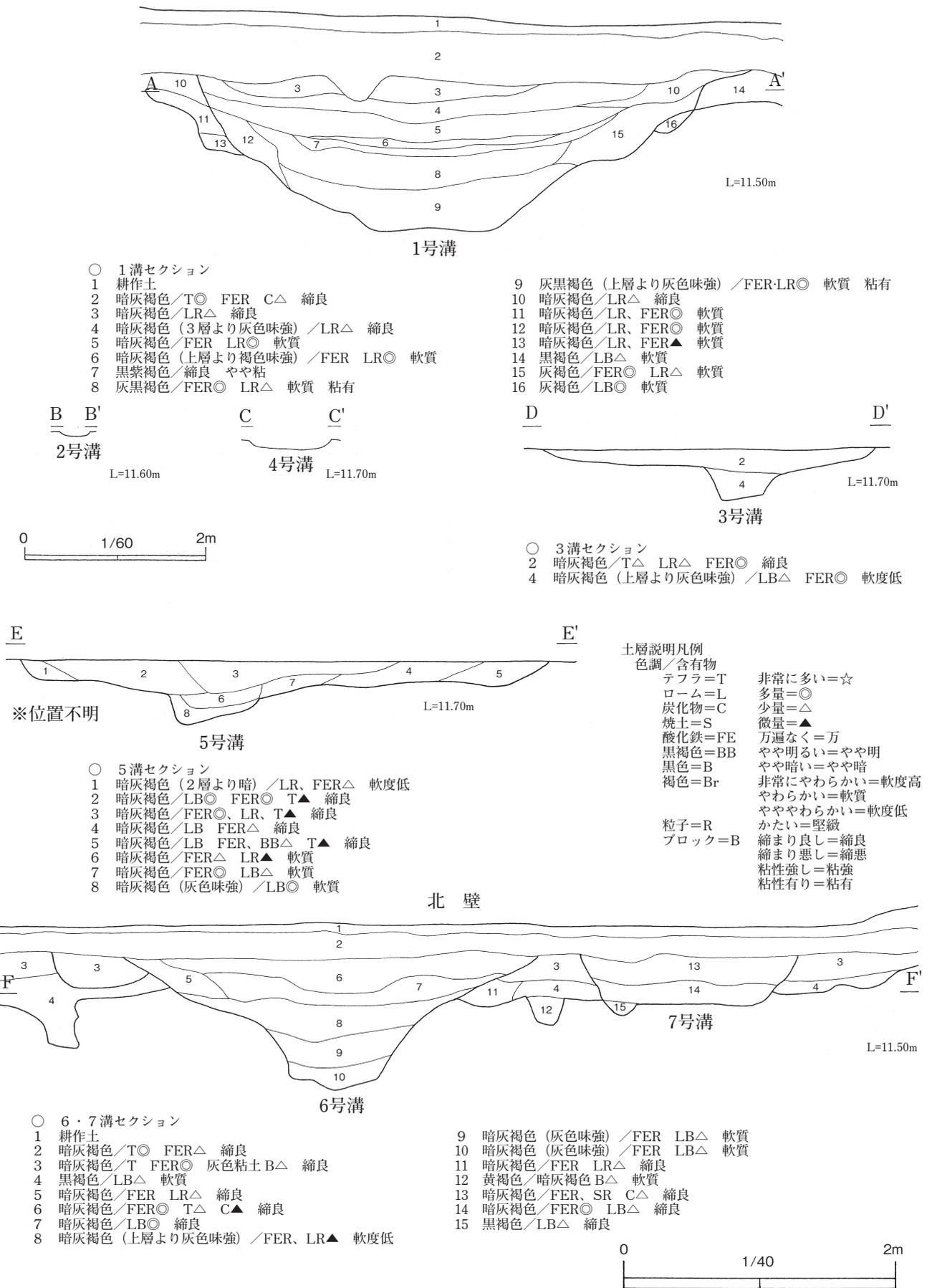
() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
2号溝	B-2G	○→1・3溝	湾曲	ほぼ直上	幅☆33	☆6	不明			
3号溝	B-2G	2・4溝→○→5溝/1溝	直線	薬研	幅☆246	☆40	暗灰褐色/含T△		~18c末	
4号溝	B-2G	○→3溝	直線	ゆるやか	幅90	12	暗灰褐色/含灰白色粘土B・LB△ 縮良			
5号溝	C-3G	3溝→○→1・9溝、4壙/1井	直線	ゆるやか	幅400	☆46	暗灰褐色/含T▲	龍泉窯系青磁碗/銭貨	12c中~18c末	
6号溝	C-D-4G	10溝	直線	箱薬研	幅☆310	☆100	暗灰褐色/含T△上層LB◎	常滑片口鉢/かわらけ/焙烙/磨石	17c前~18c末	
7号溝	C-D-4G	8溝→○	直線	箱堀	幅☆160	☆37	暗灰褐色	かわらけ		
8号溝	D-4・5G	○→7溝、3井/16壙	屈曲	ほぼ直上	幅60	☆20	暗灰褐色/含T◎		~18c末	
9号溝	C-3G	5溝→○→1井	湾曲	ほぼ直上	幅☆45	☆12	不明			
10号溝	F-7G	6溝	直線	ほぼ直上	幅62	10	暗灰褐色/含T		~18c末	
11号溝	E-F-6G	○→9・10井	直線	ほぼ直上	幅85	26	暗灰褐色/含LR◎・T・FE△ 縮良	かわらけ/茶臼/砥石	~18c末	土壙か
12号溝	E-6G	○→9井/8壙	直線	ほぼ直上	幅☆48	☆25	暗灰褐色/含T▲	かわらけ	~18c末	
13号溝	E-F-7G	13壙→○	直線	ほぼ直上	幅☆(60)	☆22	暗灰褐色			
14号溝	F-7G	9壙→○→11壙	直線	ほぼ直上	幅35	☆12	暗灰褐色/含T▲		~18c末	
15号溝	C-2G	17壙	直線	ほぼ直上	幅90	70	不明	在地片口鉢/土鍋/粉挽臼/砥石	14c前~	
1号井戸	B-2G	9溝→○	円形	直上	84	160	暗灰褐色	木片/種子(桃・不明)		
2号井戸	C-3G	なし	円形	ほぼ直上	96	90	暗灰褐色/含T◎・FER◎・LR◎ 縮良	種子(桃・不明)	~18c末	
3号井戸	D-5G	8溝、4井→○	円形	ほぼ直上	120	92	暗灰褐色/含C◎・FER・T・SR△	在地片口鉢/磨石/板材片/炭化材	~18c末	
4号井戸	D-5G	○→3井	円形	直上	100	90	暗灰褐色/含C・LR・T△	竹片/種子(桃・不明)	~18c末	
5号井戸	D-5G	6井→○	円形	ほぼ直上	118	165	暗灰褐色/含LR・C・SR△	瀬美(天目・稜皿・丸皿)/かわらけ/焙烙/銭貨/桶底板/板材片/漆碗/炭化材/種子(桃・不明)	17c後~	
6号井戸	E-5G	○→5井	円形	ロート形	160	164	暗灰褐色	瀬美端反皿/かわらけ/焙烙/銭貨/炭化材/種子(桃・不明)	17c前~	
7号井戸	D-4G	なし	円形	ほぼ直上	120	☆55	暗灰褐色	かわらけ		
8号井戸	E-5G	なし	円形	直上	92	90	暗灰褐色/含LR◎・C△ 縮良	在地片口鉢		
9号井戸	E-6G	11・12溝→○	円形	ほぼ直上	85	100	暗灰褐色	かわらけ/粉挽臼		
10号井戸	E-6G	11溝→○	円形	ほぼ直上	☆100	☆(60)	暗灰褐色			
1号土壙	B-2G	なし	円形	ほぼ直上	101	☆12	暗灰褐色/含LR△ 縮良	瀬美播鉢/在地播鉢/粉挽臼/板碑	16c~	
2号土壙	C-3G	5溝	不明	不明	範囲105×46	-	不明	かわらけ/銭貨	15c中~	墓壙?
3号土壙	C-3G	なし	円形	ほぼ直上	78	46	暗灰褐色/含LR◎・C△ 縮良	在地片口鉢/粉挽臼/茶臼/磨石/園(馬?)		墓壙?
4号土壙	D-3G	5溝→○	長方形	ほぼ直上	188×64	10	不明			
5号土壙	D-5G	なし	隅丸長方形	ほぼ直上	(344)×100	18	暗灰褐色/含FER◎・T△ 縮良		~18c末	
6号土壙	D-5G	なし	円形	ゆるやか	124	9	暗灰褐色/含LR△			
7号土壙	E-6G	なし	長方形	ゆるやか	396×140	22	不明			
8号土壙	E-7G	12溝、11壙	円形?	ほぼ直上	164	26	暗灰褐色/含T▲	かわらけ	16c中~18c末	
9号土壙	E-7G	○→14溝/12壙	円形	ほぼ直上	106	☆12	暗灰褐色/含C△			
10号土壙	F-7G	なし	長方形	ゆるやか	(234)×196	☆27	暗灰褐色/含LB◎ 縮良	焙烙/炭化種子塊	16c~	
11号土壙	E-7G	14溝、12壙→○/8壙	隅丸長方形	ほぼ直上	(265)×92	☆23	暗灰褐色/含LR・LB△ 縮良			
12号土壙	E-7G	○→11壙/9壙	長方形?	ゆるやか?	127×(78)	☆11	暗灰褐色/含LR△軟質			
13号土壙	F-7G	○→13溝	円形?	ほぼ直上	150×(66)	☆16	暗灰褐色/含LR△縮良			
14号土壙	E-5G	15壙	長方形	ほぼ直上	(116)×63	10	不明			
15号土壙	E-5G	14壙	長方形?	不明	(268)×(42)	6	不明			
16号土壙	E-7G	8溝	円形?	ゆるやか	105×(66)	10	不明			
17号土壙	D-5G	15溝	長方形	ほぼ直上	(210)×(110)	70	不明	瀬美(天目・播鉢)	17c~	

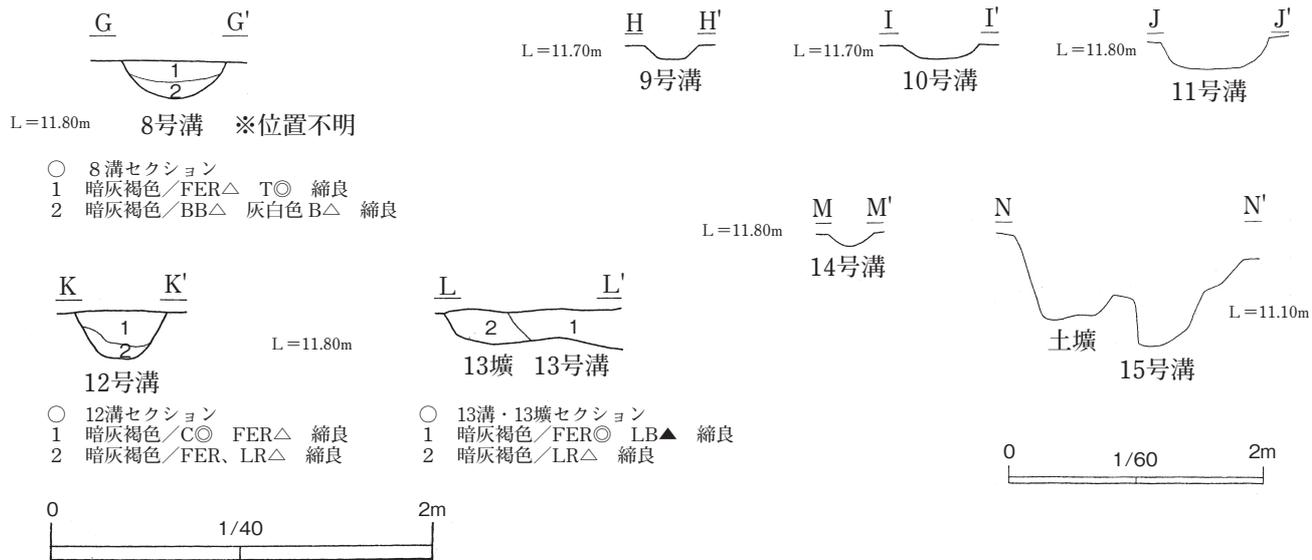
第2表 KB7区遺構一覧表2



第8図 KB7区遺構1



第9図 KB7区遺構2



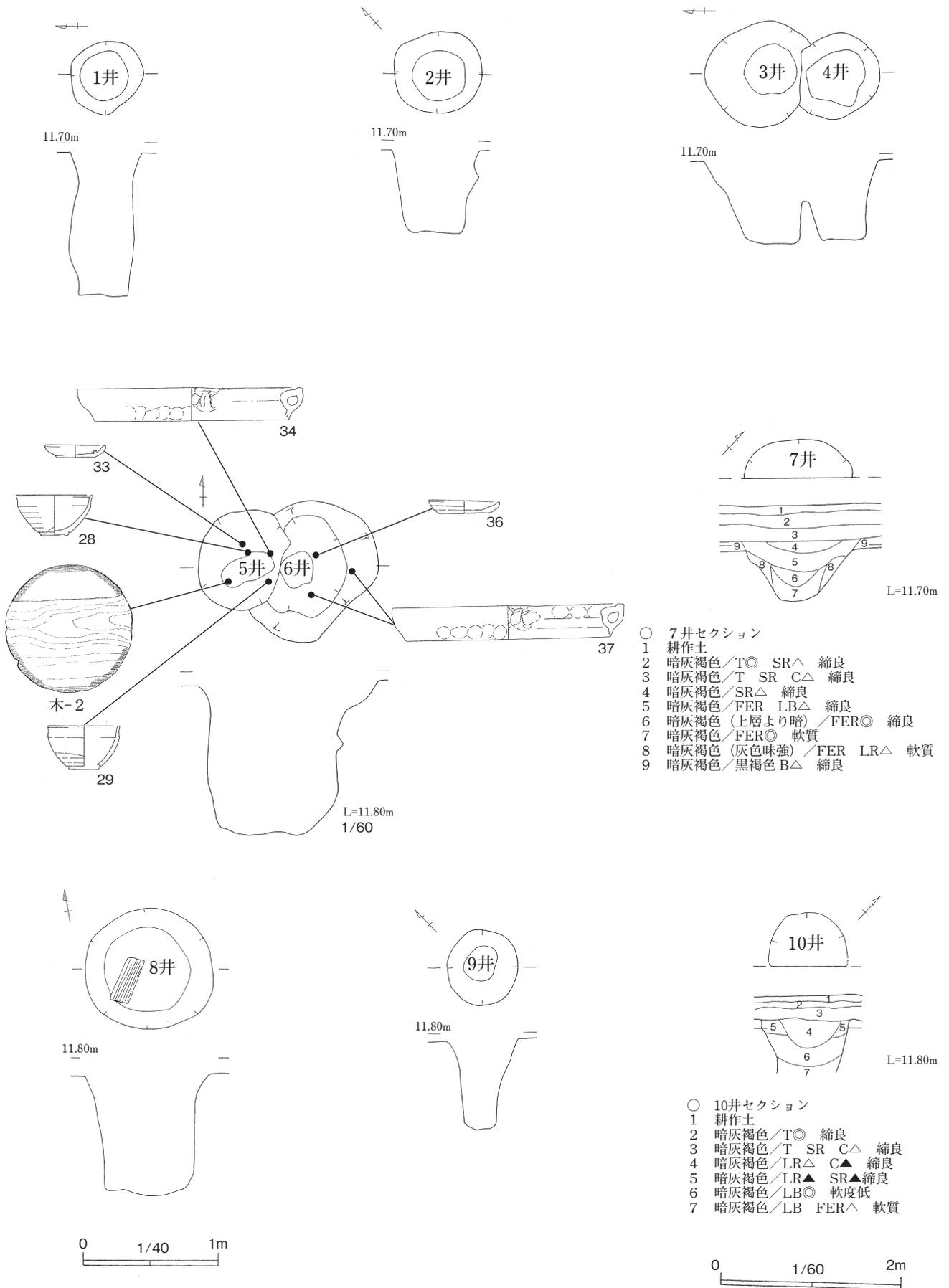
第10図 KB7区遺構3



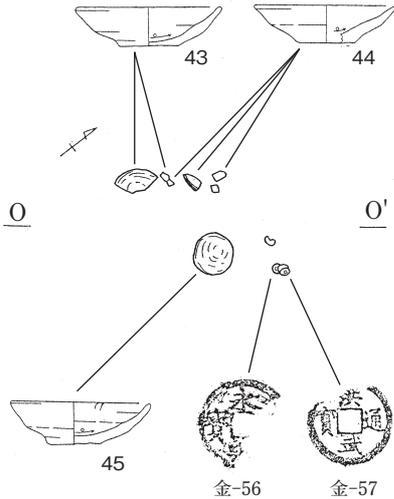
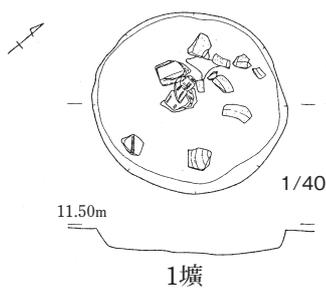
8・9・11・12号土壇完掘（北から）



調査風景

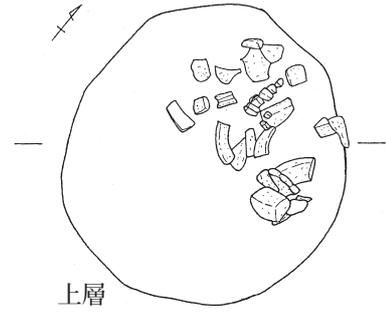
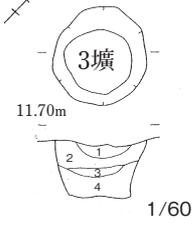


第11図 KB7区遺構4

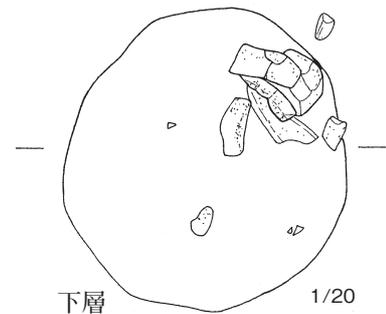


2壙 遺物出土状況

0 1/20 50cm



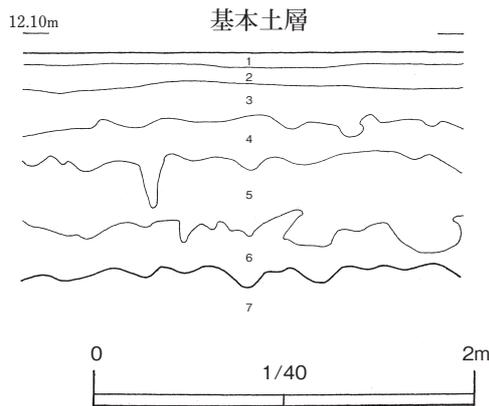
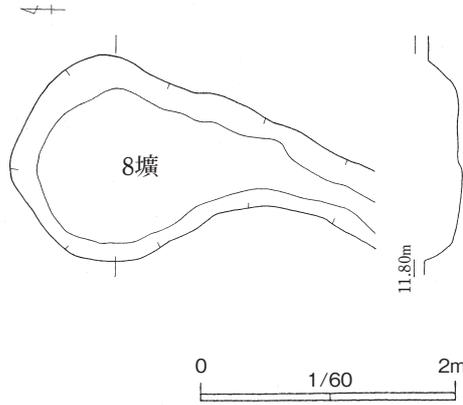
上層



下層

3壙 遺物出土状況

- 3壙セクション
- 1 暗灰褐色/LR◎ C△ 締良
- 2 暗灰褐色 (上層より灰色味強) /LR△ FER△ 軟度低
- 3 暗灰褐色/LR△ FER△ 軟質
- 4 暗灰褐色/LR LB△ FER△ 軟質



- 土層セクション
- 1 水田床 灰褐色/T C 酸化根痕 堅緻
- 2 表土 暗灰褐色/T◎ C LR ややボソボソ
- 3 暗灰褐色/LR 黒褐色R 茶褐色R 締良
- 4 黒褐色/茶褐色R LR 締良
- 5 茶褐色 (黄色味強) /茶褐色R LR 酸化根痕 締良
- 6 黄褐色/黒褐色R 酸化根痕 粘強 堅緻
- 7 暗褐色/堅緻強



2号土壙 遺物出土

第12図 KB7区遺構5

第2節 KB8区

(1) 調査概要

調査担当 指導課 主事嶋村英之 島村範久

調査期間 昭和61年2月10日～12月1日

調査面積 440㎡

調査の経過

KB2区の北に位置する幅6m長さ57mの調査区をKB8区とした。掘り下げは、確認面まで浅く表土から人力により行った。遺構確認面はローム層とした。調査はKB7区と並行して行なった。降雨による滞水・湧水などが調査の支障となるため、側溝を掘り下げ水中ポンプにより排水した。包含層中の遺物は測量・写真撮影し取り上げた。

調査区は、調査の進行に伴い3つの区域に分割した。調査時の名称は南側調査区及び北側調査区とし調査を行い、埋め戻した後KB9区の調査に移った。KB9区調査終了後、北側調査区の北調査区へ移った。

本報告では3つの区域について南から順に南・中・北区とする。中区については遺構の重複により広範囲に暗灰褐色土が広がるためベルトを残し覆土の状況及び前後関係を確認しながら掘り下げた。溝は横断するものが多くその性格を把握しにくかった。また、分割調査及び担当者の交替により遺構名命名の混乱があり振り替えをして報告している。

遺物の取り上げ等は方位北に合わせ10m方眼にグリッド設定し、その杭を基準とした。遺構の図化については調査区全体を平板測量により、各遺構を任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

最後に縄文時代遺構検出のため精査を行いその際縄文土器が出土した。グリッド杭設置及び基準杭の標高は測量業者に委託した。

周辺の調査 (第6図)

東方にKB4区、西方に53～55・23次、南接して2区がある。

4区では南と中程に8区と対応しそうな溝や大規模な土壌が検出された。53次では中区から北区の溝

や鋳物関連のスラグや煤が付着している土器が出土している。54次では中区の溝に対応しそうな溝が、56次では中央部にテラスを有する溝が、55次では南北に幅3mを計る大規模な溝や井戸から16世紀末以降と思われる荷札が出土している。23次では多数の土壌が検出されている。

(2) 遺構と遺物

【溝状遺構】

14まで命名したがab分割・欠番により総数14条である。溝は南調査区南に集中し1・2b溝が大規模である。また北調査区の中央にまとまるが13・9溝が大規模である。溝の多くは東西方向に調査区を横断する。遺物は8号溝で土器類がまとまって出土している。重複命名(誤記)があり調査に混乱があった。

1号溝 幅256cm(残存)深さ132cmを計り幅広で深い。焙烙(土-125)・磨石(石-88)・炭化材・桃の種43点・不明種子1点出土した。

2号溝 同安窯系青磁碗(土-135)・瀬戸美濃志野丸皿(土-136)・同丸皿(土-137)・かわらけ(土-138)・桃の種5点・スラグ12g出土した。

2a号溝 幅140cm深さ46cmを計り、56次2号溝と繋がる。瀬戸美濃志野丸皿(土-126)・かわらけ(土-127～129)・焙烙(土-130)出土した。

2b号溝 幅167cm(残存)深さ72cmを計り、断面形が箱堀である。龍泉窯系青磁碗(土-131)・かわらけ(土-132～134)出土した。

2c号溝 2b号溝と並行するが幅165cm深さ30cmを計り浅い。

3号溝 幅106cm深さ20cmを計り、56次1号溝と繋がる。瀬戸美濃ヒダ皿(土-139)・かわらけ(土-140・141)・焙烙(土-142)出土した。

4号溝 南北方向に走行し、2a号溝が屈曲したものの。幅114cm深さ38cm。かわらけ(土-143)・スラグ47g出土した。

6号溝 幅140cm深さ70cmを計り、幅狭だが箱葉研のしっかりした溝である。53次の3号溝と繋がるか。常滑片口鉢(土-144)・瀬戸美濃縁釉小皿(土-145)・同折縁深皿(土-146)・同卸目付大皿(土

ー147)・在地片口鉢(土-148・150)・土鍋(土-149)が出土した。

7号溝 屈曲する溝で、幅48cm深さ42cmを計る。常滑片口鉢(土-151・152)が出土した。

8号溝 南北に走行する。幅60cm深さ32cm。覆土上層部で遺物が多く、瀬戸美濃縁釉小皿(土-153)・同折縁皿(土-154)・同香炉(土-155)・かわらけ(土-156~161)・焙烙(土-162)・在地片口鉢(土-163)・同火鉢(土-164)・鉄鍬(金-11)・環状製品(金-13)・銭貨(金-72・73)・砥石(石-63・89)・スラグ33gが出土した。15世紀代か。

9号溝 北調査区の北端で、幅176cm(残存)深さ62cmを計る幅広の溝である。スラグ42gが出土した。

13号溝 幅230cm(残存)深さ60cmを計る。53次の2号溝に繋がる。8号溝より古い。

【井戸状遺構】

15まで命名したが欠番により総数11基である。重複命名(誤記)が多く調査に混乱が見られた。南調査区北端と北調査区の南と中央に分布している。

全て素堀で平面形はほぼ円形である。規模は、重複などによる残存値で、多くは直径100cm前後と思われる。1・13号井戸は断面上部が広がり直径140cmを超える大きなものである。深さでは10・13号井戸は160cmを超える深いものである。1・3・4・6・7号井戸では石臼など石製品の破片など、5号井戸では多数の木材が、4・10号井戸では土器類が出土した。

1号井戸 直径140cm深さ86cm(残存)を計る。全側図作成後拡張し、焙烙(土-167~169)・粉挽臼(石-25~27)・五輪塔(石-139・140)・桃の種4点・スラグ9g・板材片がまとまって出土した。完掘図未作成。

3号井戸 直径100cm深さ134cmを計り断面に段を有する。瀬戸美濃折縁深皿(土-146)・焙烙(土-170~172)・磨石(石-90)・板碑(石-123)・板材片・大型の礫・不明種子1点・スラグ115gが出土した。4号井戸より新しい。

4号井戸 94cm×80cm深さ91cmを計る。かわら

け(土-173・174)・粉挽臼(石-28・30)・鏡(金-16)・銭貨(金-74)・不明種子1点が出土した。3号井戸より古い

5号井戸 直径118cm深さ138cmを計る。上層で棒状・板状の木材がまとまって出土した。瀬戸美濃菊皿(土-175・176)・肥前染付碗(土-177)・桃の種9点・不明種子1点・スラグ9gが出土した。木材の出土状況から6号溝より新しいか。

6号井戸 直径70cm深さ132cmを計る。焙烙(土-178)・粉挽臼(石-29・31)・板碑・不明種子1点が出土した。7号井戸より古い。

7号井戸 直径55cm(残存)深さ87cmを計る。板碑(石-124)・不明種子1点・スラグ2gが出土した。6号井戸より新しい。

8号井戸 側溝に削平され遺存が悪いが、直径58cm深さ96cmを計る。撞木状加工材(木-27)・板碑・板材が出土した。

9号井戸 直径94cm深さ144cmを計り、下部はオーバーハングする。銭貨(金-75)・箸(木-16)が出土した。

10号井戸 直径127cm深さ168cmである。瀬戸美濃卸皿(土-179)・同菊皿(土-180)・かわらけ(土-181)・高紐鞋(金-27)、下層から焙烙(土-182)・在地火鉢(土-183)・桶底板(木-3)・桶側板(木-4)・板碑が出土した。

12号井戸 10号井戸として重複命名(誤記)。176cm×144cm深さ不明。

13号井戸 直径160cm深さ194cmを計る。

【土壙】

38まで命名したが、欠番により総数37基である。南調査区では北に分布し、北調査区ではまんべんなく分布している。平面は長方形・円形・楕円形を呈する。

1号土壙 平面長方形で186cm×58cm深さ8cmを計る。炭化米?が出土した。

10号土壙 平面楕円形で124cm×93cm深さ18cmを計りで浅い。中国染付皿(土-185)が出土した。

14号土壙 平面隅丸長方形で156cm×68cm深さ12cmを計る。焙烙(土-186)が出土した。

- 15号土壇 平面円形で直径70cm 深さ27cm を計る。かわらけ(土-187)が覆土上位で割れて出土した。
- 16号土壇 平面長方形で340cm(残存)×122cm 深さ12cm を計る。渥美壺(土-188)・かわらけ(土-189)が出土した。
- 20号土壇 平面長方形?で108cm(残存)×96cm(残存) 深さ42cm を計る。
- 21号土壇 平面長方形で94cm(残存)×80cm(残存) 深さ52cm を計る。磨石(石-91)が出土した。
- 23号土壇 平面楕円形で124cm(残存)×122cm 深さ54cm を計り深い。7号溝と18号土壇と重複する。
- 30号土壇 平面円形?で152cm(残存)×82cm(残存) 深さ18cm を計る。瀬戸美濃香炉(土-190)・肥前染付小坏(土-191)が出土した。
- 31号土壇 平面円形?で140cm(残存)×46cm(残存) 深さ24cm を計る。瀬戸美濃折縁皿(土-192)が出土した。
- 33号土壇 平面長方形で218cm×120cm 深さ10cm を計る。
- 34号土壇 平面円形で直径80cm 深さ64cm を計り深い。
- 35号土壇 平面円形で直径64cm 深さ54cm を計り深い。

遺構外出土遺物

陶磁器では、龍泉窯系青磁碗(土-193~197)・中国染付皿(土-198~202)・渥美壺(土-203)・常滑片口鉢(土-205~210)・同小壺(土-211)・同甕(土-212)・瀬戸美濃平碗(土-213~216)・同天目茶碗(土-217~222)・同織部碗(土-223)・同鉄絵碗(土-224)・同志野丸碗(土-225)・同丸碗(土-226・227)・縁釉小皿(土-166・228~242)・同腰折皿(土-243)・同端反皿(土-244~246)・同稜皿(土-247~250)・同総織部皿(土-251)・同志野丸皿(土-252~255)・同菊皿(土-256~259) 256は略完形で正位で出土・同輪禿皿(土-260)・同反皿(土-261・262)・同丸皿(土-263~265)・同黄瀬戸皿(土-266)・同灯明皿(土-267~269)・同播鉢(土-270~274)・同鉄絵鉢(土-275・277)・同青織部大皿(土-276)

・同黄瀬戸鉢(土-278)・同小坏(土-184・279~282)・同蓋(土-283)・同甕(土-284・285)・同徳利(土-286・287)・肥前陶器丸碗(土-288)・唐津壺(土-289)・同大皿(土-290)・同向付(土-291)・志戸呂内禿皿(土-292)・同丸皿(土-293)・同播鉢(土-294)・同向付(土-295・296)・初山丸皿(土-297)・丹波播鉢(土-298)・信楽灯明皿(土-299)・堺播鉢(土-300)・東濃小皿(土-301)・肥前青磁碗(土-302)・同染付碗(土-303~315)・同染付小碗(土-316)・同色絵碗(土-317・318)・同染付皿(土-319・320)・同仏飯器(土-321・322)・同小坏(土-323)が出土した。

在地土器では、かわらけ(土-324~348) 328は完形で、正位の出土状況。329は略完形で329(黒色)・330(赤色)は重なって出土した。焙烙(土-349~360)・土鍋(土-361)・播鉢(土-362~366)・片口鉢(土-165・367・368)・香炉(土-369~371)・火鉢(土-372~375)・壺(土-376)が出土した。

金属製品では、鉄製の火箸状製品(金-1・2)・毛抜き(金-3)・火打金状製品(金-4)・釘(金-6)・小札状製品(金-7)・小柄(金-9)・鉄鏃(金-10)・環状製品(金-12)、銅製の毛抜き(金-15)・鋌(金-17)・煙管(金-19・21)・匙(金-25)・覆輪(金-26)・筭(金-27)・八双鋌(金-29)・目貫(金-30)・小柄(金-31)・鋤(金-34)・鏝(金-36)・吊り金具(金-44)・金具(金-45)、鉛製の弾丸(金-37~39)・塊状品(金-46)・銭貨(金-76~86)が出土した。

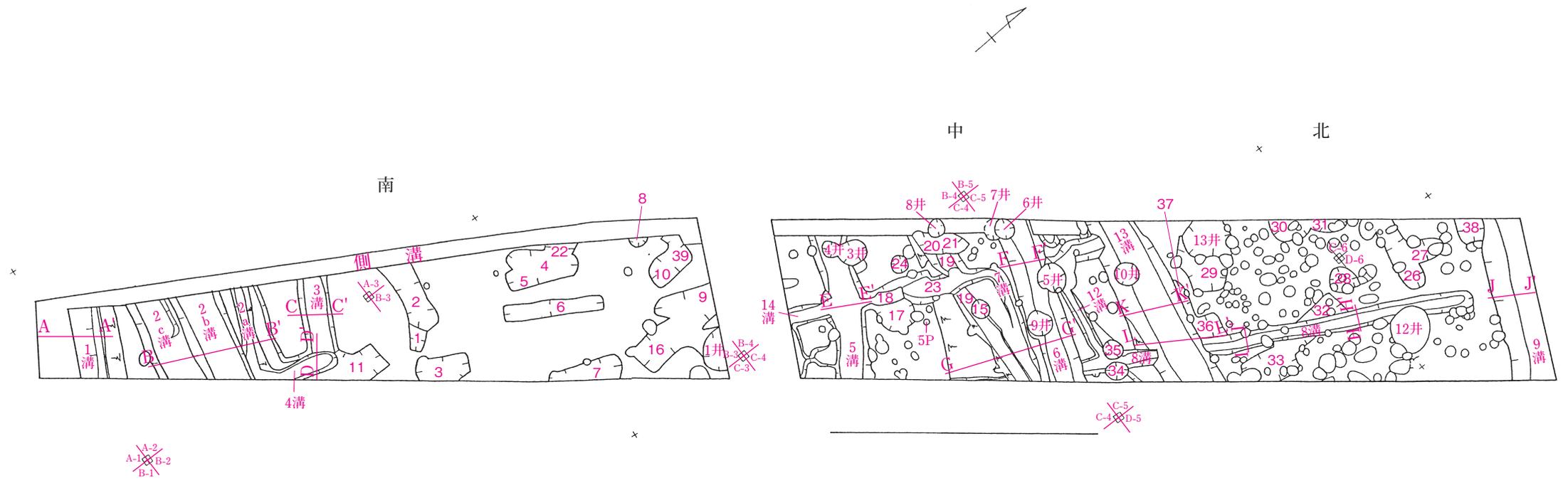
石製品では、石臼片(石-24・32~38)・硯(石-52)・砥石(石-64~69)・磨石(石-92~103)・火打石(石-111)・板碑(石-122・125~127)が出土した。

他に桃の種25点・不明種子2点・スラグ1078gが出土した。

() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	A-2G	なし	直線	箱築研	幅☆(256)	☆132	暗灰褐色/含 T	焙烙/磨石/炭化材/種子(桃・不明)	16c~18c 末	
2号溝	A-2G	-	-	-	-	-	-	同安窯系青磁碗/瀬美(志野丸皿・丸皿)/かわらけ/種子(桃)/スラグ12g		
2a号溝	A-2G	2b溝→○/4溝	直線	ゆるやか	幅140	46	暗灰褐色/含 T	瀬美志野丸皿/手づくねかわらけ/焙烙	17c 前~18c 末	56次2号溝とつながる(16c末~)
2b号溝	A-2G	○→2a・2c溝	直線	箱堀	幅☆(167)	☆72	暗灰褐色/含 T◎	龍泉窯系青磁碗/かわらけ	16c~18c 末	
2c号溝	A-2G	2b溝→○	直線	ほぼ直上	幅☆165	☆30	暗灰褐色/含 T◎		~18c 末	
3号溝	A-2G	○→4溝/11壇	直線	ほぼ直上	幅106	20	不明	瀬美ヒダ皿/かわらけ/焙烙	16c 後~18c 末	56次1号溝とつながる(16c末~)
4号溝	B-2G	3溝、11壇→○/2a溝	直線	ほぼ直上	幅☆114	☆38	暗灰褐色/含 T	かわらけ/スラグ47g	16c 前~18c 末	
5号溝	C-4G	14溝→○/3,4井	直線	ゆるやか	幅143	22	暗灰褐色/含 T◎		16~18c 末	
6号溝	C-4・5G	○→8溝・7井/5・9井	直線	箱築研	幅140	70	暗灰褐色/含 T・LR・C・FE◎	常滑片口鉢/瀬美(緑釉小皿・折縁深皿・卸目付大皿)/在地片口鉢/土鍋	16~18c 末	53次3号溝とつながる(14c~)
7号溝	C-4	○→19・23壇	屈曲	ほぼ直上	幅48	42	暗灰褐色	常滑片口鉢	16c 中~	
8号溝	C-4・5G D-5・6G	6・12・13溝→○/12井、32・34・35・36壇	直線	ほぼ直上	幅☆60	☆32	暗灰褐色	瀬美(緑釉小皿・折縁皿・香炉)/かわらけ/焙烙/在地(片口鉢・火鉢)/鉄籤/環状製品/砥石/磨石/銭貨/スラグ33g	17c 前	
9号溝	D-6G	38壇	直線	箱堀	幅(176)	62	暗灰褐色/含 T▲	スラグ42g	~18c 末	スライドでは10溝と誤記
10号溝		欠番								
11号溝		欠番								
12号溝	C-5G	8溝、5井、35壇	直線	ゆるやか	幅42	10	不明			野帳で5溝と誤記
13号溝	C-5G	○→8溝、10井、36・37壇	直線	箱堀	幅(230)	60	暗灰褐色/含 T▲		16c~18c 末	セクション図で9溝と誤記 53次2号溝とつながる(16c?)
14号溝	B-C-4G	○→5溝	直線	不明	幅70	12.5	不明			野帳で9溝と誤記
1号井戸	B-3G	なし	円形	ロート形	140	(86)	不明	焙烙/粉挽白/五輪塔/板材片/種子(桃)/スラグ9g	16c~	
2号井戸		欠番								
3号井戸	B-4G	4井→○/5溝	円形	ロート形	100	134	暗灰褐色/含 LR・C・SR	瀬美折縁深皿/焙烙/磨石/板碑/板材片/礎/種子(不明)/スラグ115g	16c~	
4号井戸	B-4G	○→3井/5溝	楕円形	ほぼ直上	94×80	91	暗灰褐色/含 LR・CR	かわらけ/粉挽白/鏡縁/銭貨/種子(不明)		
5号井戸	C-5G	6・12溝	円形	ロート形	118	138	不明	瀬美菊皿/肥前染付碗/板材/種子(不明・桃)/スラグ9g	17c 前~	
6号井戸	C-5G	6溝→○→7井	円形	ほぼ直上	70	132	暗灰褐色/含 T・FER◎	焙烙/粉挽白/板碑/種子(不明)	16c~18c 末	
7号井戸	C-5G	6井→○	円形	直上	(55)	87	茶褐色/含 LB◎	板碑/種子(不明)/スラグ2g	16c~	
8号井戸	C-4G	20・21壇	円形	ほぼ直上	58	96	不明	撞木状加工材/板碑/板材		
9号井戸	C-4G	6溝	円形	ほぼ直上 下部オーパーハンク	94	144	暗灰褐色/含 T・LR・C・FER・S・BBR◎	箸/銭貨	~18c 末	野帳で8井と誤記
10号井戸	C-5G	13溝→○	円形	ほぼ直上	127	168	暗灰褐色/含 FE◎・S・C△	瀬美(卸皿・菊皿)/かわらけ/焙烙/在地火鉢/高紐靴/桶底板/桶側板/板碑	17c 前~	
11号井戸		欠番								
12号井戸	D-6G	8溝	楕円形	不明	176×144	不明	不明			10井重複命名
13号井戸	C-5G	29壇	円形	ほぼ直上	160	194	暗灰褐色/含 LR・LB・◎・BB△			図では9井と誤記
1号土壇	B-3G	2壇	長方形	ほぼ直上	186×58	8	不明	炭化米?		
2号土壇	B-3G	1壇	隅丸長方形	ほぼ直上	(325)×92	17	不明			
3号土壇	B-3G	なし	長方形	ほぼ直上	195×(95)	9	暗灰褐色/含 BR・SR・T		~18c 末	
4号土壇	B-3G	5・22壇	隅丸長方形	ほぼ直上	278×86	16	暗灰褐色/含 BBR・LR・CR・S◎			
5号土壇	B-3G	4壇	長方形	ほぼ直上	166×82	25	暗灰褐色/含 LB・LR・BBR・S・T		~18c 末	
6号土壇	B-3G	なし	長方形	ゆるやか	382×66	8	不明			
7号土壇	B-3G	なし	長方形	ほぼ直上	274×(88)	18	暗灰褐色/含 LR・T・BBB		~18c 末	
8号土壇	B-3G	なし	隅丸長方形	ほぼ直上	(98)×70	11	暗灰褐色/含 S・C・T		~18c 末	
9号土壇	B-3G	16壇	隅丸長方形	ゆるやか	(236)×90	10	暗灰褐色(灰色味強)/含S 粘強			

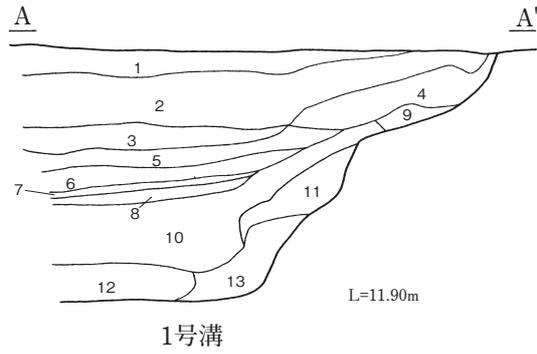
第3表 KB8区遺構一覧表1



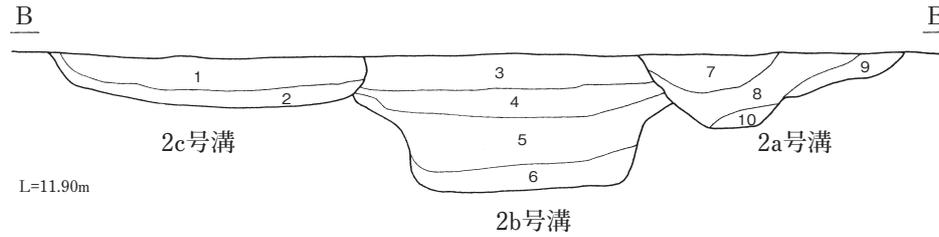
※数字のみは土壌名

14
上調査区上層

第13図 KB 8区遺構位置図

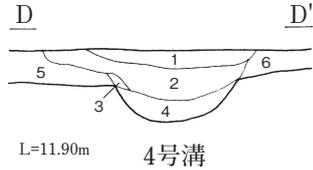


- 1溝セクション
- 1 暗灰褐色 / T-LR◎、CR 堅緻
 - 2 暗灰褐色 / LR☆、LB、BBB 縮良
 - 3 暗灰褐色 / LR◎、LB☆、BBR 縮良
 - 4 暗灰褐色 / LR、BBR、T、SR▲ 縮良
 - 5 暗灰褐色 (灰色味強) / LB (ソフト) 粘有
 - 6 暗灰褐色 (灰色味強) / LR、BBR、FER 粘有
 - 7 灰色粘土層
 - 8 灰紫色 / 植物質堆積層
 - 9 暗灰褐色 (灰色味強) / LR、C-SR▲ 縮良
 - 10 暗灰色 (粘質層) / 植物根酸化物、白色粘土B、LR、CR、植物質 粘強
 - 11 暗灰褐色 (灰色味強) / LR、BBR、BrR、C、植物根酸化物 縮良
 - 12 灰黒色 / LR、LB 植物質 シャキシヤキ
 - 13 灰褐色 / LB◎、植物根酸化物

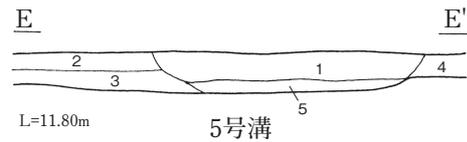


- 2溝セクション
- 1 暗灰褐色 / T-LR◎、FER、SR▲ 堅緻
 - 2 暗灰褐色 (灰色味強) / FER、LB (ソフト)、CR▲
 - 3 暗灰褐色 / T◎・LR (1層より多)、C-SR▲ BBR 堅緻
 - 4 暗灰褐色 / LR、C-SR▲ BBR 縮良
 - 5 暗灰色 / LR、LB、BBR BBB FER、SR 縮良
 - 6 暗灰色 (灰色味強) / LR、BBR▲ 粘有
 - 7 暗灰褐色 / C◎、LR、T、SR
 - 8 暗灰褐色 / LR、CR-T▲
 - 9 暗灰褐色 / LR、FER、LB
 - 10 暗灰褐色 (灰色味強) / FER◎

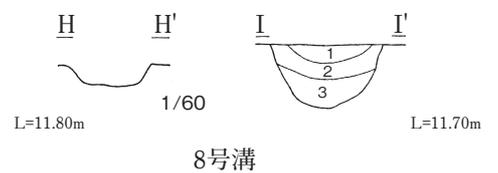
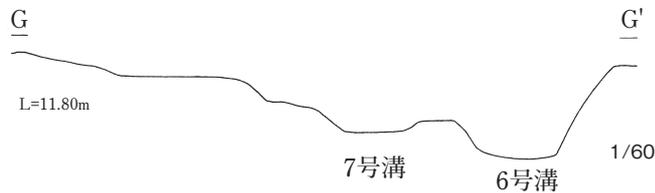
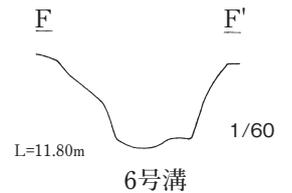
- 土層説明凡例
- 色調/含有物
- | | |
|--------|--------------|
| テフラ=T | 非常に多い=☆ |
| ローム=L | 多量=◎ |
| 炭化物=C | 少量=△ |
| 焼土=S | 微量=▲ |
| 酸化鉄=FE | 万遍なく=万 |
| 黒褐色=BB | やや明るい=やや明 |
| 黒色=B | やや暗い=やや暗 |
| 褐色=Br | 非常にやわらかい=軟度高 |
| | やわらかい=軟質 |
| | やややわらかい=軟度低 |
| 粒子=R | かたい=堅緻 |
| ブロック=B | 縮まり良し=縮良 |
| | 縮まり悪し=縮悪 |
| | 粘性強し=粘強 |
| | 粘性有り=粘有 |



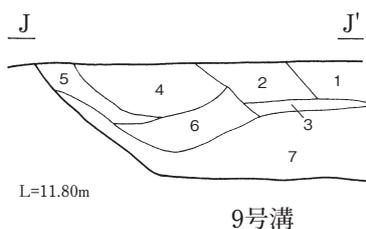
- 4溝セクション
- 1 暗灰褐色 / T、LR、C 堅緻
 - 2 暗灰褐色 (灰色味やや強) / LR、C、FER、SR▲ 縮良
 - 3 LB (ソフト) 層
 - 4 暗灰褐色 (やや暗) / LR◎、FER△ 軟質
 - 5 暗灰褐色 (2層に似る) / LR、T、SR 縮良 3溝の覆土
 - 6 暗灰褐色 / LR-SR-CR▲縮良



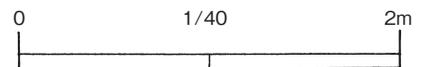
- 5溝セクション
- 1 暗灰褐色 / T-LR◎、CR-FER▲ 堅緻
 - 2 暗灰褐色 / T-LR△、CR-FER▲
 - 3 暗灰褐色 (灰色味強) / LR、BBR、FER 縮良
 - 4 暗灰褐色 / T、LR、BBR 堅緻
 - 5 暗灰褐色 / LB、FER



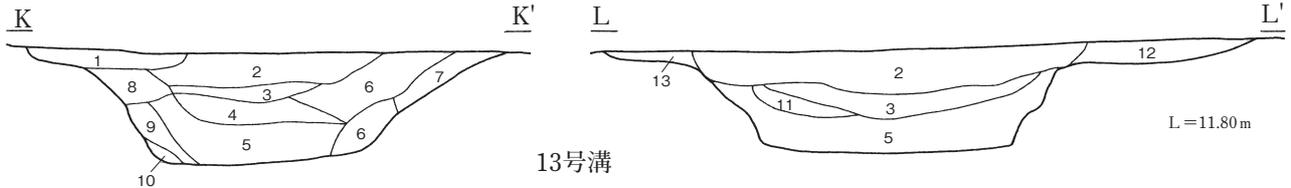
- 8溝セクション
- 1 暗灰褐色 / LR、T▲ 縮良
 - 2 暗灰褐色 (上層より暗) / LR、FE▲ 縮良
 - 3 暗灰褐色 / FE、BBR、LR、S△ 軟質



- 9溝セクション
- 1 暗灰褐色 / T-LR▲、FE△ 縮良 堅緻
 - 2 暗灰褐色 / FE◎、T▲ 縮良 堅緻
 - 3 暗灰褐色 / FE LB BB△ 縮良 堅緻
 - 4 暗灰褐色 / LB◎、LR BBB△ 縮良 堅緻
 - 5 暗灰褐色 / LB FE△ 縮良
 - 6 暗灰褐色 (灰色味強) / FER BB△
 - 7 LB層 LR、LB、FE◎、BB△ 縮良



第14図 KB8区遺構1



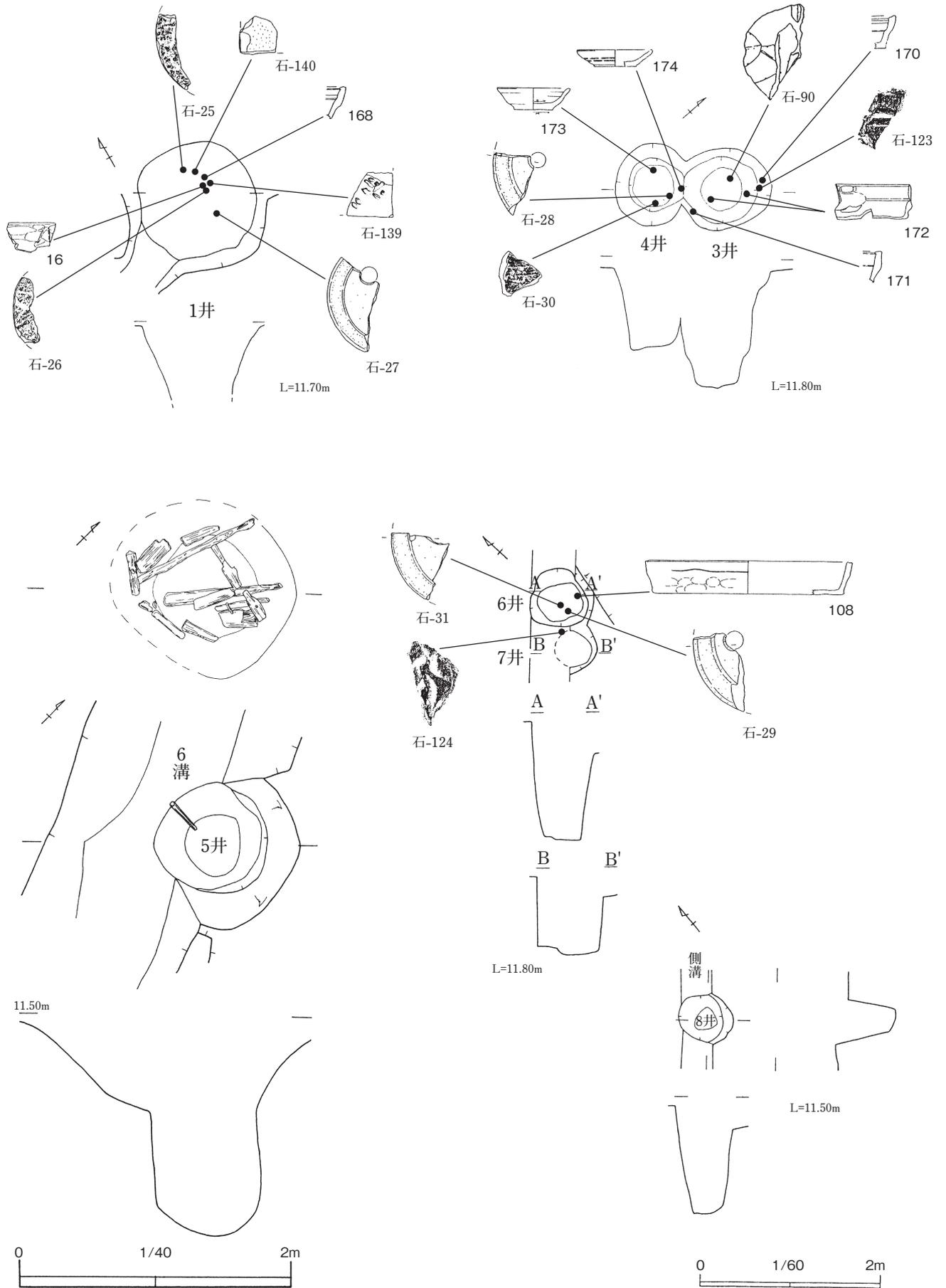
- 13溝セクション
- 1 暗灰褐色 (灰色味強) /FE、LR、LB△、T、BR▲
 - 2 暗灰褐色 /LR、FE△、C、T▲ 縮良
 - 3 暗灰褐色 (黄色味) /LR○、FE△ 縮良
 - 4 暗灰褐色 /FE○ LR▲縮良
 - 5 暗灰褐色 /FE○ LR-LB△ 軟質
 - 6 暗灰褐色 /FE○ T▲ 縮良 堅緻
 - 7 暗灰褐色 /LB FE△ BR▲ 縮良
 - 8 暗灰褐色 /FE○ LR△ 縮良
 - 9 暗灰褐色 /FE○ BR△ 縮良
 - 10 黄褐色 /LR LB 軟質
 - 11 暗灰褐色 /FE LR△ 軟質
 - 12 暗灰褐色 /LR△ T▲ FE▲ 縮良
 - 13 暗灰褐色 /LB△ 軟質

第15図 KB8区遺構2

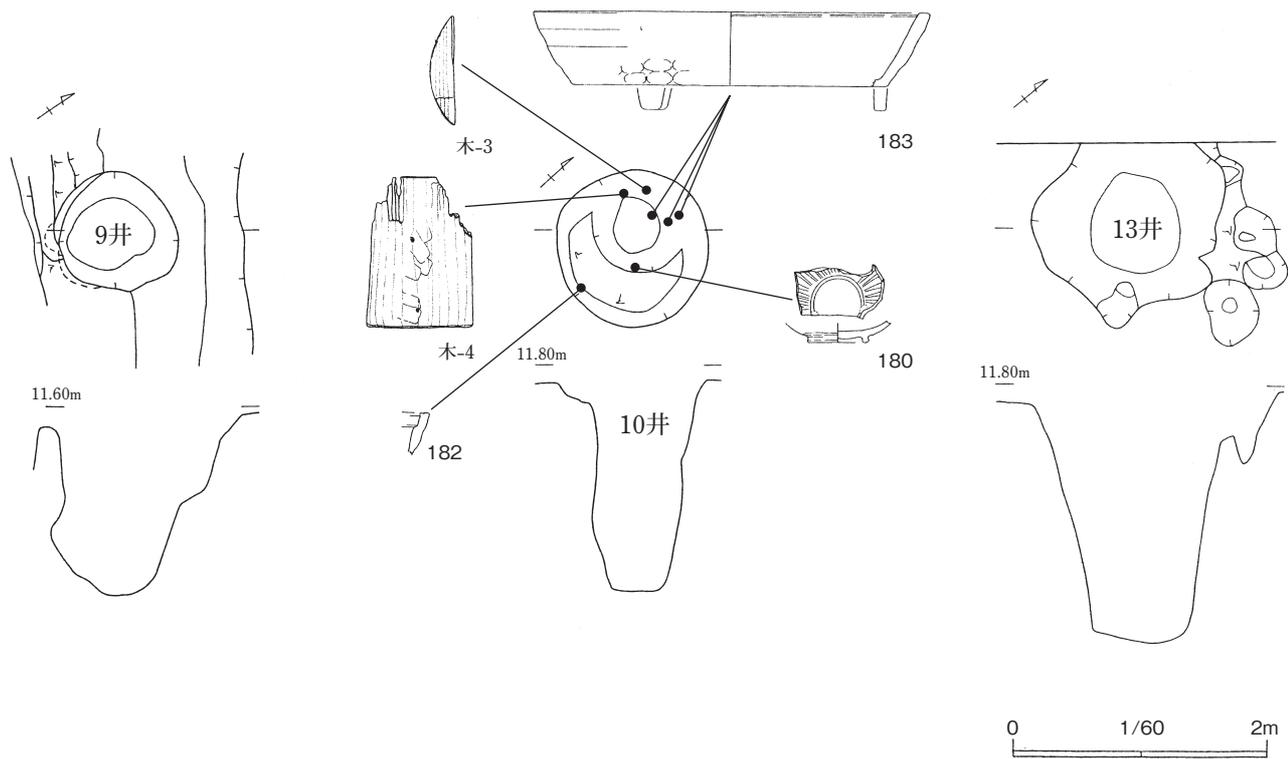
() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
10号土壇	B-3G	39壇→○	楕円形	ほぼ直上	124×93	18	暗灰褐色/含LR・T・C・LB	中国染付皿	15e中～18e末	
11号土壇	B-2G	3・4溝	長方形	ほぼ直上	(106)×116	14	不明			
12号土壇	C-4G	なし	長方形?	ほぼ直上	66×(44)	☆18	暗灰褐色/含灰色土・S・CR			8井の上層か
13号土壇	C-5G	焼土範囲→○	円形?	ほぼ直上	98×(74)	☆15	暗灰褐色/含LR・S・CR			6、7井の上層か
14号土壇	C-4G	なし	隅丸長方形	ほぼ直上	156×68	12	不明	焙烙	16e～	
15号土壇	C-4G		円形	直上	径70	27	暗灰褐色/含LR・C	かわらけ		
16号土壇	B-3G	9壇	長方形	ほぼ直上	(340)×122	12	暗灰褐色/含T・LR	渥美壺/かわらけ	15e中～18e末	
17号土壇	C-4G	○→P/18壇		ほぼ直上	140×(110)	15	暗灰褐色/含LB・LR・BBR・SR・T・CR 縮良		～18e末	
18号土壇	C-4G	17・23壇	長方形?	ほぼ直上	(140)×60	18	不明			
19号土壇	C-4G	7溝→○→15壇/20・21壇	不整形	ほぼ直上	(120)×100	32	暗灰褐色			
20号土壇	C-4G	21壇→○/8井・19壇	長方形?	ほぼ直上	(108)×(96)	☆42	暗灰褐色			
21号土壇	C-4G	○→20壇/19壇	長方形	ほぼ直上	(94)×(80)	☆52	暗灰褐色	磨石		
22号土壇	B-3G	4壇	長方形?	不明	105×(47)	7	不明			
23号土壇	C-4G	○→7溝/18壇	楕円形	オーバーハンゲ	(124)×122	54	不明			
24号土壇	C-4G	なし	円形	ほぼ直上	径73	17	暗灰褐色/含LR○・T・SR・BBR△		～18e末	
25号土壇		欠番								
26号土壇	D-6G	27壇	隅丸長方形	ほぼ直上	(306)×85	6	不明			
27号土壇	D-6G	26壇	隅丸長方形	ほぼ直上	(112)×77	8	不明			
28号土壇	D-5G	なし	円形	ほぼ直上	径104	27	不明			
29号土壇	C-5G	13井	方形	ほぼ直上	140×138	☆19	不明			
30号土壇	C-5G	31壇	円形?	ほぼ直上	(152)×(82)	18	不明	瀬美香炉/肥前染付小坏	17e後～	
31号土壇	C-6G	30壇	円形?	ほぼ直上	(140)×(46)	24	不明	瀬美折縁皿	16e後～	
32号土壇	D-5G	8溝・33壇	長方形	ほぼ直上	288×90	12	不明			
33号土壇	D-5G	32壇	長方形	ゆるやか	218×120	☆10	暗灰褐色			
34号土壇	C-5G	8溝	円形	ほぼ直上	径80	64	暗灰褐色			
35号土壇	C-5G	8溝	円形	直上	径64	54	不明			
36号土壇	C-5G	8・13溝・37壇	長方形	ほぼ直上	(239)×(106)	11	不明			
37号土壇	C-5G	13溝・36壇	長方形	不明	(155)×(38)	11	不明			
38号土壇	D-6G	9溝	楕円形	ほぼ直上	(100)×(106)	23	不明			

第4表 KB8区遺構一覧表2



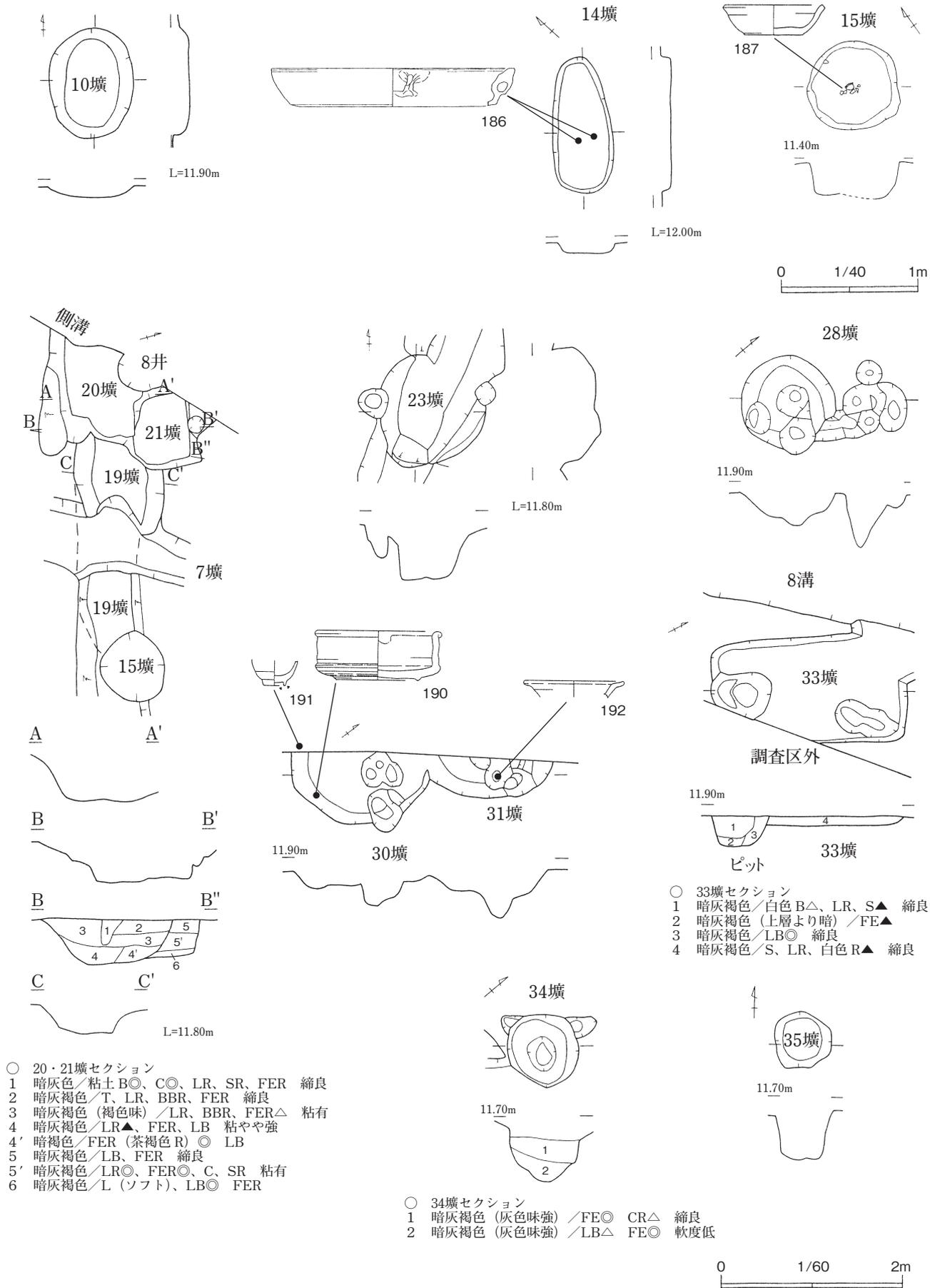
第16図 KB 8区遺構 3



第17図 KB8区遺構4



5号井戸 調査風景



第18図 KB8区遺構5

第3節 KB11区

(1) 調査概要

調査担当 指導課 島村範久
調査期間 昭和62年1月12日～2月10日
調査面積 230㎡

調査の経過

騎西城武家屋敷跡西端に位置し、KB9区の北に接する幅6m長さ46mの調査区を11区とした。

掘り下げは、確認面まで浅く表土から人力により行った。遺構確認面は南側は黒色土、北側はローム層とした。降雨による滞水・湧水などが調査の支障となるため、東側に側溝を掘り下げ水中ポンプにより排水した。包含層中の遺物は測量・写真撮影し取り上げた。

遺物の取り上げ等は方位北に合わせ10m方眼にグリッド設定し、その杭を基準とした。遺構の図化については調査区全体を平板測量により、各遺構を任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

最後に縄文時代遺構検出のため精査を行った。グリッド杭設置及び基準杭の標高は測量業者に委託したが、調査終了間際であった。

周辺の調査(第6図)

北にKB12区、南に6・9区、東に60mと離れているが23次が所在する。12区では東西方向に溝が走行する。

(2) 遺構と遺物

【溝状遺構】溝は総数9条を数え、6・7溝が東西方向に走行する以外は南北方向に走行する。特に1・5号溝が長い。大規模なものは6号溝である。

1号溝 幅60cm深さ25cmを計る。南端で底面に段差がある。別の溝か?。瀬戸美濃天目茶碗(土-377)・肥前天目茶碗(土-378)・同染付碗(土-379)・同香炉(土-380)・砥石(石-70)が出土した。

5号溝 幅160cm(残存)深さ44cmで、長さ22mを計る。瀬戸美濃煙硝播(土-381)・志戸呂播鉢(土-

-382)・磨石(石-104)・鉛製の弾丸(金-40)・水平な状態で前立状製品(木-24)が出土した。

6号溝 幅130cm(残存)深さ62cmを計る。白木椀(木-8)・漆椀(木-13・14)が出土した。

7号溝 幅150cm深さ34cmを計る。龍泉窯系青磁碗(土-383)が出土した。

9号溝 幅70cm深さ15cmを計り、5号溝の延長のようだが20cm5号溝が深い。

【土壇】土壇は総数8基を数え、北寄りに分布する。小規模で浅いものが多いが1号土壇は方形の大きなものである。

1号土壇 平面不整形で190cm×220cm深さ26cmを計る。2つの土壇が重複しているようである。志戸呂大皿(土-384)が出土した。

2号土壇 平面不整形で200cm×100cm深さ24cmを計る。飾り金具(金-43)が出土した。

3号土壇 平面隅丸長方形で194cm(残存)×148cm深さ40cmを計る。

6号土壇 平面方形で107cm×112cm深さ19cmを計る。5号溝に収まり付属施設の可能性もある。

遺構外出土遺物

陶磁器では、中国染付皿(土-385)・常滑片口鉢(土-386)・同甕(土-387)・瀬戸美濃天目茶碗(土-388・389)・同丸碗(土-390)・同湯呑(土-391)・同志野丸皿(土-392・393)・同反皿(土-394)・同馬の目皿(土-395)・同灯明皿(土-396)・同陶胎染付皿(土-397)・同播鉢(土-398)・肥前染付碗(土-399~408)・同色絵碗(土-409)・同染付蓋付鉢(土-410)・瀬戸美濃染付碗(土-411)・同染付箱形湯呑(土-412)が出土した。

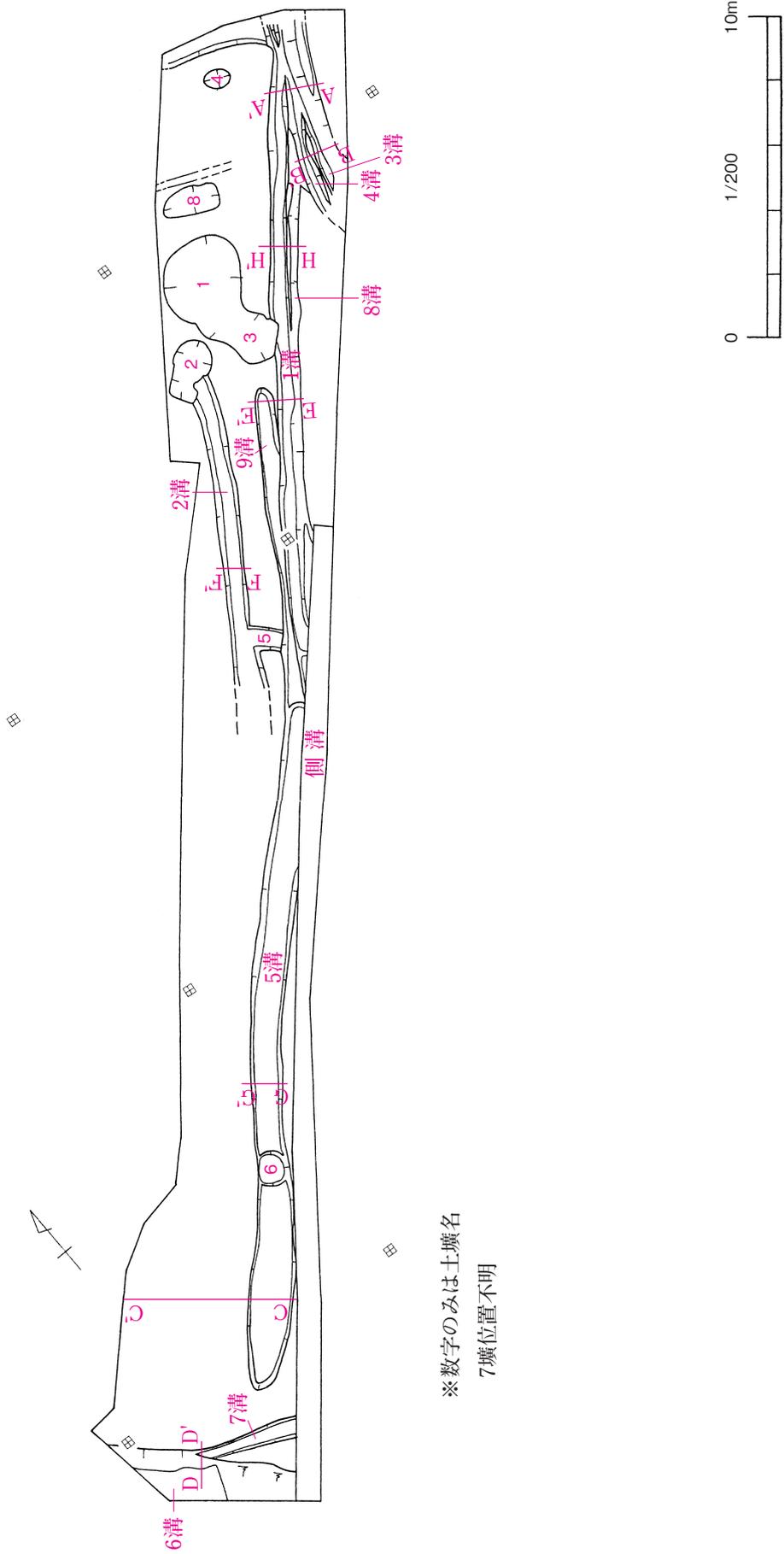
在地土器では、片口鉢(土-413)・瓦(土-414~427)が出土した。

木製品では、櫛・漆椀片が出土した。

金属製品では、鉛製の弾丸(金-41)が出土した。

石製品では、砥石(石-71・72)が出土した。

他にスラグ224gが出土した。



※数字のみは土塼名
7塼位置不明

第19図 KB111区遺構位置図

() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	北	4・9溝→○/3・5・8溝、3墳	直線	箱葉研	幅☆60	25	暗灰褐色	瀬美天目/肥前(天目・染付碗・香炉)/砥石	19c～	
2号溝	北	2・5墳	直線	ゆるやか	幅66	11	灰褐色/含BB・FE △ 締良 粘強			
3号溝	北	1・4溝→○	直線	ほぼ直上	幅☆70	37	暗灰褐色			
4号溝	北	○→3溝/1・8溝	直線	ほぼ直上	幅☆(45)	30	暗灰褐色			
5号溝	南	1・9溝、6墳	直線	箱葉研	幅☆(160)	☆44	暗灰褐色	瀬美煙硝搗/志戸呂播鉢/磨石/弾丸/前立杖製品	17c 後～	
6号溝	南	7溝→○	直線	ほぼ直上	幅☆(130)	☆62	灰褐色(粘土層)	白木碗/漆碗		
7号溝	南	○→6溝	直線	毛抜	幅150	☆34	灰白色(粘土層)	龍泉窯系青磁碗	12c～	
8号溝	北	1・4溝	直線	葉研	幅20	2	不明			
9号溝	北	○→1溝/5溝・5墳	直線	ほぼ直上	幅70	15	暗灰褐色			旧8溝
1号土壇	北	3墳	不整形	ほぼ直上	☆190×☆220	☆26	暗灰褐色	志戸呂大皿	16c 後～	
2号土壇	北	2溝	不整形	ほぼ直上	200×100	24	暗灰褐色	飾り金具		
3号土壇	北	1溝、1墳	隅丸長方形	ほぼ直上	(194)×148	☆40	暗灰褐色			
4号土壇	北	なし	楕円形	ゆるやか	81×62	8	不明			
5号土壇	北	2・9溝	長方形?	ゆるやか	(105)×72	10	不明			
6号土壇	北	5溝	方形	ほぼ直上	107×112	19	不明			
7号土壇	不明	なし	長方形	ゆるやか	(176)×84	10	不明			
8号土壇	北	なし	隅丸長方形	ほぼ直上	191×80	26	不明			

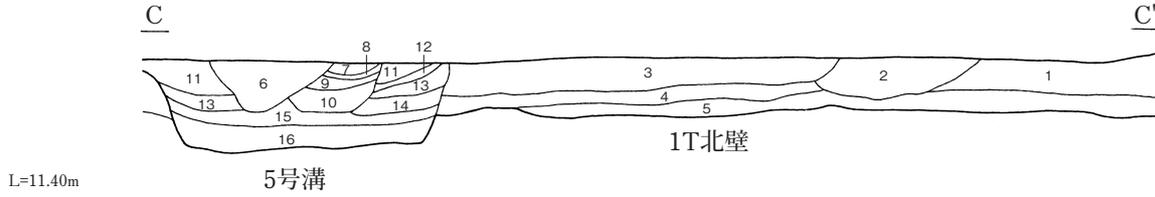
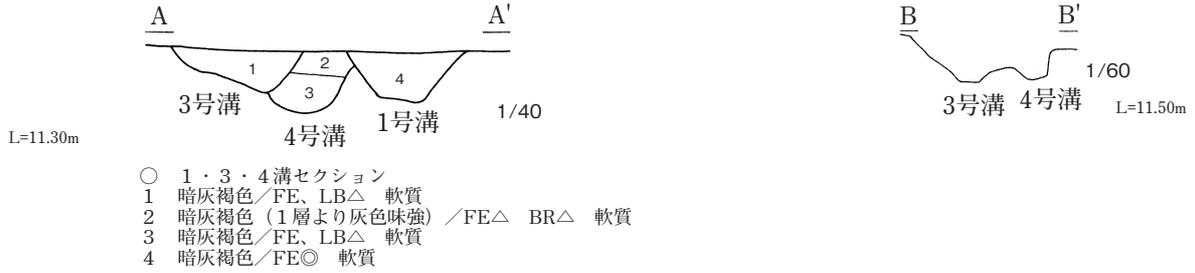
第5表 KB11区遺構一覧表



調査風景

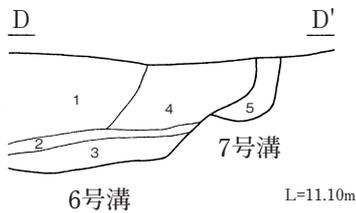


6号溝 調査風景

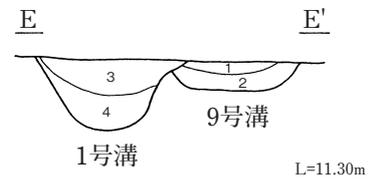


- 5溝セクション
- 1 LB層 LB◎ FE◎ 暗灰褐色 B△ 堅緻
 - 2 暗灰褐色/FE◎ 縮良
 - 3 暗灰褐色/T、FE△ 縮良
 - 4 暗灰褐色/FE◎ 縮良
 - 5 灰色(粘土層)/BB△ 軟質
 - 6 暗灰褐色/FE△ 軟質
 - 7 暗灰褐色(6層より灰色味強)/FE△ 軟質
 - 8 灰白色(粘土層)/FE▲ 軟質
 - 9 暗灰褐色/FE△ BR▲ 軟質
 - 10 暗灰褐色/FE△ LR▲ BR△ 軟質
 - 11 暗灰褐色/BR FE◎ 灰白色 R▲ 縮良
 - 12 暗灰褐色/FE▲ 軟質
 - 13 暗灰褐色/BR FE◎ 灰白色 R▲ やや縮悪
 - 14 暗灰褐色/LB、FE◎ 軟質
 - 15 暗灰褐色/LB、FE◎ 軟度高
 - 16 暗灰褐色/BB、LB△ 軟度高

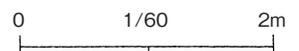
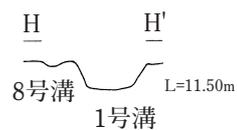
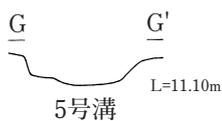
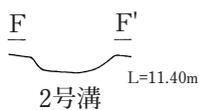
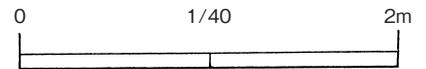
- 土層説明凡例
- 色調/含有物
 テフラ=T 非常に多い=☆
 ローム=L 多量=◎
 炭化物=C 少量=△
 焼土=S 微量=▲
 酸化鉄=FE 万遍なく=万
 黒褐色=BB やや明るい=やや明
 黒色=B やや暗い=やや暗
 褐色=Br 非常にやわらかい=軟度高
 やわらかい=軟質
 やややわらかい=軟度低
 かたい=堅緻
 縮まりよし=縮良
 縮まり悪し=縮悪
 粘性強し=粘強
 粘性有り=粘有
- 粒子=R
 ブロック=B



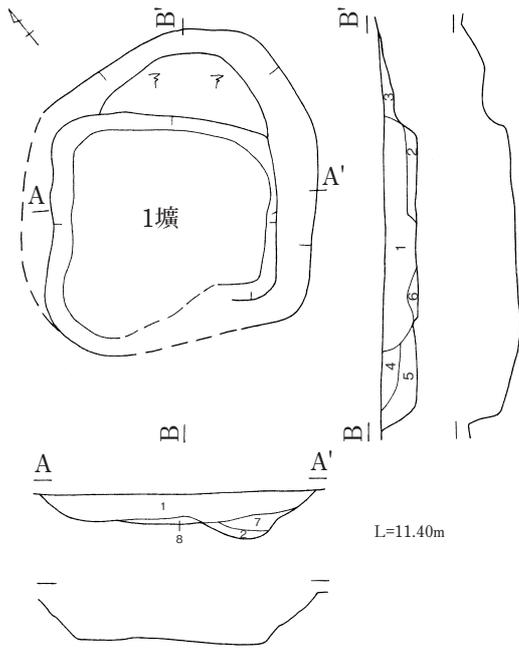
- 6・7溝セクション
- 1 灰褐色(粘土層)/FE△ 粘強
 - 2 灰褐色(粘土層)/灰白色粘土△ 粘強
 - 3 暗灰褐色/LR、LB△ 縮良
 - 4 灰褐色(粘土層)(1層よりやや明)
 - 5 灰白色(粘土層)/BB◎ FE△ 軟質



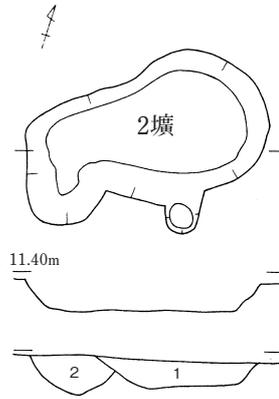
- 1・9溝セクション
- 1 暗灰褐色/FE C 白色粘土 R△ 縮良
 - 2 暗灰褐色/FE◎ LB△ 上層より縮良
 - 3 暗灰褐色/FE◎ SR▲ 軟度低
 - 4 暗灰褐色/BB△ FE◎ LB△ 軟質



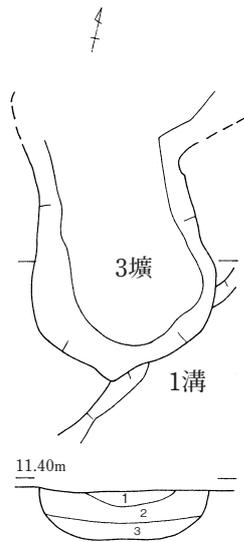
第20図 KB11区遺構1



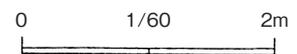
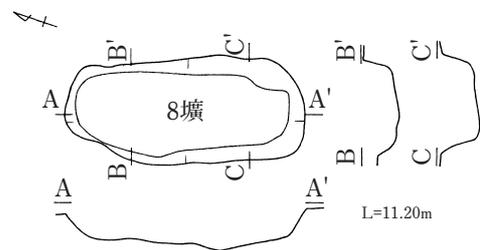
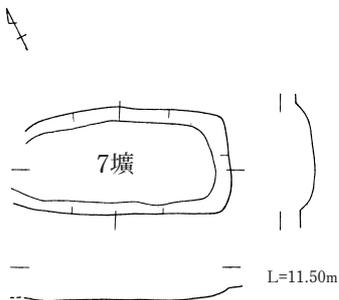
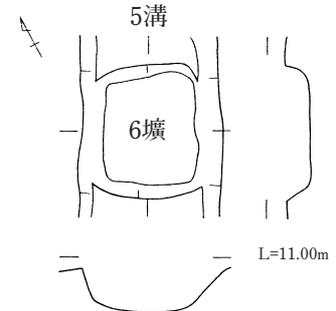
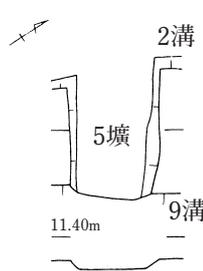
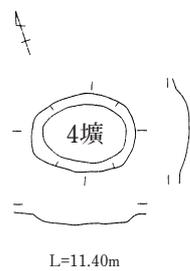
- 1壙セクション
 1 暗灰褐色/FE△ LB△ 軟質
 2 暗灰褐色/FE△ LB△ やや締良
 3 暗灰褐色(1層よりやや暗)/FE△ LB▲
 4 灰褐色(灰色味強)/FE△ 軟質
 5 灰褐色(上層に似る)/FE▲
 6 灰褐色(灰色味強)/FE△ 軟質
 7 灰褐色(灰色味強)/FE△ LB△ 軟質
 8 暗灰褐色/FE△ 軟度高



- 2壙セクション
 1 暗灰褐色/LB、BB、灰褐色B◎ 軟質
 2 暗灰褐色/LB(1層より△)、BB方 軟質



- 3壙セクション
 1 暗灰褐色/LR、FER△ 軟質
 2 暗灰褐色/LR、FE、白色粘土△ 軟質
 3 暗灰褐色/LR、LB、FE◎ 軟質



第21図 KB11区遺構 2

第4節 KB12区

(1) 調査概要

調査担当 指導課 島村範久
 調査期間 昭和62年12月11日～
 昭和63年1月29日
 調査面積 540㎡

調査の経過

騎西城武家屋敷跡西端に位置し、KB11区の北に接する幅6m長さ100mの調査区を12区とした。

掘り下げは、確認面まで浅く表土から人力により行った。遺構確認面は南側はローム層、北側は茶褐色土とした。

降雨による滞水・湧水などが調査の支障となる深い溝や井戸について個別に水中ポンプにより排水した。包含層中の遺物は測量・写真撮影し取り上げた。

遺構の図化については調査区全体を平板測量により、各遺構を任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

最後に縄文時代遺構検出のため精査を行った。基準杭の標高はKB10区の基準杭からレベルの移動をして設定した。

周辺の調査 (第6図)

南にKB11区、東50mに40次が所在する。40次では、障子堀が東西に走行し12区に向かっている。

(2) 遺構と遺物

【溝状遺構】溝は総数16条を数え、南・中央・北に分布するが、北側に多い。ほとんどが東西方向に走行するが北側の1・2号溝はL字に屈曲する。また、7～10号溝は深さは異なるが並行し関連性を思わせる。

1号溝 幅50cm深さ36.5cmを計り、南北に走行し直角に屈曲し東へ向かう。粉挽臼(石-39)・スラグ93gが出土した。

2号溝 幅82cm深さ50cmを計り1号溝に沿うように屈曲する。

3号溝 幅420cm(残存)深さ132cmを計り、当調査

区で最大規模である。断面は緩やかに立ち上がる。中国白磁皿(土-428)・瀬戸美濃天目茶碗(土-429)・同灯明皿(土-430)・同播鉢(土-431・432)・志戸呂播鉢(土-433)・肥前染付碗(土-434～437)・同染付筒形碗(土-438)・肥前染付蓋(土-439)・かわらけ(土-440・441)・焙烙(土-442)・瓦(土-443～445)・粉挽臼(石-40)・砥石(石-73・74)・炭化材・桃の種1点・スラグ437gが出土した。

4号溝 幅337cm深さ120cmを計り、断面はしっかりとした箱薬研堀である。瀬戸美濃天目茶碗(土-446)・同丸皿(土-447～449)・同内禿皿(土-450)・同菊皿(土-451・452)・同播鉢(土-453)・唐津刷毛目文鉢(土-454)・志戸呂播鉢(土-455)・肥前染付碗(土-456)・かわらけ(土-457～468)・焙烙(土-469～471)・漆碗(木-15)・粉挽臼(石-41・42)・砥石(石-75～77)・磨石(石-106)・漆碗片・板材・桃の種2点・スラグ280gが出土した。

8号溝 幅54cm深さ26cmを計る。肥前染付碗(土-472)が出土した。

12号溝 幅58cm深さ48cmを計り、やや屈曲する。15号土壙と重複するが、15号土壙が13cm深い。中国染付碗(土-474)・肥前染付碗(土-475)・焙烙(土-476)・磨石(石-107)が出土した。

16号溝 幅116cm(残存)深さ62cmを計り4号溝と並行する。瀬戸美濃皿(土-473)が出土した。

【井戸状遺構】2基を数え調査区南寄りにある。いずれも素堀である。

1号井戸 直径98cm深さ82cmを計り、やや浅い。

2号井戸 直径82cm深さ120cmを計り、やや深い。志戸呂播鉢(土-477)が出土した。

【土壙】土壙は総数20基を数え、調査区中央に分布する。平面長方形の土壙が多いが、1号土壙は深く2・4号土壙と縦に重複し有機的な意味を持つか。5号土壙は北にあり、大規模なものである。

1号土壙 平面長方形で492cm×260cm深さ128cmを計る。縦軸を通して南に2号土壙・北に4号土壙

が重複する。1号土壙が新しい。完形のかわらけ(土-478)・磨石(石-105)・スラグ7gが出土した。

2号土壙 平面長方形で204cm(残存)×136cm 深さ30cmを計る。1号土壙と重複し浅い。

3号土壙 平面不整形で底面が溝状に西側へ延びる。325cm(残存)×185cm(残存) 深さ58cmを計る。

4号土壙 平面長方形で294cm(残存)×198cm 深さ36cmを計る。1号土壙と重複し浅い。

5号土壙 平面長方形?で490cm(残存)×165cm(残存) 深さ58cmを計る大型の土壙である。唐津刷毛目文鉢(土-479)・肥前染付碗(土-480~482)・同染付皿(土-483)・同猪口(土-484)・同白磁小坏(土-485)・波佐見青磁香炉(土-486)・焙烙(土-487)・瓦(土-488~491)・スラグ22gが出土した。

8号土壙 平面長方形で346cm×100cm 深さ32cmを計る。シジミ1点が出土した。

石製品では、砥石(石-78)・磨石(石-109・110)が出土した。

他にスラグ250gが出土した。

遺構外出土遺物

陶磁器では、同安窯系青磁碗(土-492)・中国染付碗(土-493)・同染付皿(土-494)・常滑片口鉢(土-495)・瀬戸美濃折縁深皿(土-496)・唐津刷毛目文鉢(土-497)・志戸呂小壺(土-498)・信楽灯明皿(土-499)・波佐見青磁中皿(土-500)が出土した。

在地土器では、焙烙(土-501~503)が出土した。

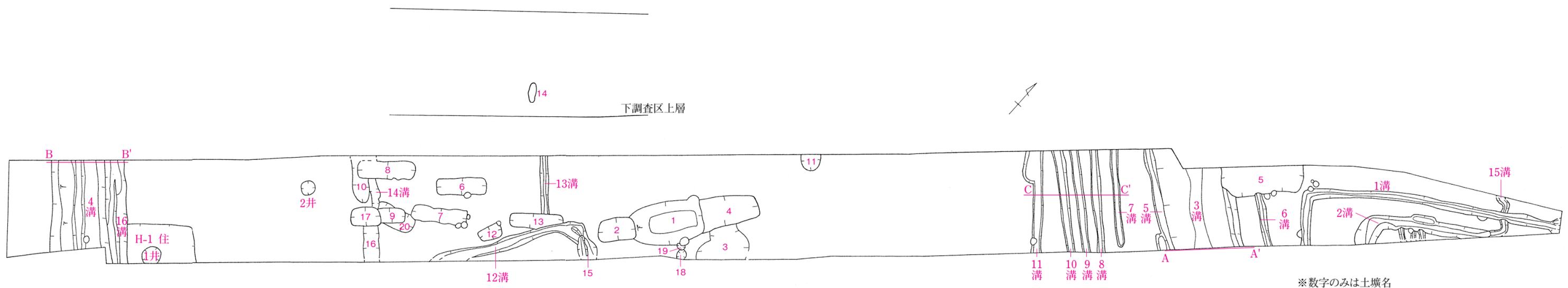
金属製品では、銅製の煙管(金-22)・弾丸(金-42)が出土した。



調査風景



4・16号溝 調査風景



第22図 KB12区遺構位置図

() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化鉄/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	北	15溝	L字に屈曲	不明	幅50	36.5	不明	粉挽白/スラグ93g		
2号溝	北	15溝	L字に屈曲	不明	幅82	50	不明			
3号溝	北	5溝→○→5壇	直線	箱葉研	☆幅(420)	☆132	暗灰褐色/含T▲	中国白磁皿/瀬美(天目・灯明皿・搦鉢) /志戸呂搦鉢/肥前(染付碗・染付筒形碗・染付蓋)/かわらけ/焙烙/瓦/粉挽白/砥石/銭貨/炭化材/種子(桃)/スラグ437g	18c末	
4号溝	南	16溝→○	直線	箱葉研	☆幅337	☆120	暗灰褐色/含T▲	瀬美(天目・丸皿・内禿皿・菊皿・搦鉢) /唐津刷毛目文鉢/志戸呂搦鉢/肥前(染付碗/かわらけ/土鈴/焙烙/粉挽白/砥石/磨石/漆碗/漆碗片/板材/銭貨/種子(桃)/スラグ280g	17c後～ 18c末	
5号溝	北	○→3溝	直線	ほぼ直上	☆幅52	☆45	暗灰褐色			
6号溝	北	○→5壇	直線	不明	幅40	25	暗灰褐色(灰色味強)/含FE△			
7号溝	北	なし	直線	ほぼ直上	幅40	7	不明			
8号溝	北	なし	直線	ほぼ直上	幅54	26	不明	肥前染付碗	18c前～	
9号溝	北	なし	直線	ほぼ直上	幅58	50	不明			
10号溝	北	なし	直線	ほぼ直上	幅54	38	不明			
11号溝	北	なし	直線	ほぼ直上	幅48	16	不明			
12号溝	中央	13・15壇	屈曲	ほぼ直上	☆幅58	☆48	暗灰褐色	中国染付碗/肥前染付碗/焙烙/磨石	18c～	
13号溝	中央	13壇	直線	不明	幅45	30	不明			
14号溝	中央	16・17・20壇→○/8・9・10壇	直線	ほぼ直上	幅(32)	24	暗灰褐色/含LR△・C・S▲ 軟質	磨石		
15号溝	北	1溝・2溝	屈曲	不明	幅35	24	不明			
16号溝	南	○→4溝	直線	ほぼ直上	☆幅(116)	☆62	暗灰褐色	瀬美皿	～18c末	11溝重複命名
1号井戸	南		円形	ほぼ直上	径98	82	不明			
2号井戸	中央	なし	円形	直上	径82	120	不明	志戸呂搦鉢	16c中～	
1号土壇	中央	2・4壇→○→19壇	長方形	ほぼ直上	☆492×260	☆128	暗灰褐色	かわらけ/磨石		
2号土壇	中央	○→1壇	長方形	ほぼ直上	(204)×136	30	暗灰褐色			
3号土壇	中央	○→4壇	不整形	ほぼ直上	(325)×(185)	58	黄褐色/含T		～18c末	
4号土壇	中央	○→1壇/3壇	長方形	ほぼ直上	☆(294)×198	☆36	暗灰褐色/含LR△・C・S▲			
5号土壇	北	3・6溝→○	長方形?	ほぼ直上	(490)×(165)	58	暗灰褐色/含LB◎	唐津刷毛目文鉢/肥前(染付碗・染付皿・白磁小坏・猪口)/波佐見青磁香炉/焙烙/瓦	19c～	
6号土壇	中央	なし	長方形	直上	306×96	☆20	暗灰褐色/含LB◎			
7号土壇	中央	20壇	長方形	直上	320×96	28	暗灰褐色/含LB◎			
8号土壇	中央	10壇→○/14溝	長方形	直上	346×100	32	暗灰褐色/含LB◎・T▲	シジミ	～18c末	
9号土壇	中央	○→17・20壇/14溝	長方形	直上	316×86	20	暗灰褐色			
10号土壇	中央	14溝→○→8壇	隅丸長方形?	ほぼ直上	(216)×98	8	暗灰褐色/含LB▲・LR 締悪			
11号土壇	中央	なし	円形	ゆるやか	122	12	暗灰褐色/含C◎・S△ 軟質			
12号土壇	中央	なし	長方形	ほぼ直上	134×82	10	暗灰褐色/含LB・LR△ 軟質	銭貨		
13号土壇	中央	12・13溝	長方形	直上	320×80	30	不明			
14号土壇	中央	12溝→○	隅丸長方形	直上	230×92		暗灰褐色/含LR・LB△ 締悪			
15号土壇	中央	12溝	隅丸長方形	ほぼ直上	(182)×128	64	暗灰褐色			
16号土壇	中央	○→14溝、17壇	長方形?	不明	(196)×94	16	不明			

第6表 KB12区遺構一覧表1

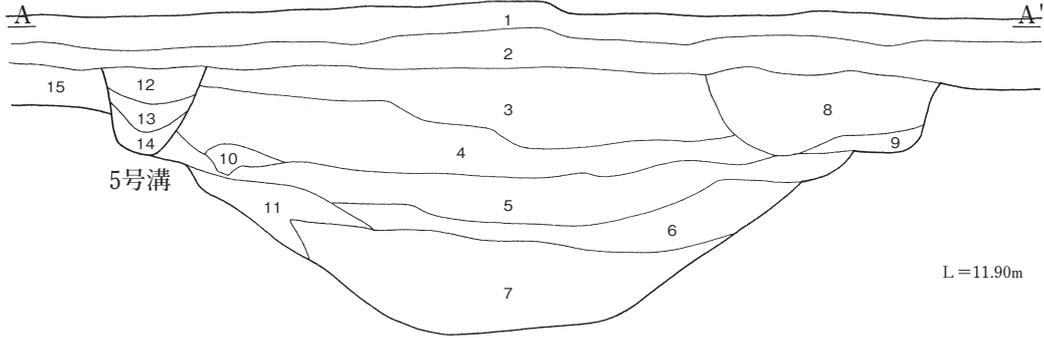
() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
17号土壇	中央	16壇→○/14溝・9壇	長方形	ほぼ直上	176×88	28	暗灰褐色/含LR ・LB◎・S・C▲ 軟質			
18号土壇	中央	19壇→○	不整形	ほぼ直上	(68)×(36)	☆8	暗灰褐色/含LR △・S▲			
19号土壇	中央	1壇→○→18壇	不整形	ほぼ直上	☆(44)×(52)	☆10	暗灰褐色/含LR ・S▲			
20号土壇	中央	9壇→○→14溝/7壇	長方形	ほぼ直上	245×102	18	不明			

第7表 KB12区遺構一覧表2

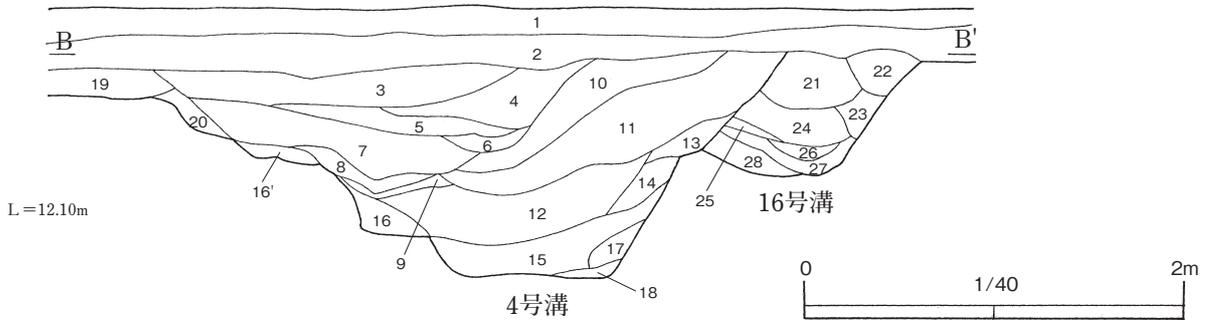


3号溝 調査風景



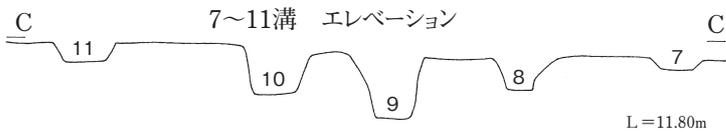
3号溝

- | | | |
|--------------------------|-----------------------------|------|
| ○ 3・5溝セクション | 8 暗灰褐色 / FE△, LR▲ 軟質 | } 5溝 |
| 1 耕作土 | 9 暗灰褐色 (灰色味強) / FE◎, LB△ 軟質 | |
| 2 暗灰褐色 / T◎, S C▲ 縮良 | 10 暗灰褐色 (やや紫色味) / FE△ 軟質 | |
| 3 暗灰褐色 / T▲LR, LB△ 軟質 | 11 暗灰褐色 (灰黒色味強) / FE△ 粘強 | |
| 4 暗灰褐色 / T▲LR, FE△ 縮良 | 12 暗灰褐色 / LR, S▲ 縮良 | |
| 5 LB層 LB, 暗灰褐色 B△ 軟質 | 13 暗灰褐色 / FE△, LR▲ 縮良 | |
| 6 暗灰褐色 / FE△, LB△ 軟質 | 14 暗灰褐色 / FE LR◎ 軟質 | |
| 7 暗灰褐色 / FE◎, LB, LR△ 軟質 | 15 暗灰褐色 / LR△ C▲ 縮良 | |

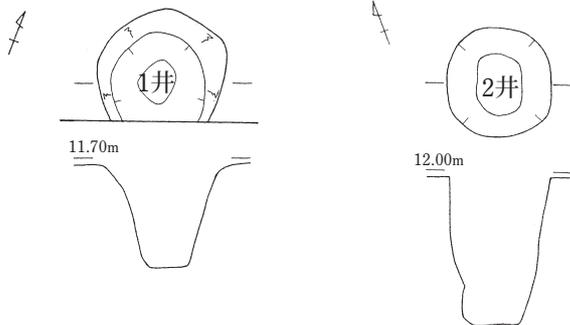


4号溝

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------|
| ○ 4・16溝セクション | 15 暗灰褐色 (灰色味強) / FE△ LR△ 軟質 |
| 1 耕作土 | 16 暗灰褐色 (灰色味強) / LR FE△ 軟質 |
| 2 暗灰褐色 / T◎, S C▲ 縮良 | 16' 暗灰褐色 / FE△ 軟質 |
| 3 暗灰褐色 / S C T▲ 縮良 | 17 LB層 ポロポロ |
| 4 暗灰褐色 / LR, C▲ 縮良 | 18 LB層 |
| 5 暗灰褐色 / LR◎ 軟質 | 19 暗灰褐色 / T, S C△ 縮良 |
| 6 暗灰褐色 / LR▲ 軟質 | 20 暗灰褐色 / LR△ 軟質 |
| 7 暗灰褐色 / LR FE▲ 軟質 | 21 暗灰褐色 / LB△ 縮良 |
| 8 暗灰褐色 (灰色味強) / FE△ 軟質 | 22 暗灰褐色 / T◎ C▲ 縮良 |
| 9 暗灰褐色 / FE◎ 軟質 | 23 暗灰褐色 / LR△ 軟質 |
| 10 暗灰褐色 / LB, LR△, C▲ 縮良 | 24 暗灰褐色 / C◎ LR△ 縮良 |
| 11 暗灰褐色 / LR△ C▲ 縮良 | 25 C層 S▲ |
| 12 暗灰褐色 (灰色味強) / FE◎, LR△ 軟度高 | 26 暗灰褐色 (灰色味強) / FE, LR△ 軟質 |
| 13 暗灰褐色 / C△ LR▲ 軟質 | 27 暗灰褐色 / C△ LB△ 軟質 |
| | 28 暗灰褐色 / FR, LR, C△ 軟質 |

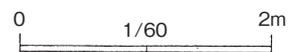


7~11溝 エレベーション

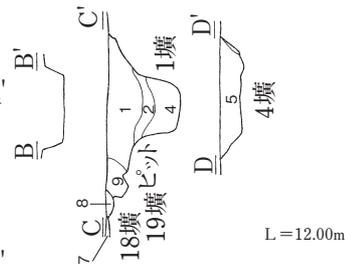
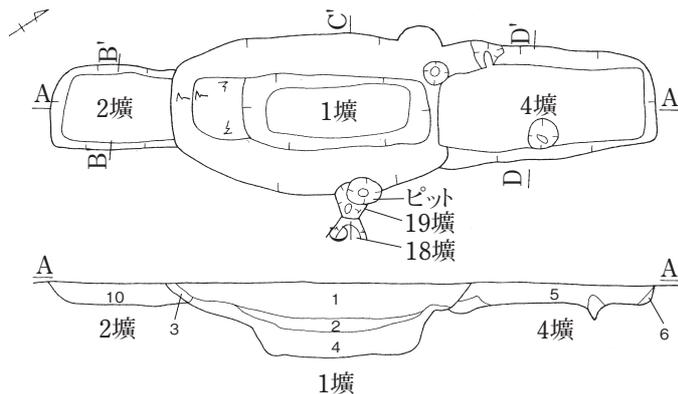


土層説明凡例

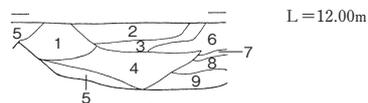
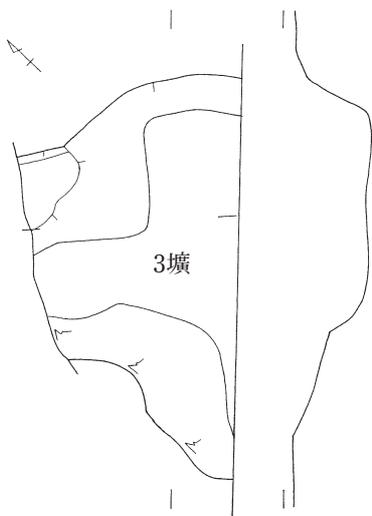
- | | |
|----------|--------------|
| 色調 / 含有物 | |
| テフラ=T | 非常に多い=☆ |
| ローム=L | 多量=◎ |
| 炭化物=C | 少量=△ |
| 焼土=S | 微量=▲ |
| 酸化鉄=FE | 万遍なく=万 |
| 黒褐色=BB | やや明るい=やや明 |
| 黒色=B | やや暗い=やや暗 |
| 褐色=Br | 非常にやわらかい=軟度高 |
| | やわらかい=軟質 |
| | やややわらかい=軟度低 |
| 粒子=R | かたい=堅緻 |
| ブロック=B | 縮まり良し=縮良 |
| | 縮まり悪し=縮悪 |
| | 粘性強し=粘強 |
| | 粘性有り=粘有 |



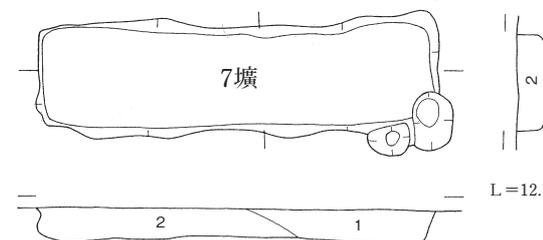
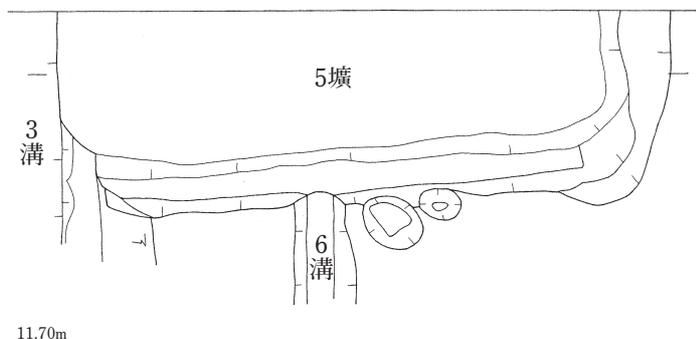
第23図 KB12区遺構 1



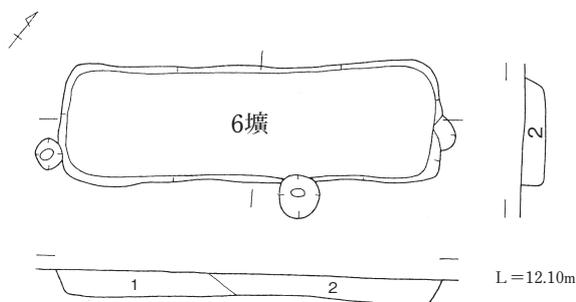
- 1・2・4 壙セクション
 1 暗灰褐色 / LR, C▲ 軟質 パサつく
 2 暗灰褐色 (灰色味強) / FE△ 粘やや有
 3 黄褐色 / LB 暗灰褐色 B△ 縮良
 4 暗灰褐色 (灰色味強) / FE◎ LB LR△ 軟質 粘強
 5 暗灰褐色 (1層よりやや暗) / LR△ C▲
 6 暗灰褐色 (5層より黄色味やや強)
 7 暗灰褐色 / LR△ S▲ 縮良
 8 暗灰褐色 / LR S▲ パサつく 軟質
 9 暗灰褐色 / LB LR△ T▲ パサつく
 10 LB層 暗灰褐色 B△ 縮良



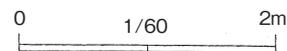
- 3 壙セクション
 1 暗灰褐色 / LB◎ LR△ パサバサ
 2 黄褐色 / LR◎ FE△ 軟質
 3 黄褐色 / 暗灰色 B△ フカフカ
 4 黄褐色 / LR LB FE◎ ポロポロ
 5 黄褐色 / FE△ 軟質
 6 黄褐色 / LR◎ T フカフカ
 7 黄褐色 / 暗灰褐色 B△ フカフカ
 8 黄褐色 / LR◎ フカフカ
 9 黄褐色 / LR◎ 縮良



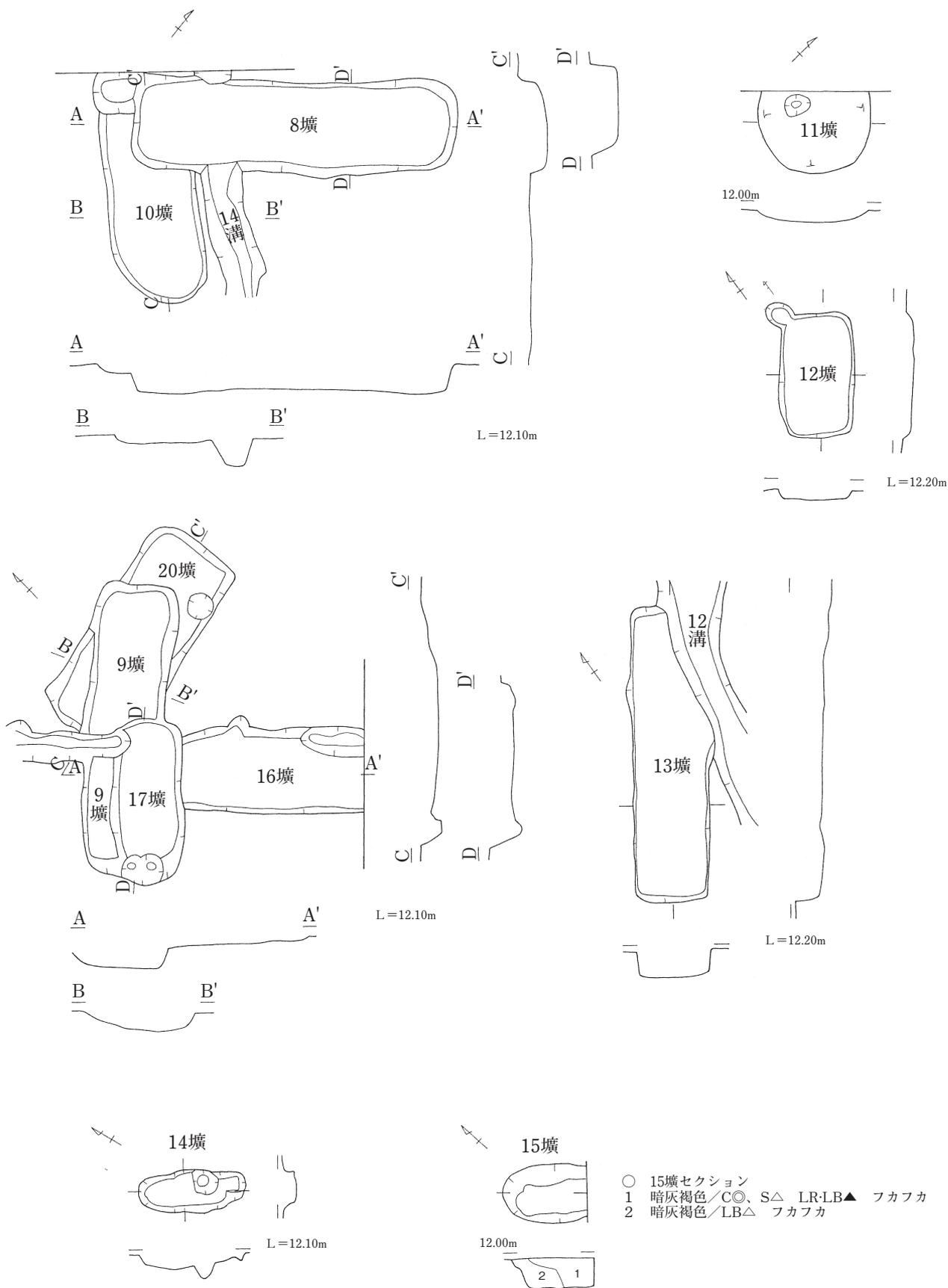
- 7 壙セクション
 1 暗灰褐色 / LR, LB◎ 軟質
 2 暗灰褐色 / LR△ 軟質



- 6 壙セクション
 1 暗灰褐色 / LR, LB◎ 軟質
 2 暗灰褐色 / LR▲ 軟質



第24図 KB12区遺構 2



第25図 KB12区遺構3

第5節 第16次

(1) 調査概要

調査担当 教育総務課 主事 坂本征男
調査期間 平成2年4月27日～5月31日
調査面積 62㎡

調査の経過

建築予定地は9m×7.5mの調査区を設定し、表土を人力により掘り下げた。確認面はローム層である。排水は2号井戸及び19号土壌のみ個別に水中ポンプを入れて行った。

図化は調査区全体は平板測量により、各遺構は水系を基準としてメジャーにより実測した。

基準杭の標高は大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

周辺の調査 (第6図)

北に8・9次・KB16区、西に7区(本報告)が所在する。7区では幅4mの屈曲する溝が確認され当地点に向かっている。前立・竹束が出土している。8・17次では現区画に斜行する溝が走行している。

(2) 遺構と遺物

【溝状遺構】2まで命名したが欠番などから、総数1条である。調査区西に位置する。

1号溝 幅76cm 深さ47cm を計る。

【井戸状遺構】2まで命名したが振り替えにより、総数1基である。素堀である。

2号井戸 下位で断面形が膨らむ。直径116cm 深さ154cm を計る。粉挽臼(石-43)・桃の種1点が出土した。

【土壌】土壌は19まで命名したが欠番等により総数14基である。調査区に万遍なく分布する。

3号土壌 平面長方形で540cm×75cm 深さ25cm を計る。非常に長い。かわらけ(土-504)・焙烙(土-505)・土鍋(土-506)・在地火鉢(土-507)・銭貨(金-95)が出土した。

14号土壌 平面円形で直径74cm 深さ68cm を計りやや深い。

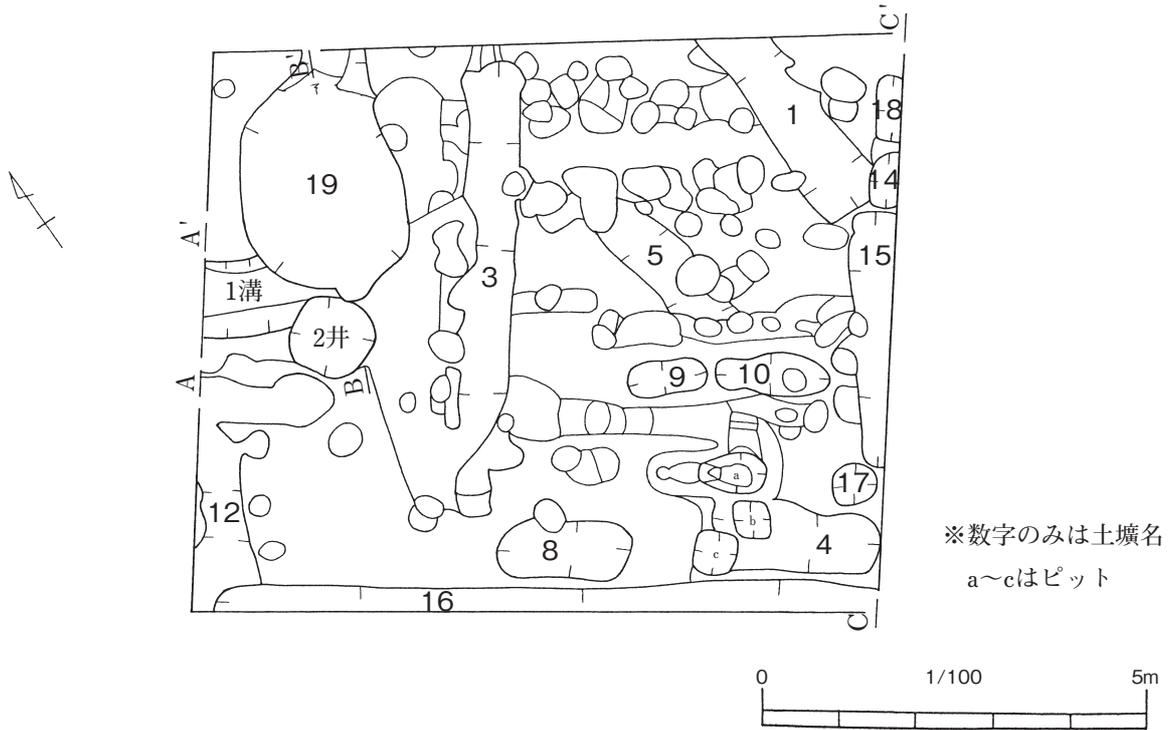
17号土壌 平面円形で直径66cm 深さ32cm を計る。

19号土壌 平面長方形で、断面下半は直上し上半は緩やかに広がる。底面北に段を有する。280cm(残存)×204cm 深さ140cm を計る大規模な土壌である。肥前染付碗(土-509)・かわらけ(土-510~513)・焙烙(土-514・515)・土鍋(土-516)・播鉢(土-517)・在地火鉢(土-518)・板碑(石-128・129)・竹・種子が出土した。

遺構外出土遺物

陶磁器では、瀬戸美濃染付碗(土-519)・同菊皿(土-520)・同香炉(土-521・522)・志戸呂灯明皿(土-523)・堺と思われる播鉢(土-524)・肥前染付碗(土-525・526)・同青磁皿(土-527)・同青磁瓶(土-528)・同小瓶(土-529)が出土した。

在地土器では、焙烙(土-530・531)が出土した。

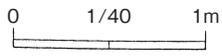
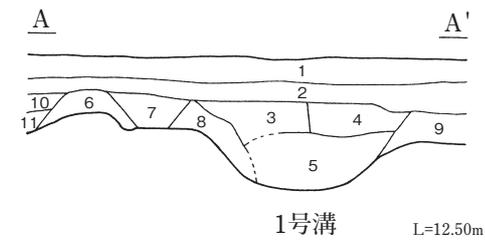


第26図 第16次遺構位置図

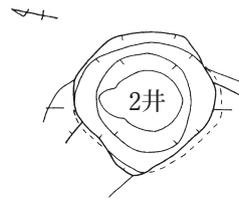
() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化鉄/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	○→19壇/2井戸	直線	ほぼ直上	幅76	☆47	暗灰褐色	板碑		
2号溝	欠番								
1号井戸	欠番								19壇に振替
2号井戸	1溝	凹形	オーバーハング	116	154	暗灰褐色	粉挽臼/種子(桃)		
1号土壇	14壇	長方形	ほぼ直上	(312)×86	☆30	暗灰褐色			
2号土壇	欠番								
3号土壇	なし	長方形	ほぼ直上	540×75	25	暗灰褐色	かわらけ/焙烙/土鍋/火鉢/銭貨	16c~	
4号土壇	○→bピット	隅丸長方形	ほぼ直上	(174)×86	20	暗灰褐色			
5号土壇	なし	隅丸長方形?	ゆるやか	(148)×72	5	暗灰褐色/含T		~18c末	
6号土壇	欠番								
7号土壇	欠番								
8号土壇	なし	隅丸長方形	ほぼ直上	174×78	16	暗灰褐色/含T▲	かわらけ	~18c末	
9号土壇	なし	隅丸長方形	ゆるやか	110×38	16	不明			
10号土壇	なし	隅丸長方形	ゆるやか	143×38	10	不明			
11号土壇	欠番								
12号土壇	なし	長方形?	ほぼ直上	(225)×54	9	暗灰褐色			
13号土壇	欠番								
14号土壇	1壇	凹形	ほぼ直上	74	☆68	暗灰褐色			
15号土壇	なし	長方形	ほぼ直上	335×(52)	32	暗灰褐色/含LR・C▲ ・LB△			
16号土壇	なし	長方形	不明	(866)×(26)	75	不明			溝か
17号土壇	なし	凹形	ほぼ直上	66	32	不明			
18号土壇	なし	長方形	ほぼ直上	(93)×(33)	☆10	暗灰褐色/含LR△ LB▲			
19号土壇	1溝→○	長方形	ロート形	(280)×204	☆140	暗灰褐色/含T▲	肥前染付碗/かわらけ/焙烙/土鍋/在地播鉢/火鉢/竹/種子(桃)/板碑	17c前~ 18c末	1号井戸を振替

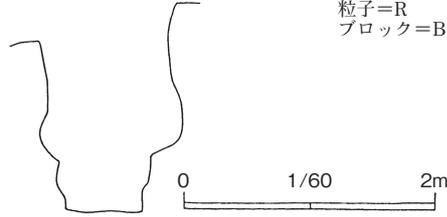
第8表 第16次遺構一覧表



- 1 溝セクション
- 1 表土 縮良
 - 2 暗灰褐色 / LR、LB、C、T▲ 縮良
 - 3 暗灰褐色 / LR、LB、C▲ 縮良
 - 4 暗灰褐色 / LR、LB、C▲ 縮良
 - 5 暗灰褐色 / LR、LB、C▲ 縮良
 - 6 黄褐色 / LR、LB◎ 縮良
 - 7 暗灰褐色 / LR、LB、T▲ 縮良
 - 8 黄褐色 / LR◎、LB◎、C▲ 縮良
 - 9 暗灰褐色 / LR、LB、C▲ 縮良
 - 10 暗灰褐色 / LR、T、C▲ 縮良
 - 11 暗灰褐色 / LR、LB▲ 縮良



12.10m



土層説明凡例

- 色調 / 含有物
- テフラ=T
 - ローム=L
 - 炭化物=C
 - 焼土=S
 - 酸化鉄=FE
 - 黒褐色=BB
 - 黒色=B
 - 褐色=Br

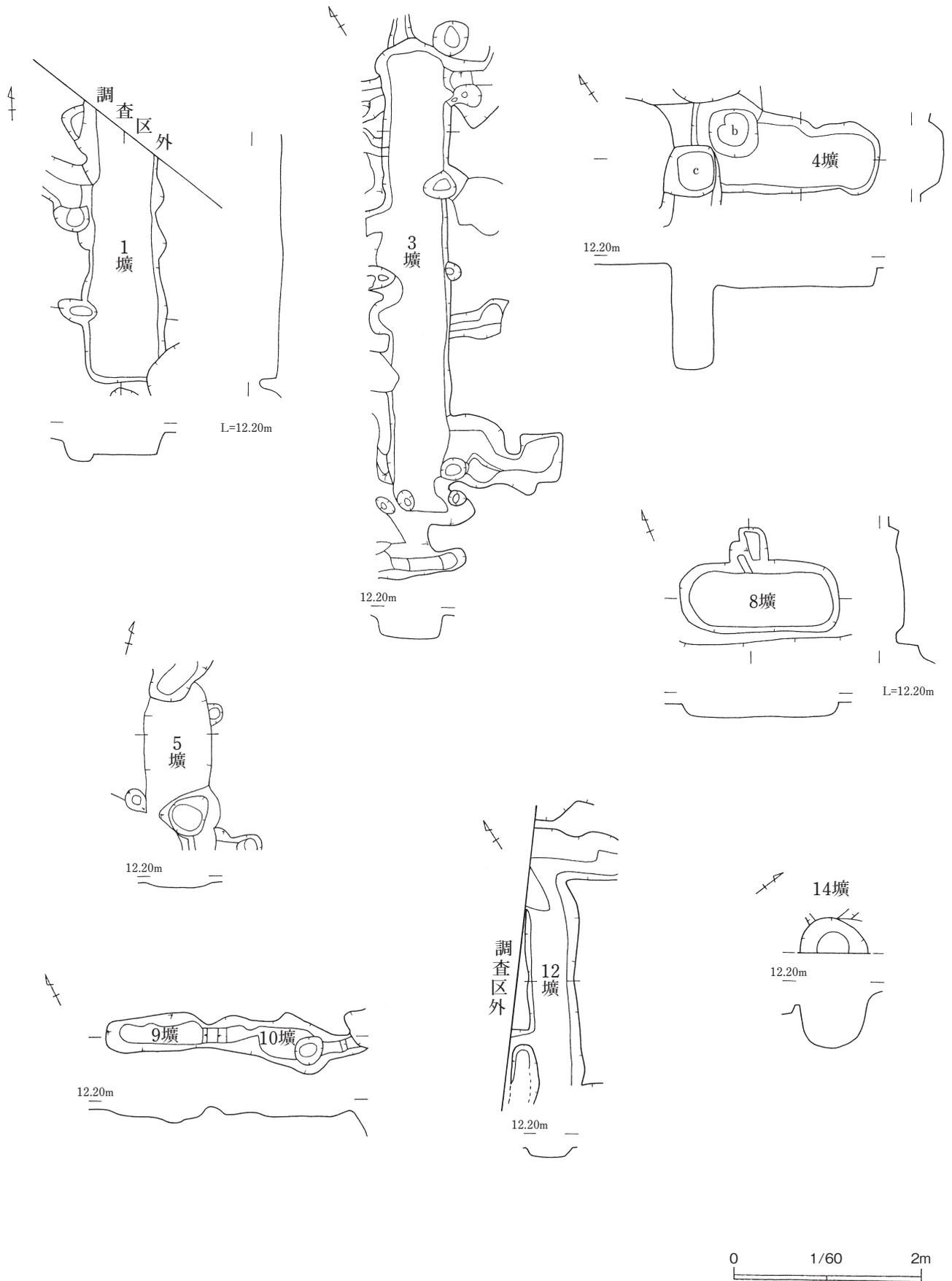
- 非常に多い=☆
- 多量=◎
- 少量=△
- 微量=▲
- 万遍なく=万
- やや明るい=やや明
- やや暗い=やや暗
- 非常にやわらかい=軟度高
- やわらかい=軟質
- やややわらかい=軟度低
- かたい=堅緻
- 縮まり良し=縮良
- 縮まり悪し=縮悪
- 粘性強し=粘強
- 粘性有り=粘有

- 粒子=R
- ブロック=B

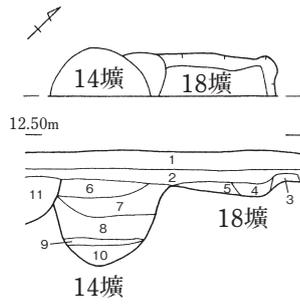
第27図 第16次遺構 1



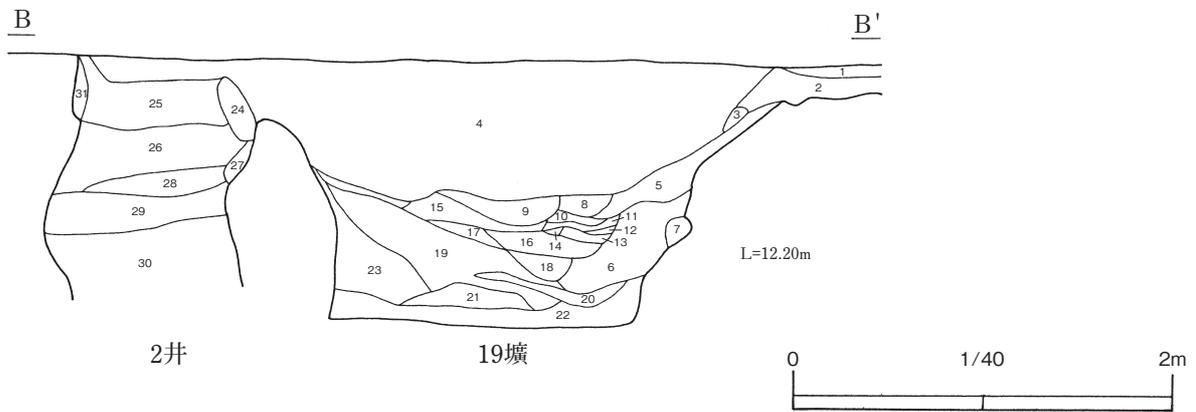
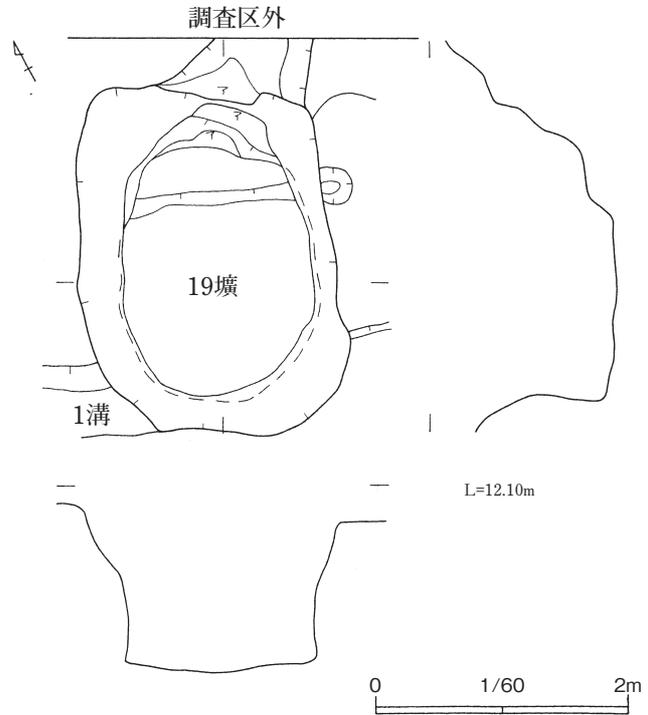
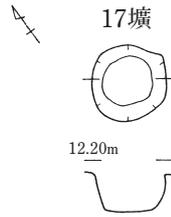
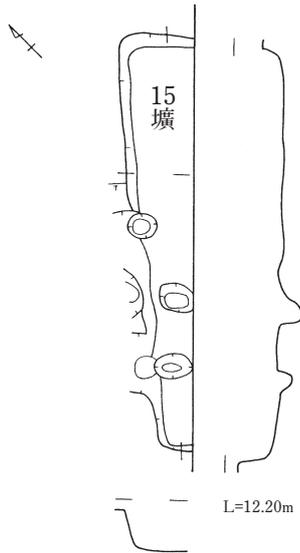
調査風景



第28図 第16次遺構 2



- 14・18墳セクション
- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1 暗灰褐色 / LR、LB▲、T○ 縮良 | 6 暗灰褐色 / LR、LB▲ 縮良 |
| 2 暗灰褐色 / LR△、LB▲、T○ 縮良 | 7 暗灰褐色 / LR、LB△ 縮良 |
| 3 黄褐色 / LR○、LB○ 縮良 | 8 暗灰褐色 / LR、LB▲ 縮やや悪 |
| 4 暗灰褐色 / LR△、LB▲ 縮良 | 9 暗灰褐色 / LR○ 縮やや悪 |
| 5 暗灰褐色 / LR、LB○ 縮良 | 10 暗灰褐色 / LR、LB▲ 縮やや悪 |
| | 11 暗灰褐色 / LR▲、LB△、C▲ 縮良 |



- 2井・19墳セクション
- | | |
|------------------------------------|------------------------------|
| 1 暗灰褐色 (4層より黄色味強) / LR、LB△、C▲ 縮良 | 16 黄褐色 / LR、LB○、C▲ 縮悪 |
| 2 暗灰褐色 (4層より黄色味強) / LR、LB○、C▲ 縮やや悪 | 17 暗灰褐色 / LR、LB▲、C▲ 縮悪 |
| 3 黄褐色 / LR○ 縮悪 | 18 暗灰褐色 / LR、LB▲ 縮悪 |
| 4 暗灰褐色 / LR、LB▲、C、T▲ 縮やや悪 | 19 暗灰褐色 / LR、LB▲、FE○ 縮悪 |
| 5 暗灰褐色 / LR、LB○ 縮悪 | 20 黒色 (21層より色味薄) / LR▲ 縮悪 |
| 6 暗灰褐色 (5層よりやや暗) / LR、LB○ 縮悪 | 21 黒色 / LR▲、植物根○ 縮悪 |
| 7 黄色 / LB 縮悪 | 22 黒褐色 / FE○、LR○ 縮悪 |
| 8 黒褐色 / C、LR▲ 縮悪 | 23 暗灰褐色 / LR、LB△、FE○ 縮悪 |
| 9 暗灰褐色 / LR、LB、C▲ 縮悪 | 24 黄色 / LR○、LB○、C▲ 縮良 |
| 10 黄褐色 / LR○、C▲ 縮悪 | 25 暗灰褐色 / LR、LB△、C▲ 縮良 |
| 11 黄褐色 (10層より黄色味弱) / LR○、C▲ 縮悪 | 26 暗灰褐色 / LR、LB△、C▲ 縮やや悪 |
| 12 暗灰褐色 (上下層よりやや白色味強) / LR、C▲ 縮悪 | 27 暗灰褐色 / LB 縮良 |
| 13 暗灰褐色 (黄色味) / LR△、C▲ 縮悪 | 28 白褐色 / LR、LB、C▲ 縮やや悪 |
| 14 黄色 / LR○ 縮悪 | 29 暗灰褐色 (黄色味) / LR、LB○、C▲ 縮悪 |
| 15 暗灰褐色 (やや白色味) / LR、LB▲、C▲ 縮悪 | 30 暗灰褐色 / LR、LB○、C▲ 縮悪 |
| | 31 黄色 / LB 縮良 |

第29図 第16次遺構3

第6節 第23次

(1) 調査概要

調査担当 社会教育課 主事 坂本征男
調査期間 平成3年6月3日～8月6日
調査面積 298㎡

調査の経過

建築予定地は14.5m×10.5mの範囲であるが、排土置き場確保のため西半分をA区、東半分をB区とし順番に調査を行った。表土を人力により掘り下げた。確認面はローム層である。降雨による滞水・湧水などが調査の支障となるため、北側に側溝を掘り下げ水中ポンプにより排水した。B区については東と南にトレンチを設定して遺構を確認したが、南側で遺物が集中出土するため、土層観察用のベルトを設定し移植ゴテにて掘り下げ、包含層中の遺物は測量・写真撮影し取り上げた。

図化は調査区全体を平板測量により、土層等は水系を基準としてメジャーにより実測した。

最後に縄文時代遺構検出のため精査を行った。その際、土器片が確認された。

基準杭の標高は大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

遺構の命名及び遺物の取り上げはA・B区それぞれで行い分割調査したものがあつた、本来同一の遺構であるため、本報告では便宜上、全てT○号(遺構名)とする。

周辺の調査(第6図)

東に35・36・41・55・56次、西にKB11区(本報告)が所在する。41次では墓域、55次では江戸初期の井戸から荷札が出土、35・36次では武家屋敷南側を大きく画する溝が確認されている。

(2) 遺構と遺物

【溝状遺構】B区で2条確認され、T1～2号溝に振り替えた。

T1号溝 セクション図から幅136cm深さ80cmを計るやや大きなものである。南北に走行し、北側で東

に屈曲する。

T2号溝 幅90cm深さ42cmを計り、確認部分は短い。溝か。龍泉窯系青磁鉢(土-532)・瀬戸美濃黄瀬戸大皿(土-533)・志戸呂大皿(土-534)・かわらけ(土-535)・石臼(石-44~47)・砥石(石-79)・板碑(石-130~133)が出土した。

【井戸状遺構】A区で1基、B区で2基確認され、総数3基で、T1～3号井戸に振り替えた。いずれも素堀である。

T1号井戸 直径110cm深さ149cmを計る。

T2号井戸 平面径115cm×92cm深さ136cmを計る。

T3号井戸 直径117cm深さ132cmを計る。瀬戸美濃鉄絵皿(土-536)・完形のかわらけ(土-537)が出土した。

【土壙】土壙はA区で16基、B区6基まで命名したが、欠番及び調査区隣接等により総数20基で、T1～20号土壙に振り替えた。調査区に万遍なく分布する。

T2号土壙 A区中央に位置する。平面不整形で100cm×80cm深さ94cmを計り深い。

T3号土壙 平面長方形で124cm×62cm深さ62cmと、小規模であるが深い。

T4号土壙 平面長方形で324cm(残存)×103cm深さ16cmを計る。合成図である。

T9号土壙 平面長方形で224cm×98cm深さ16cmを計る。龍泉窯系青磁碗(土-539)が出土した。

T17号土壙 平面長方形?で106cm(残存)×104cm深さ20cmを計り、T18号土壙とつながる。

T18号土壙 平面長方形で152cm×120cm深さ20cmを計り、T17号土壙とつながる。瀬戸美濃徳利(土-538)が出土した。

T20号土壙 平面不整形で170cm(残存)×102cm(残存)深さ86cmを計り深い。茶臼(石-48)・板碑(石-134)が出土した。

遺構外出土遺物

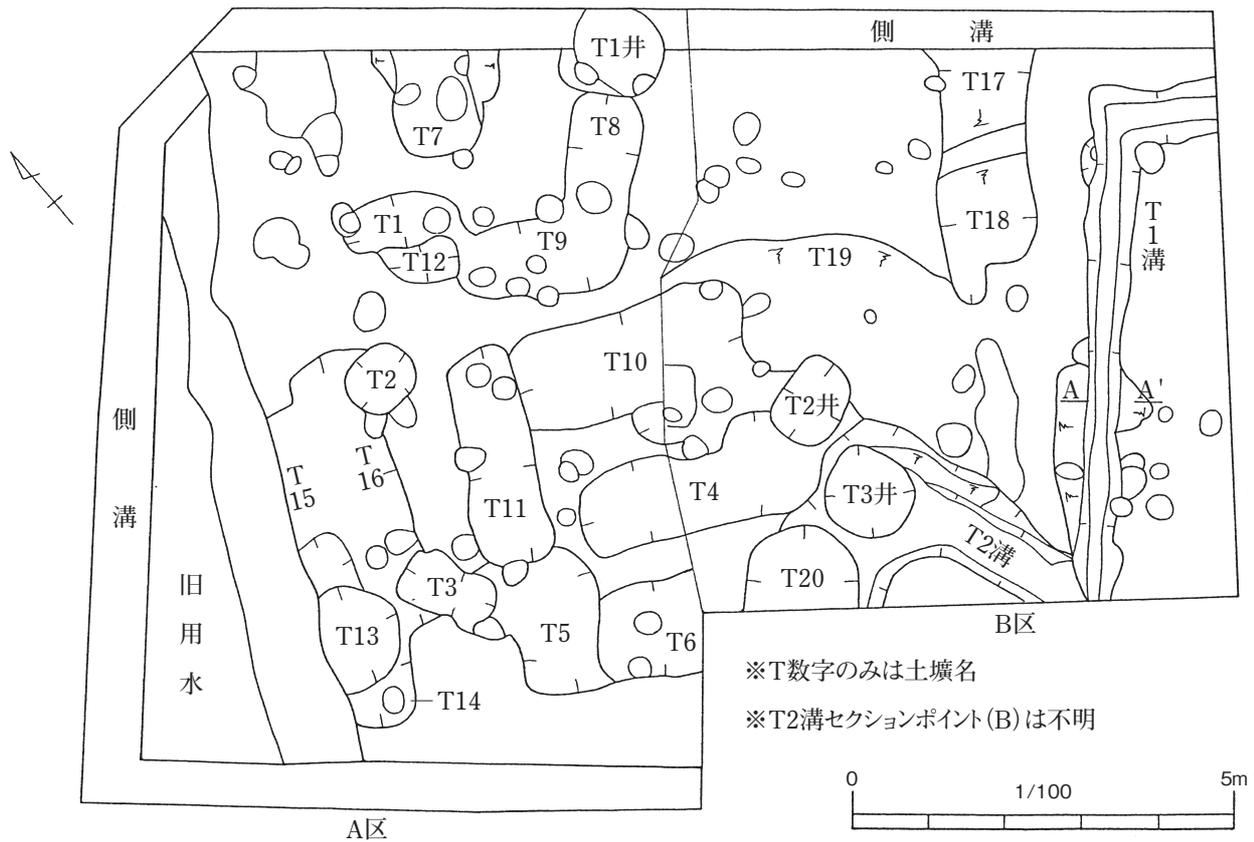
東側調査区南寄りの確認面上層で遺物が集中して
いて、志野丸皿（土-542）、かわらけ（土-555・
557・558）がある（第32図）。

陶磁器では、常滑小甕（土-541）・瀬戸美濃青
織部皿（土-540）・同志野丸皿（土-542～545）
542は略完形・同丸皿（土-546）・同片口（土-547）
・同志野向付（土-548）・同黄瀬戸向付（土-549）
・同蓋（土-550）・同香炉（土-551）・志戸呂丸
碗（土-552）・初山天目茶碗（土-553）・備前茶
入（土-554）が出土した。

在地土器では、かわらけ（土-555～560）555は
略完形・焙烙（土-561・562）・火鉢（土-563）
・瓦（土-564）が出土した。

金属製品では、鉄製の環状製品（金-14）、銅製
の煙管（金-20・23・24）・小柄（金-32）が出土
した。

石製品では、粉挽臼（石-49～51）・硯（石-53）
・板碑（石-135～137）が出土した。
他に貝1点が出土した。

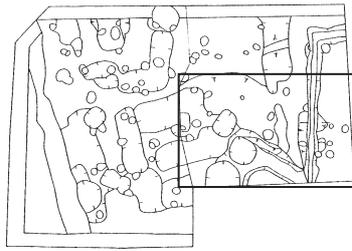


第31図 第23次遺構位置図

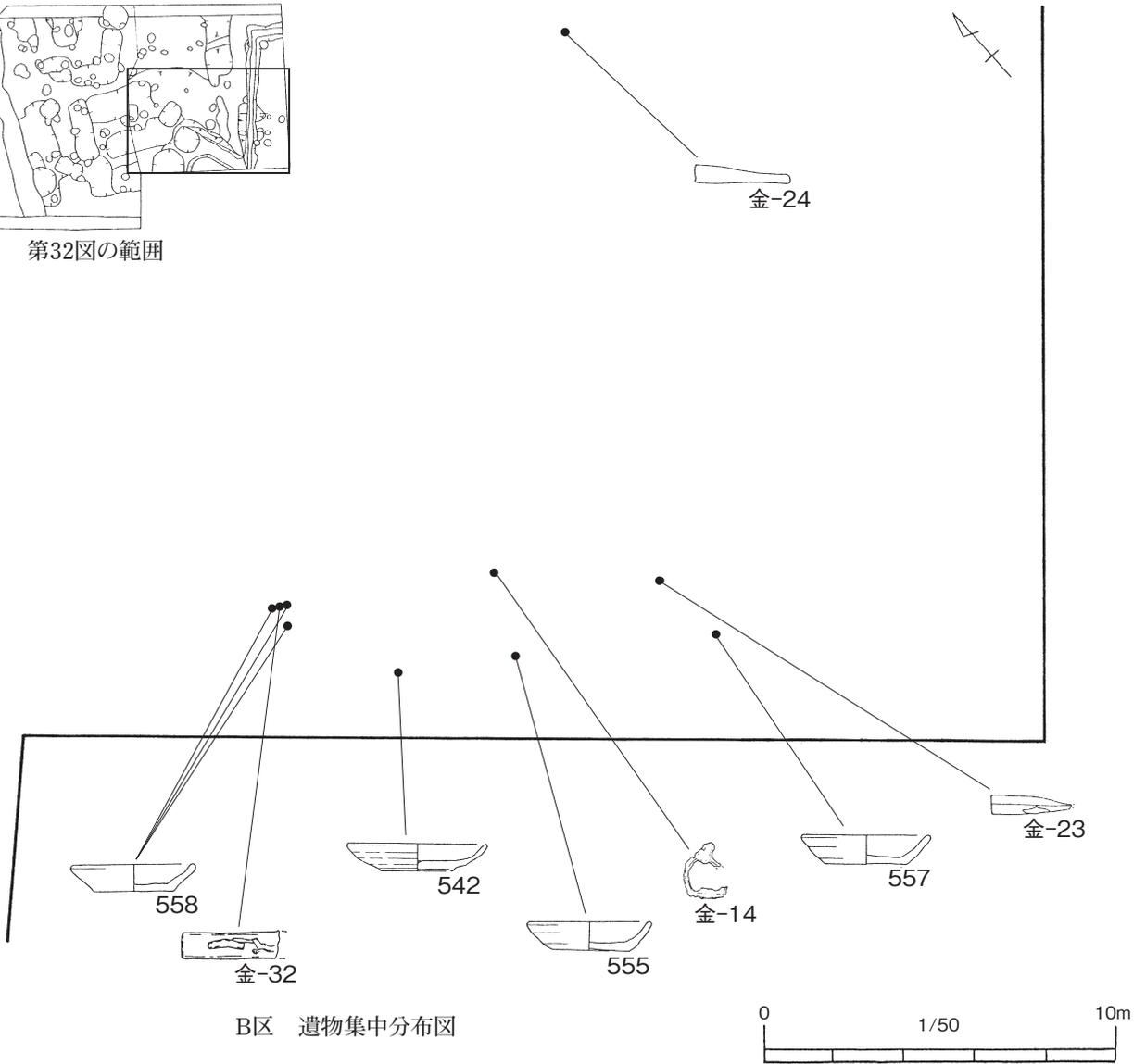
() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
T1号溝	T2溝	屈曲	箱葎研	幅☆136	☆80	暗灰褐色/含LR、LB、C、T▲		~18c 後	B区1号溝
T2号溝	T1溝、T3井	直線	箱葎研	幅90	42	暗灰褐色	龍泉窯系青磁鉢/瀬美黄瀬戸大皿/志戸呂大皿/かわらけ/石臼/砥石/板碑/加工石	17c 前~	B区2号溝
T1号井戸	なし	円形	ほぼ直上	110	149	不明			A区1井
T2号井戸	T4・T19壇	楕円形	ロート形	115×92	136	不明			B区1井
T3号井戸	T2溝	円形	ほぼ直上	117	☆132	暗灰褐色	瀬美鉄絵皿/かわらけ	16c 末~	B区2井
T1号土壇	T12壇	長方形	ほぼ直上	130×54	14	暗灰褐色/含LR-BBR△			A区1壇
T2号土壇	T16壇	不整形円形	直上	100×80	94	不明			A区2壇
T3号土壇	T16壇	長方形	ほぼ直上	124×62	62	不明			A区3壇
T4号土壇	T2井	長方形	ほぼ直上	(324)×103	16	暗灰褐色/含LR-BBR△			A区4壇 B区5壇
T5号土壇	○→T11壇/T6壇	長方形	ゆるやか	198×(116)	9	暗灰褐色			A区5壇
T6号土壇	T5壇	長方形	ゆるやか	135×120	8	暗灰褐色			A区6壇
T7号土壇	なし	長方形	ほぼ直上	(145)×105	24	暗灰褐色			A区7壇
T8号土壇	○→T9壇	長方形	ゆるやか	(168)×86	☆10	暗灰褐色			A区8壇
T9号土壇	T8壇→○	長方形	ほぼ直上	224×98	☆16	暗灰褐色	龍泉窯系青磁碗	13c~	A区9壇
T10号土壇	T11壇→○/19壇	長方形	ほぼ直上	(350)×132	15	暗灰褐色			A区10壇 B区4壇
T11号土壇	T5壇→○→T10壇	長方形	ほぼ直上	292×90	12	暗灰褐色			A区11壇
T12号土壇	T1壇	長方形?	ほぼ直上	(106)×(46)	12	不明			A区12壇
T13号土壇	T14壇→○/16壇	楕円形?	ほぼ直上	136×(100)	☆30	暗灰褐色			A区13壇
T14号土壇	○→T13壇	長方形?	ほぼ直上	(110)×(90)	18	暗灰褐色			A区14壇
T15号土壇	16壇	長方形?	不明	190×(50)	16	暗灰褐色			A区15壇
T16号土壇	T2・3・13・15壇	長方形?	ほぼ直上	330×100	14	不明			A区16壇
T17号土壇	なし	長方形	ほぼ直上	(106)×104	☆20	暗灰褐色			B区1壇
T18号土壇	なし	長方形	ほぼ直上	152×120	☆20	暗灰褐色	瀬美徳利	16c 前~	B区2壇
T19号土壇	T2井、T10壇	不整形	ゆるやか	(386)×(115)	8	不明			B区3壇
T20号土壇	なし	不整形	オーバーハング	(170)×(102)	86	不明	茶臼/板碑		B区7壇

第9表 第23次遺構一覧表

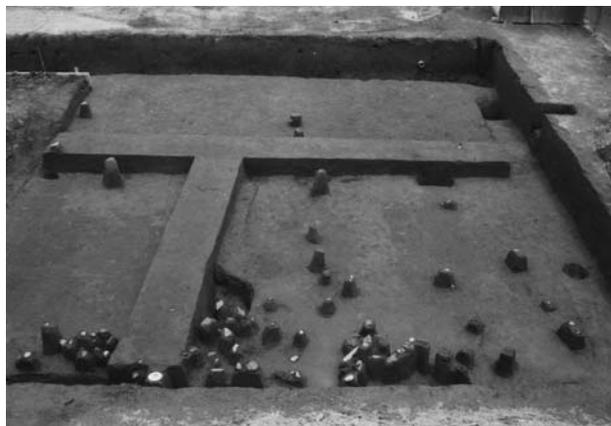


第32図の範囲

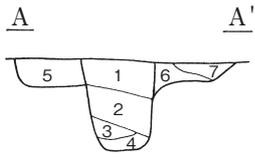


B区 遺物集中分布図

第32図 第23次遺構 1

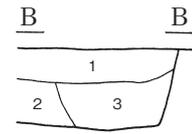


遺物出土



L=11.90m

T1号溝



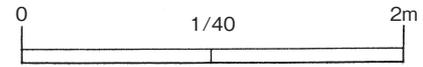
L=11.80m

T2号溝

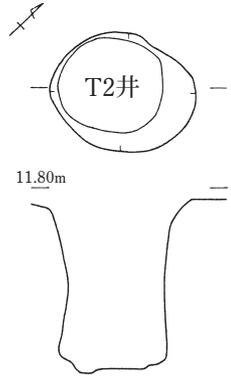
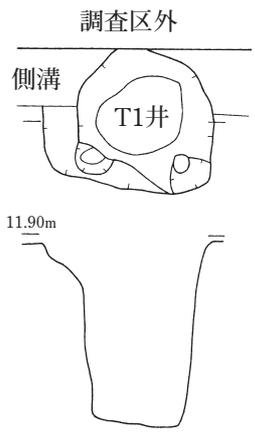
※位置不明

- T1溝セクション
- 1 暗灰褐色/LR、LB▲ 縮良
 - 2 暗灰褐色/LR、LB▲ 縮良
 - 3 暗灰褐色 (やや灰色味) /LR、LB▲ 縮良
 - 4 暗灰褐色 (やや灰色味) /LR、LB、FE▲ 縮良
 - 5 暗灰褐色/LR (B状) ▲ 縮良
 - 6 黄褐色/LR○ 縮良
 - 7 暗灰褐色 (やや茶褐色味) /LR△ 縮良

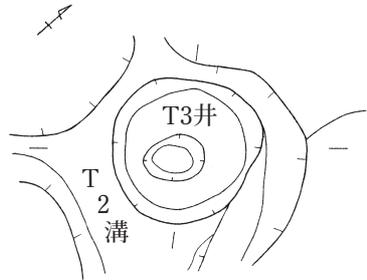
T1溝



- T2溝セクション
- 1 暗灰褐色/LR、LB、FE▲ 縮良
 - 2 暗灰褐色/LR、LB○、FE○ 縮良
 - 3 暗灰褐色 (やや灰色味) /LR、LB▲、FE○ 縮良



- 土層説明凡例
- 色調/含有物
- テフラ=T 非常に多い=☆
 - ローム=L 多量=○
 - 炭化物=C 少量=△
 - 焼土=S 微量=▲
 - 酸化鉄=FE 万遍なく=万
 - 黒褐色=BB やや明るい=やや明
 - 黒色=B やや暗い=やや暗
 - 褐色=Br 非常にやわらかい=軟度高
 - やわらかい=軟質
 - やややわらかい=軟度低
 - かたい=堅緻
 - 粒子=R 縮まり良し=縮良
 - ブロック=B 縮まり悪し=縮悪
 - 粘性強し=粘強
 - 粘性有り=粘有



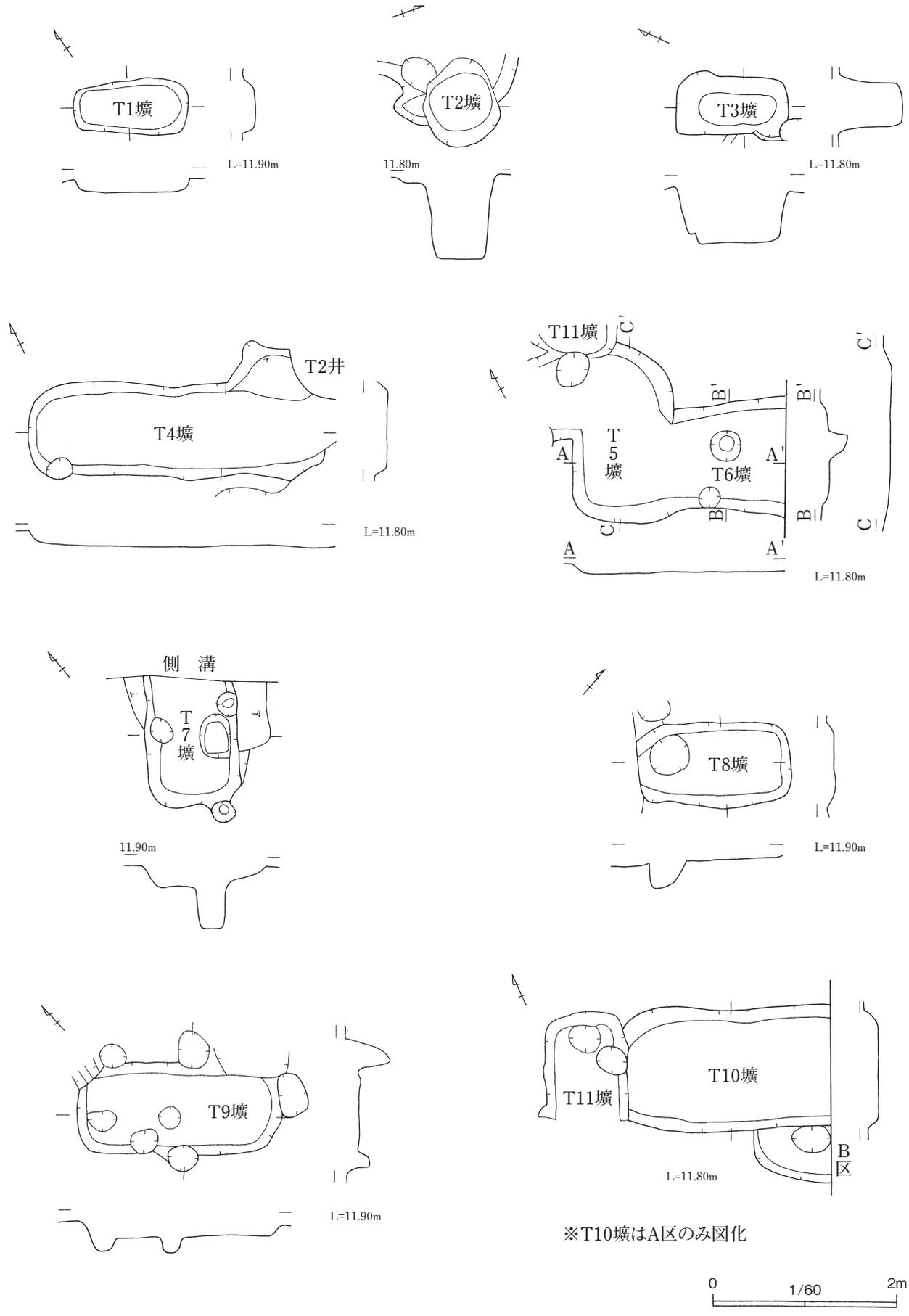
L=12.10m

- T3井セクション
- 1 暗灰褐色/LR (B状) ○、赤色R、LR、LB、C▲ 縮良
 - 2 暗灰褐色 (やや灰色味) /LR、LB▲、C▲ 縮良
 - 3 暗灰褐色 (灰色味) /LR、LB、FE▲ 縮良
 - 4 暗灰褐色 (灰色味やや暗) /LR、LB、FE▲ 縮良
 - 5 暗灰褐色 (やや灰色味) /FE、LR (B状) △ 縮良
 - 6 暗灰褐色 (4層より灰色味暗) /FE○、LR、LB▲ 縮悪
 - 7 黒褐色/FE、LR、LB▲ 縮悪
 - 8 暗灰褐色/LR、LB▲ 縮良
 - 9 暗灰褐色 (やや灰色味) /LR、LB▲ 縮良
 - 10 暗灰褐色 (やや暗) /LR、LB、C▲、赤色R△ 縮良
 - 11 暗灰褐色/LR、LB、C▲、赤色R▲ 縮良
 - 12 暗灰褐色/LR▲、LB○、赤色R▲ 縮良
 - 13 暗灰褐色 (灰色味) /FE○、LR、LB▲ 縮良
 - 14 暗灰褐色/LR○ 赤色R、C▲ 縮良
 - 15 暗灰褐色/LR、LB▲ 縮良
 - 16 暗灰褐色/LR、LB▲ 縮良

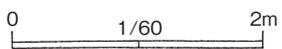
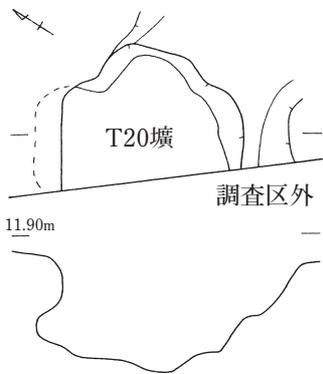
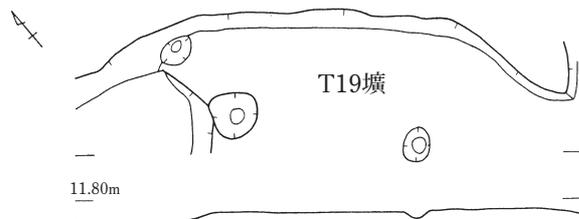
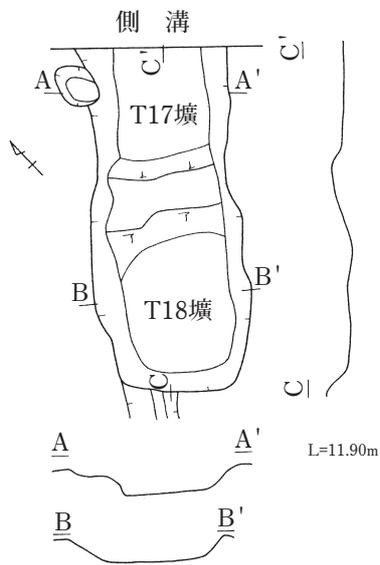
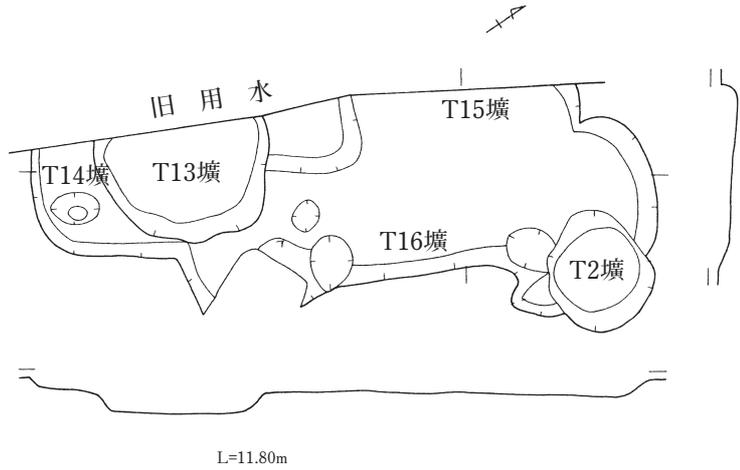
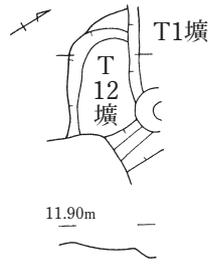
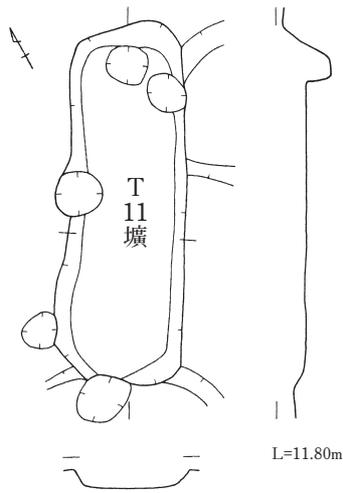


調査風景

第33図 第23次遺構2



第34図 第23次遺構 3



調査風景

第35図 第23次遺構 4

第IV章 出土した遺物

第1節 土器類

騎西城跡で出土している土器類は大略以下の通りに分類できる。

胎質では磁器・陶器・土器、生産地では国外産である輸入品、国内産に大別できる。また、器種は多様である。

これらの要素により時代等を加味し、掲載順は、輸入品では青磁・白磁・陶器・染付・朝鮮陶磁・その他、国産品では渥美・常滑・瀬戸美濃・肥前系陶器・志戸呂・初山・備前・丹波信楽・ほか・産地不明・肥前系磁器・瀬戸美濃系磁器・在産土器とする。その他で鞆の羽口や土製品を扱う。

以上、分類・年代等はいずれも暫定的なものでいずれ整理をしたい。さて、今回の調査で報告する土器類は主に以下の通りで細片は省略している。

【輸入陶磁】

〈青磁〉

○同安窯系 碗が7区(57)、8区2溝(135)、12区(492)で出土した。

○龍泉窯系 碗が7区1溝(1・2)・5溝(19)・遺構外(54・55)、8区2b溝(131)・遺構外(193~197)、11区7溝(383)、23次T9壙(539)で、香炉が7区(56)で、鉢が23次T2溝(532)で出土した。

〈白磁〉 碗が7区(58)で、皿が7区(59・60)、12区3溝(428)で出土した。

〈染付〉 碗が7区(61・62)、12区12溝(474)・遺構外(493)で、皿が7区(63~65)、8区10壙(185)・遺構外(198~202)、11区(385)、12区(494)で出土した。

【国産】

〈渥美〉 壺が8区16壙(188)・遺構外(203)で出土した。

〈常滑〉 片口鉢が7区1溝(3~6)・6溝(20)・遺構外(66)、8区6溝(144)・7溝(151・152)・遺構外(205~210)、11区(386)、12区(495)で、

小壺が8区(211)で、甕が8区(212)、11区(387)で、小甕が23次(541)で、片口と思われるものが8区(204)で出土した。

〈瀬戸美濃〉

古瀬戸・大窯・登窯期

出土量が多いため、調査区ごとに記載する。

7区

○古瀬戸後期の搦鉢(8)が1溝で、徳利(90)・祖母懷壺(92)・瓶子(93)が遺構外で出土した。

◎大窯前半の天目茶碗が遺構外(67)で、稜皿(30)・丸皿(31)が5井で、端反皿が6井(35)・遺構外(74・75)で、搦鉢が1溝(9)・遺構外(89)で出土した。

◎大窯後半の折縁皿(7)が1溝で、丸皿が5井(32)・遺構外(76)で、稜皿(77)・大皿(81)・黄瀬戸鉢(82)・搦鉢(83・86~88)が遺構外で出土した。

●登窯初期の天目茶碗が5井(28・29)・17壙(51)・遺構外(68)で、丸碗(73)が遺構外で、端反坏(10)が1溝で出土した。

8区

○古瀬戸中期の卸皿が10井(179)で出土した。

○古瀬戸後期の平碗(213)・天目茶碗(217)が遺構外で、縁釉小皿が6溝(145)・8溝(153)・遺構外(166・230~237)で、折縁深皿(146)・卸目付大皿(147)が6溝で出土した。

◎大窯前半の縁釉小皿(239~242)・腰折皿(243)・端反皿(244~246)・丸皿(263)が遺構外で、香炉(155)が8溝で出土した。

◎大窯後半の天目茶碗が遺構外(218~221)で、ヒダ皿が3溝11壙(139)で、折縁皿が8溝(154)・31壙(192)で、志野菊皿が5井(176)で、稜皿が遺構外(247~250)で出土した。

●登窯初期の織部碗(223)・鉄絵碗(224)・志野丸碗(225)・丸碗(227)が遺構外で、志野丸皿が2a溝(126)・2溝(136)・遺構外(252~255)で、丸皿(137)が2溝で、菊皿が5井(175)・10井(180)・遺構外(256~259)で、総織部皿(251)・輪禿皿(260)・反皿(261・262)・搦鉢(270・273)・鉄絵鉢(275)・青織部大皿(276)・小坏

(184・279～282) が遺構外で出土した。

●登窯中期の香炉 (190) が30壙で、播鉢 (271) ・鉄絵鉢 (277) が遺構外で出土した。

11区

◎大窯後半の天目茶碗 (388) ・志野丸皿 (392) が遺構外で出土した。

●登窯初期の天目茶碗が1溝 (377) ・遺構外 (389) で、志野丸皿 (393) ・播鉢 (398) が遺構外で出土した。

12区

○古瀬戸中期の折縁深皿が遺構外 (496) で出土した。

○古瀬戸後期の播鉢又は折縁深皿が4溝 (453) で出土した。

◎大窯前半の天目茶碗が3溝 (429) ・4溝 (446) で、端反又は丸皿が16溝 (473) で出土した。

◎大窯後半の播鉢が3溝 (431・432) で、丸皿 (447～449) ・内禿皿 (450) が4溝で出土した。

●登窯初期の志野菊皿が4溝 (451) で出土した。

16次

○古瀬戸後期の香炉が遺構外 (521) で出土した。

●登窯初期の菊皿が遺構外 (520) で出土した。

23次

◎大窯前半の丸皿が遺構外 (546) で、徳利がT18壙 (538) で出土した。

◎大窯後半の鉄絵皿がT3井 (536) で、志野丸皿 (543・544) ・志野向付 (548) ・黄瀬戸向付 (549) が遺構外で出土した。

●登窯初期の黄瀬戸大皿がT2溝 (533) で、青織部皿がT9壙 (539) で、志野丸皿が遺構外 (542～545) で出土した。

〈肥前系陶器〉 碗が7区 (94)、8区 (288) で、向付が7区 (95)、8区 (291) で、壺 (289) ・大皿 (290) が8区で、刷毛目文鉢が12区4溝 (454) ・5壙 (479) ・遺構外 (497) で出土した。

〈志戸呂〉 播鉢が7区1溝 (11) ・遺構外 (96)、8区 (294)、11区5溝 (382)、12区3溝 (433) ・4溝 (455) ・2井 (477) で、徳利 (97) ・壺 (98) が7区で、内禿皿 (292) ・丸皿 (293) ・向付 (295・296) が8区で、大皿が11区1壙 (384)、23次T

2溝 (534) で、小壺が12区 (498) で、灯明皿が16次 (523) で、丸碗が23次 (552) で出土した。

〈初山〉 丸皿が8区 (297) で、天目茶碗が23次 (553) で出土した。

〈備前〉 茶入が23次 (554) で出土した。

〈丹波信楽〉 丹波の播鉢が8区 (298) で、信楽の灯明皿が7区 (99)、8区 (299) で出土した。

〈ほか〉 堺の播鉢が8区 (300) で、東濃の小皿が8区 (301) で出土した。

〈肥前系磁器〉 天目茶碗が11区1溝 (378) で、青磁碗が8区 (302) で、染付碗が7区 (100～102)、8区5井 (177) ・遺構外 (303～315)、11区1溝 (379) ・遺構外 (399～408)、12区3溝 (434～437) ・4溝 (456) ・8溝 (472) ・12溝 (475) ・5壙 (480～482)、16次19壙 (509) ・遺構外 (525・526) で、染付小碗が8区 (316) で、染付筒形碗が12区3溝 (438) で、色絵碗が8区 (317・318) ・11区 (409) で、青磁皿が16次 (527) で、染付皿が7区 (103)、8区 (319・320)、12区5壙 (483) で、染付蓋付鉢が11区 (410) で、染付蓋が12区3溝 (439) で、香炉が7区 (104)、11区1溝 (380) で、猪口が7区 (105・106) ・5壙 (484) で、仏飯器が8区 (321・322) で、小坏が7区 (107)、8区 (323) で、染付小坏が8区30壙 (191) で、白磁小坏が12区5壙 (485) で、青磁瓶が16次 (528) で、小瓶が16次 (529) で出土した。

○波佐見 青磁香炉が12区5壙 (486) で、青磁中皿が12区 (500) で出土した。

〈瀬戸美濃系磁器〉 染付碗が11区 (411) で、染付箱形湯呑が11区 (412) で出土した。

〈在地産土器〉

○かわらけ ほぼ全ての調査区から出土した。

完形のもの7区1溝 (13) ・6井 (36) ・2壙 (45)、8区 (328) で出土した。

略完形のもの7区5井 (33)、8区 (329)、12区1壙 (478)、23次 (555) で出土した。

手づくねの可能性のあるものが8区2a溝 (132～134)、23次 (560) で出土した。

灯芯油痕が認められるものが7区7井 (38) ・2壙 (45)、8区 (327・329)、12区3溝 (440) で出

土した。

スス付着は8区(334・340・345)で出土した。

○ほうろく 各地区で破片が出土している。内耳が残るものはいずれも底面まで掛かるものではなく体部に収まるものである。

○香炉 8区(369～371)で出土した。

○火鉢 角形が8区8溝(164)・遺構外(374・375)、16次19壙(518)で、円形が8区10井(183)・遺構外(372・373)、16次3壙(507)、23次(563)で出土した。

○播鉢 7区1溝(18)・1壙(42)、8区(362～366)、16次19壙(517)で出土した。

○土鍋 7区1溝(16)・15溝(25・26)・遺構外(121)、8区6溝(149)・遺構外(361)、16次3壙(506)・19壙(516)で出土した。

○片口鉢 7区1溝(17)・15溝(24)・3井(27)・8井(39)・3壙(46)・遺構外(122～124)、8区6溝(148・150)・8溝(163)・遺構外(165・367・368)、11区(413)で出土した。

○壺 胎土に金雲母を含むものが8区(376)で出土した。

○瓦 11区(414～427)、12区3溝(443～445)、5壙(488～491)、23次(564)で出土した。

【その他】

土製円盤はかわらけ・陶片を加工したものが出土した。土鈴が12区4溝(586)で出土した。

《遺物一覧表中 かわらけの形式について》

※現在までの調査で騎西城跡で最も古い遺構は騎西城武家屋敷跡第10区1・4溝である。この溝からは瀬戸美濃大窯1の播鉢が1個体確認されているが、大窯1の特徴的な皿である端反皿は1点も確認されていない。こうした問題点もあるが、この遺構から出土したかわらけ(『騎西町史』考古資料編1p430の騎西城武家屋敷跡第10区1・4溝No40～71)をとりあえずは、騎西城I期のかわらけとする。年代的には15C中～16C前半としておく。

次に、同資料編1p457の騎西城跡第15区の10堀・25堀下層出土かわらけNo64・65・67・70・72～77・79・81～84がある。このうち64・72・82はI期の

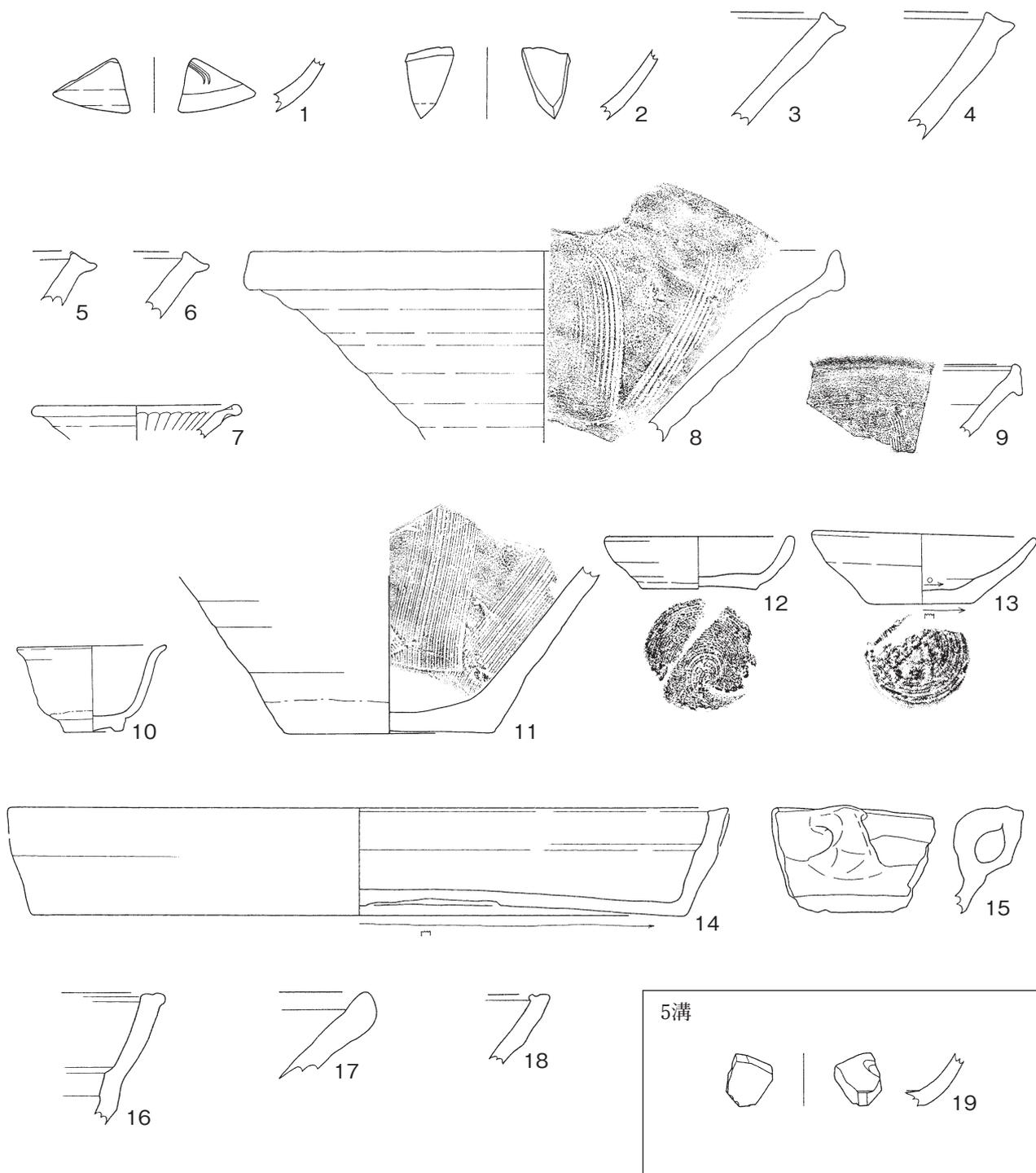
かわらけである。この10堀・25堀の上層では志野や唐津などの陶器が出土しているが、下層からは出土せず瀬戸美濃大窯3の削りこみ高台の鉄釉皿(同資料編1p452No29・30)と相伴している。また、騎西城跡第19区7堀の中位層から約20個体のかわらけがまとまった形で出土しており(同資料編1p474・475No29～47、写真222)、相伴遺物は口縁部を欠く大窯期の播鉢のみであるが、中位層以下からは志野や唐津は確認されていない。そのため、このかわらけ群をII期とし年代は16C中～末とする。

III期は騎西城第19区の炭化物層出土かわらけ(同資料編1p490No47～66)がある。この炭化物層は前述の第19区7堀の上層に厚さ約1mで確認され、ここからは瀬戸美濃の連房1や2の志野丸皿、連房1の総織部皿、肥前系陶器の唐津鉄絵皿などが相伴している。また、騎西城武家屋敷跡4区の1壙出土かわらけ(同資料編1p556No28～30、33～36、38～42)がある。この土壙からは瀬戸美濃連房2の志野丸皿・鉄絵皿、17C前半の志戸呂香炉が相伴している。そのため年代は17世紀前半とする。

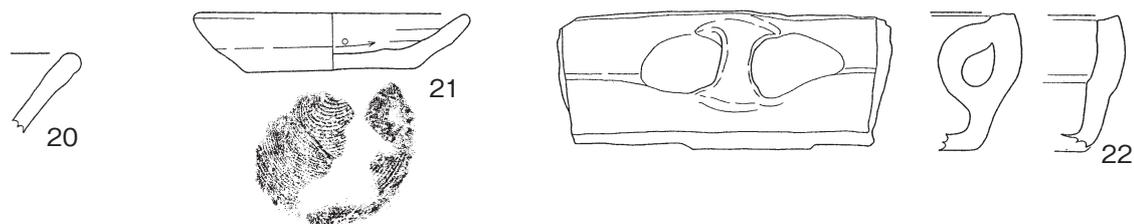
なお、IV・V期は騎西城廃城後であるが、今回報告のKB大英寺区1溝出土かわらけ(第29図7～25)がIV期で17C後半、V期は騎西城武家屋敷跡妙光寺1・2調査で肥前磁器の染付碗(くらわんか碗)と相伴する18C代のかわらけである。

(※印については 島村範久2011『騎西城武家屋敷跡 KB大英寺・1・2区調査—中近世編—』加須市埋蔵文化財調査報告書第2集 第IV章出土した遺物 第1節土器類54・94pより転載した)

1溝



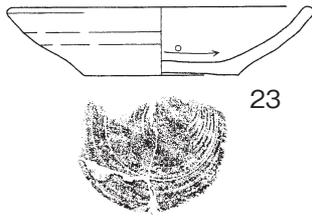
6溝



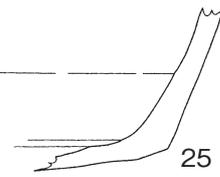
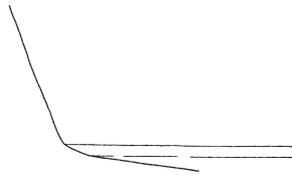
0 1/3 10cm

第36図 土器類1 (KB7区1)

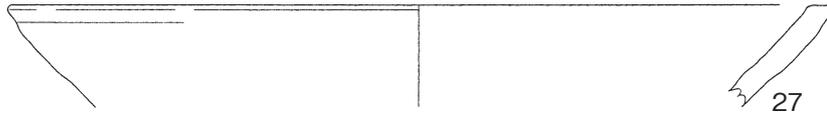
11・12溝



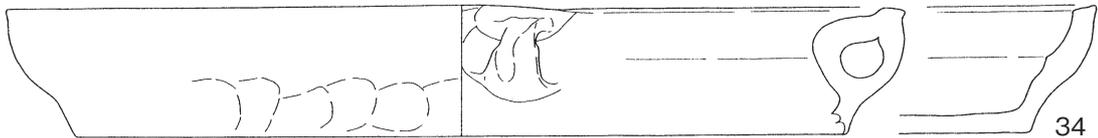
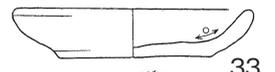
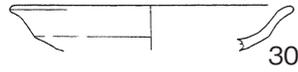
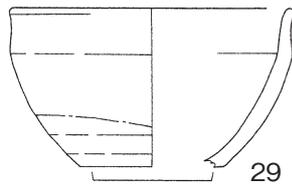
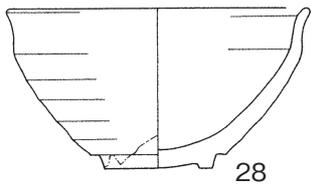
15溝



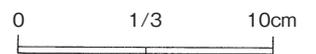
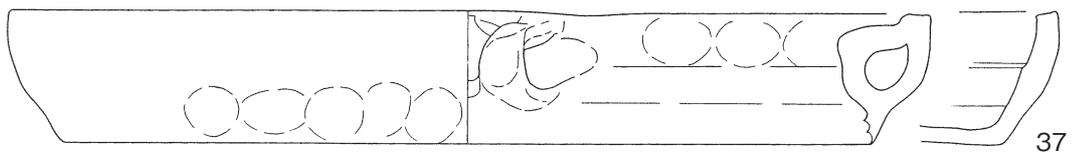
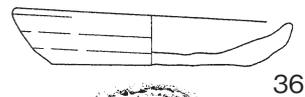
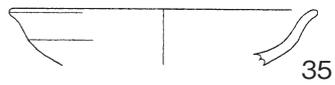
3井



5井



6井



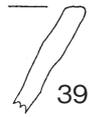
第37図 土器類2 (KB7区2)

7井



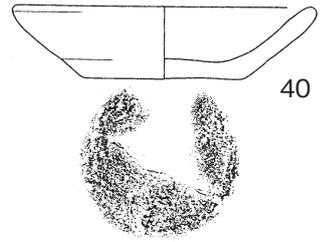
38

8井



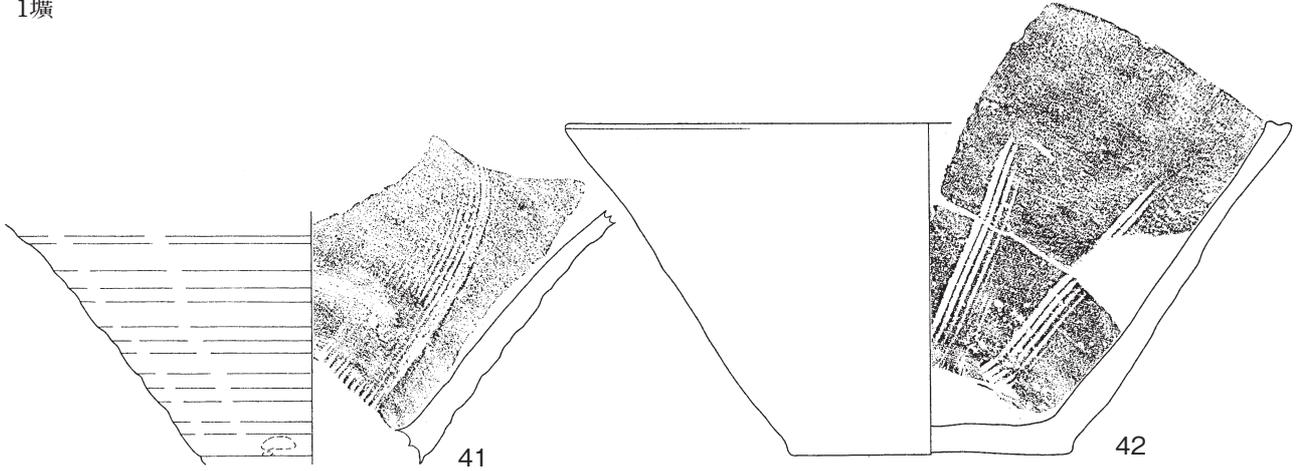
39

9井

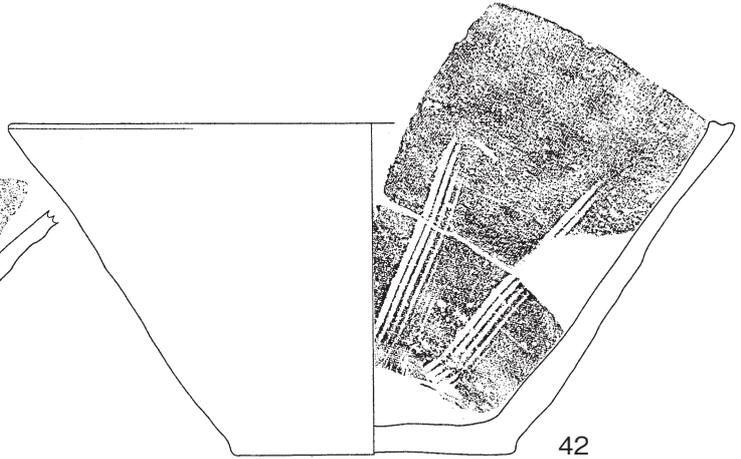


40

1壙

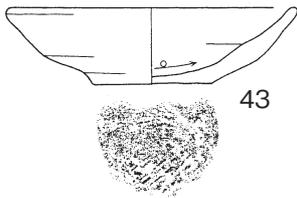


41

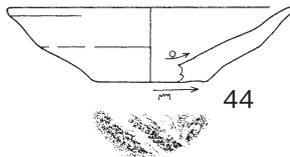


42

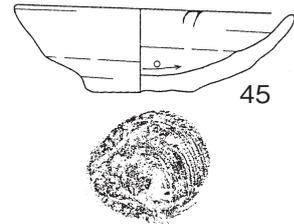
2壙



43

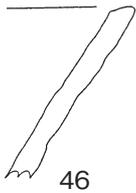


44



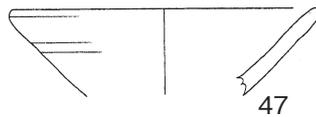
45

3壙

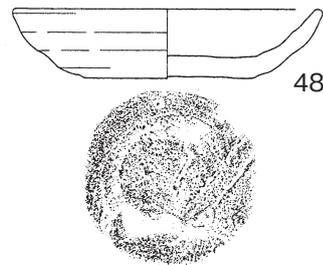


46

8壙

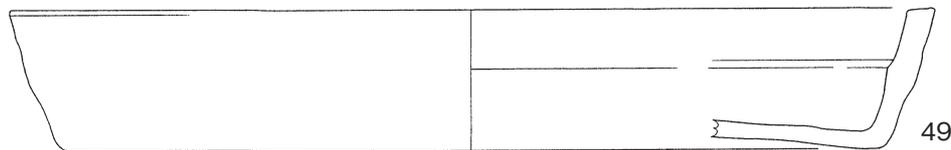


47

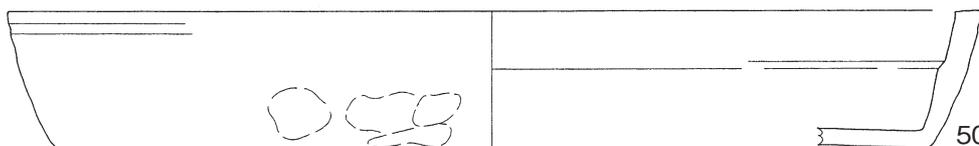


48

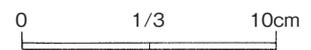
10壙



49

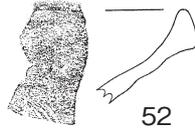
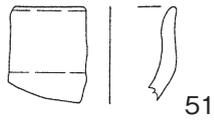


50

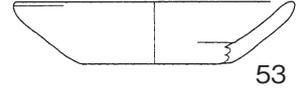


第38図 土器類3 (KB7区3)

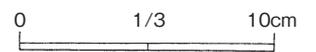
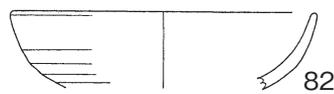
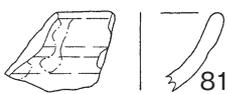
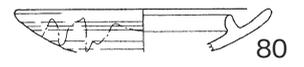
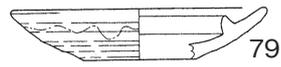
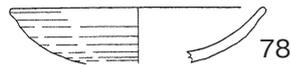
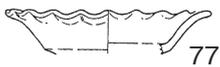
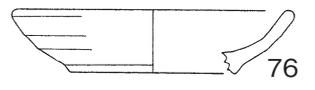
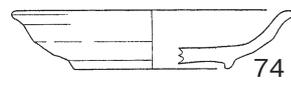
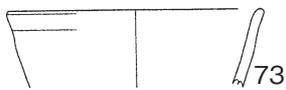
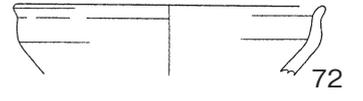
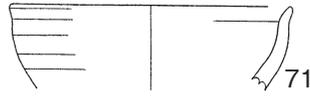
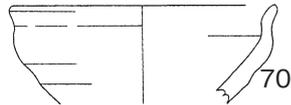
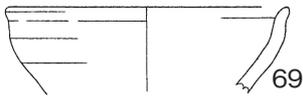
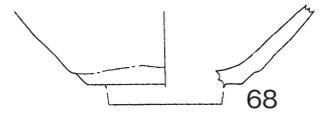
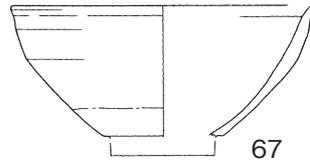
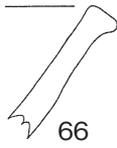
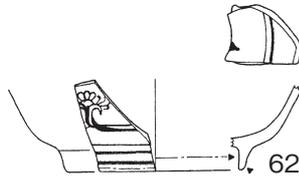
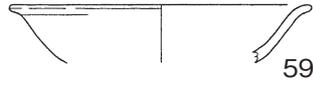
17墳



50P

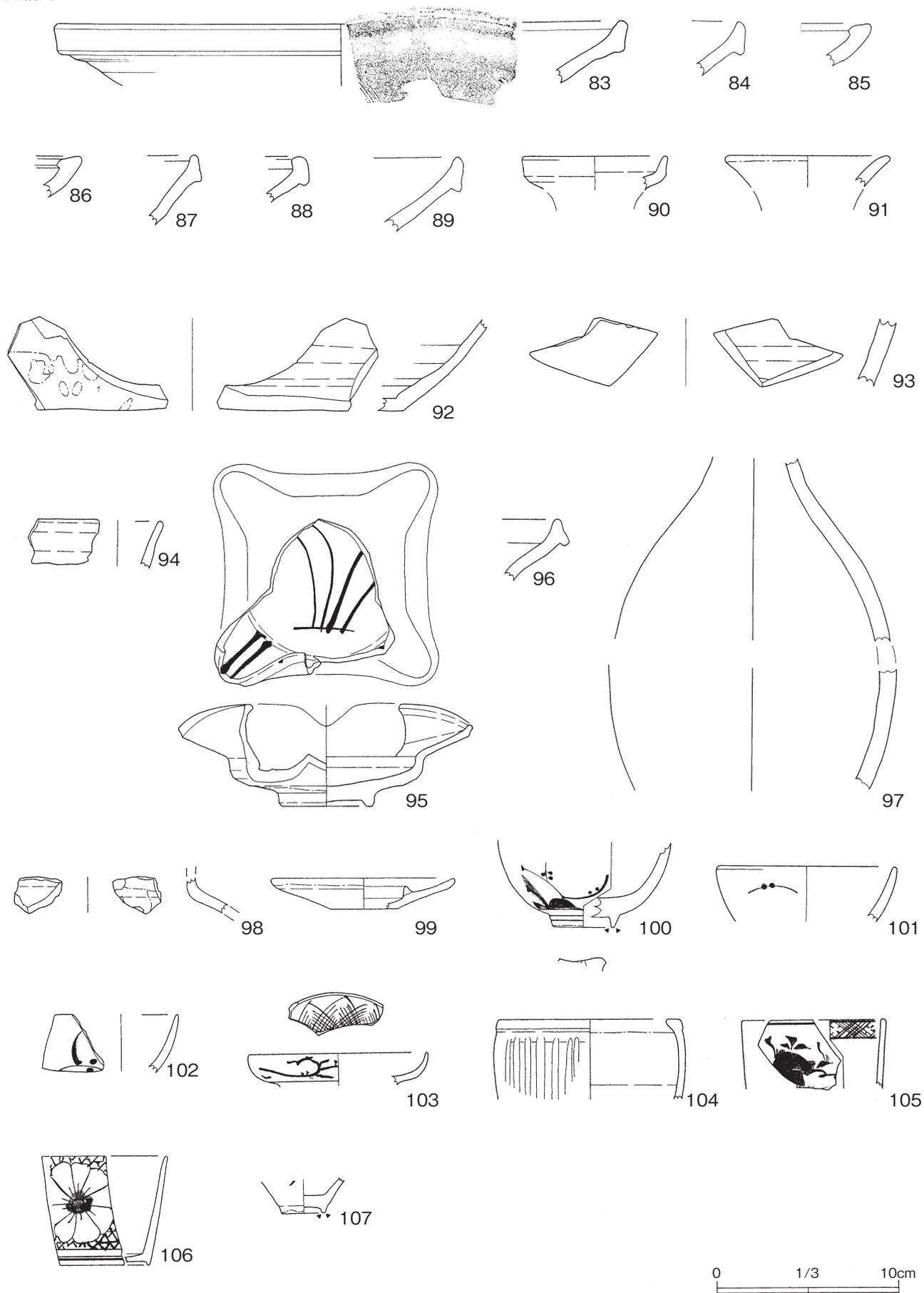


遺構外



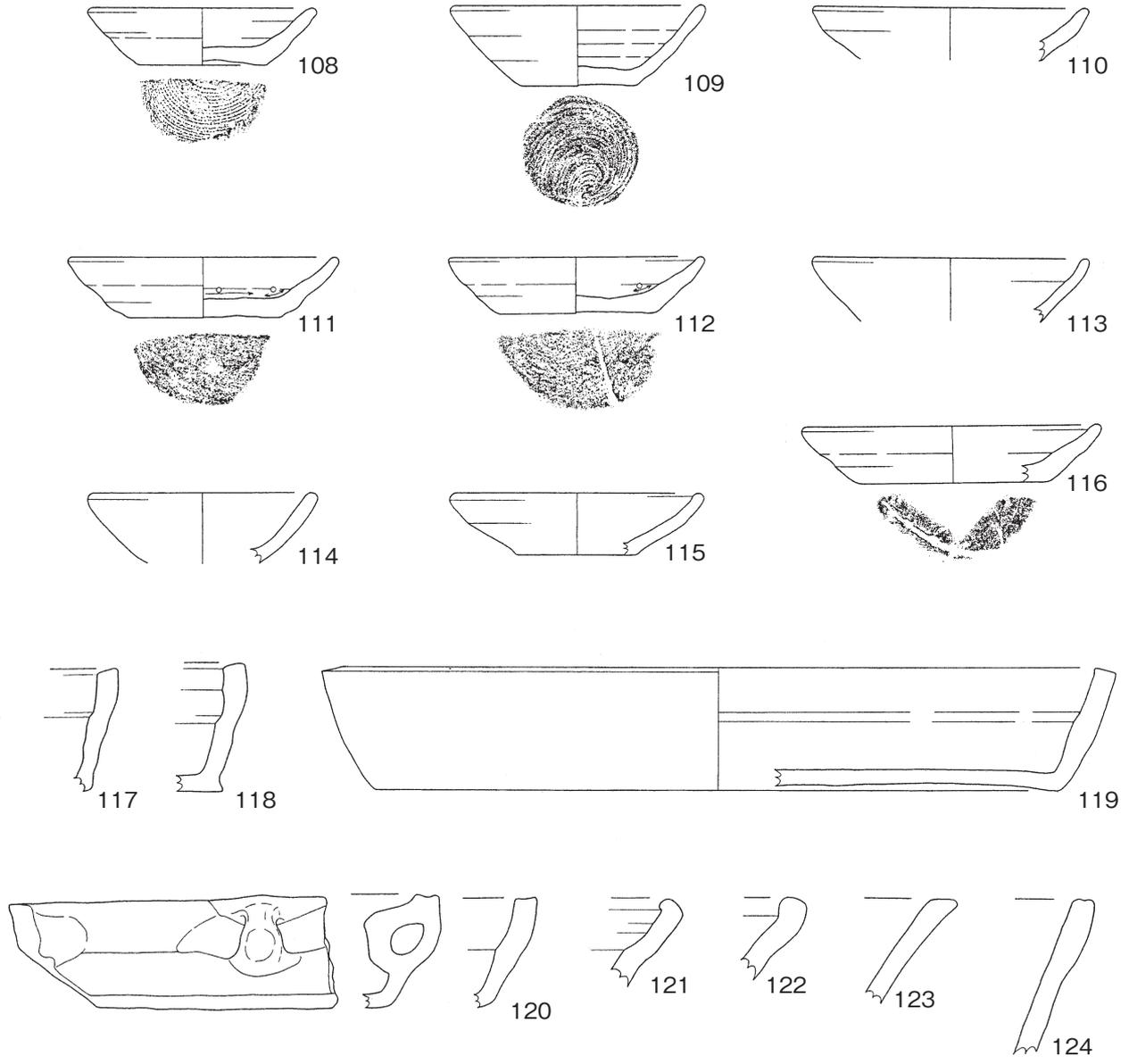
第39図 土器類4 (KB7区4)

遺構外



第40図 土器類5 (KB7区5)

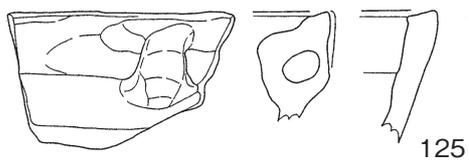
遺構外



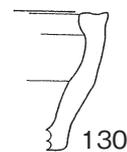
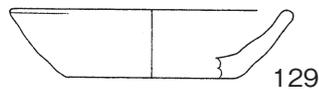
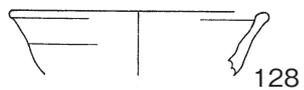
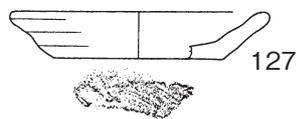
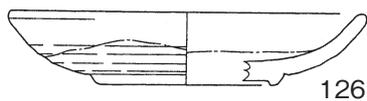
第41図 土器類6 (KB7区6)

0 1/3 10cm

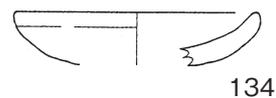
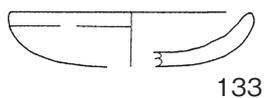
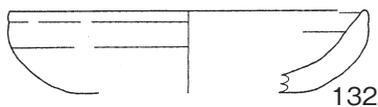
1溝



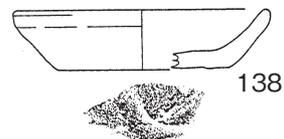
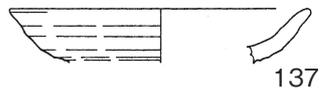
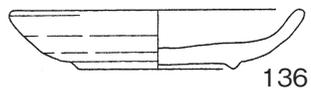
2 a 溝



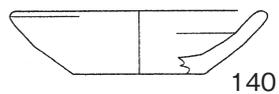
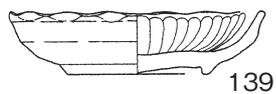
2 b 溝



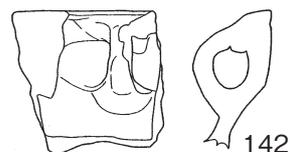
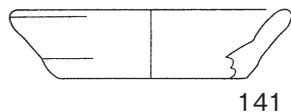
2溝



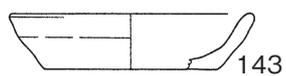
3溝・11墳



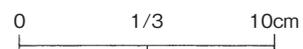
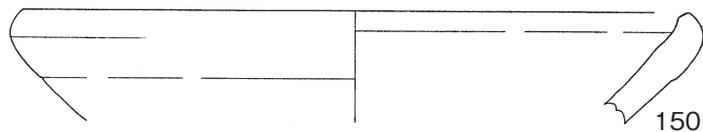
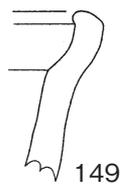
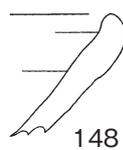
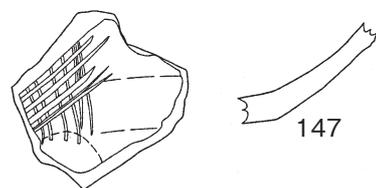
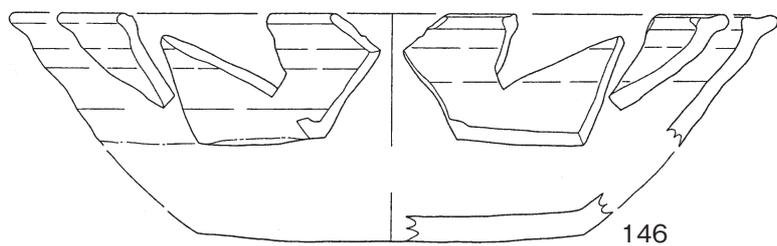
3溝



4溝

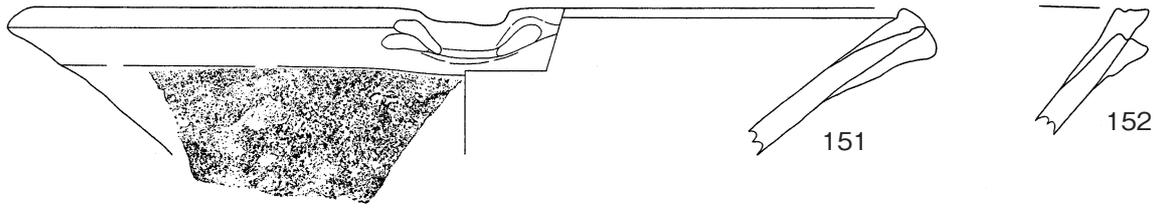


6溝

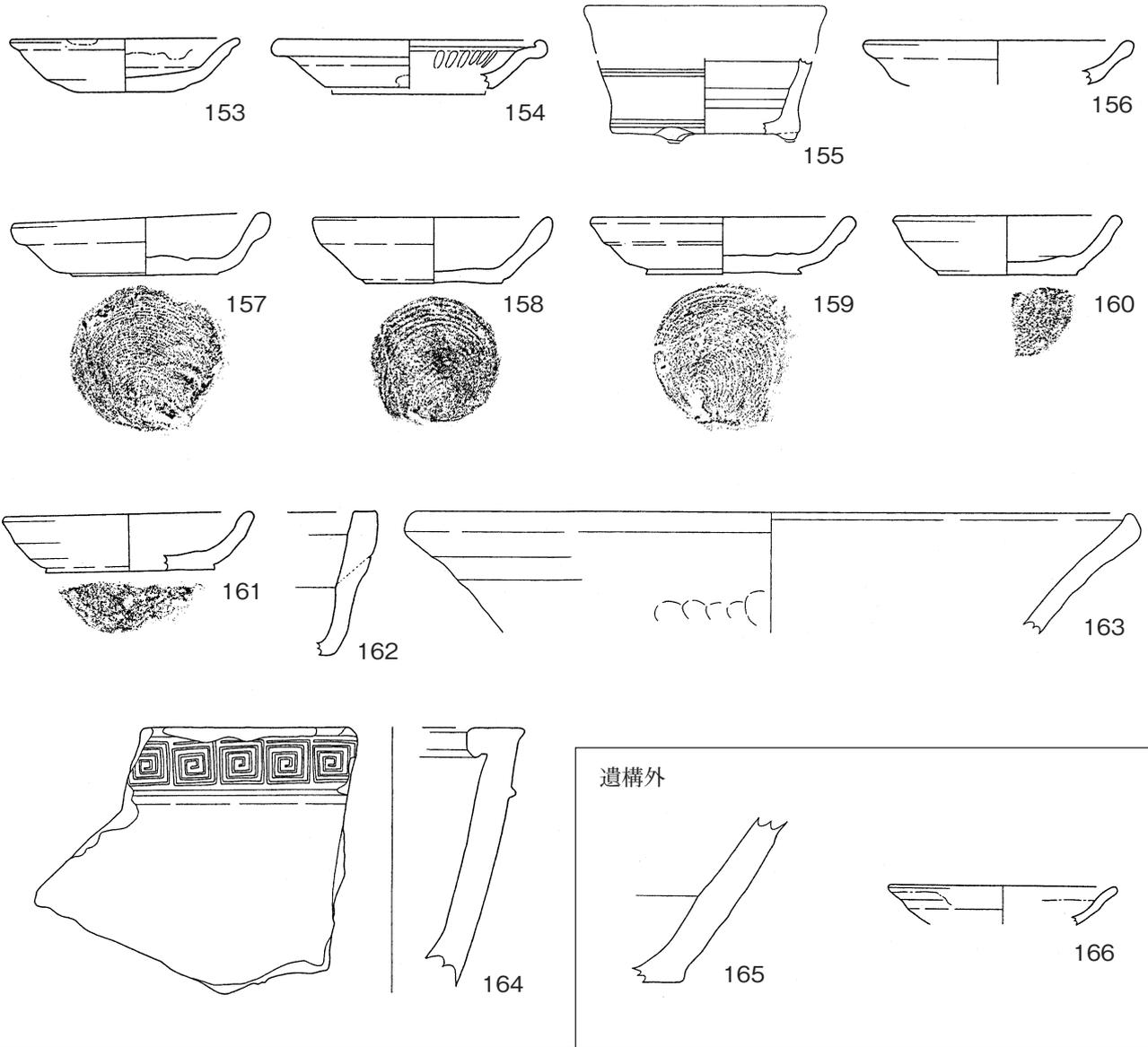


第42図 土器類7 (KB8区1)

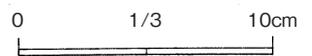
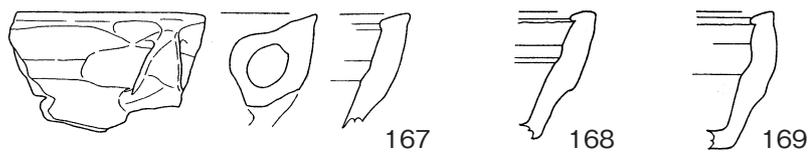
7溝



8溝

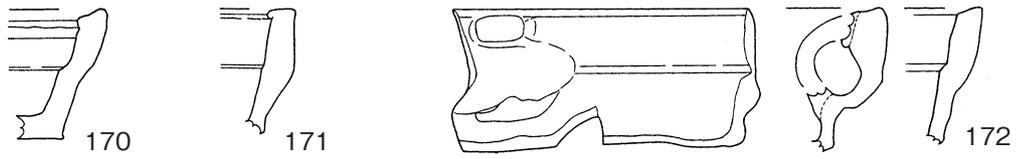


1井



第43図 土器類8 (KB8区2)

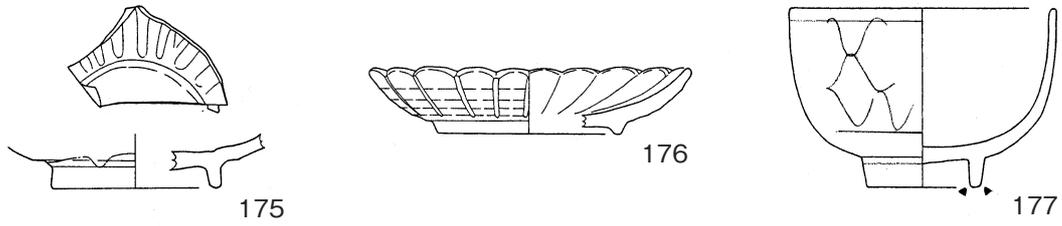
3井



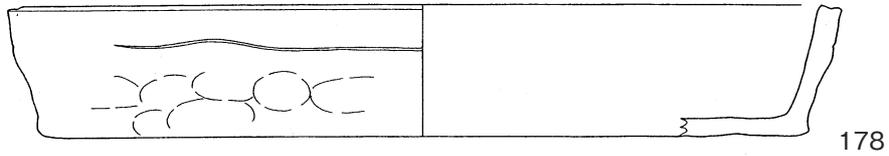
4井



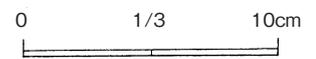
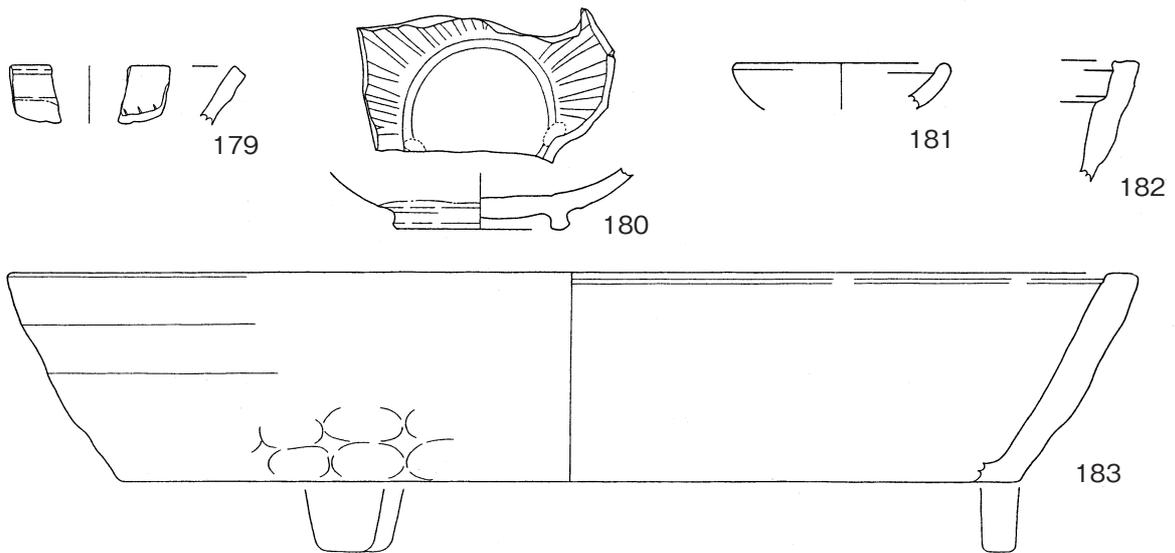
5井



6井



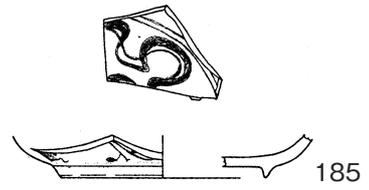
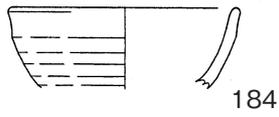
10井



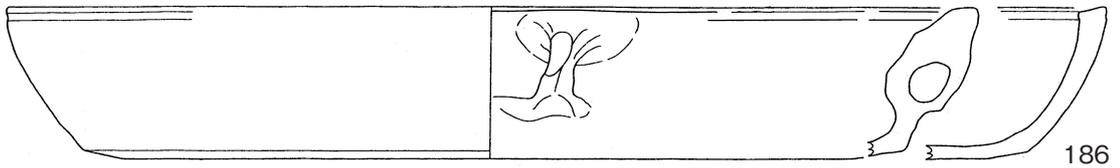
第44図 土器類9 (KB8区3)

遺構外

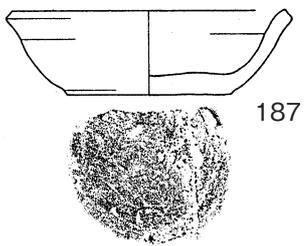
10墳



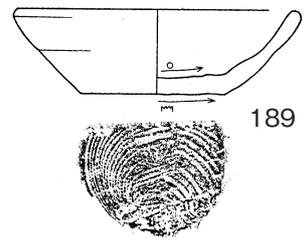
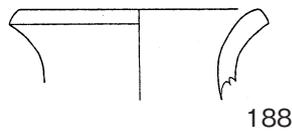
14墳



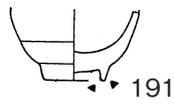
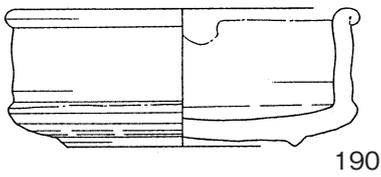
15墳



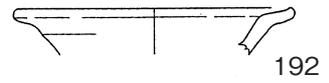
16墳



30墳



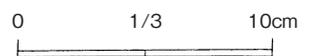
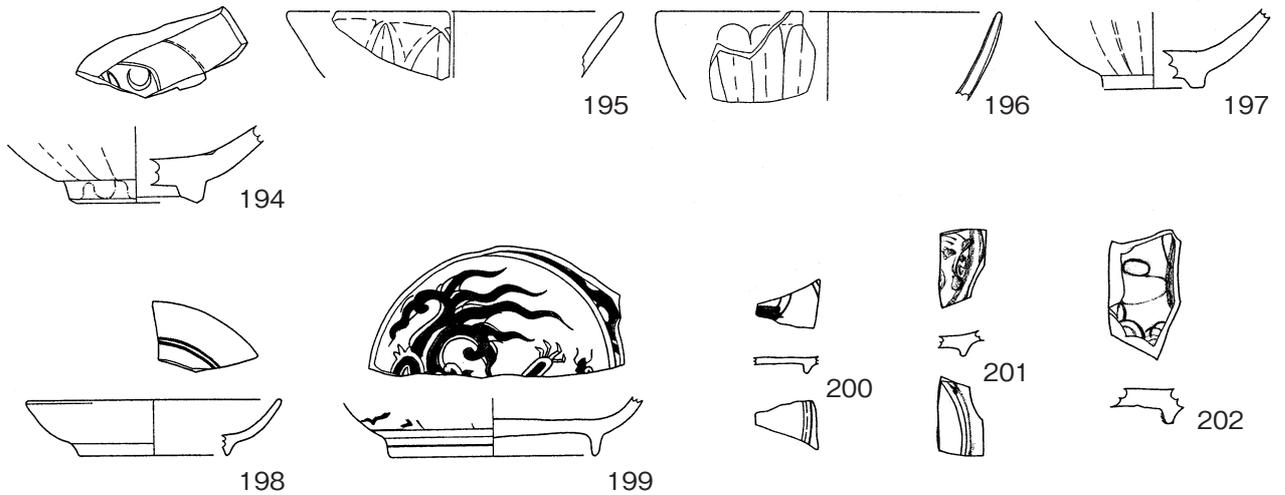
31墳



5P

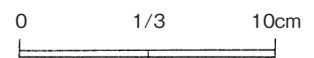
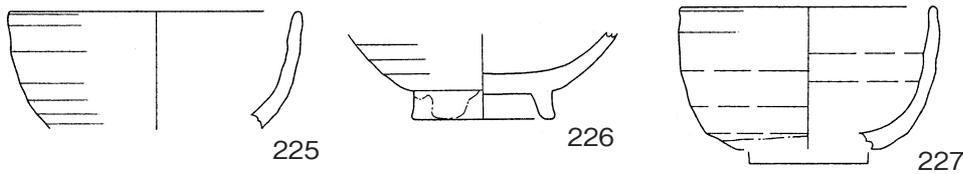
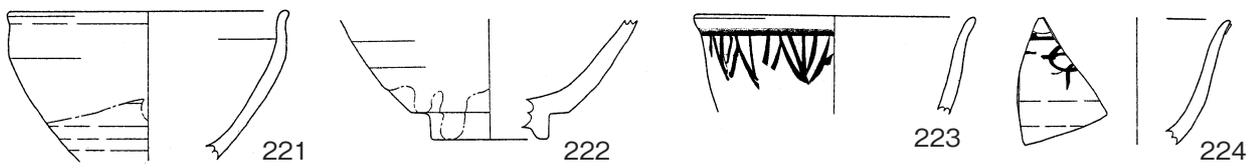
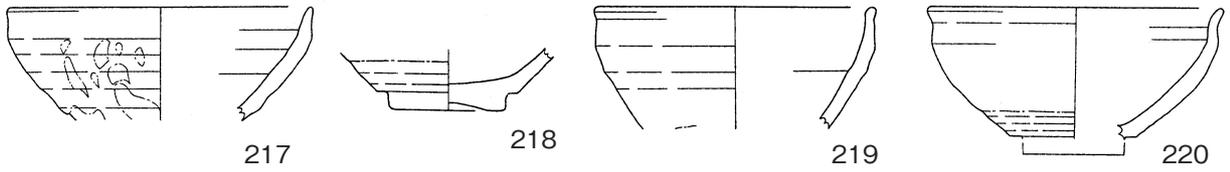
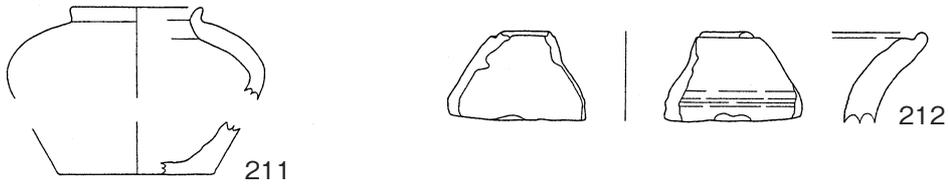
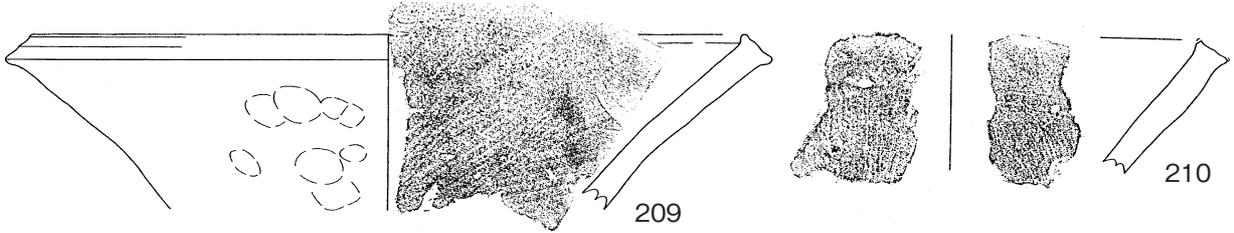
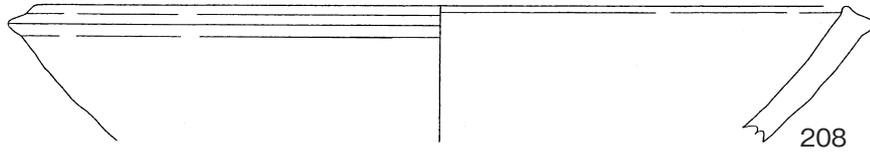
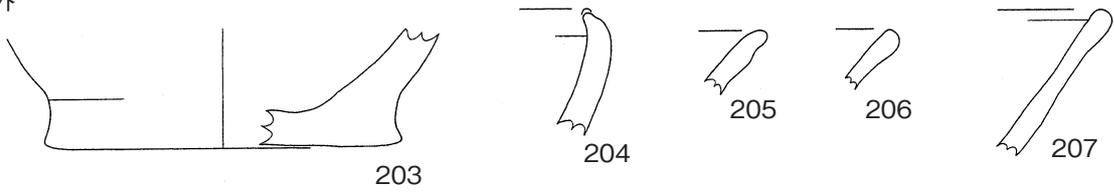


遺構外



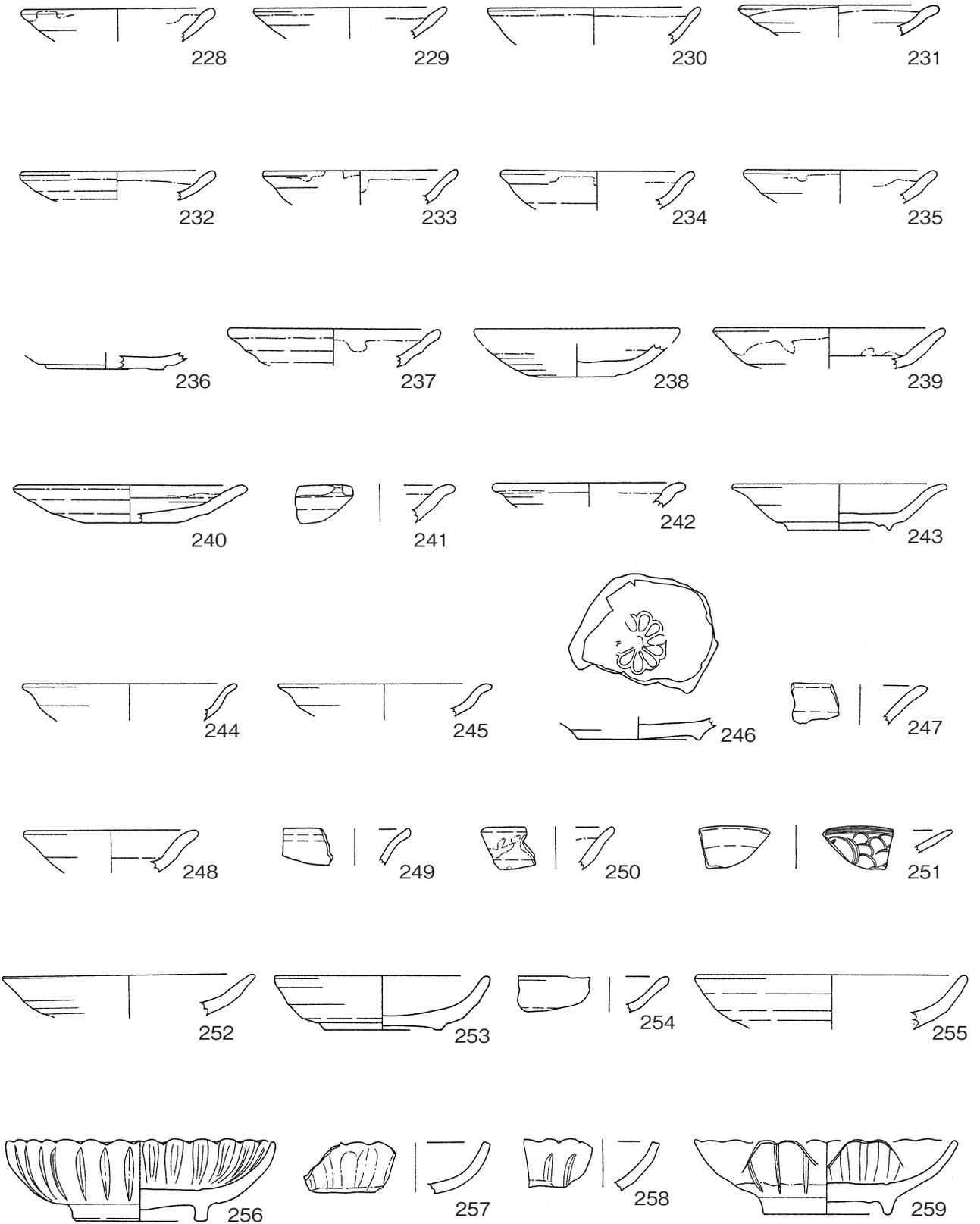
第45図 土器類10 (KB8区4)

遺構外



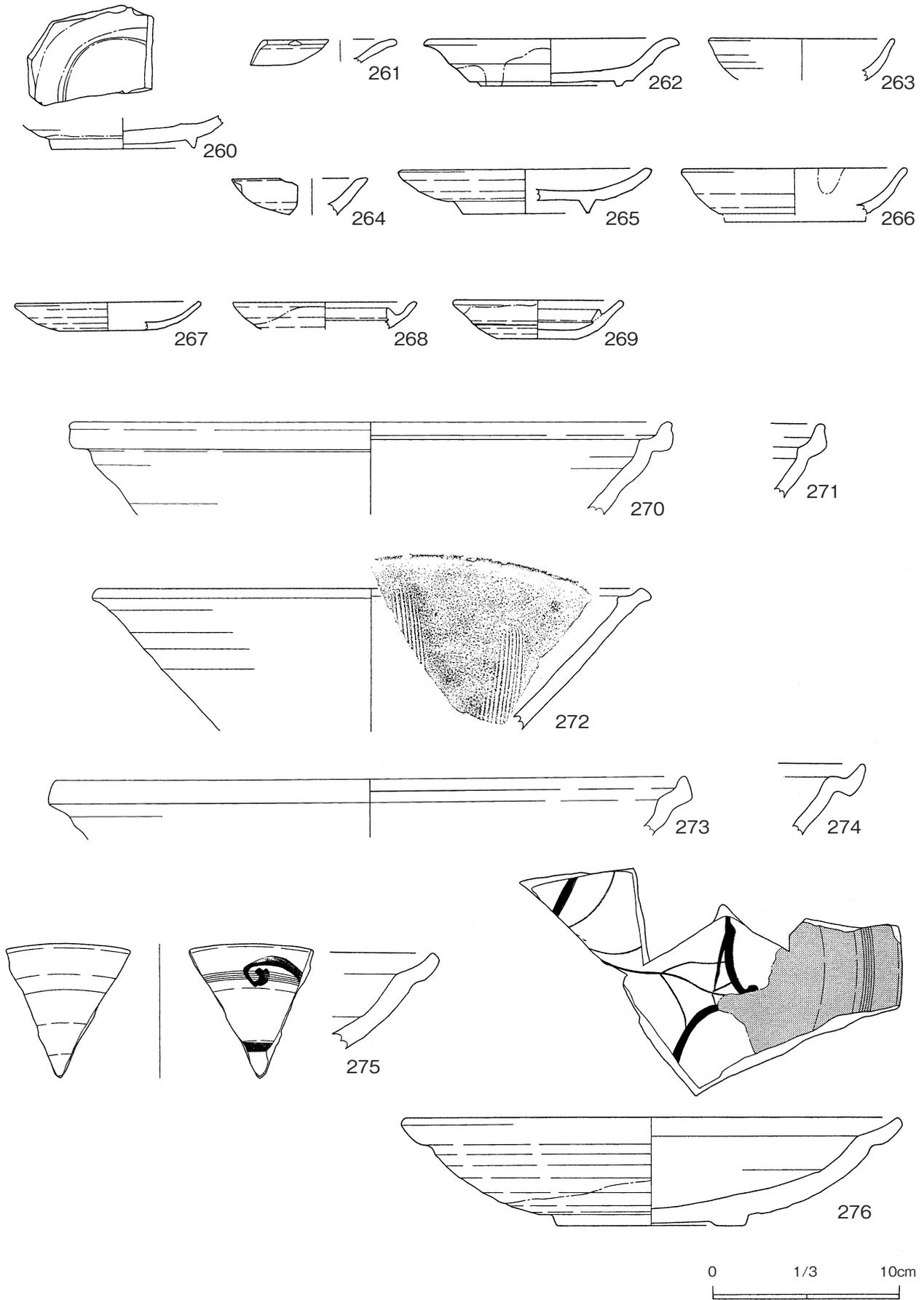
第46図 土器類11 (KB8区5)

遺構外



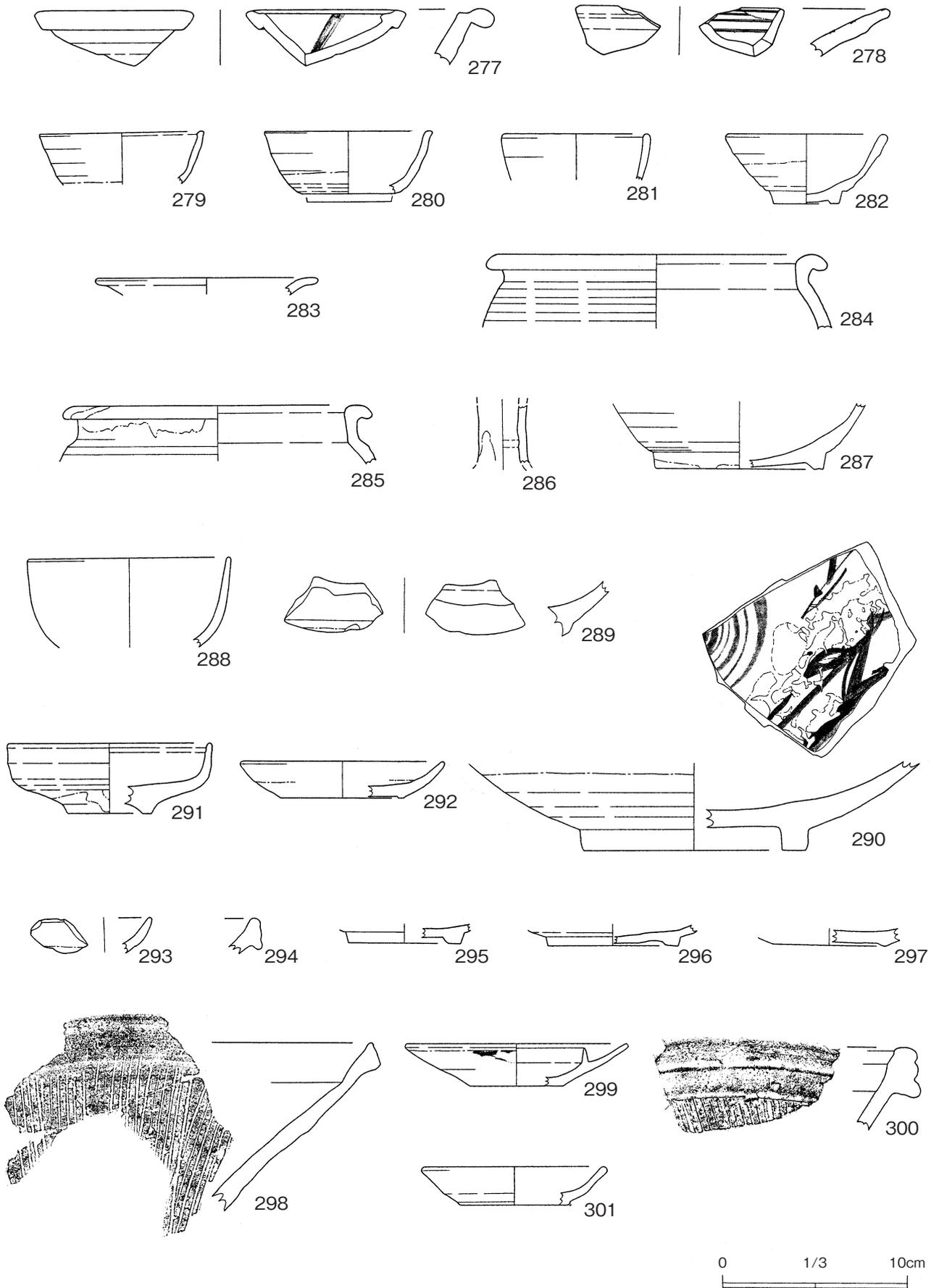
第47図 土器類12 (KB8区6)

遺構外



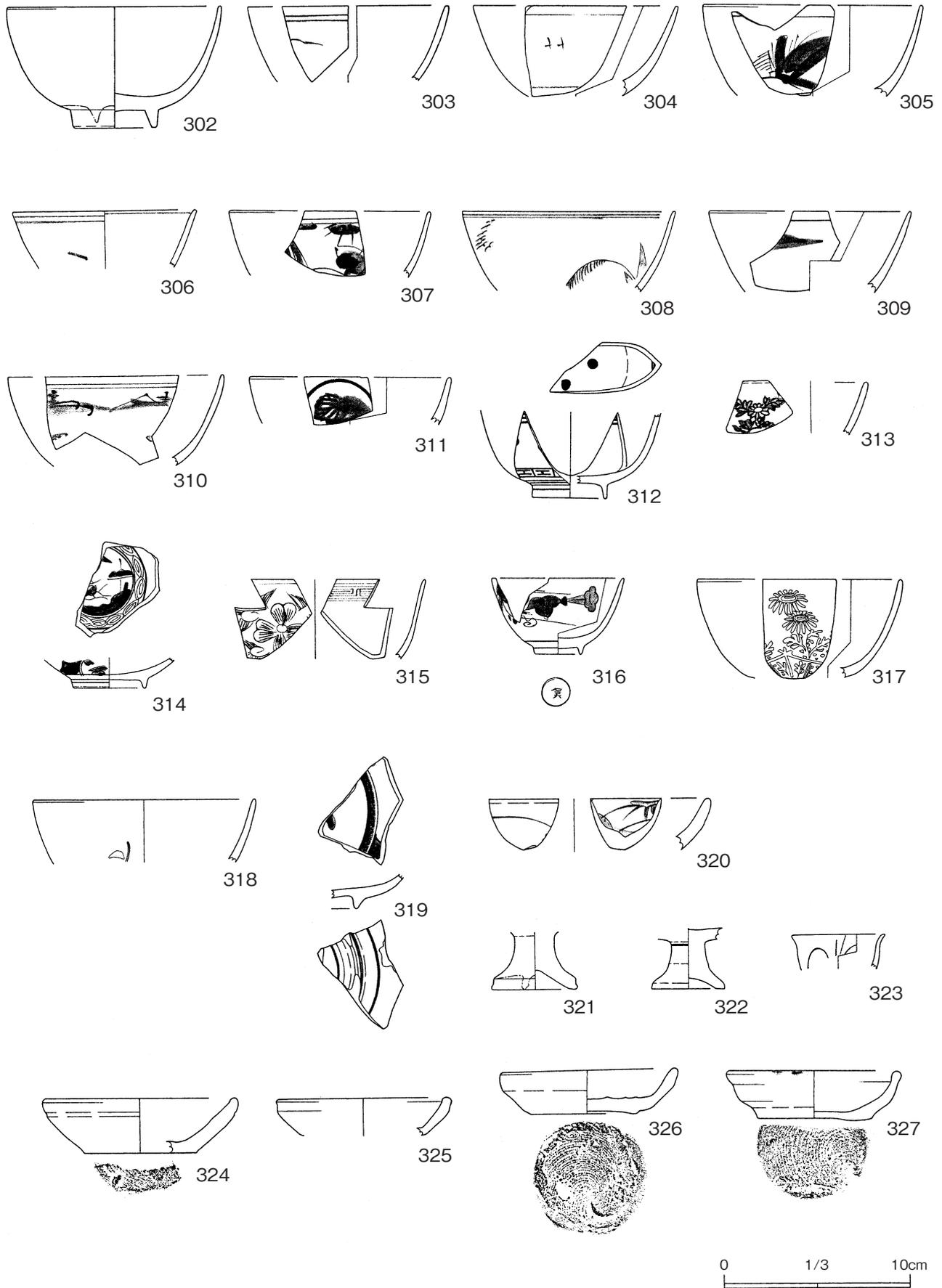
第48図 土器類13 (KB8区7)

遺構外



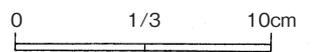
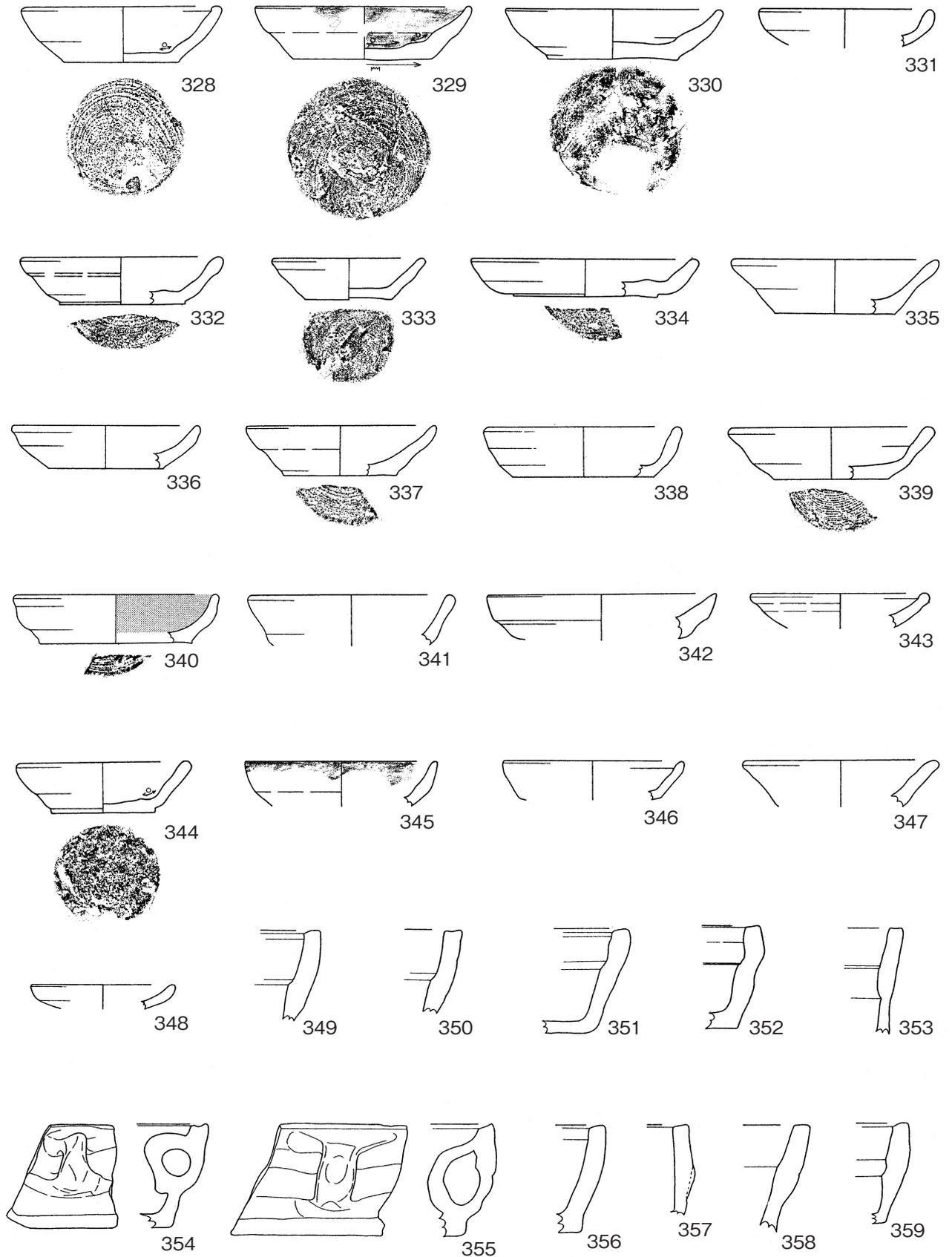
第49図 土器類14 (KB8区8)

遺構外



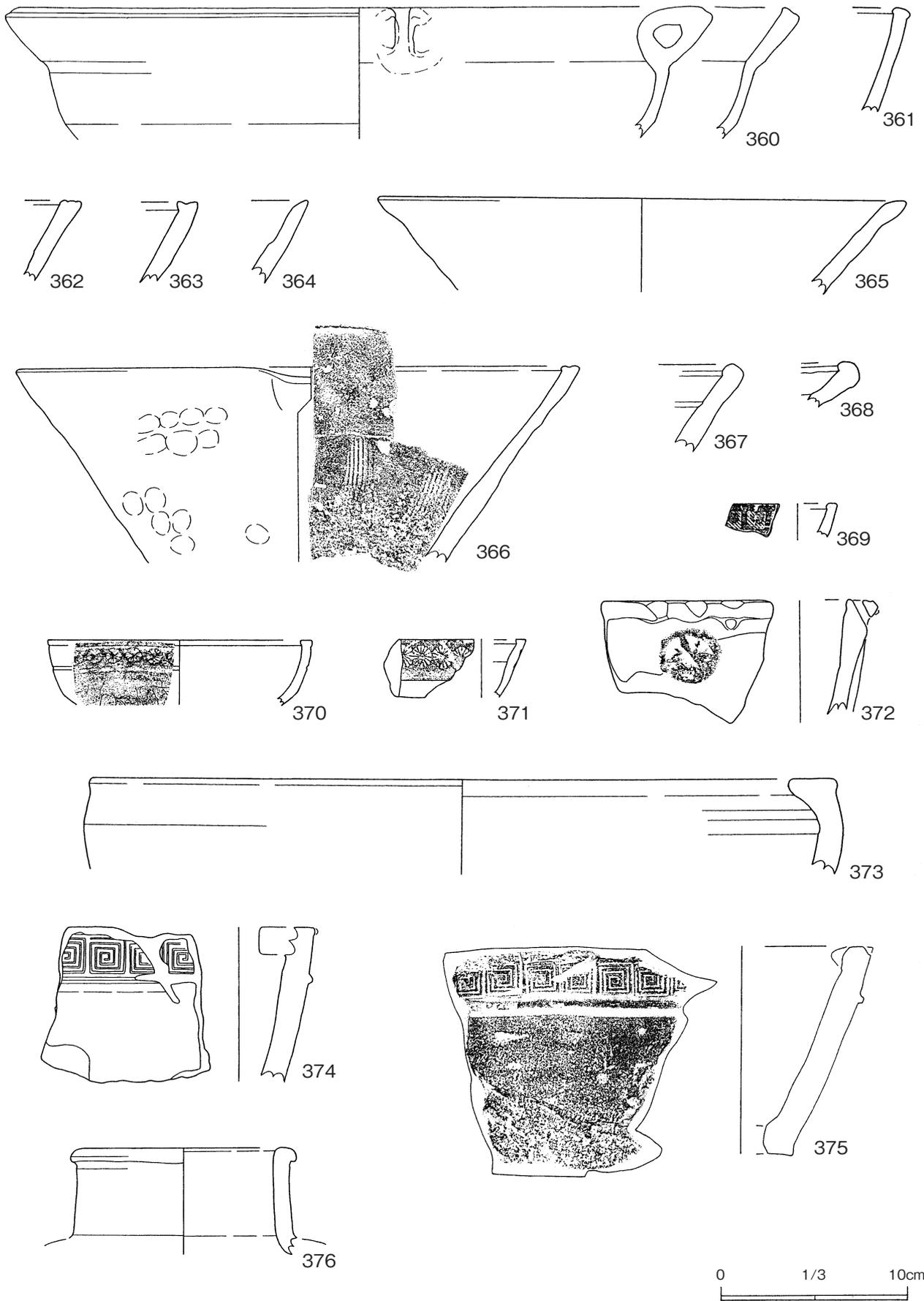
第50図 土器類15 (KB8区9)

遺構外



第51図 土器類16 (KB 8区10)

遺構外



第52図 土器類17 (KB 8区11)



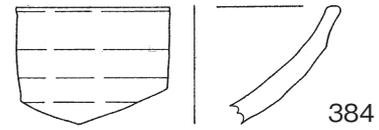
5溝



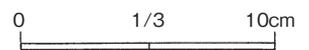
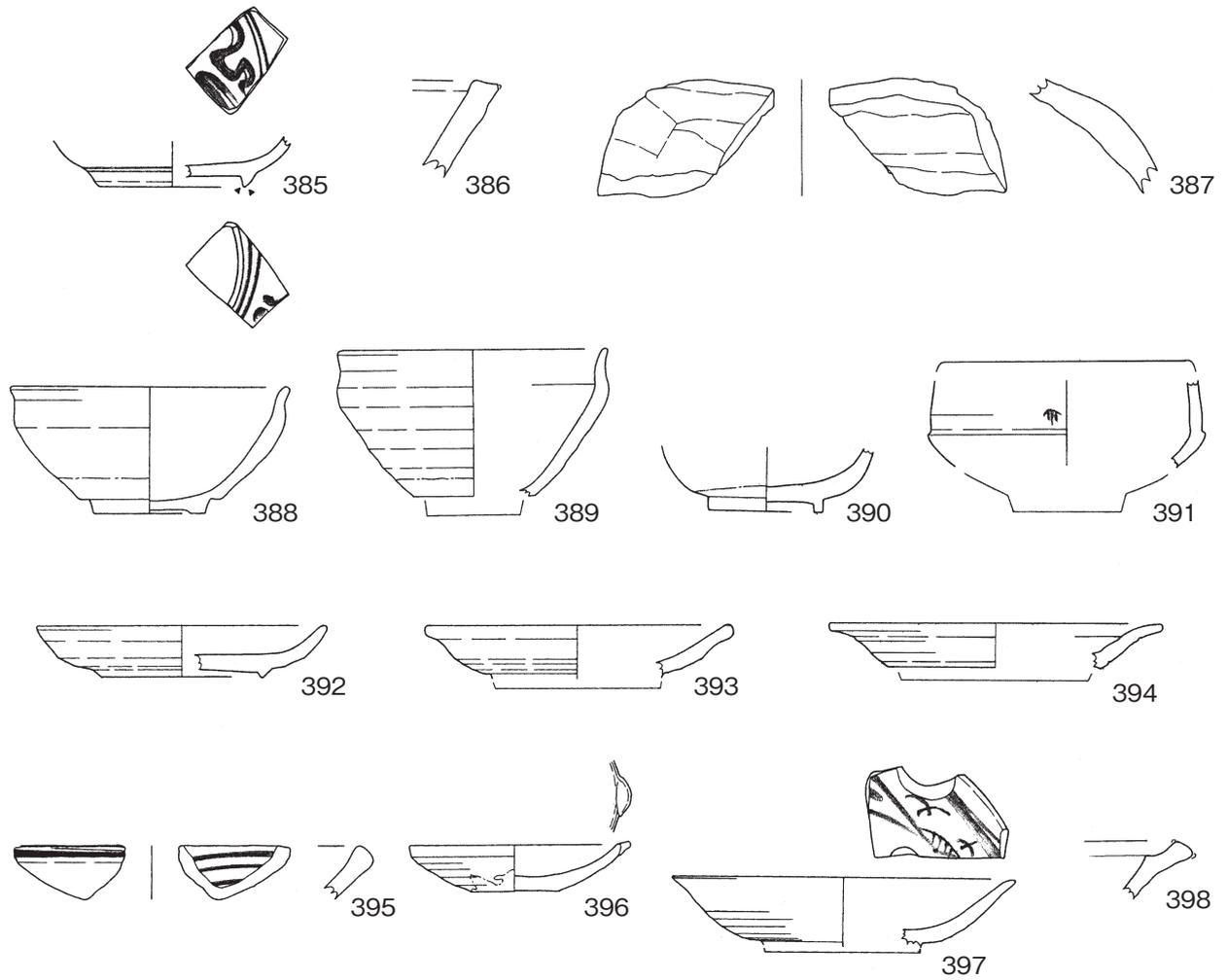
7溝



1墳

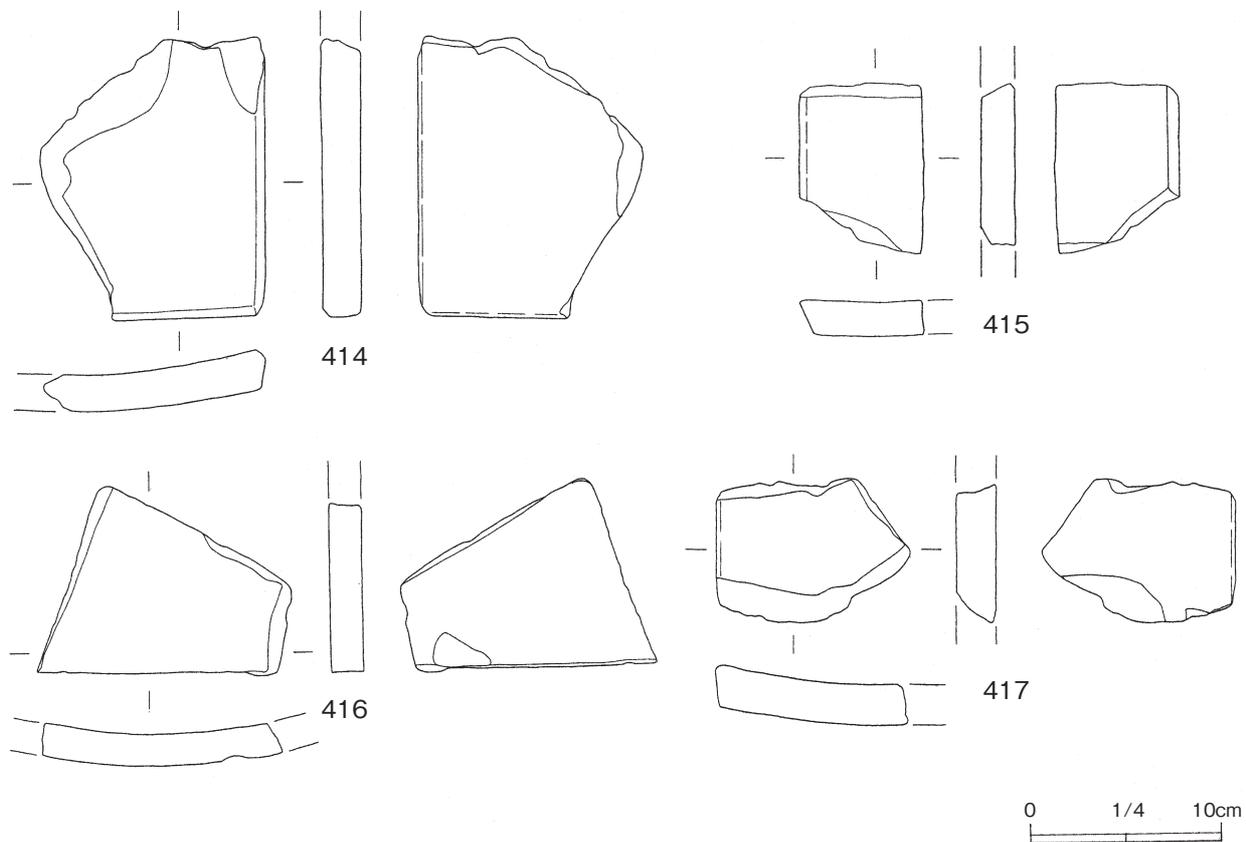
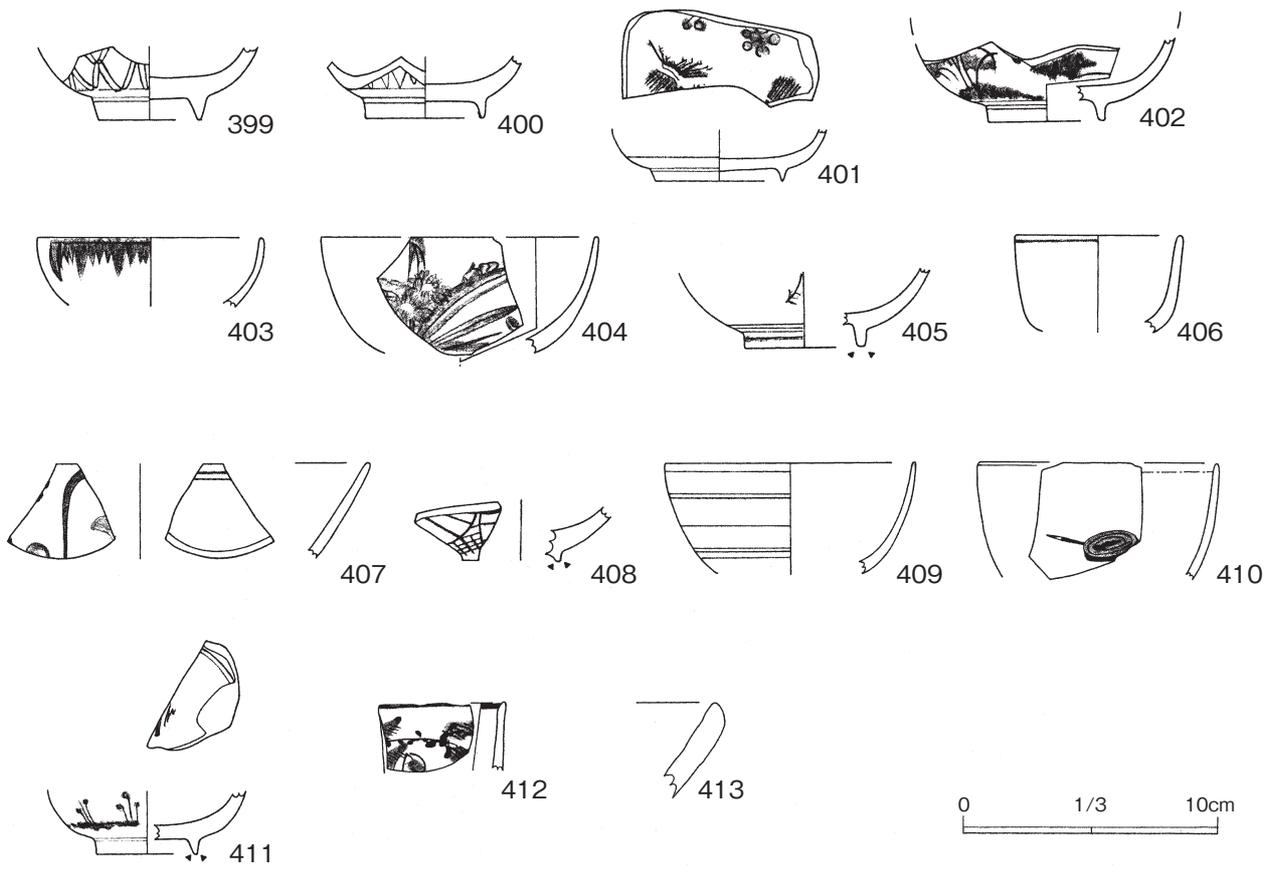


遺構外

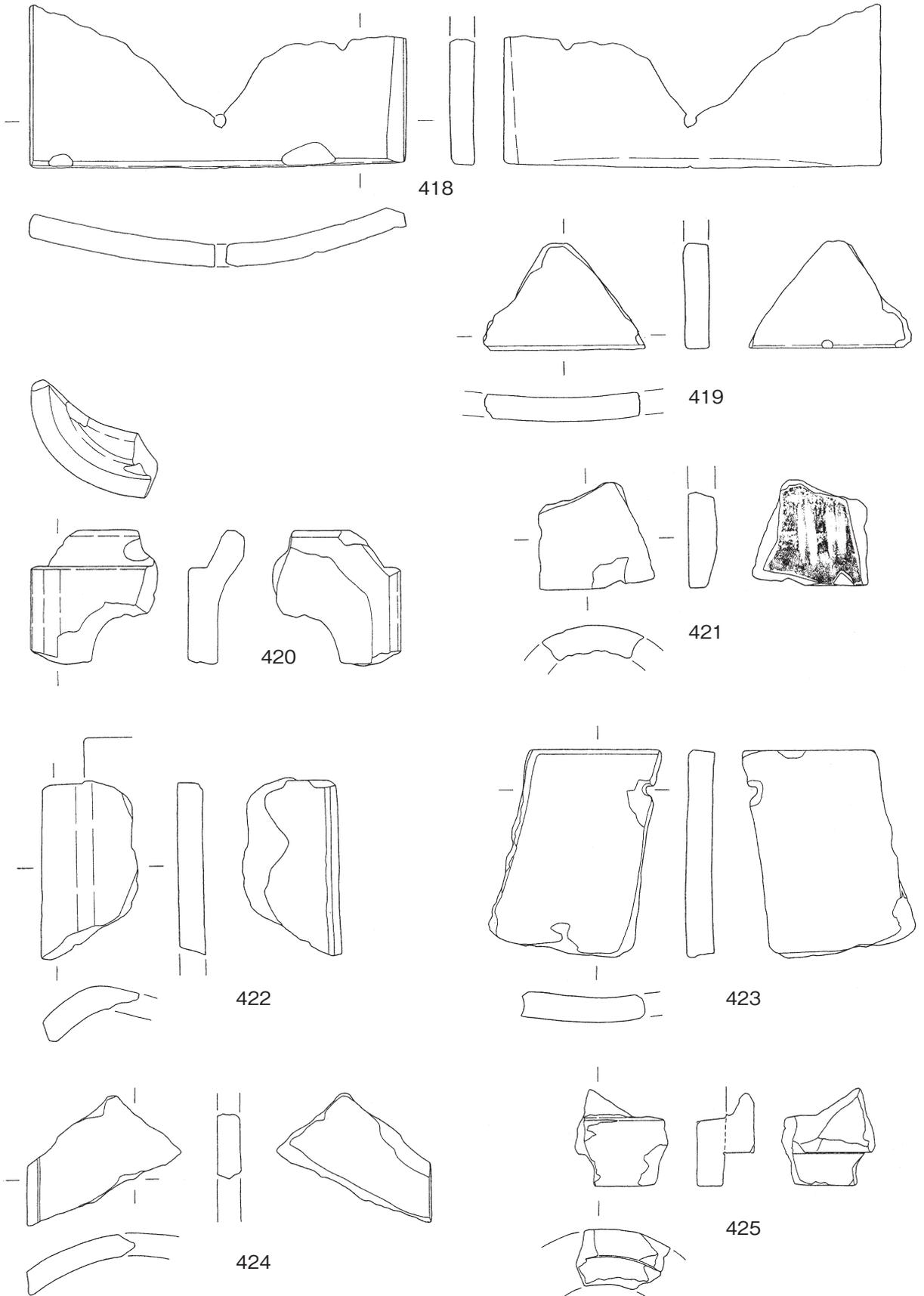


第53図 土器類18 (KB11区1)

遺構外



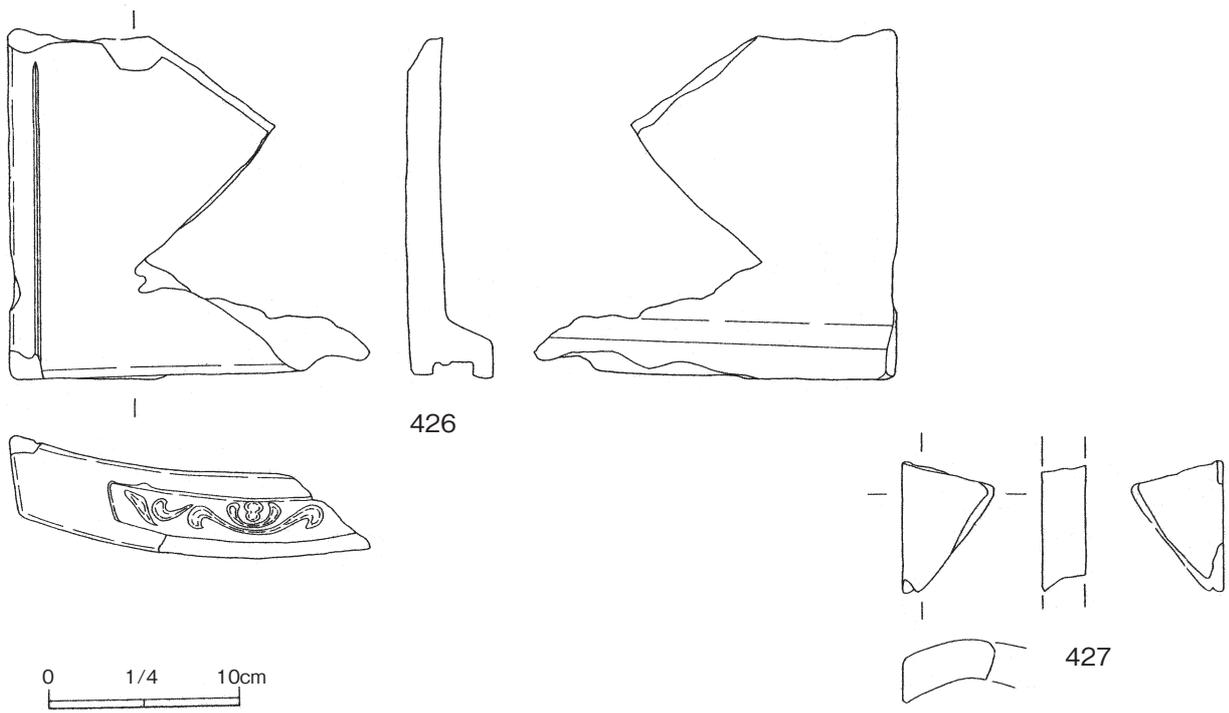
第54図 土器類19 (KB11区2)



0 1/4 10cm

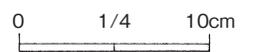
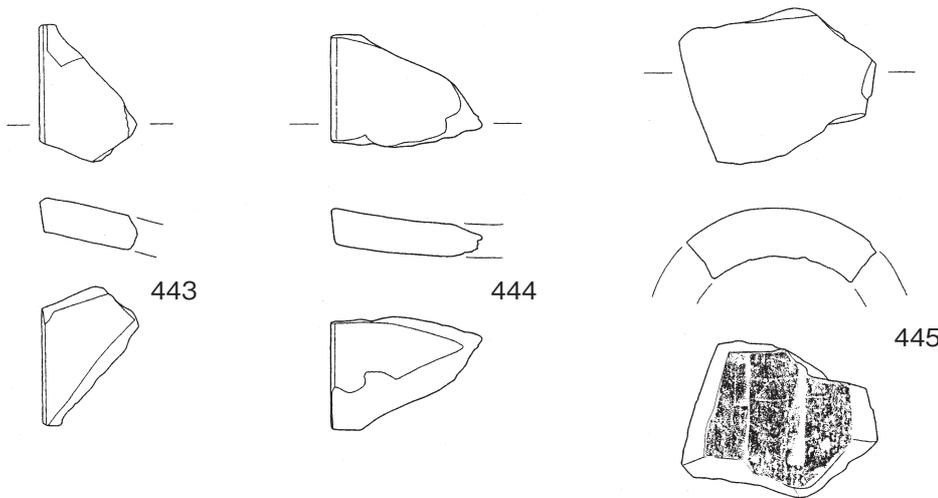
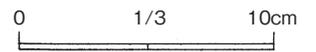
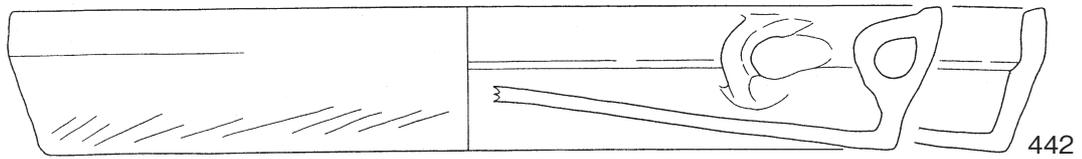
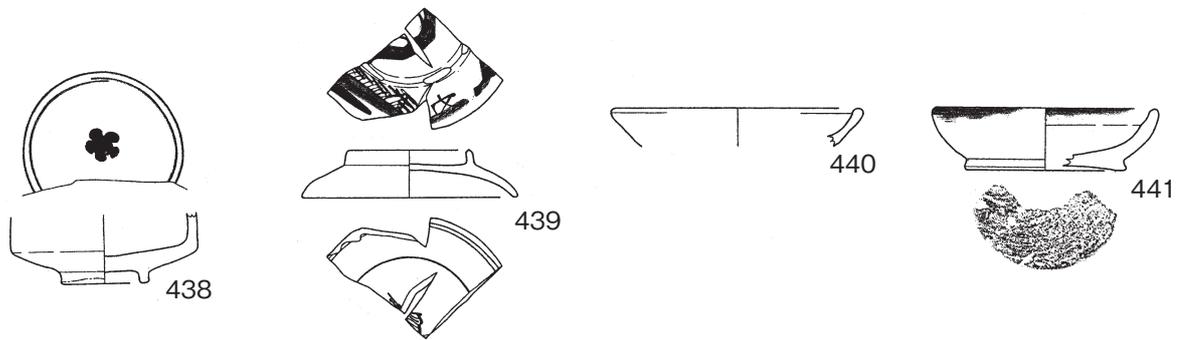
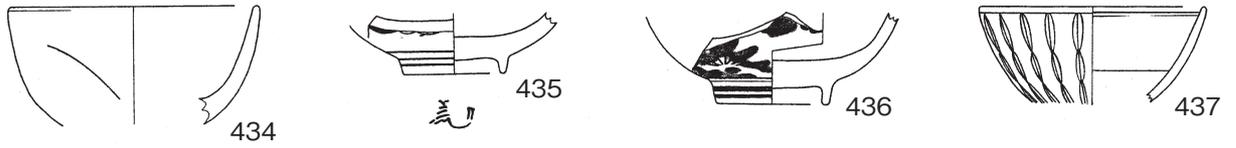
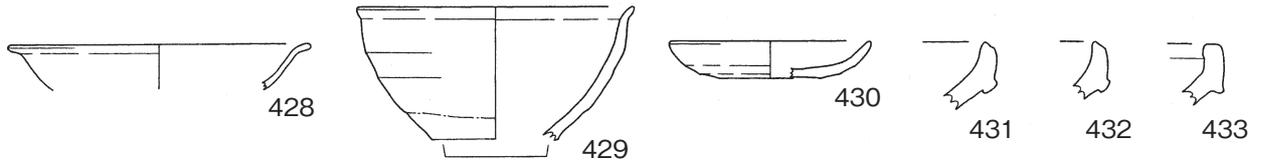
第55図 土器類20 (KB11区3)

遺構外



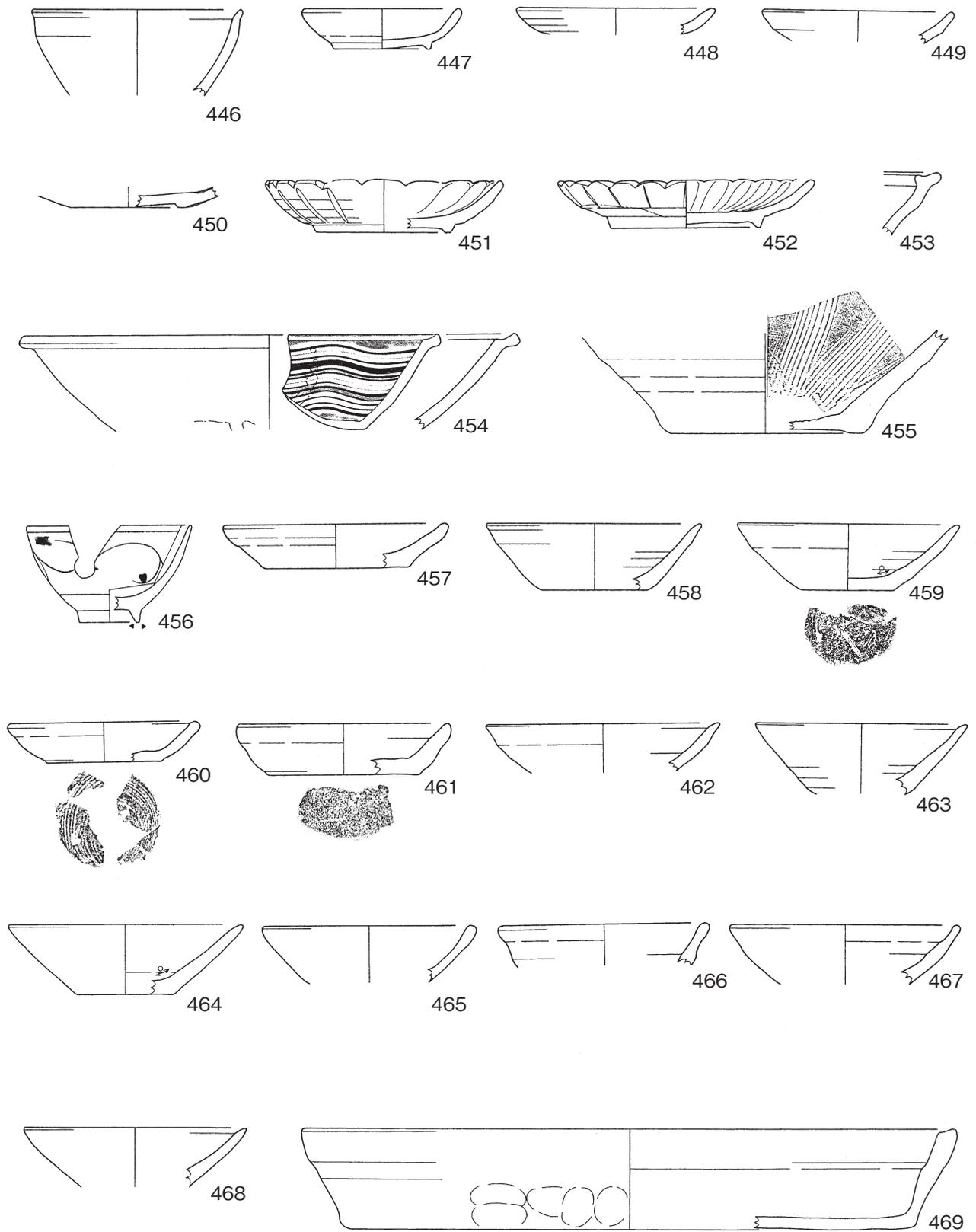
第56図 土器類21 (KB11区4)

3溝



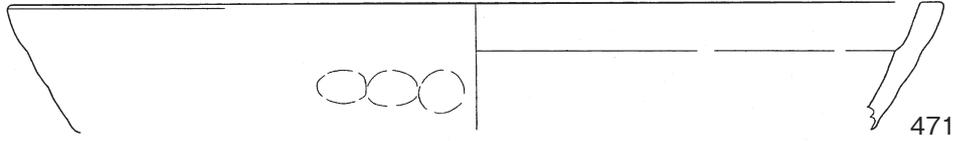
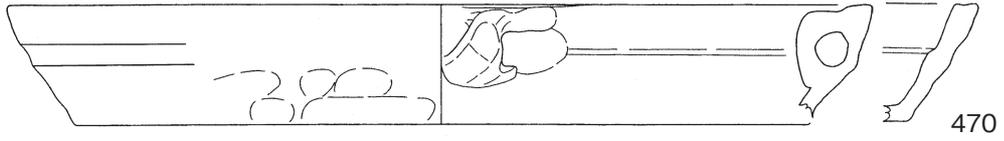
第57図 土器類22 (KB12区1)

4溝(1)

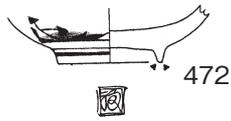


第58図 土器類23 (KB12区2)

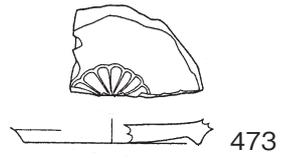
4溝(2)



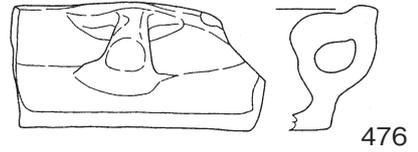
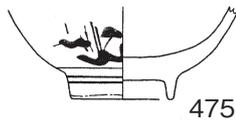
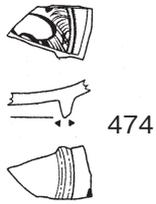
8溝



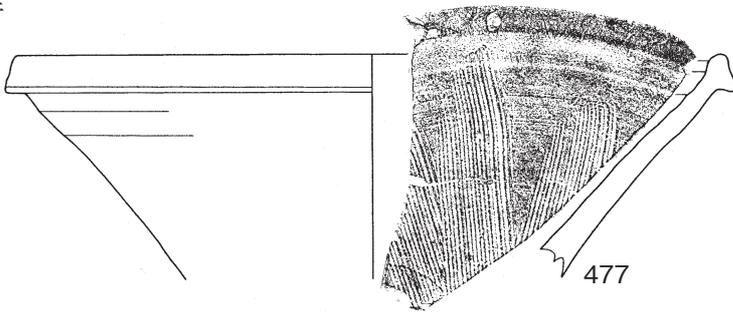
16溝



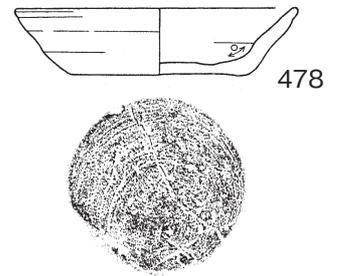
12溝



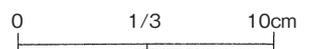
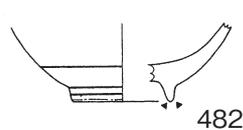
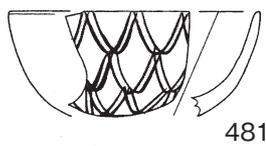
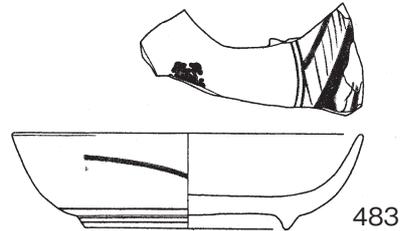
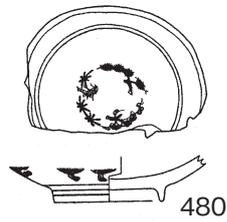
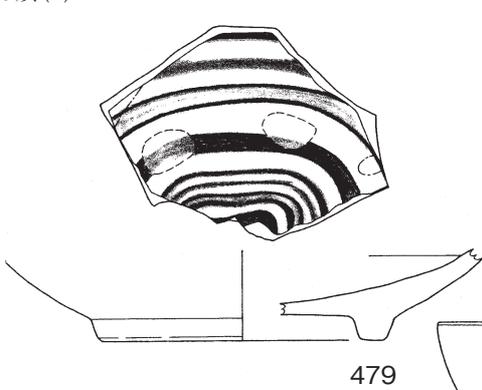
2井



1壙

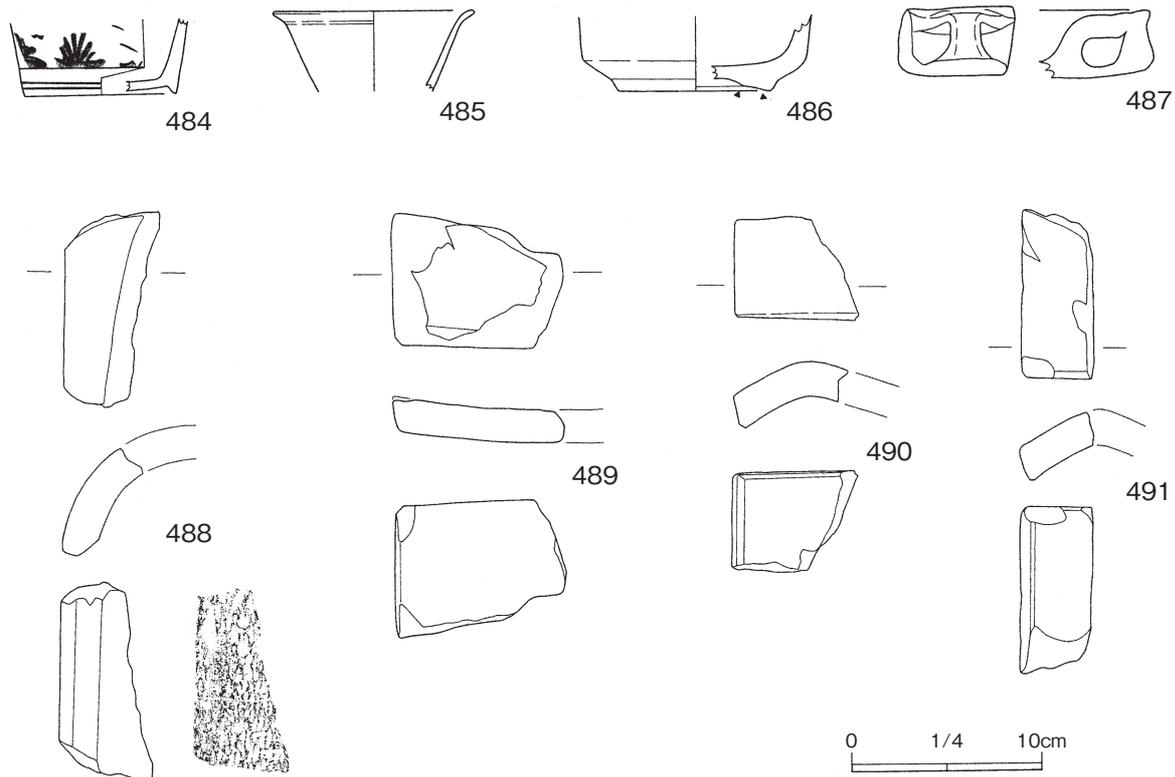


5壙(1)

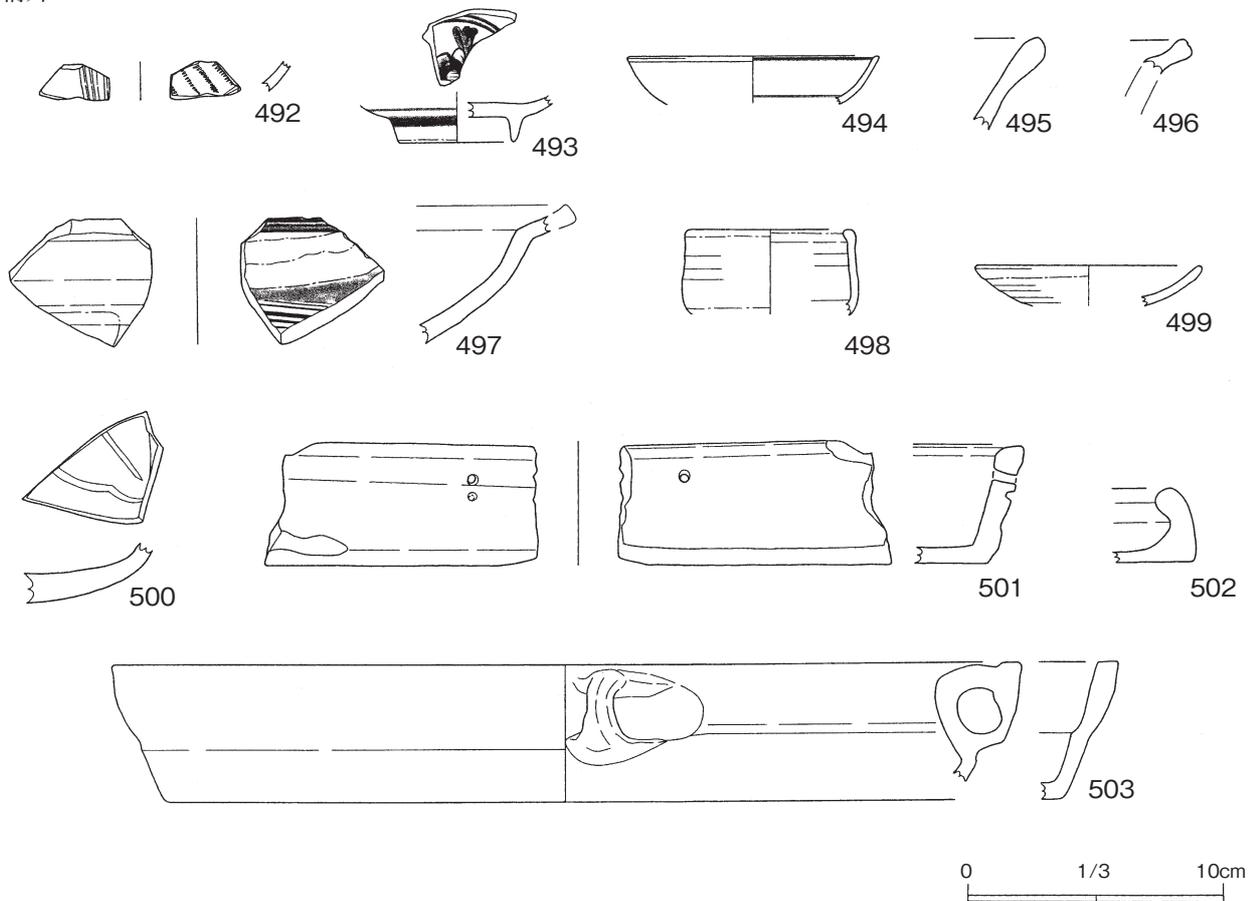


第59図 土器類24 (KB12区3)

5墳(2)

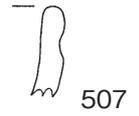
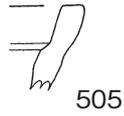
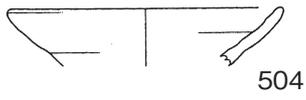


遺構外

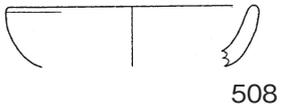


第60図 土器類25 (KB12区4)

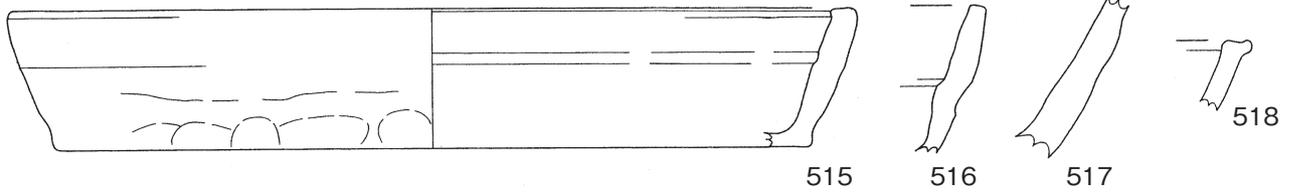
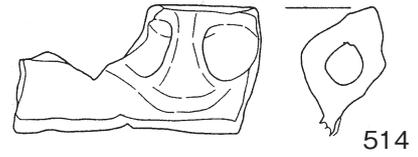
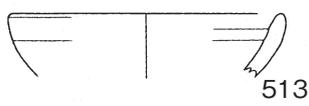
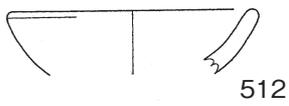
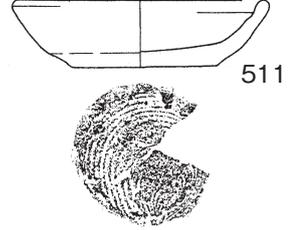
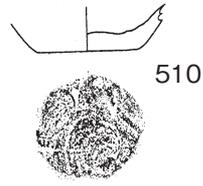
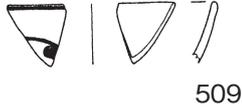
3墳



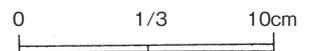
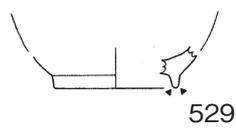
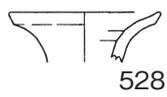
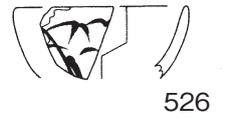
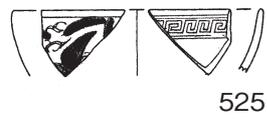
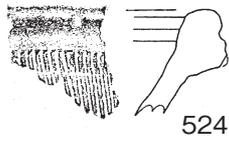
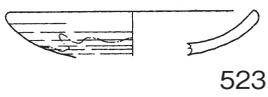
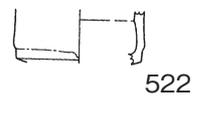
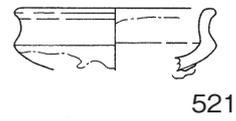
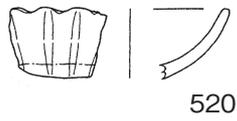
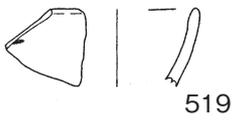
8墳



19墳

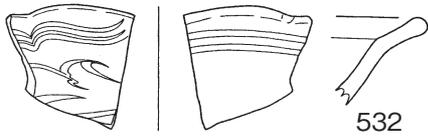


遺構外

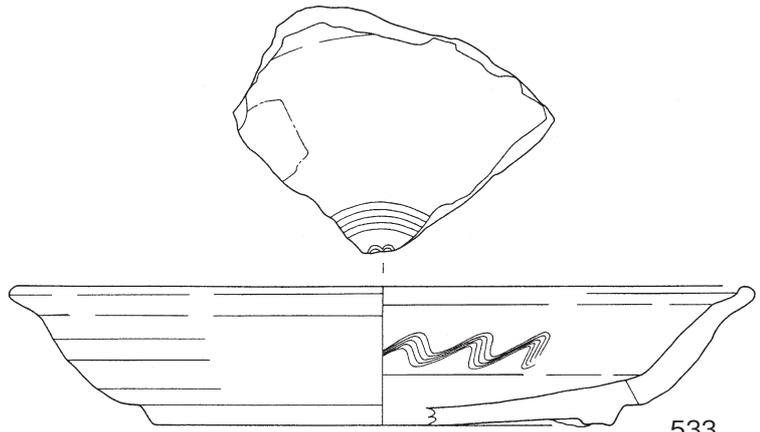


第61図 土器類26 (第16次)

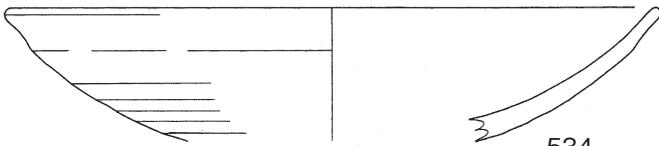
T2溝



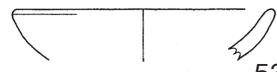
532



533

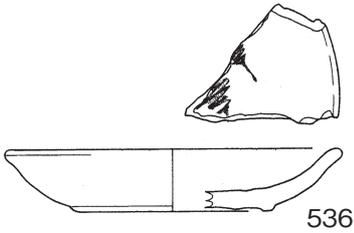


534

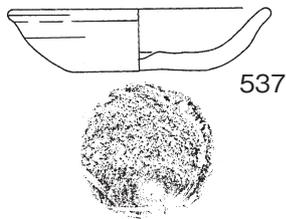


535

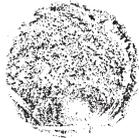
T3井



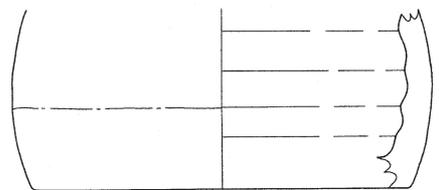
536



537



T18壙



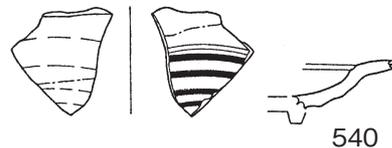
538

T9壙

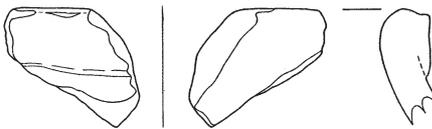


539

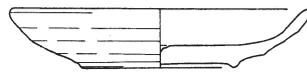
遺構外



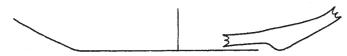
540



541



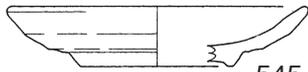
542



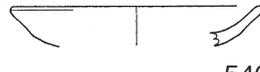
543



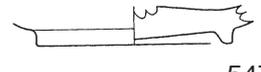
544



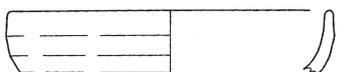
545



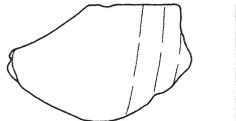
546



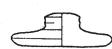
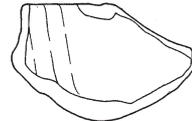
547



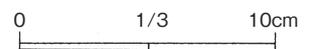
548



549

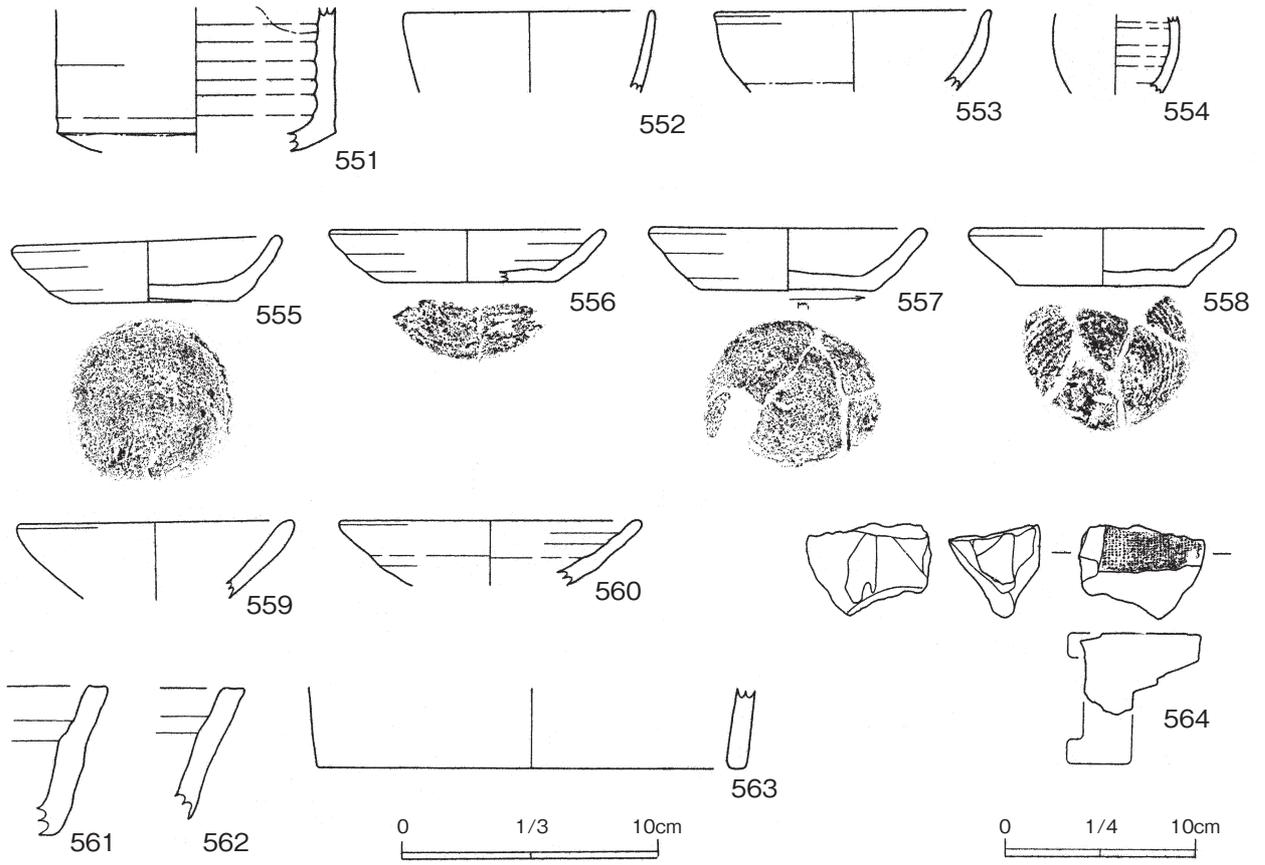


550

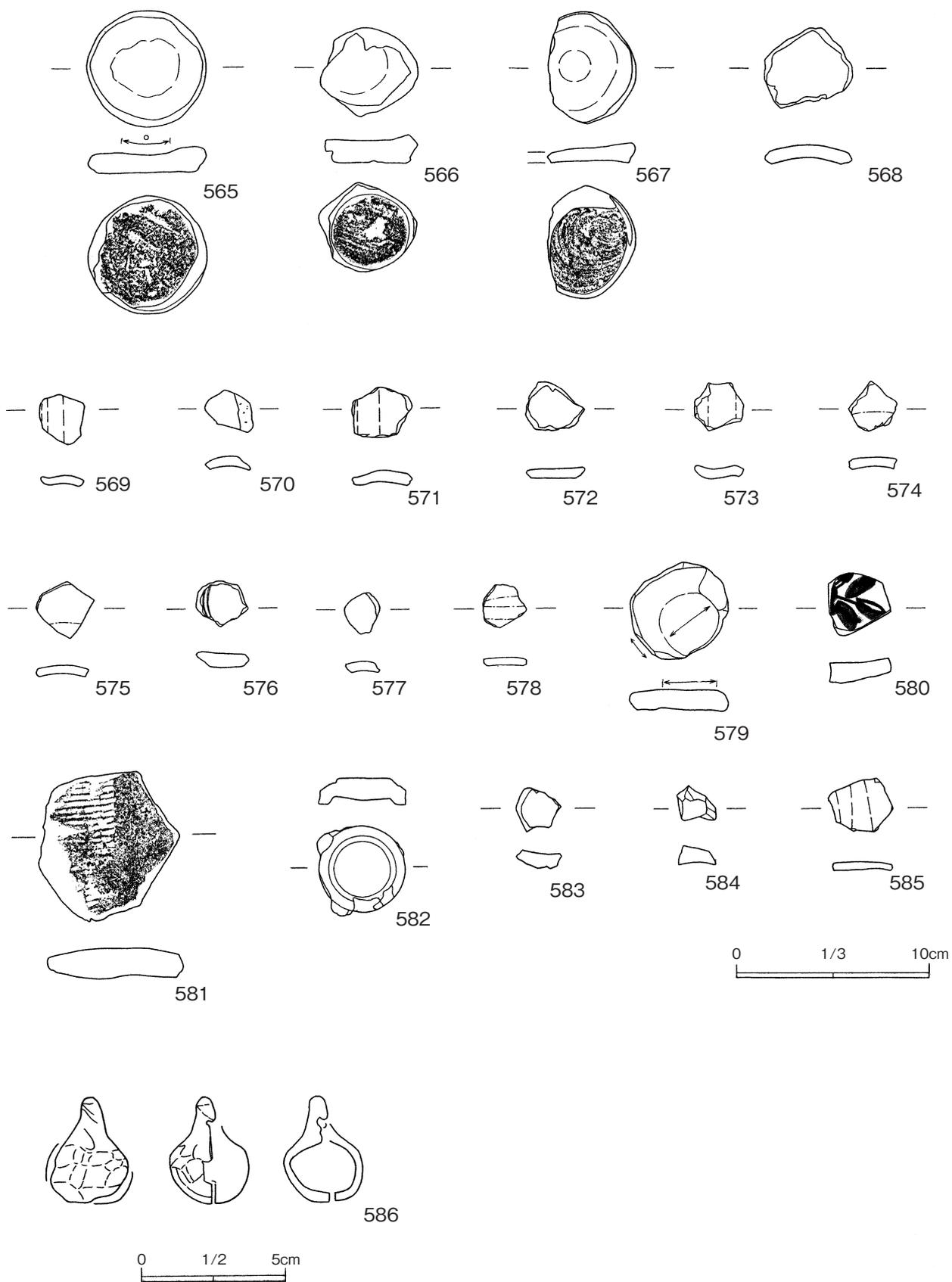


第62図 土器類27 (第23次1)

遺構外



第63図 土器類28 (第23次2)



第64図 土器類29 (土製品)

*は不確定な推定復元値

法量の単位は cm

図 No	器種	産地	調査名	出土地点	口径	底径	器高	時期・ 分類	年代	遺物 ID	備考	残存率
1	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系 中国	KB7	1溝 C-2G No62	-	-	-	A-4類	12c 中~13c	青07	内外緑色の釉/内面 二条の沈線	1/2以下
2	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系 中国	KB7	1溝 C-2G No86	-	-	-		13c~14c	青04	内外青緑色の釉/蓮 弁文	1/2以下
3	焼締陶器・片口鉢	常滑	KB7	1溝	-	-	-	10形式 II類	1450~1500	鉢04		1/2以下
4	焼締陶器・片口鉢	常滑	KB7	1溝 B-1G	-	-	-	10形式 II類	1450~1500	鉢05		1/2以下
5	焼締陶器・片口鉢	常滑	KB7	1溝 B-2G No42	-	-	-	10形式 II類	1450~1500	鉢03		1/2以下
6	焼締陶器・片口鉢	常滑	KB7	1溝 C-3G No59	-	-	-	10形式 II類	1450~1500	鉢02		1/2以下
7	陶器・皿/折縁皿	瀬戸美濃	KB7	1溝、21P、一括	*10.0	-	-	大4		皿12	内外灰釉/丸ノミで ソギ	1/2以下
8	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	KB7	1溝(B-2G No61、C-2G No 83)、1壙 B-2G (No23・25)、 一括	*29.0	-	-	古後IV (新)		町 鉢 270	内外錆釉/櫛目/内外 被熱/内面磨痕	1/2以下
9	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	KB7	1溝 C-2G No69	*26.0	-	-	大2、I 類		町 鉢 213	内外錆釉/櫛目	1/2以下
10	陶器・坏/端反坏	瀬戸美濃	KB7	1溝 C-2G No11	7.4	3.0	4.2	登1か2		町他20	内外灰釉・高台周辺 露胎	3/4以上
11	陶器・搦鉢	志戸呂	KB7	1溝 B-2G (No39・43・44・ 45)、B-2G No19・204T、4T	-	10.4	-		16c	町鉢60	内外錆釉/櫛目28本	1/2以下
12	土器・かわらけ	在地	KB7	1溝 C-2G (No1・6・8・94)	9.2	5.6	3.6	騎西城 III期		K04		1/2以上
13	土器・かわらけ	在地	KB7	1溝 C-2G No32	11.0	5.0	3.0~3.7	騎西城 I期		K06	底部内面指頭ナデ/ 底部外面板ナデ	完形
14	土器・ほうろく	在地	KB7	1溝(C-2G No46・47・50・ 51・54・57・58・60、C-3G No76)	*35.0	32.0	*5.3			H11		1/2以上
15	土器・ほうろく	在地	KB7	1溝 C-2G No79	-	-	*5.0			H05	外面スス付着	1/2以下
16	土器・土鍋	在地	KB7	1溝 B-1G No33	-	-	-			D01	外面スス付着	1/2以下
17	土器・片口鉢	在地	KB7	1溝 B-1G No38	-	-	-		14c 前	鉢16		1/2以下
18	土器・搦鉢	在地	KB7	1溝 C-2G No59	-	-	-			鉢14		1/2以下
19	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系 中国	KB7	5溝 C-3G No78	-	-	-	A-4類	12c 中~13c	青01	内外暗緑色の釉/片 彫りで飛雲文	1/2以下
20	焼締陶器・片口鉢	常滑	KB7	6溝 C-4G No20	-	-	-	5・6a 形 式、II類	13c	鉢09	内外自然釉	1/2以下
21	土器・かわらけ	在地	KB7	6溝(D-4G No29・31、一 括)、6・7溝、D-4G No4、一 括	11.0	6.8	2.1~2.4	騎西城 III期		K07	底部内面ナデ	1/2以上
22	土器・ほうろく	在地	KB7	6溝 D-4G No42	-	-	5.4			H09	外面スス付着	1/2以下
23	土器・かわらけ	在地	KB7	11溝 E-6G No60、12溝 E- 6G、E-6G No4、一括	11.2	6.0	2.7	騎西城 I期カ		K05	底部内面ナデ/内外 口縁黒色	1/2以上
24	土器・片口鉢	在地	KB7	15溝 C-2G No96	-	-	-		14c 前	鉢23		1/2以下
25	土器・土鍋	在地	KB7	15溝 C-2G (No97・100)	-	*18.0	-			D04	胎土に金雲母	1/2以下
26	土器・土鍋	在地	KB7	15溝 C-2G (No107、一括)	-	-	-		14c 後~未	D03		1/2以下
27	土器・片口鉢	在地	KB7	3井 D-5G No55、一括	*32.0	-	-			鉢20	内面剥落	1/2以下
28	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	KB7	5井 D-5G No73	*12.0	4.3	6.4	登1		天09	内外鉄釉・高台周辺 露胎	1/2以下
29	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	KB7	5井 D-5G No82 ?	*11.0	-	-	登1・2		天06	内外鉄釉・高台周辺 露胎	1/2以下
30	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	KB7	5井 D-5G	*11.0	-	-	大2		皿07	内外鉄釉	1/2以下
31	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	KB7	5井	*10.0	-	-	大2		皿06	内外灰釉	1/2以下
32	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	KB7	5井 D-5G	*10.0	-	-	大3		皿02	内外灰釉	1/2以下
33	土器・かわらけ	在地	KB7	5井(D-5G No72、一括)	9.5	6.0	1.6~2.0	騎西城 IV期		K12	内面体底部境ナデ	略完形
34	土器・ほうろく	在地	KB7	5井 D-5G No74、一括	*35.0	*30.0	5.0			H08		1/2以下
35	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	KB7	6井	*12.0	-	-	大1		皿05	内外灰釉	1/2以下
36	土器・かわらけ	在地	KB7	6井 E-5G No19	10.8	7.8	1.7~2.2	騎西城 III期		K10	底部内面回転ナデ/ 底部外面糸切	完形
37	土器・ほうろく	在地	KB7	6井 E-5G (No34・35)	*36.0	*31.5	5.2			H03		1/2以下
38	土器・かわらけ	在地	KB7	7井 D-4G No45	*11.0	-	-			K16	口唇灯芯油痕	1/2以下
39	土器・片口鉢	在地	KB7	8井 E-5G	-	-	-			鉢18		1/2以下
40	土器・かわらけ	在地	KB7	9井 (No53・54・55・56、一括)	12.0	6.0	2.9			K13		1/2以上
41	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	KB7	1壙 B-2G No34	-	-	-	大		鉢13	内外錆釉/櫛目13本/ 内外団子トチ痕	1/2以下

第10表 土器類一覧表 1

*は不確定な推定復元値

質量の単位は cm

図No	器種	産地	調査名	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	遺物ID	備考	残存率
42	土器・搦鉢	在地	KB7	1壙 B-2G (No30・35)、E-6G No44	*28.2	*11.0	13.1			鉢21	櫛目7本	1/2以下
43	土器・かわらけ	在地	KB7	2壙 C-3G (No18・19)、C-3G	11.6	4.8	3.0	騎西城I期		K03	底部内面指頭ナデ	1/2以上
44	土器・かわらけ	在地	KB7	2壙 C-3G (No21・22・23・41)	11.4	4.5	3.0	騎西城I期		K02	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	1/2以上
45	土器・かわらけ	在地	KB7	2壙 C-3G No24	11.0	4.5	3.0 ~ 3.5	騎西城I期		K09	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ/口唇灯芯油痕	完形
46	土器・片口鉢	在地	KB7	3壙 C-3G No51	-	-	-			鉢19		1/2以下
47	土器・かわらけ	在地	KB7	8壙 E-7G No29	*12.0	-	-	騎西城I期		K20		1/2以下
48	土器・かわらけ	在地	KB7	8壙、E-6G (No4・5)、一括	12.0	6.8	2.7	騎西城II期		K11		1/2以上
49	土器・ほうろく	在地	KB7	10壙 (F-7G No18・20、一括)	*36.0	*32.0	5.5			H06		1/2以下
50	土器・ほうろく	在地	KB7	10壙 (F-7G No23・25・26、一括)、F-7G No6・10	*38.0	*34.0	5.4			H04		1/2以下
51	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	KB7	17壙	-	-	-	登1		天07	体部内面長石釉/口縁内面・体部外面鉄釉	1/2以下
52	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	KB7	17壙 C-2G No110	-	-	-			町鉢219	内外錆釉	
53	土器・かわらけ	在地	KB7	50P	*11.0	*5.6	2.4			K14		1/2以下
54	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	KB7	一括	-	-	-	A-4類	12c中~13c	青02	内外暗緑色の釉/三条の沈線	1/2以下
55	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	KB7	一括	-	-	-	B-0類	13c~14c	青03	内外青緑色の釉/蓮弁文	1/2以下
56	磁器・香炉/青磁香炉	龍泉窯系中国	KB7	一括	-	-	-		13c~	青05	内外暗緑色の釉/外面一条の沈線	1/2以下
57	磁器・碗/青磁碗	同安窯系中国	KB7	一括	-	-	-	I類	12c中~13c	青06	黄緑色の釉/ジグザグ文・櫛目	1/2以下
58	磁器・碗/白磁碗	中国	KB7	一括	-	-	-		13c~14c	白01	内外灰白色の釉	1/2以下
59	磁器・皿/白磁皿	中国	KB7	一括	*12.0	-	-	C-1類	15c中~16c	白02	内外灰白色の釉/口禿皿	1/2以下
60	磁器・皿/白磁皿	中国	KB7	一括	-	*5.0	-	IX類	14c	白03	内外灰白色の釉・底部外面釉ぬぐう	1/2以下
61	磁器・碗/染付碗	中国	KB7	一括	-	-	-		17c	染04	草花文	1/2以下
62	磁器・碗/染付碗	中国	KB7	一括	-	*7.0	-	B群	15c	染05	高台端部露胎/唐草文・圏線	1/2以下
63	磁器・皿/染付皿	中国	KB7	一括	-	-	-	E群	16c末~17c	染01	四方禪文・唐草文	1/2以下
64	磁器・皿/染付皿	中国	KB7	一括	-	-	-	E群	16c末~17c	染02	四方禪文・圏線	1/2以下
65	磁器・皿/染付皿	中国	KB7	一括	-	-	-	B-1群	15c中~16c	染03	圏線・花文	1/2以下
66	焼締陶器・片口鉢	常滑	KB7	4T	-	-	-	9形式、II類	1400~1450	鉢01		1/2以下
67	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	KB7	B-1G No1、F-7G No4	*12.0	-	-	大1		天02	内外鉄釉・高台周辺錆釉	1/2以下
68	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	KB7	B-1G No5、No2	-	*4.5	-	登1		天08	内外鉄釉・高台周辺露胎	1/2以下
69	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	KB7	C-3G No17	*11.0	-	-	大3カ		天03	内外鉄釉	1/2以下
70	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	KB7	E-5G No8	*10.4	-	-	大4カ		天04	内外鉄釉	1/2以下
71	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	KB7	一括	*11.0	-	-	大2カ		天01	内外鉄釉	1/2以下
72	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	KB7	一括	*12.0	-	-	大2カ		天05	内外鉄釉	1/2以下
73	陶器・碗/丸碗	瀬戸美濃	KB7	一括	*10.0	-	-	登1・2		碗01	内外鉄釉	1/2以下
74	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	KB7	E-5G No11	*11.0	*6.0	2.3	大1		皿03	内外鉄釉/高台内輪トチン痕	1/2以下
75	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	KB7	E-5G No13	*10.0	-	-	大1		皿04	内外灰釉	1/2以下
76	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	KB7	一括	*11.0	*6.5	2.5	大3		皿01	内外灰釉	1/2以下
77	陶器・皿/稜皿(ヒタ皿)	瀬戸美濃	KB7	一括	*8.0	-	-	大3		皿08	内外鉄釉の上に灰釉流し掛け/口縁部輪花風	1/2以下
78	陶器・皿/灯明皿(油皿)	瀬戸美濃	KB7	一括	*10.0	-	-		19c	皿09	内外鉄釉	1/2以下
79	陶器・皿/灯明皿(受皿)	瀬戸美濃	KB7	一括	*10.0	*4.4	2.0		19c	皿10	内面・口縁外面鉄釉/体部外面重ね焼き痕	1/2以下
80	陶器・皿/灯明皿(受皿)	瀬戸美濃	KB7	一括	*10.0	-	-		19c	皿11	内面・口縁外面鉄釉/体部外面重ね焼き痕	1/2以下

第11表 土器類一覽表2

*は不確定な推定復元値

分量の単位は cm

図 No	器種	産地	調査名	出土地点	口径	底径	器高	時期・ 分類	年代	遺物 ID	備考	残存率
81	陶器・鉢/大皿	瀬戸美濃	KB7	B-3G No2	-	-	-	大3		鉢08	内外鉄釉・外面灰釉 流し掛け	1/2以下
82	陶器・鉢/黄瀬戸鉢	瀬戸美濃	KB7	B-2G No9	*12.0	-	-	大4		鉢07	内外鉄釉	1/2以下
83	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	KB7	D-5G No5、一括	*31.8	-	-	大3前、 I類		町鉢 203	内外錆釉	1/2以下
84	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	KB7	E-7G No3	-	-	-	大2カ、 I類		町鉢 231	内外錆釉	1/2以下
85	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	KB7	F-7G No1	-	-	-	大2カ、 II類		町鉢 150	内外錆釉	1/2以下
86	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	KB7	一括	-	-	-	大3前、 II類		鉢10	内外錆釉	1/2以下
87	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	KB7	一括	-	-	-	大3		鉢11	内外錆釉	1/2以下
88	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	KB7	一括	-	-	-	大4		鉢12	内外錆釉	1/2以下
89	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	KB7	一括	-	-	-	大2、I類		町鉢 218	内外錆釉	1/2以下
90	陶器・徳利	瀬戸美濃	KB7	一括	*8.0	-	-	古後IV (新)カ		袋01	内外鉄釉/被熱	1/2以下
91	陶器・徳利	瀬戸美濃	KB7	一括	*9.0	-	-	大		袋02	内外鉄釉	1/2以下
92	陶器・壺/祖母懷壺	瀬戸美濃	KB7	B-1G No183T	-	-	-	古後～ 大		袋04	体部外面上方鉄釉	1/2以下
93	陶器・瓶子	瀬戸美濃	KB7	D-5G No34	-	-	-	古後		袋03	外面灰釉	1/2以下
94	陶器・碗	肥前 (唐津)	KB7	一括	-	-	-		17c 後	碗02	内外鉄釉	1/2以下
95	陶器・向付	肥前 (唐津)	KB7	F-6G No1、一括	-	5.0	-		16c 末～ 17c 前	他01	内外鉄釉・高台周辺 露胎/鉄で草花文・筋 文	1/2以下
96	陶器・搦鉢	志戸呂	KB7	一括	-	-	-		16c 後	鉢06	内外錆釉	1/2以下
97	陶器・徳利	志戸呂	KB7	E-6G (No6・8・11)	-	-	-		16c 中～17c	町袋27	外面鉄釉	1/2以下
98	陶器・壺	志戸呂	KB7	一括	-	-	-		17c	他12	頸部内面茶褐色の釉 /口縁内面・外面鉄釉	1/2以下
99	陶器・皿/灯明皿(受 皿)	信楽	KB7	一括	*10.0	*3.6	1.7		19c	皿13	内面・口縁外面灰釉・ 棧端部露胎	1/2以下
100	磁器・碗/染付碗	肥前	KB7	一括	-	*3.4	-		18c	伊01	高台端部露胎/梅樹 文・圏線	1/2以下
101	磁器・碗/染付碗	肥前	KB7	一括	*10.0	-	-		18c	伊03	梅樹文	1/2以下
102	磁器・碗/染付碗	肥前	KB7	一括	-	-	-		18c	伊04	梅樹文	1/2以下
103	磁器・皿/染付皿	肥前	KB7	一括	*10.0	-	-		18c	伊05	草文・唐草文	1/2以下
104	磁器・香炉	肥前	KB7	一括	*10.0	-	-		18c～	伊06	口縁内面・外面淡青 緑色の釉/縦方向に ソギ	1/2以下
105	磁器・猪口	肥前	KB7	一括	*8.0	-	-		19c	伊08	四方襷文・花文	1/2以下
106	磁器・猪口	肥前	KB7	B-2G No2	*7.0	*5.0	6.1		18c	伊02	菊花文・氷裂文・圏線	1/2以下
107	磁器・小坏	肥前	KB7	B-2G No7	-	2.4	-		17c 後～18c	伊07	高台端部露胎・砂溶 着	1/2以下
108	土器・かわらけ	在地	KB7	D-4G No5	*10.0	5.5	2.5	騎西城 II期		K17		1/2以下
109	土器・かわらけ	在地	KB7	D-4G No26	*11.2	5.0	3.5	騎西城 I期		K01		1/2以下
110	土器・かわらけ	在地	KB7	E-6G No7	*12.0	-	-	騎西城 I期		K22		1/2以下
111	土器・かわらけ	在地	KB7	E-6G No9	*12.0	6.8	2.7	騎西城 II期		K18	底部内面ナデ/内面 体底部境ナデ	1/2以下
112	土器・かわらけ	在地	KB7	E-6G (No31・32)	11.4	6.8	2.5	騎西城 II期		K08	内面体底部境ナデ	1/2以下
113	土器・かわらけ	在地	KB7	F-6G No8	*12.0	-	-	騎西城 I期		K21		1/2以下
114	土器・かわらけ	在地	KB7	一括	*10.0	-	-			K15		1/2以下
115	土器・かわらけ	在地	KB7	一括	*11.0	*3.2	2.7	騎西城 I期カ		K19		1/2以下
116	土器・かわらけ	在地	KB7	一括	*13.0	*8.0	2.5	騎西城 II期		K23	内面体底部境ナデ	1/2以下
117	土器・ほうろく	在地	KB7	C-4G (No7・8)	-	-	5.4			H10		1/2以下
118	土器・ほうろく	在地	KB7	D-5G No13	-	-	5.6～5.8			H01		1/2以下
119	土器・ほうろく	在地	KB7	E-6G No20	*34.6	*30.0	5.4			H07		1/2以下
120	土器・ほうろく	在地	KB7	F-6G No48	-	-	4.8			H02	外面スス付着	1/2以下
121	土器・土鍋	在地	KB7	C-3G No16	-	-	-		15c	D02	素焼胎土ザラつく	1/2以下
122	土器・片口鉢	在地	KB7	D-5G No23	-	-	-		13c 後	鉢22	素焼胎土ザラつく	1/2以下

第12表 土器類一覧表3

*は不確定な推定復元値

質量の単位は cm

図 No	器種	産地	調査名	出土地点	口径	底径	器高	時期・ 分類	年代	遺物 ID	備考	残存率
123	土器・片口鉢	在地	KB7	E-6G No25	-	-	-			鉢15		1/2以下
124	土器・片口鉢	在地	KB7	E-7G No8	-	-	-			鉢17		1/2以下
125	土器・ほうろく	在地	KB8	1溝 A-2G No67	-	-	-			H02	外面スス付着	
126	陶器・碗/志野丸皿	瀬戸美濃	KB8	2a 溝 A-2G No64	*14.0	*7.0	2.9	登1		皿17	口縁内外長石釉	1/2以下
127	土器・かわらけ	在地	KB8	2a 溝	*10.0	*6.6	1.9	騎西城 Ⅲ期		K37		1/2以下
128	土器・かわらけ	在地	KB8	2a 溝 A-2G No44	*10.0	-	-			K31		1/2以下
129	土器・かわらけ	在地	KB8	2a 溝 A-2G No60	*10.7	*6.6	2.7	騎西城 Ⅲ期		K24		1/2以下
130	土器・ほうろく	在地	KB8	2a 溝 A-2G No12	-	-	5.5			H06		
131	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系 中国	KB8	2b 溝底 A-2G No58	-	-	-	I-4類		町青9	内外淡青色の釉/内 面に文様	1/2以下
132	土器・かわらけ	在地	KB8	2b 溝底 A-2G No50	*14.0	-	3.2			町 K 302	手づくね/焼成不良	1/2以下
133	土器・かわらけ	在地	KB8	2b 溝底 A-2G No59	*9.5	-	-			町 K 303	手づくね/焼成不良	1/2以下
134	土器・かわらけ	在地	KB8	2b 溝	*9.5	-	-			町 K 304	手づくねカ/焼成不 良	1/2以下
135	磁器・碗/青磁碗	同安窯系 中国	KB8	2溝	-	-	-	I類	12c 中~13c	青03	内外淡灰緑色の釉・ 高台周辺露胎/櫛目 の文様	1/2以下
136	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	KB8	2溝 A-2G No38	11.5	6.0	2.8	登1		皿15	内外長石釉/内外円 錘ピン痕	1/2以上
137	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	KB8	2溝 B-2G	*11.8	-	-	登1		皿36	内外灰釉・長石釉を 混ぜたような釉カ	1/2以下
138	土器・かわらけ	在地	KB8	2溝 A-2G No37	*10.0	*6.8	2.3			K43		1/2以下
139	陶器・皿/ヒダ皿	瀬戸美濃	KB8	3溝11壙 B-2G No3、B-2G No11、一括	10.0	5.6	2.5	大3後		町皿 139	内外灰釉/内禿皿丸 ノミによるソギ/高 台内輪トチン痕	1/2以下
140	土器・かわらけ	在地	KB8	3溝11壙 B-2G No14	*10.0	*5.0	2.5	騎西城 Ⅰ期		K40		1/2以下
141	土器・かわらけ	在地	KB8	3溝	*11.0	*7.4	2.7			K44		1/2以下
142	土器・ほうろく	在地	KB8	3溝 A-2G No4	-	-	-			H10		
143	土器・かわらけ	在地	KB8	4溝 B-2G No17	9.6	6.8	2.2	騎西城 Ⅲ期		K42		1/2以下
144	焼締陶器・片口鉢	常滑	KB8	6溝 C-5G No57	-	-	-	11型式、 Ⅱ類	1500~1550	鉢13		1/2以下
145	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	KB8	6溝 C-4G No147	*10.0	-	-	古後Ⅳ(古)		皿43	口縁内面灰釉	1/2以下
146	陶器・皿/折縁深皿	瀬戸美濃	KB8	6溝(C-4G No119・C-5G No36)、3井 B-4G No46、 31壙 C-6G No5、C-5G No 137	*30.0	*15.0	-	古後Ⅳ (新)		皿34	口縁内外灰釉/底部 内面団子トチの痕/ 割れ口漆継ぎの跡カ	1/2以下
147	陶器・鉢/卸目付大 皿	瀬戸美濃	KB8	6溝 C-5G No56	-	-	-	古後Ⅲ・ Ⅳ(新)		鉢05	内面薄く自然釉/へ う先で卸目/内面重 ね焼きの三足痕	1/2以下
148	土器・片口鉢	在地	KB8	6溝 C-4G No95	-	-	-		13c 後	鉢14		1/2以下
149	土器・土鍋	在地	KB8	6溝 C-5G No55	-	-	-		15c 前	D01	胎土ザラつく	
150	土器・片口鉢	在地	KB8	6溝 C-4G No122	*27.0	-	-		13c 後	鉢24		1/2以下
151	焼締陶器・片口鉢	常滑	KB8	7溝 C-4G No104	*36.0	-	-	12型式、 Ⅱ類	1550~1600	鉢08	外面工具痕	1/2以下
152	焼締陶器・片口鉢	常滑	KB8	7溝 C-4G No105	-	-	-	8型式、 Ⅱ類	1350~1400	鉢11	内面自然釉	1/2以下
153	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	KB8	8溝 D-5G No78	*10.0	*4.5	2.3	古後Ⅳ(新)		皿33	口縁内面灰釉	1/2以下
154	陶器・皿/折縁皿	瀬戸美濃	KB8	8溝 D-5G No73	*12.0	-	-	大4前		皿20	内外灰釉/内面ソギ	1/2以下
155	陶器・香炉	瀬戸美濃	KB8	8溝 D-6G No75	-	*8.0	-	大1	15c 後	町香17	内外灰釉	1/2以下
156	土器・かわらけ	在地	KB8	8溝 D-5G No77	*11.8	-	-	騎西城 Ⅲ期		K14		1/2以下
157	土器・かわらけ	在地	KB8	8溝 D-6G No73	10.9	6.3	2.5	騎西城 Ⅲ期		K10	底部内面渦巻ナデ	1/2以上
158	土器・かわらけ	在地	KB8	8溝 D-6G No76	*10.3	6.0	2.9	騎西城 Ⅲ期		K09		1/2以上
159	土器・かわらけ	在地	KB8	8溝 D-6G (No86・87)	11.2	6.8	2.5	騎西城 Ⅲ期		K11	底部内面渦巻ナデ	1/2以上
160	土器・かわらけ	在地	KB8	8溝 D-6G (No95・96)	*10.0	*6.0	2.6	騎西城 Ⅲ期		K18		1/2以下
161	土器・かわらけ	在地	KB8	8溝 D-6G No97	*10.8	*7.4	2.5	騎西城 Ⅲ期		K13		1/2以下

第13表 土器類一覽表 4

出土した遺物

*は不確定な推定復元値

法量の単位は cm

図 No	器種	産地	調査名	出土地点	口径	底径	器高	時期・ 分類	年代	遺物 ID	備考	残存率
162	土器・ほうろく	在地	KB8	8溝 D-5G No43	-	-	6.3			H03	外面スス付着	1/2以下
163	土器・片口鉢	在地	KB8	8溝 D-6G No74	*32.0	-	-		14c 後	鉢15	堅微	1/2以下
164	土器・火鉢	在地	KB8	8溝 C-4G No89	-	-	-			火鉢1	雷文を押し印/角火鉢	1/2以下
165	土器・片口鉢	在地	KB8	一括	-	-	-			鉢16	内面スス付着	1/2以下
166	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	KB8	一括	*10.0	-	-	古後Ⅳ(古)		皿42	口縁内外灰釉	1/2以下
167	土器・ほうろく	在地	KB8	1井 B-3G No75	-	-	-			H12		1/2以下
168	土器・ほうろく	在地	KB8	1井 B-3G No77	-	-	5.0			H05	外面スス付着	1/2以下
169	土器・ほうろく	在地	KB8	1井、B-4G No58	-	-	5.4			H16		1/2以下
170	土器・ほうろく	在地	KB8	3井 B-4G No27	-	-	5.1			H13	外面スス付着	1/2以下
171	土器・ほうろく	在地	KB8	3井 B-4G No47	-	-	4.9			H14	外面スス付着	1/2以下
172	土器・ほうろく	在地	KB8	3井 B-4G (No35・51)	-	-	5.5			H04	外面スス付着	1/2以下
173	土器・かわらけ	在地	KB8	4井 B-4G No30	*11.8	6.1	3.4			K04	底部内面指頭ナデ/ 底部外面板ナデ/内 面黒化	1/2以上
174	土器・かわらけ	在地	KB8	4井 B-4G No31	*11.7	*6.6	2.6			K25	外面二条の工具痕	1/2以下
175	陶器・皿/菊皿	瀬戸美濃	KB8	5井 C-5G No80	-	6.7	-	登2・3		皿07	内外織部釉・高台周 辺露胎/型打皿	1/2以下
176	陶器・皿/志野菊皿	瀬戸美濃	KB8	5井、C-5G No8	*12.6	*7.2	2.6	大4末		皿16	内外長石釉・高台内露 胎/内外円錐ピン痕	1/2以下
177	磁器・碗/染付碗	肥前	KB8	5井、C-5G (No42・44)、一 括	*10.4	4.5	7.1		17c 後	伊13	網目文/高台端部砂 溶着	1/2以下
178	土器・ほうろく	在地	KB8	6井 C-5G No58、C-5G No 87、D-5G No12、一括	*32.4	*30.0	5.2			H07		1/2以下
179	陶器・皿/卸皿	瀬戸美濃	KB8	10井	-	-	-	古中Ⅱ		皿55	内面・口縁外面薄い 灰釉	1/2以下
180	陶器・皿/菊皿	瀬戸美濃	KB8	10井 C-5G No243、一括	-	6.8	-	登2・3		皿06	内外黄瀬戸釉・高台 周辺露胎/内面円錐 ピン痕/型打皿	1/2以下
181	土器・かわらけ	在地	KB8	10井	*8.2	-	-			K39		1/2以下
182	土器・ほうろく	在地	KB8	10井 C-5G No229	-	-	-			H01	外面スス付着	1/2以下
183	土器・火鉢	在地	KB8	10井 C-5G (No251・253・ 254、一括)、一括(注記は 11・15井)	*44.0	*35.0	-			火鉢3	円形	1/2以下
184	陶器・小坏	瀬戸美濃	KB8	一括(注記は11井)	*9.0	-	-	登1・2		他06	内外鉄釉	1/2以下
185	磁器・皿/染付皿	中国	KB8	10壙	-	*8.0	-	B-1群	15c 中～ 16c 末	染01	玉取獅子・唐草文/高 台端部砂溶着	1/2以下
186	土器・ほうろく	在地	KB8	14壙 C-4G (No86・88)、C- 4G (No3・5・12・18・20・21)、 一括	*38.0	*32.0	6.0			H08	底部内面・外面スス 付着/胎土金雲母含 む	1/2以下
187	土器・かわらけ	在地	KB8	15壙No119	10.6	6.4	3.3			K33		1/2以下
188	焼締陶器・壺	渥美	KB8	16壙 B-3G No31	*10.0	-	-		12～13c	袋07		1/2以下
189	土器・かわらけ	在地	KB8	16壙 B-3G No3	11.0	5.6	3.4	騎西城 Ⅰ期		K05	底部内面ナデ/底部 外面板ナデ	1/2以上
190	陶器・香炉	瀬戸美濃	KB8	30壙 C-5G No242、C-5G No158	*13.8	*9.0	5.4	登4・5	17c 後	香01	口縁内面・体部外面 鉄釉/体部内面・高台 周辺露胎	1/2以下
191	磁器・小坏/染付小坏	肥前	KB8	30壙 C-5G No238	-	2.4	-		17c 後	伊25	圏線/高台端部砂溶着	1/2以下
192	陶器・皿/折縁皿	瀬戸美濃	KB8	31壙 C-6G No4	*11.0	-	-	大3後		皿19	内外灰釉	1/2以下
193	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系 中国	KB8	5PC-4G No52	-	-	-	I-6類		町青22	櫛による蓮弁文・内 面片彫文	1/2以下
194	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系 中国	KB8	B-3G No22	-	*4.8	-	I-5-C 類?		町青49	蓮弁文	1/2以下
195	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	KB8	D-5G No24	*13.2	-	-	I-5類	13c～14c	町青31	蓮弁文	1/2以下
196	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	KB8	D-6G No42	*13.6	-	-	Ⅲ類		町青51	蓮弁文	1/2以下
197	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系 中国	KB8	一括	-	*4.0	-	I-5類	13c	青02	内外青緑色の釉・高 台内露胎/蓮弁文	1/2以下
198	磁器・皿/染付皿	中国	KB8	A-2G No24	*10.0	*5.8	2.2	E 群	16c 末～17c	染03	二重圏線	1/2以下
199	磁器・皿/染付皿	中国	KB8	一括	-	8.0	-		17c	染04	龍文/高台内に朱書 カ/景德鎮カ	1/2以下
200	磁器・皿/染付皿	中国	KB8	一括	-	-	-	E 群	16c 末 ～17c	染05	草花文カ/高台端部 離れ砂溶着	1/2以下
201	磁器・皿/染付皿	中国	KB8	一括	-	-	-	B-1類	16c 中～ 16c 末	染06	草花文カ/高台端部 離れ砂溶着	1/2以下
202	磁器・皿/染付皿	中国	KB8	C-5G No195	-	-	-		16c～17c	染07	草花文/高台端部離 れ砂溶着	1/2以下
203	焼締陶器・壺	渥美	KB8	C-4G No43	-	*14.0	-		12～13c	袋08		1/2以下

第14表 土器類一覧表5

*は不確定な推定復元値

質量の単位は cm

図 No	器種	産地	調査名	出土地点	口径	底径	器高	時期・ 分類	年代	遺物 ID	備考	残存率
204	焼締陶器・片口カ	常滑	KB8	A-2G No23	-	-	-	5・6a 型式		鉢20	内外暗褐色/体部内 面・肩部自然釉	1/2以下
205	焼締陶器・片口鉢	常滑	KB8	一括	-	-	-	4型式、 I類	1190~1220	鉢18		1/2以下
206	焼締陶器・片口鉢	常滑	KB8	一括	-	-	-	5・6a 型 式、I類		鉢19	内面自然釉	1/2以下
207	焼締陶器・片口鉢	常滑	KB8	C-4G No143	-	-	-	6a 型式、 I類	1250~1275	鉢09	口縁外面自然釉	1/2以下
208	焼締陶器・片口鉢	常滑	KB8	一括	*34.0	-	-	8型式、 II類	1350~1400	鉢10		1/2以下
209	焼締陶器・片口鉢	常滑	KB8	C-4G (No39・41)	*30.0	-	-	10型式、 II類	1450~1500	鉢07	内面工具痕	1/2以下
210	焼締陶器・片口鉢	常滑	KB8	C-4G No61	-	-	-	11型式、 II類	1500~1550	鉢12	内外工具痕	1/2以下
211	焼締陶器・小壺 (水注カ)	常滑	KB8	C-5G (No51・161)、一括	*5.2	*6.0	-		12c 後カ	袋04	肩部自然釉	1/2以下
212	焼締陶器・甕	常滑	KB8	D-6G No44	-	-	-	第2・3形式		袋09	内面自然釉	1/2以下
213	陶器・碗/平碗	瀬戸美濃	KB8	D-6G No51	-	*5.0	-	古後II		碗09	内面・一部外面灰釉/ 内面トチン痕	1/2以下
214	陶器・碗/平碗	瀬戸美濃	KB8	一括	-	-	-	古後IIIカ		碗05	内外灰釉	1/2以下
215	陶器・碗/平碗	瀬戸美濃	KB8	一括	-	-	-	古後IV (新)カ		碗06	内外灰釉	1/2以下
216	陶器・碗/平碗	瀬戸美濃	KB8	一括	-	-	-	古後IVカ		碗07	内外灰釉	1/2以下
217	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	KB8	C-4G No58	*12.0	-	-	古後II		天03	内外鉄釉・体部錆釉	1/2以下
218	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	KB8	B-3G No10	-	4.5	-	大3		天02	内外鉄釉・高台周辺 錆釉	1/2以下
219	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	KB8	C-5G (No92・169)	*11.0	-	-	大3		天01	内外鉄釉	1/2以下
220	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	KB8	C-5G No162、一括	*11.6	-	-	大3		天04	内外鉄釉・高台周辺 錆釉	1/2以下
221	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	KB8	D-5G No14	*11.0	-	-	大3		天05	内外鉄釉・高台周辺 露胎	1/2以下
222	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	KB8	C-5G No27	-	*4.6	-	登3カ		天06	内外鉄釉/高台周辺 露胎	1/2以下
223	陶器・碗/織部碗	瀬戸美濃	KB8	A-2G No25、一括	*11.0	-	-	登1		碗04	内外薄い長石釉/鉄 で松葉文カ	1/2以下
224	陶器・碗/鉄絵碗	瀬戸美濃	KB8	B-2G No10	-	-	-	登1		碗03	内外長石釉/鉄で文 様/223と同一カ	1/2以下
225	陶器・碗/志野丸碗	瀬戸美濃	KB8	C-5G No127、一括	*11.6	-	-	登1・2		碗01	内外鉄釉	1/2以下
226	陶器・碗/丸碗	瀬戸美濃	KB8	一括	-	5.5	-	登2カ		碗08	内外鉄釉(柿釉)・高 台周辺露胎	1/2以下
227	陶器・碗/丸碗	瀬戸美濃	KB8	C-5G No144、一括	*10.0	-	-	登3	17c 中	碗02	内外鉄釉/腰露胎	1/2以下
228	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	KB8	一括	*10.0	-	-	古後IIIカ		皿44	口縁内面灰釉	1/2以下
229	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	KB8	一括	*10.0	-	-	古後IIIカ		皿45	口縁内面灰釉	1/2以下
230	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	KB8	D-5G No5	*11.0	-	-	古後IV (古)		皿26	口縁内面灰釉	1/2以下
231	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	KB8	D-6G No5、一括	*10.4	-	-	古後IV (古)		皿37	口縁内面灰釉	1/2以下
232	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	KB8	一括	*10.0	-	-	古後IV (古)		皿30	口縁内面灰釉	1/2以下
233	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	KB8	一括	*10.0	-	-	古後IV (古)		皿31	口縁内面鉄釉	1/2以下
234	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	KB8	一括	*10.0	-	-	古後IV (古)		皿40	口縁内面灰釉	1/2以下
235	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	KB8	一括	*10.0	-	-	古後IV (古)		皿41	口縁内面灰釉	1/2以下
236	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	KB8	一括	-	*6.0	-	古後IV (古)		皿46		1/2以下
237	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	KB8	一括	*11.0	-	-	古後IV (新)		皿25	口縁灰釉	1/2以下
238	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	KB8	C-4G No27、D-6G No9	-	4.0	-	古後IVカ		皿38		1/2以下
239	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	KB8	D-6G No33	*12.0	-	-	大1		皿24	口縁内外灰釉	1/2以下
240	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	KB8	D-6G No34	*12.0	*4.8	2.0	大1		皿27	口縁内面灰釉	1/2以下
241	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	KB8	D-6G No35	-	-	-	大1		皿48	口縁内面灰釉	1/2以下
242	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	KB8	一括	*10.0	-	-	大1		皿47	口縁内面灰釉	1/2以下

第15表 土器類一覽表 6

出土した遺物

*は不確定な推定復元値

法量の単位は cm

図 No	器種	産地	調査名	出土地点	口径	底径	器高	時期・ 分類	年代	遺物 ID	備考	残存率
243	陶器・皿/腰折皿	瀬戸美濃	KB8	C-5G No124、一括	*11.0	*5.2	2.4	大1	15c 末～ 16c 初	町皿 129	内外灰釉/高台内輪 トチ痕	1/2以下
244	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	KB8	一括	*11.0	-	-	大1		皿28	内外灰釉	1/2以下
245	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	KB8	一括	*11.0	-	-	大1		皿35	内外灰釉	1/2以下
246	陶器・皿/端反又は丸皿	瀬戸美濃	KB8	C-4G No49、一括	-	6.3	-	大1・2		皿29	内外灰釉/菊花文押印 /高台内輪トチ痕	1/2以下
247	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	KB8	A-2G No30	-	-	-	大3		皿50	内外鉄釉	1/2以下
248	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	KB8	B-4G No59	*9.0	-	-	大3		皿49	内外鉄釉	1/2以下
249	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	KB8	一括	-	-	-	大3		皿60	内外鉄釉	1/2以下
250	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	KB8	一括	-	-	-	大3		皿51	内外鉄釉	1/2以下
251	陶器・皿/総織部皿	瀬戸美濃	KB8	D-6G No13	-	-	-	登1		皿59	内外緑釉/ウロコ状 文様沈線	1/2以下
252	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	KB8	C-6G No1	*12.8	-	-	登1		皿05	内外長石釉	1/2以下
253	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	KB8	一括	*10.9	*6.0	2.8	登1		皿03	内外長石釉	1/2以下
254	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	KB8	A-2G No5	-	-	-	登1・2		皿13	内外長石釉	1/2以下
255	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	KB8	B-2G No6	*14.0	-	-	登2		皿18	内外長石釉	1/2以下
256	陶器・皿/菊皿	瀬戸美濃	KB8	D-5G No20	14.0	7.0	4.2	登2・3		皿09	内面黄瀬戸釉・口縁 織部釉流し掛け/外 面織部釉・高台周辺 露胎/型打皿	略完形
257	陶器・皿/菊皿	瀬戸美濃	KB8	C-4G No81	-	-	-	登2・3		皿12	内外淡黄白色の釉/ 型打皿	1/2以下
258	陶器・皿/菊皿	瀬戸美濃	KB8	C-5G No148	-	-	-	登2・3		皿10	内外織部釉/型打皿	1/2以下
259	陶器・皿/菊皿	瀬戸美濃	KB8	C-5G No99、一括	*13.7	6.7	3.8	登3		皿08	黄瀬戸釉・高台周辺 露胎/内面円錐ピン 痕/型打皿	1/2以上
260	陶器・皿/輪髹皿	瀬戸美濃	KB8	C-4G No32	-	*7.8	-	登3		皿04	内外淡青白色の釉/ 高台周辺・底部内面 ドーナツ状に露胎	1/2以下
261	陶器・皿/反皿	瀬戸美濃	KB8	C-5G No13	-	-	-	登2・3		皿11	内外淡灰緑色の釉	1/2以下
262	陶器・皿/反皿	瀬戸美濃	KB8	C-5G (No149・210)	13.6	7.6	2.6	登3		皿01	内外灰釉・高台周辺 露胎/底部内面・高台 内円錐ピン痕	1/2以上
263	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	KB8	一括	*10.0	-	-	大2		皿23	内外灰釉	1/2以下
264	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	KB8	一括	-	-	-	登3・4カ		皿14	内外淡灰緑色の釉	1/2以下
265	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	KB8	C-4G No13	*13.8	*6.6	2.4	登3・4カ		皿02	内外灰釉・高台周辺 露胎/底部内面・高台 端部重焼き痕	1/2以下
266	陶器・皿/黄瀬戸皿	瀬戸美濃	KB8	一括	*12.0	-	-	登1カ		皿32	内外黄瀬戸釉・口縁 内面織部釉流し掛け	1/2以下
267	陶器・皿/灯明皿 (油皿)	瀬戸美濃	KB8	一括	*10.0	*5.2	1.5		19c	皿52	内面・口唇外面鉄釉/ 体部外面露胎	1/2以下
268	陶器・皿/灯明皿 (受皿)	瀬戸美濃	KB8	一括	*9.8	-	-		18～19c	皿56	内面・口縁外面鉄釉/ 棧端部・体部外面重 焼き痕	1/2以下
269	陶器・皿/灯明皿 (受皿)	瀬戸美濃	KB8	一括	*9.0	4.2	2.1		18～19c	皿57	内面・口唇外面鉄釉/ 棧端部・体部外面重 焼き痕	1/2以下
270	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	KB8	C-5G No100	*33.2	-	-	登1・2、 II類		町鉢 105	内外鉄釉	1/2以下
271	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	KB8	C-5G No128	-	-	-	登5		鉢03	内外鉄釉	1/2以下
272	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	KB8	D-5G No1	*30.0	-	-	大4後		鉢04	内外鉄釉/櫛目現存 10本	1/2以下
273	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	KB8	D-5G No18	*35.4	-	-	登1・2、 II類		町鉢 110	内外鉄釉	1/2以下
274	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	KB8	一括	-	-	-		18c	鉢22	内外鉄釉	1/2以下
275	陶器・鉢/鉄絵鉢	瀬戸美濃	KB8	A-2G No26	-	-	-	登1		皿21	内外透明釉/口縁内 面櫛目/鉄で文様	1/2以下
276	陶器・皿/青織部大 皿	瀬戸美濃	KB8	B-2G No8、B-4G No24	*26.8	*10.0	5.8	登1		皿22	全体に長石釉と口縁 に緑釉/口縁内面櫛 目/鉄で草花文カ	1/2以下
277	陶器・鉢/鉄絵鉢	瀬戸美濃	KB8	C-5G No181	-	-	-	登4	17c 後	鉢02	内外長石釉/鉄で文様	1/2以下
278	陶器・鉢/黄瀬戸鉢	瀬戸美濃	KB8	C-5G No207	-	-	-		17c 後	鉢01	内面織部釉流し掛け /3本1単位の櫛目3条	1/2以下
279	陶器・小坏	瀬戸美濃	KB8	D-6G No21	*8.8	-	-	登1・2		他02	内外鉄釉	1/2以下
280	陶器・小坏	瀬戸美濃	KB8	一括	*9.0	-	-	登1・2		他01	内外鉄釉・高台周辺 露胎	1/2以下

第16表 土器類一覧表7

*は不確定な推定復元値

法量の単位は cm

図 No	器種	産地	調査名	出土地点	口径	底径	器高	時期・ 分類	年代	遺物 ID	備考	残存率
281	陶器・小坏	瀬戸美濃	KB8	一括	*8.0	-	-	登1・2		他07	内外鉄釉	1/2以下
282	陶器・小坏	瀬戸美濃	KB8	C-5G No170、一括	*8.4	3.5	3.8	登3か4		町他12	内外鉄釉/体部・高台露胎	1/2以下
283	陶器・蓋	瀬戸美濃	KB8	一括	*12.0	-	-		16~17c	他08	内外鉄釉	1/2以下
284	陶器・甕	瀬戸美濃	KB8	一括	*18.4	-	-		18~19c	袋01	内外鉄釉	1/2以下
285	陶器・甕	瀬戸美濃	KB8	一括	16.4	-	-		18~19c	袋05	内外柿釉・口縁部灰釉流し掛け	1/2以下
286	陶器・德利	瀬戸美濃	KB8	一括	-	-	-		18~19c	袋02	内外鉄釉	1/2以下
287	陶器・德利	瀬戸美濃	KB8	一括	-	*9.0	-		18~19c	袋06	内外灰釉・高台周辺露胎	1/2以下
288	陶器・碗/丸碗	肥前	KB8	C-4G No10	*11.0	-	-		17c末~18c	碗10	内外透明釉	1/2以下
289	陶器・壺	肥前 (唐津)	KB8	一括	-	-	-		16c末~ 17c	袋03	内面鉄釉・外面灰釉	1/2以下
290	陶器・鉢/大皿	肥前 (唐津)	KB8	一括	-	*12.0	-		17c	鉢21	内面白土施した後鉄絵、緑釉を流し掛け・体部外面灰釉・高台周辺露胎/内面砂目積み痕	1/2以下
291	陶器・向付	肥前 (唐津)	KB8	一括	*11.0	*4.5	3.9		16c末~ 17c初	他03	内外透明釉・高台周辺露胎	1/2以下
292	陶器・皿/内禿皿	志戸呂	KB8	一括	*11.0	*6.6	2.0	大3後相当		皿54	口縁内外鉄釉・高台内重焼き痕	1/2以下
293	陶器・皿/丸皿	志戸呂	KB8	一括	-	-	-	大3後~ 大4前相当		皿53	内外灰釉・底部周辺露胎	1/2以下
294	陶器・播鉢	志戸呂	KB8	一括	-	-	-	大3後・ 大4相当		鉢06	内外錆釉	1/2以下
295	陶器・向付	志戸呂	KB8	B-2G No7	-	*6.0	-		16c末~17c	他05	内面鉄釉	1/2以下
296	陶器・向付	志戸呂	KB8	一括	-	*7.0	-		16c末~17c	他04	内面錆釉	1/2以下
297	陶器・皿/丸皿	初山	KB8	C-4G No11	-	*6.0	-	大3相当		皿39	内面鉄釉	1/2以下
298	陶器・播鉢	丹波	KB8	C-5G No140、一括	-	-	-		17c後	鉢31	樋目6本	1/2以下
299	陶器・皿/灯明皿 (受皿)	信楽	KB8	一括	*12.0	*5.0	2.3		19c	皿58	内面・口唇外面透明釉/口縁外面灯芯油痕	1/2以下
300	陶器・播鉢	堺	KB8	一括	-	-	-		19c	鉢23		1/2以下
301	陶器・小皿	東濃	KB8	一括	*10.0	-	2.1	5形式	12c後~13c前	皿61		1/2以下
302	磁器・碗/青磁碗	肥前	KB8	C-5G (No150・151)、一括	11.6	4.5	6.5		17c中	伊01	内外淡青緑色の釉・高台周辺露胎	1/2以上
303	磁器・碗/染付碗	肥前	KB8	C-5G No2、一括	*10.8	-	-		17c後~18c	伊22	山水文カ	1/2以下
304	磁器・碗/染付碗	肥前	KB8	C-5G No145	*11.0	-	-		17c後~18c前	伊23	鳥文	1/2以下
305	磁器・碗/染付碗	肥前	KB8	C-5G No176	*12.0	-	-		17c後~18c	伊09	草花文	1/2以下
306	磁器・碗/染付碗	肥前	KB8	C-5G No188	*9.8	-	-		17c後~18c	伊12	山水文カ	1/2以下
307	磁器・碗/染付碗	肥前	KB8	D-6G No53	*11.0	-	-		17c後~18c	伊15	草花文	1/2以下
308	磁器・碗/染付碗	肥前	KB8	一括	*11.6	-	-		17c末~18c	伊02	草花文・雁文	1/2以下
309	磁器・碗/染付碗	肥前	KB8	一括	*11.0	-	-		17c後~18c	伊08	山水文カ	1/2以下
310	磁器・碗/染付碗	肥前	KB8	C-4G No9、一括	*11.8	-	-		18c前	伊04	山水文	1/2以下
311	磁器・碗/染付碗	肥前	KB8	一括	*11.0	-	-		18c	伊10	こんにやく判で丸に桐葉文カ	1/2以下
312	磁器・碗/染付碗	肥前	KB8	一括	-	*4.0	-		19c	伊11	雷文カ	1/2以下
313	磁器・碗/染付碗	肥前	KB8	一括	-	-	-		18c	伊14	こんにやく判で菊花文	1/2以下
314	磁器・碗/染付碗	肥前	KB8	一括	-	4.0	-		18c	伊16	渦文・山水文カ	1/2以下
315	磁器・碗/染付碗	肥前	KB8	一括	-	-	-		19c	伊24	草花文・雷文	1/2以下
316	磁器・碗/染付小碗	肥前	KB8	D-5G No19	7.2	2.6	4.2		17c後~18c前	伊03	朝顔文・「呉」の銘	1/2以上
317	磁器・碗/色絵碗	肥前	KB8	一括	*11.0	-	-		17c後~18c	伊06	赤色で菊花文	1/2以下
318	磁器・碗/色絵碗	肥前	KB8	C-4G No7	*12.0	-	-		17c後~18c	伊07	緑色で草文	1/2以下
319	磁器・皿/染付皿	肥前	KB8	一括	-	-	-		18c	伊17		1/2以下
320	磁器・皿/染付皿	肥前	KB8	一括	-	-	-		19c	伊05	笹文	1/2以下
321	磁器・仏飯器	肥前	KB8	C-5G No136	-	4.6	-		17c後	伊20	底部周辺無釉	1/2以下
322	磁器・仏飯器	肥前	KB8	D-6G No20	-	3.9	-		18c後~19c	伊21	底部置付無釉	1/2以下
323	磁器・小坏	肥前	KB8	一括	*5.0	-	-		17c末~18c	伊19	草花文	1/2以下
324	土器・かわらけ	在地	KB8	B-4G No14	*10.0	*6.0	3.0			K32		1/2以下
325	土器・かわらけ	在地	KB8	C-4G No2	*9.0	-	-	騎西城Ⅳ期		K26		1/2以下
326	土器・かわらけ	在地	KB8	C-4G No33	9.5	5.7	2.2	騎西城Ⅲ期		K03		3/4以上
327	土器・かわらけ	在地	KB8	C-4G No43	*9.7	6.2	2.6	騎西城Ⅲ期		K01	口唇部灯芯油痕	1/2以上

第17表 土器類一覽表 8

出土した遺物

*は不確定な推定復元値

質量の単位は cm

図 No	器種	産地	調査名	出土地点	口径	底径	器高	時期・ 分類	年代	遺物 ID	備考	残存率
328	土器・かわらけ	在地	KB8	C-4G No69	10.3	6.2	3.0	騎西城Ⅲ期		K02	内面体底部境ナデ	完形
329	土器・かわらけ	在地	KB8	C-5G No23	11.6	7.4	2.8	騎西城Ⅱ期		K07	底部内面指頭ナデ/ 内面体底部境ナデ/ 底部外面板ナデ/口 唇部灯芯油痕	略完形
330	土器・かわらけ	在地	KB8	C-5G No28	11.2	6.8	2.7	騎西城Ⅱ期		K08		3/4以上
331	土器・かわらけ	在地	KB8	C-5G No107	*8.8	-	-	騎西城Ⅲ期		K27		1/2以下
332	土器・かわらけ	在地	KB8	C-6G No3	*10.4	*6.6	2.5			K28	胎土に角閃石含む	1/2以下
333	土器・かわらけ	在地	KB8	D-5G No11	8.2	4.6	2.2			K29	小型	1/2以下
334	土器・かわらけ	在地	KB8	D-5G No15	*11.7	*7.6	2.0			K34	内面スス付着	1/2以下
335	土器・かわらけ	在地	KB8	一括	*10.7	*6.4	2.9	騎西城Ⅰ期		K19		1/2以下
336	土器・かわらけ	在地	KB8	一括	*9.8	*6.0	2.3	騎西城Ⅰ期		K35		1/2以下
337	土器・かわらけ	在地	KB8	一括	*10.0	*6.0	2.6	騎西城Ⅱ期		K21		1/2以下
338	土器・かわらけ	在地	KB8	一括	*10.1	*7.5	2.7	騎西城Ⅲ期		K15		1/2以下
339	土器・かわらけ	在地	KB8	一括	*10.6	*6.0	2.7	騎西城Ⅲ期		K20		1/2以下
340	土器・かわらけ	在地	KB8	一括	*10.6	*8.0	2.6	騎西城Ⅲ期		K22	内部全面スス付着	1/2以下
341	土器・かわらけ	在地	KB8	一括	*10.6	-	-	騎西城Ⅲ期		K23		1/2以下
342	土器・かわらけ	在地	KB8	一括	*12.0	-	-	騎西城Ⅲ期		K30		1/2以下
343	土器・かわらけ	在地	KB8	一括	*9.2	-	-	騎西城Ⅲ期		K38		1/2以下
344	土器・かわらけ	在地	KB8	一括	9.0	5.5	2.7			K12	内面体底部境ナデ	1/2以上
345	土器・かわらけ	在地	KB8	一括	*10.0	-	-			K16	口縁内外スス付着	1/2以下
346	土器・かわらけ	在地	KB8	一括	*9.4	-	-			K17		1/2以下
347	土器・かわらけ	在地	KB8	一括	*10.0	-	-			K36		1/2以下
348	土器・かわらけ	在地	KB8	一括	*7.6	-	-			K41		1/2以下
349	土器・ほうろく	在地	KB8	A-2G No21	-	-	-			H18		1/2以下
350	土器・ほうろく	在地	KB8	B-3G No13	-	-	-			H17	外面スス付着	1/2以下
351	土器・ほうろく	在地	KB8	B-3G No23	-	-	5.6			H11		1/2以下
352	土器・ほうろく	在地	KB8	C-4G No77	-	-	5.5			H22		1/2以下
353	土器・ほうろく	在地	KB8	C-4G No84	-	-	-			H20		1/2以下
354	土器・ほうろく	在地	KB8	C-5G No20	-	-	5.5			H21		1/2以下
355	土器・ほうろく	在地	KB8	C-5G No97	-	-	6.0			H24		1/2以下
356	土器・ほうろく	在地	KB8	C-5G No101	-	-	5.7			H19		1/2以下
357	土器・ほうろく	在地	KB8	C-5G No148、一括	-	-	4.8			H15		1/2以下
358	土器・ほうろく	在地	KB8	一括	-	-	-			H09	外面スス付着	1/2以下
359	土器・ほうろく	在地	KB8	一括	-	-	5.3			H23		1/2以下
360	土器・ほうろく	在地	KB8	D-5G No23	*38.0	-	-	中間型		町 H58	胎土焼成/ほうろく類似	1/2以下
361	土器・土鍋	在地	KB8	C-4G No64	-	-	-		15c 後	D02	外面スス付着	1/2以下
362	土器・搦鉢	在地	KB8	B-3G No6	-	-	-			鉢29		1/2以下
363	土器・搦鉢	在地	KB8	B-3G No21	-	-	-			鉢28		1/2以下
364	土器・搦鉢	在地	KB8	C-4G No46	-	-	-			鉢27		1/2以下
365	土器・搦鉢	在地	KB8	C-5G (No116・121)、一括	*28.0	-	-			鉢25		1/2以下
366	土器・搦鉢	在地	KB8	C-5G (No120・122・123)	*30.0	-	-			鉢30	櫛目7本	1/2以下
367	土器・片口鉢	在地	KB8	B-4G No11	-	-	-		13c 中～後	鉢17	小石含む	1/2以下
368	土器・片口鉢	在地	KB8	C-5G No133	-	-	-		13c 後	鉢26	外面スス付着/小石含む	1/2以下
369	土器・香炉	在地	KB8	1T	-	-	-			素他3	四角の中に斜線の押印	1/2以下
370	土器・香炉	在地	KB8	D-6G No8	*14.2	-	-			素他1	菊花の印花文	1/2以下
371	土器・香炉	在地	KB8	一括	-	-	-			素他2	菊花の印花文	1/2以下
372	土器・火鉢	在地	KB8	B-4G No3	-	-	-			火鉢5	菊花の印花文/円形	1/2以下
373	土器・火鉢	在地	KB8	C-5G No142、一括	*40.0	-	-			火鉢4	円形	1/2以下
374	土器・火鉢	在地	KB8	一括	-	-	-			火鉢2	雷文/角火鉢	1/2以下
375	土器・火鉢	在地	KB8	B-4G No1、C-4G No28	-	-	-	角	14c 後	町鉢281	雷文/角火鉢	1/2以下
376	土器・壺	在地	KB8	B-4G No70	*12.0	-	-		14c カ	袋10	金雲母含む栃木県産カ	1/2以下
377	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	KB11	1溝No24	-	4.4	-	登2～		天03	内面鉄釉・高台周辺露胎	1/2以下
378	磁器・碗/天目	肥前	KB11	1溝No30	*11.0	-	-		17c 中	伊05	口唇部鉄釉	1/2以下
379	磁器・碗/染付碗	肥前	KB11	1溝No29	-	*4.6	-		18c	伊10	内外灰白色の釉・高 台端部露胎/圈線	1/2以下
380	磁器・香炉	肥前	KB11	1溝No28	-	*7.0	-		19c	伊06	底面環状露胎/圈線	1/2以下
381	陶器・煙硝搦	瀬戸美濃	KB11	5溝No12、一括	*14.4	7.2	6.9		17c 後	鉢01	口縁内面・体部外面 鉄釉/高台周辺露胎	1/2以下

第18表 土器類一覧表 9

*は不確定な推定復元値

法量の単位は cm

図 No	器種	産地	調査名	出土地点	口径	底径	器高	時期・ 分類	年代	遺物 ID	備考	残存率
382	陶器・播鉢	志戸呂	KB11	5溝No19、一括	-	-	-	大4相当		鉢03	内外錆釉/櫛目12本	1/2以下
383	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系 中国	KB11	7溝No7	-	-	-	A-4類	12c~13c	青01	内外暗緑色の釉/櫛 状工具で文様	1/2以下
384	陶器・皿/大皿	志戸呂	KB11	1壙	-	-	-		16c 後	皿05	内外鉄釉	1/2以下
385	磁器・皿/染付皿	中国	KB11	一括	-	*6.0	-	B-1群	15c 中~ 16c 中	染01	高台端部露胎/玉取 獅子・唐草文	1/2以下
386	焼締陶器・片口鉢	常滑	KB11	一括	-	-	-	8形式、II類	1350~1400	鉢05		1/2以下
387	焼締陶器・甕	常滑	KB11	一括	-	-	-		~16c	袋01	外面自然釉	1/2以下
388	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	KB11	一括	*11.4	4.6	5.2	大4		天01	内外鉄釉・高台露胎	1/2以下
389	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	KB11	一括	*11.0	-	-	登1		天02	内外鉄釉・高台周辺露胎	1/2以下
390	陶器・碗/丸碗	瀬戸美濃	KB11	一括	-	*4.7	-		18c	碗01	内外灰釉・高台周辺露胎	1/2以下
391	陶器・碗/湯呑 (せんじ)	瀬戸美濃	KB11	一括	*10.2	*4.4	*6.2		18c 中~後	碗02	内外灰釉・一部鉄釉	1/2以下
392	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	KB11	一括	*11.8	*6.6	2.1	大4		皿01	内外長石釉・高台内 一部露胎/高台内凹 錘ピン痕	1/2以下
393	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	KB11	一括	*12.6	-	-	登2		皿04	内外長石釉	1/2以下
394	陶器・皿/反皿	瀬戸美濃	KB11	一括	*13.6	-	-		17c 後	皿03	内外灰釉	1/2以下
395	陶器・皿/馬の目皿	瀬戸美濃	KB11	一括	-	-	-		18c 末~19c	皿06	口縁部鉄釉/渦文	1/2以下
396	陶器・皿/灯明皿	瀬戸美濃	KB11	観音寺表採	8.6	3.6	1.9		18c 中	皿07	内外鉄釉・体部以下 露胎/内外重ね焼き 痕/口唇部に貼付	1/2以上
397	陶器・皿/染付皿	瀬戸美濃	KB11	一括	*14.0	-	-		19c 前	皿02	呉須で文様・陶胎染付	1/2以下
398	陶器・播鉢	瀬戸美濃	KB11	一括	-	-	-	登1		鉢02		1/2以下
399	磁器・碗/染付碗	肥前	KB11	一括	-	*4.0	-		17c 末~18c	伊01	二重の網目文	1/2以下
400	磁器・碗/染付碗	肥前	KB11	一括	-	*4.6	-		17c 末~18c	伊02	網目文/高台端部砂溶着	1/2以下
401	磁器・碗/染付碗	肥前	KB11	一括	-	*5.1	-		18c 前	伊03	花文・線書き文様を 描きタミ筆で塗る	1/2以下
402	磁器・碗/染付碗	肥前	KB11	一括	-	*4.6	-		18c 前	伊04	草花文/高台端部砂溶着	1/2以下
403	磁器・碗/染付碗	肥前	KB11	一括	*9.0	-	-			伊08	雨降り文	1/2以下
404	磁器・碗/染付碗	肥前	KB11	一括	*11.0	-	-		18c 前	伊09	草花文	1/2以下
405	磁器・碗/染付碗	肥前	KB11	一括	-	*4.6	-		19c	伊11	高台端部露胎/圏線	1/2以下
406	磁器・碗/染付碗	肥前	KB11	一括	*6.6	-	-		19c	伊12	圏線	1/2以下
407	磁器・碗/染付碗	肥前	KB11	一括	-	-	-		18c 後	伊13	圏線・草花文	1/2以下
408	磁器・碗/染付碗	肥前	KB11	一括	-	-	-		18c 前	伊14	花文・格子目文	1/2以下
409	磁器・碗/色絵碗	肥前	KB11	一括	*10.0	-	-		18c	伊15	赤色圏線	1/2以下
410	磁器・鉢/染付蓋付鉢	肥前	KB11	一括	*9.6	-	-		18c~19c	伊07	筆と硯文	1/2以下
411	磁器・碗/染付碗	瀬戸美濃	KB11	一括	-	*4.0	-		19c	瀬美2	花文	1/2以下
412	磁器・碗/染付箱形湯呑	瀬戸美濃	KB11	一括	*5.0	-	-		19c	瀬美1	草花文	1/2以下
413	土器・片口鉢	在地	KB11	一括	-	-	-		13c 後~14c	鉢04	須恵質	1/2以下
414	土器・平瓦	在地	KB11	一括	-	-	2.0		17c~	瓦01		1/2以下
415	土器・平瓦	在地	KB11	一括	-	-	1.8		17c~	瓦04		1/2以下
416	土器・平瓦	在地	KB11	一括	-	-	1.7		17c~	瓦02		1/2以下
417	土器・平瓦	在地	KB11	一括	-	-	2.1		17c~	瓦05		1/2以下
418	土器・平瓦	在地	KB11	一括	-	-	1.7		17c~	瓦13		1/2以下
419	土器・平瓦	在地	KB11	一括	-	-	1.7		17c~	瓦11		1/2以下
420	土器・丸瓦	在地	KB11	一括	-	-	2.0		17c~	瓦08		1/2以下
421	土器・丸瓦	在地	KB11	一括	-	-	1.9		17c~	瓦06		1/2以下
422	土器・棧瓦	在地	KB11	一括	-	-	1.8		17c~	瓦03		1/2以下
423	土器・棧瓦	在地	KB11	一括	-	-	1.8		17c~	瓦10		1/2以下
424	土器・棟瓦	在地	KB11	一括	-	-	1.6		17c~	瓦07	焼成堅緻/白色粒子 を多量に含む	1/2以下
425	土器・曲り瓦カ	在地	KB11	一括	-	-	3.9		17c~	瓦09		1/2以下
426	土器・軒平瓦	在地	KB11	一括	-	-	1.9		17c~	瓦14		1/2以下
427	土器・熨斗瓦	在地	KB11	一括	-	-	2.2		17c~	瓦12		1/2以下
428	磁器・皿/白磁皿	中国	KB12	3溝	*12.0	-	-	C-1群	15c 後~16c 前	白01	内外灰白色の釉	1/2以下
429	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	KB12	3溝	*11.0	-	-	大1		天01	内外鉄釉・腰部外面 錆釉	1/2以下
430	陶器・皿/灯明皿 (受皿)	瀬戸美濃	KB12	3溝No102	*8.0	*4.0	1.5		18c~19c	皿05	内外鉄釉/外面スス 付着	1/2以下
431	陶器・播鉢	瀬戸美濃	KB12	3溝No131	-	-	-	大3前		鉢02	内外錆釉	1/2以下

第19表 土器類一覽表10

*は不確定な推定復元値

法量の単位は cm

図 No	器種	産地	調査名	出土地点	口径	底径	器高	時期・ 分類	年代	遺物 ID	備考	残存率
432	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	KB12	3溝	-	-	-	大3前		鉢01	内外錆釉	1/2以下
433	陶器・搦鉢	志戸呂	KB12	3溝No87	-	-	-		大3後~大4相当	鉢09	内外鉄釉	1/2以下
434	磁器・碗/染付碗	肥前	KB12	3溝No21T	*10.0	-	-		18c	伊08	文様	1/2以下
435	磁器・碗/染付碗	肥前	KB12	3溝No151T	-	4.1	-		18c	伊01	圏線・文様/高台端部 砂溶着	1/2以下
436	磁器・碗/染付碗	肥前	KB12	3溝No117	-	4.5	-		18c	伊02	圏線・文様/高台端部 砂溶着	1/2以下
437	磁器・碗/染付碗	肥前	KB12	3溝(No127、一括)	*9.0	-	-		18c末~19c	伊10	圏線・笹の葉文	1/2以下
438	磁器・碗/染付筒形碗	肥前	KB12	3溝No98	-	3.5	-		18c末~19c初	伊13	外面青磁釉/五弁花	1/2以下
439	磁器・蓋/染付蓋	肥前	KB12	3溝(No124、一括)、一括	*8.6	*5.0	1.9		19c	伊15	海浜風景文	1/2以下
440	土器・かわらけ	在地	KB12	3溝No113	*9.0	*6.4	2.5			K10	口縁部灯芯油痕	1/2以下
441	土器・かわらけ	在地	KB12	3溝	*10.0	-	-			K11		1/2以下
442	土器・ほうろく	在地	KB12	3溝	37.0	34.0	5.8			H09	外面工具痕/外面ス ス付着	3/4以上
443	土器・瓦/平瓦	在地	KB12	3溝No161T	-	-	1.9		江戸	瓦07		1/2以下
444	土器・瓦/平瓦	在地	KB12	3溝No123	-	-	1.8		江戸	瓦04		1/2以下
445	土器・瓦/丸瓦	在地	KB12	3溝No97	-	-	2.5			瓦02		1/2以下
446	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	KB12	4溝	*11.0	-	-	大1		天02	内外鉄釉	1/2以下
447	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	KB12	4溝No28	*8.4	*5.0	2.1	大3前		皿01	内外灰釉/高台内輪 トチン痕	1/2以下
448	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	KB12	4溝No172、一括	*10.4	0	-	大3		皿02	内外灰釉	1/2以下
449	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	KB12	4溝	*10.0	-	-	大3		皿08	内外鉄釉	1/2以下
450	陶器・皿/内禿皿	瀬戸美濃	KB12	4溝No184	-	*6.0	-	大3		皿06	内外灰釉/底部内外 露胎	1/2以下
451	陶器・皿/志野菊皿	瀬戸美濃	KB12	4溝No51、一括	*12.4	*7.0	2.7	登1		皿04	内外長石釉	1/2以下
452	陶器・皿/菊皿	瀬戸美濃	KB12	4溝No48	*13.4	7.8	2.5		17c後	皿03	内外黄瀬戸釉の上に 緑釉流し掛け/内面 円錐ピン痕/型打皿	1/2以上
453	陶器・鉢/搦鉢又は 折縁深皿	瀬戸美濃	KB12	4溝No148	-	-	-	古後IV		鉢04	内外灰釉	1/2以下
454	陶器・鉢/刷毛目文鉢	肥前(唐津)	KB12	4溝No40	*26.0	-	-		17c後	鉢06	内面白土を施し波状 刷毛目文	1/2以下
455	陶器・搦鉢	志戸呂	KB12	4溝No155	-	*10.0	-		大3後~大4相当	鉢08	内外錆釉/櫛目10本	1/2以下
456	磁器・碗/染付碗	肥前	KB12	4溝(No165・178・179)	*8.6	*3.2	5.1		17c中	伊09	圏線・唐草文/高台端 部砂溶着	1/2以下
457	土器・かわらけ	在地	KB12	4溝No35	*11.8	*7.6	2.3			K02		1/2以下
458	土器・かわらけ	在地	KB12	4溝(No36、一括)、3溝	*11.0	*5.6	3.5			K07		1/2以下
459	土器・かわらけ	在地	KB12	4溝(No37、一括)	*11.6	*4.8	3.5			K05	底部内面指頭ナデ	1/2以下
460	土器・かわらけ	在地	KB12	4溝(No45、一括)、一括	*10.0	*6.0	2.1			K09		1/2以下
461	土器・かわらけ	在地	KB12	4溝No63	*11.2	*8.0	2.7			K04		1/2以下
462	土器・かわらけ	在地	KB12	4溝(No156・158、一括)	*12.2	-	-			K08		1/2以下
463	土器・かわらけ	在地	KB12	4溝(No157、一括)	*11.0	-	-			K06		1/2以下
464	土器・かわらけ	在地	KB12	4溝No197	*12.2	*5.0	3.7			K14	内面体底部境ナデ	1/2以下
465	土器・かわらけ	在地	KB12	4溝、一括	*11.2	-	-			K03		1/2以下
466	土器・かわらけ	在地	KB12	4溝	*11.0	-	-			K12		1/2以下
467	土器・かわらけ	在地	KB12	4溝	*12.0	-	-			K13		1/2以下
468	土器・かわらけ	在地	KB12	4溝	*11.6	-	-			K16		1/2以下
469	土器・ほうろく	在地	KB12	4溝(No58・59・62・63・67・ 68・70・71・181・185、一括)	*34.0	*30.0	5.3			H01	外面スス付着	1/2以下
470	土器・ほうろく	在地	KB12	4溝No69	*34.2	*29.0	4.8			H08	外面スス付着	1/2以下
471	土器・ほうろく	在地	KB12	4溝	*37.0	-	-			H05		1/2以下
472	磁器・碗/染付碗	肥前	KB12	8溝	-	4.2	-		18c前	伊03	圏線・文様・高台内渦 福銘/高台端部砂溶着	1/2以下
473	陶器・皿/端反又は 丸皿	瀬戸美濃	KB12	16溝No72	-	*7.0	-	大1・2		皿07	旧11溝。内外灰釉/菊 花文が押印	1/2以下
474	磁器・碗/染付碗	中国	KB12	12溝	-	-	-	C群	15c中~ 16c中	染01	圏線・花文	1/2以下
475	磁器・碗/染付碗	肥前	KB12	12溝	-	4.1	-		18c	伊07	圏線・草花文	1/2以下
476	土器・ほうろく	在地	KB12	12溝	-	-	4.9			H04		1/2以下
477	陶器・搦鉢	志戸呂	KB12	2井	*29.0	-	-		16c中~後	町鉢126		1/2以下
478	土器・かわらけ	在地	KB12	1壙No198、1溝	11.2	7.0	2.6~2.8			K01	内面体底部境ナデ	略完形

第20表 土器類一覧表11

*は不確定な推定復元値

質量の単位は cm

図No	器種	産地	調査名	出土地点	口径	底径	器高	時期・分類	年代	遺物ID	備考	残存率
479	陶器・鉢/刷毛目文鉢	肥前(唐津)	KB12	5墳	-	*11.0	-		17c 後	鉢05	内面白土を施し刷毛目文/内面重ね焼きの砂目痕	1/2以下
480	磁器・碗/染付碗	肥前	KB12	5墳	-	4.3	-		17c 後	伊04	圏線・草花文・ぶどう文	1/2以下
481	磁器・碗/染付碗	肥前	KB12	5墳	*10.0	-	-		18c	伊05	二重網目文	1/2以下
482	磁器・碗/染付碗	肥前	KB12	5墳	-	*4.0	-		18c	伊06	圏線/高台端部砂溶着	1/2以下
483	磁器・皿/染付皿	肥前	KB12	5墳	*14.0	*8.0	3.8		17c 末~18c 前	伊11	五弁花・底部外面大明年製	1/2以下
484	磁器・猪口	肥前	KB12	5墳	-	*6.0	-		18c	伊12	圏線・草花文	1/2以下
485	磁器・小坏/白磁小坏	肥前	KB12	5墳	*8.0	-	-		17c 後~18c 中	伊14		1/2以下
486	磁器・香炉/青磁香炉	波佐見	KB12	5墳	-	*6.0	-		17c 末~18c 中	他01	内外厚い青磁釉・高台内環状に露胎	1/2以下
487	土器・ほうろく	在地	KB12	5墳	-	-	2.7		19c	H02	外面スス付着	1/2以下
488	土器・瓦/丸瓦	在地	KB12	5墳	-	-	1.8		江戸	瓦01		1/2以下
489	土器・瓦/平瓦	在地	KB12	5墳	-	-	1.8		江戸	瓦03		1/2以下
490	土器・瓦/平瓦	在地	KB12	5墳	-	-	1.9		江戸	瓦05		1/2以下
491	土器・瓦/平瓦	在地	KB12	5墳	-	-	1.9		江戸	瓦06		1/2以下
492	磁器・碗/青磁碗	同安窯系中国	KB12	一括	-	-	-	I 類	12c 中~13c 末	青01	黄緑色の釉/ジグザグ文	1/2以下
493	磁器・碗/染付碗	中国	KB12	一括	-	*4.6	-	E 群	16c 中~後	染02	圏線・花文	1/2以下
494	磁器・皿/染付皿	中国	KB12	一括	*10.0	-	-	E 群	16c 中~後	染03	圏線	1/2以下
495	焼締陶器・片口鉢	常滑	KB12	一括	-	-	-	5・6a、I 類		鉢10		1/2以下
496	陶器・鉢/折縁深皿	瀬戸美濃	KB12	一括	-	-	-	古中II		鉢03	内外灰釉	1/2以下
497	陶器・鉢/刷毛目文鉢	肥前(唐津)	KB12	一括	-	-	-		17c 後	鉢07	内面白土を施し刷毛目文の上に鉄釉・緑釉流し掛け/外面灰釉	1/2以下
498	陶器・小壺	志戸呂	KB12	一括	*6.8	-	-		17c	袋01	内外鉄釉	1/2以下
499	陶器・皿/灯明皿(油皿)	信楽	KB12	一括	*9.0	-	-		19c	皿09	内外透明釉	1/2以下
500	磁器・皿/青磁中皿	波佐見	KB12	一括	-	-	-		17c 末~18c 中	他02	内外青磁釉/片彫り花文	1/2以下
501	土器・ほうろく	在地	KB12	1T No7	-	-	4.8			H03	外面スス付着	1/2以下
502	土器・ほうろく	在地	KB12	一括	-	-	3.0		19c	H06		1/2以下
503	土器・ほうろく	在地	KB12	一括	*36.0	*31.6	5.5			H07	内外スス付着	1/2以下
504	土器・かわらけ	在地	第16次	3墳、一括	*11.0	-	-			K06		1/2以下
505	土器・ほうろく	在地	第16次	3墳	-	-	-			H05		1/2以下
506	土器・土鍋	在地	第16次	3墳	-	-	-			D01		1/2以下
507	土器・火鉢	在地	第16次	3墳	-	-	-			火鉢2	円形	1/2以下
508	土器・かわらけ	在地	第16次	8墳	*10.0	-	-			K05		1/2以下
509	磁器・碗/染付碗	肥前	第16次	19墳	-	-	-		18c~19c	伊02	旧1井。圏線・文様	1/2以下
510	土器・かわらけ	在地	第16次	19墳No6	-	4.0	-			K01	旧1井No6	1/2以下
511	土器・かわらけ	在地	第16次	19墳、一括	10.2	5.7	2.7	騎西城III期		K02	旧1井	1/2以上
512	土器・かわらけ	在地	第16次	19墳、一括	*10.0	-	-			K03	旧1井	1/2以下
513	土器・かわらけ	在地	第16次	19墳	*11.0	-	-			K04	旧1井	1/2以下
514	土器・ほうろく	在地	第16次	19墳	-	-	-			H02	旧1井。外面スス付着	1/2以下
515	土器・ほうろく	在地	第16次	19墳	*33.6	*30.0	5.6			H03	旧1井。外面スス付着	1/2以下
516	土器・土鍋	在地	第16次	19墳	-	-	-			D02	旧1井	1/2以下
517	土器・搦鉢	在地	第16次	19墳	-	-	-			鉢01	旧1井	1/2以下
518	土器・火鉢	在地	第16次	19墳	-	-	-			火鉢1	旧1井。角火鉢	1/2以下
519	陶器・碗/染付碗	瀬戸美濃	第16次	一括	-	-	-		18c 末	碗01	内外透明釉/文様	1/2以下
520	陶器・皿/菊皿	瀬戸美濃	第16次	一括	-	-	-	登2		皿02	内外灰釉・外面下方露胎/型打皿	1/2以下
521	陶器・香炉	瀬戸美濃	第16次	一括	*8.0	-	-	古後IV(古)		香01	口縁内面・外面灰釉/他露胎	1/2以下
522	陶器・香炉	瀬戸美濃	第16次	一括	-	-	-		18c~19c	香02	外面灰釉・底部付近外面露胎	1/2以下
523	陶器・皿/灯明皿(油皿)	志戸呂	第16次	一括	*10.0	-	-		19c	皿01	内外錆釉・外面下方露胎	1/2以下
524	陶器・搦鉢	堺カ	第16次	一括	-	-	-		19c	鉢02		1/2以下
525	磁器・碗/染付碗	肥前	第16次	一括	*10.0	-	-		18c 中	伊01	雷文・草花文	1/2以下

第21表 土器類一覽表12

出土した遺物

*は不確定な推定復元値

量の単位は cm

図 No	器種	産地	調査名	出土地点	口径	底径	器高	時期・ 分類	年代	遺物 ID	備考	残存率
526	磁器・碗/染付碗	肥前	第16次	一括	*7.0	-	-		18c	伊03	笹の葉文	1/2以下
527	磁器・皿/青磁皿	肥前	第16次	一括	*12.0	-	-		17c 後	伊06	内外淡青緑色の釉	1/2以下
528	陶器・瓶/青磁瓶	肥前	第16次	一括	*6.0	-	-		17c 末~ 18c 中	伊05	内外淡青緑色の釉	1/2以下
529	陶器・瓶/小瓶	肥前	第16次	一括	-	*5.0	-		19c	伊04		1/2以下
530	土器・ほうろく	在地	第16次	一括	-	-	5.2			H01		1/2以下
531	土器・ほうろく	在地	第16次	一括	-	-	5.0			H04	旧11壙No16	1/2以下
532	磁器・鉢/青磁鉢	龍泉窯系 中国	第23次	T2溝、B 区No91	-	-	-		16c 中	青02	旧 B 区2溝。内 外 緑色の釉/沈線で文様	1/2以下
533	陶器・鉢/黄瀬戸大皿	瀬戸美濃	第23次	T2溝No147、B 区No31	*29.0	*18.0	5.6	登1・2		鉢01	旧 B 区2溝。内 外 黄瀬戸釉・高台内一部露胎・底部内面1ヶ所釉ハギ痕/高台内トチン痕	1/2以下
534	陶器・鉢/大皿	志戸呂	第23次	T2溝No129	*26.0	-	-	大3後~ 大4相当		鉢02	旧 B 区2溝。内 外 錆釉	1/2以下
535	土器・かわらけ	在地	第23次	T2溝No166	*10.4	-	-		不明	K07	旧 B 区2溝。	1/2以下
536	陶器・皿/鉄絵皿	瀬戸美濃	第23次	T3井No177	*13.4	*8.0	2.5	大4後		皿02	旧 B 区2井。内 外 長石釉・高台内露胎/鉄で文様	1/2以下
537	土器・かわらけ	在地	第23次	T3井	10.4	5.5	2.5		不明	K01	旧 B 区2井。底 部 内面渦巻ナデ	完形
538	陶器・徳利	瀬戸美濃	第23次	T18壙No105	-	*15.0	-	大2		袋01	旧 B 区2壙。外 面 鉄釉/底・腰部濃い錆釉	1/2以下
539	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系 中国	第23次	T9壙No8	-	-	-	B-1	13c~	青01	旧 A 区9壙。内 外 暗緑色の釉/蓮弁文	1/2以下
540	陶器・皿/青織部皿	瀬戸美濃	第23次	A 区No196	-	-	-	登1		皿07	旧6壙。内外透明釉・口縁内面緑釉/鉄で同心円又は渦巻文	1/2以下
541	焼締陶器・小甕	常滑	第23次	B 区No85	-	-	-	11形式	1500~50	袋02		1/2以下
542	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	第23次	B 区No25、一括	11.9	6.2	2.3 ~ 2.5	登2		皿01	内外長石釉・高台内一部露胎/内面・高台内円錐ビン痕	略完形
543	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	第23次	B 区No26	-	*8.0	-	大4後		皿03	内外長石釉・高台内露胎/高台内輪トチン痕	1/2以下
544	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	第23次	B 区No54	*12.0	-	-	大4後		皿04	内外長石釉	1/2以下
545	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	第23次	一括	*12.0	*6.0	2.4	登2		皿05	内外長石釉・高台内露胎	1/2以下
546	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	第23次	一括	*10.0	-	-	大2		皿06	内外灰釉	1/2以下
547	陶器・片口	瀬戸美濃	第23次	一括	-	7.8	-		17c~	鉢03	内面錆釉・外面露胎/内面団子トチ?痕	1/2以下
548	陶器・向付/志野向付	瀬戸美濃	第23次	一括	*13.0	-	-	大4後		他01	内外長石釉	1/2以下
549	陶器・向付/黄瀬戸向付	瀬戸美濃	第23次	B 区No102	-	-	-	大4		他02	内外黄瀬戸釉/入隅の四方形に型打ち整形	1/2以下
550	陶器・蓋	瀬戸美濃	第23次	一括	4.0	-	-		不明	他03	上面錆釉の後黄瀬戸釉・下面露胎	3/4以上
551	陶器・香炉	瀬戸美濃	第23次	一括	-	-	-		18c~	香01	内面錆釉・外面鉄釉・腰部露胎	1/2以下
552	陶器・碗/丸碗	志戸呂	第23次	一括	*10.0	-	-	大3後~ 大4相当		碗01	内外灰釉	1/2以下
553	陶器・碗/天目	初山	第23次	一括	*11.0	-	-	大3相当		天01	内外鉄釉	1/2以下
554	陶器・茶入	備前	第23次	一括	-	-	-		16c 末	他04		1/2以下
555	土器・かわらけ	在地	第23次	B 区No48	10.7	6.5	2.4~2.6		不明	K02		略完形
556	土器・かわらけ	在地	第23次	B 区No22・40	*11.0	*6.8	2.6		不明	K03		1/2以下
557	土器・かわらけ	在地	第23次	B 区No74	11.0	6.8	2.5		不明	K04	底部外面板ナデ	1/2以上
558	土器・かわらけ	在地	第23次	B 区No9・115・117、西、一括	*10.6	6.8	2.3		不明	K05	底部内面渦巻ナデ	1/2以上
559	土器・かわらけ	在地	第23次	B 区No79	*11.0	-	-		不明	K06		1/2以下
560	土器・かわらけ	在地	第23次	B 区No159	*12.0	-	-		16c 後	K08	手づくね整形を模倣カ	1/2以下
561	土器・ほうろく	在地	第23次	B 区No47	-	-	6.0		不明	H01		1/2以下
562	土器・ほうろく	在地	第23次	B 区No49	-	-	-		不明	H02		1/2以下
563	土器・火鉢	在地	第23次	一括	-	*17.0	-		不明	火鉢1	胎土に黒雲母含む	1/2以下
564	土器・瓦	在地	第23次	B 区No2	-	-	-		13c 前~	瓦1		1/2以下
565	土器・土製円盤	在地	KB7	1溝 B-1G No46	-	-	-			つぶて石2	かわらけ	

第22表 土器類一覧表13

*は不確定な推定復元値

法量の単位は cm

図 No	器種	産地	調査名	出土地点	口径	底径	器高	時期・ 分類	年代	遺物 ID	備考	残存率
566	土器・土製円盤	在地	KB7	E-7G No1	-	-	-			つぶて 石1	かわらけ	
567	土器・土製円盤	在地	KB7	一括	-	-	-			つぶて 石3	かわらけ	
568	陶器・土製円盤	瀬戸美濃	KB7	一括	-	-	-	大		つぶて 石4	徳利	
569	陶器・土製円盤	瀬戸美濃	KB7	一括	-	-	-	大1		他02	端反皿	
570	陶器・土製円盤	瀬戸美濃	KB7	一括	-	-	-	大4		他03	志野碗	
571	陶器・土製円盤	瀬戸美濃	KB7	一括	-	-	-	登1～		他04	天目	
572	陶器・土製円盤	瀬戸美濃	KB7	一括	-	-	-	登1・2		他05	志野皿	
573	陶器・土製円盤	瀬戸美濃	KB7	一括	-	-	-	登2・3		他06	天目	
574	陶器・土製円盤	瀬戸美濃	KB7	一括	-	-	-	大1～3		他07	天目	
575	陶器・土製円盤	瀬戸美濃	KB7	一括	-	-	-	登		他09	黄瀬戸鉢	
576	陶器・土製円盤	瀬戸美濃	KB7	一括	-	-	-	登～		他10	碗	
577	陶器・土製円盤	肥前	KB7	一括	-	-	-		17c 後	他11	刷毛目碗	
578	陶器・土製円盤	瀬戸美濃	KB7	B-2G No11	-	-	-	登1～		他08	天目	
579	陶器・土製円盤	常滑	KB8	一括	-	-	-			つぶて 石1	甕	
580	磁器・土製円盤	肥前	KB8	一括	-	-	-			伊18	染付皿	
581	陶器・土製円盤	常滑	KB11	一括	-	-	-		～16c	つぶて 石1	甕	
582	陶器・土製円盤	瀬戸美濃	KB12	3溝No118	-	4.5	-	登2～		つぶて 石1	天目	
583	陶器・土製円盤	瀬戸美濃	KB12	一括	-	-	-		17c～	他03	天目	
584	陶器・土製円盤	瀬戸美濃	第16次	19壙	-	-	-		16c～	他01	徳利	
585	陶器・土製円盤	志戸呂	第16次	19壙	-	-	-			つぶて 石1	徳利	
586	土器・土鈴	在地	KB12	4溝No55	3.7	2.7				0012- 0001		

第23表 土器類一覧表14

第2節 木製品類

(1) 概要

本報告のKB7・8・11・12区・第16次の調査では生活用具、生業の道具、いくさ関係のもの、他に加工材など広範囲な用途・状態の遺物が出土する。

【凶化木製品】

○生活に関するもの

「貯蔵」では桶が出土する。

1は7区1号溝出土の側板。板目取りの非常に小ぶりなものであるが、タガを締めた痕跡を観察できる。

2は7区5号井戸出土の底板であるが、厚みが0.2～1cmとやや薄めであることから蓋板の可能性もある。樹種はモミ属である。

3は8区10号井戸出土の側板。底板の小破片である。板目取り。木釘痕は観察できなかった。

4は3と同じ8区10号井戸出土の板目取りの側板。1.3cmと厚手であるが、先端が腐食。節の周辺を丁寧に平らになるよう整形する。

5、6は7区1号溝出土の曲物の側板片である。非常に薄い。2点は同一個体と考えられるが接合箇所は確認できなかった。

7は7区1号溝出土で三宝の縁と思われる。樹種はスギ。木釘が1箇所残る。表面に黒い付着物があるが肉眼観察のみで詳細は不明。板目取り。極小破片のため全体の形は明らかになっていない。

「食膳」では白木椀、漆椀、箸、杓子が出土する。

8は11区6号溝出土。極小破片で遺物の遺存状態も悪いことから詳細は不明であるが、ヨコギ取りの白木椀の胴部破片と思われる。

9～12は7区1号溝出土の内面赤色・外面黒色漆塗りの椀である。

9は椀の破片である。外面に赤色で花文を施す。椿の花か。口縁部付近の小破片のため全体の形は明らかでは無い。

10は低い高台で高台脇からゆるやかに内湾して口縁に至る。施文は無し。ほぼ完形であるが口縁部の一部が欠損する。

11は高台裏に赤色で四つ菱を施す。胴部の施文の有無については不明。含水率高く劣化進行。口縁部周辺と高台は欠損し全体の形は明らかでは無い。

12の樹種はハンノキ属ハンノキ亜属である。これも腰部から高台にかけてのみ残存で、椀の全体像は明らかでは無いが、高台脇から腰部へ内湾して立ち上がっている。残存部では施文は確認できなかった。

13は11区6号溝出土の内面赤色・外面黒色漆塗りであるが漆の剥落が著しい。残存部分では施文は確認できなかった。高台脇から胴部下半にかけて残るが、劣化が進行したために全体に歪んでおり、凶化した傾き等には誤差がある可能性がある。

14も11区6号溝出土の漆椀であるが内外面ともに漆が剥落。かすかに内面には赤色、高台裏には黒色の痕跡が認められることから内面赤色・外面黒色漆塗りの可能性が高い。高台脇からゆるやかに腰部が立ち上がる。ヨコギ取り。

15は12区4号溝出土。内外面黒色漆塗りで見込み、外面胴部、高台裏に赤色で施文した痕跡が認められるが、文様の意匠等は不明である。含水率が高く漆の剥落が著しい。

16は8区9号井戸出土。箸と思われる。樹種はウツギ属。2破片に分かれる。接合箇所の確認はできなかったが同一個体と思われる。

17は7区1号溝出土で白木の杓子である。器面に多数の傷あり。俎板等に転用したものか。

○生業に関するもの

「加工」では編具の錘や竪杵が出土する。

18～22は7区1号溝出土の木錘で、いずれも縦に穿孔している。

18は樹種が広葉樹で全体に面取りを施し、中央に一条の切り込みを入れる。

19は樹種がニワトコで面取りの痕跡有り。

20は樹種が広葉樹（散孔材）で面取りの痕跡有り。

21は面取りの痕跡は見られなかった。

22は面取りの痕跡有り。一部欠損。

23も7区1号溝出土で竪杵である。樹種はエノキ属。およそ半分近くが残存。含水率が高く使用痕等は観察できなかった。

○いくさに関するもの

兜の前立状のものが出土する。ほかの可能性もあるがいくさの項で報告する。

24は11区5号溝出土の前立状製品である。片面に黒漆塗りを下地に、反対面は茶褐色漆を下地にその上から金箔を施す。厚さ0.15mm幅4.8cmと非常に薄く幅が広い。2箇所小さな穿孔有り。片側端部が欠損し全体の形は明らかではない。前立状製品としたが、仏具の一種の可能性もあり。

25も前立で、7区1号溝から出土である。菖蒲の葉を象ったものと思われ、幅狭で先端が尖っている。中央に葉脈を表したものがわずかに稜となっている。表裏に金箔を施している。基部には布着せ後漆を塗布しているものと思われる（口絵14参照）。兜への取り付けのためか。全体に大きいため後立であるという指摘もある。

28は竹束で、長さ150cm、幅30cmの範囲に、直径3～5cm程で、節の間隔が同様な竹が8本程度、水平に一段並べたように出土した。2ヶ所横位に竹が配置され、束ねたものかもしれない。火縄銃の盾の可能性を指摘できるが、弾丸痕などは観察できなかった。

25の前立及び竹束の埋没年代は伴出する土器から15世紀後半～16世紀代に収まる可能性がある。

○その他

26は7区1号溝出土のホゾ付き板材である。中央付近に2箇所の孔有り。板目取り。用途不明。

27は8区8号井戸出土の撞木状製品で、樹種は同定を試みたが不明であった。用途不明。4片は図上で接合させている。

【未図化木製品】

以上が図化できた木製品であるが、これらの他に遺物の状態が悪く図化できなかった木製品も多数存在した。それらについては以下の通りである。

「衣」

11区で櫛の破片が出土した。軽量で歯の隙間が狭く全体に薄いことから騎西城跡出土の中では新しい

可能性が強い。

「貯蔵」

7区では桶の側板と考えているものと、曲物の側板が出土、曲物は状態が悪く計測できなかった。

「食膳」

7区では漆碗が破片を含めて5点で、いずれも含水率が高く破片化しているため詳細は不明であるが、内外面とも黒色漆塗りのものと内赤色・外黒色漆塗りのものが見られた。出土地点については1号溝で集中して出土する。

11区では状態が悪く計測できない漆碗片が2点あり、いずれも内面赤色・外面黒色漆塗りで胴部外面に赤色で施文を施す。意匠は不明である。両者ともに含水率が高く破片化しているため詳細は不明である。

12区では状態が悪く計測できない漆碗片が1点あった。内面赤色・外面黒色漆塗りの小破片である。

さらに用途不明の加工製品も出土する。

7区では加工が見られる板材なども存在する。1号溝のほか井戸や土壇からの出土もあるがいずれも状態が悪く詳細は不明。また、竹、樺が出土する。

8区では板材片が2点あり1号井戸、3号井戸から出土した。両者ともに含水率が高く劣化が進み詳細は不明であった。

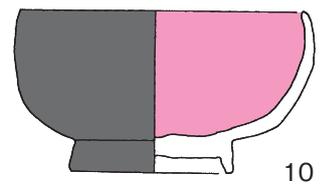
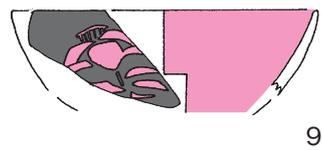
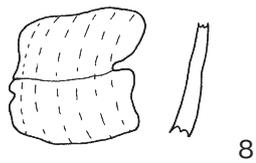
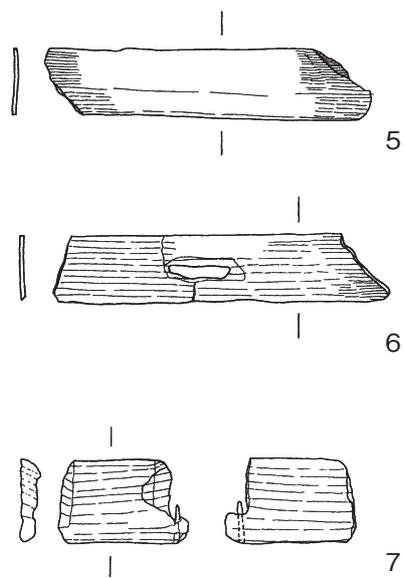
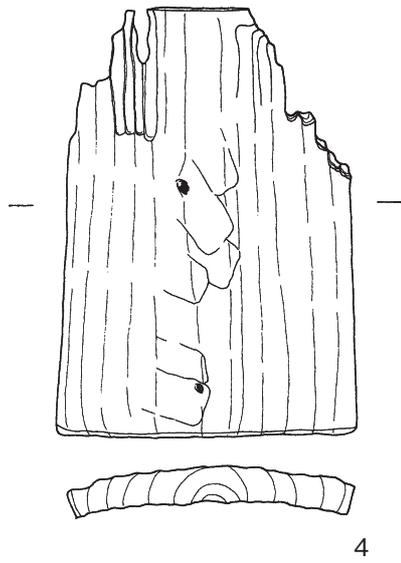
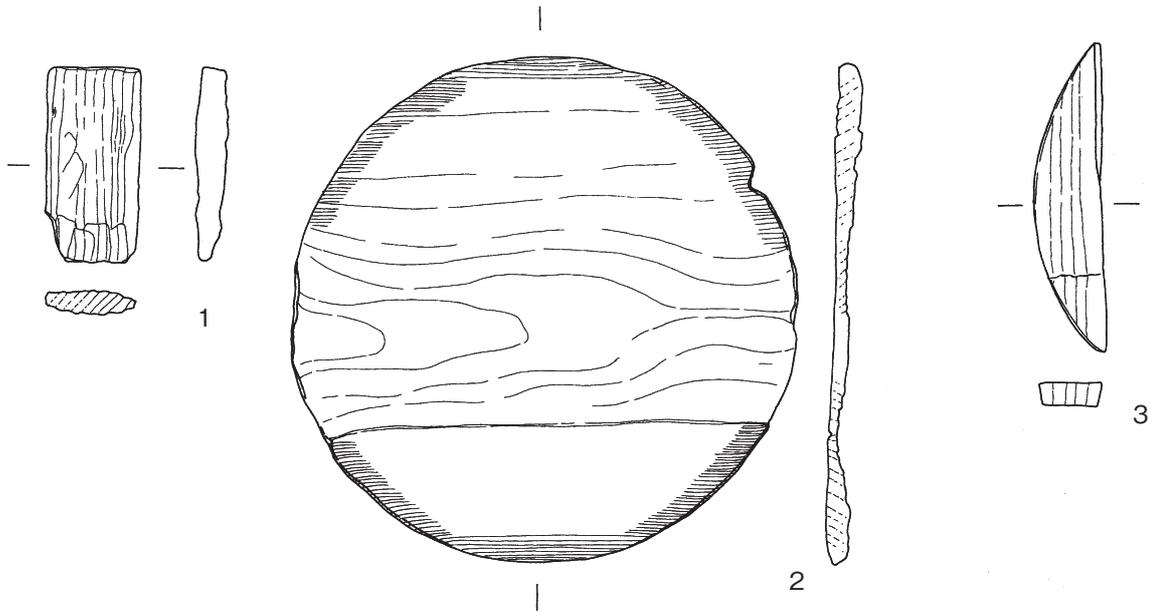
12区では他に撞木状木製品、角材、板材が出土した。

16次では実測可能な木製品は無かった。19号土壇から劣化が進み破片化していた竹片のみが出土した。

このように図化できなかった木製品についても、計測した法量や特徴等のデータは一覧表に掲載した。

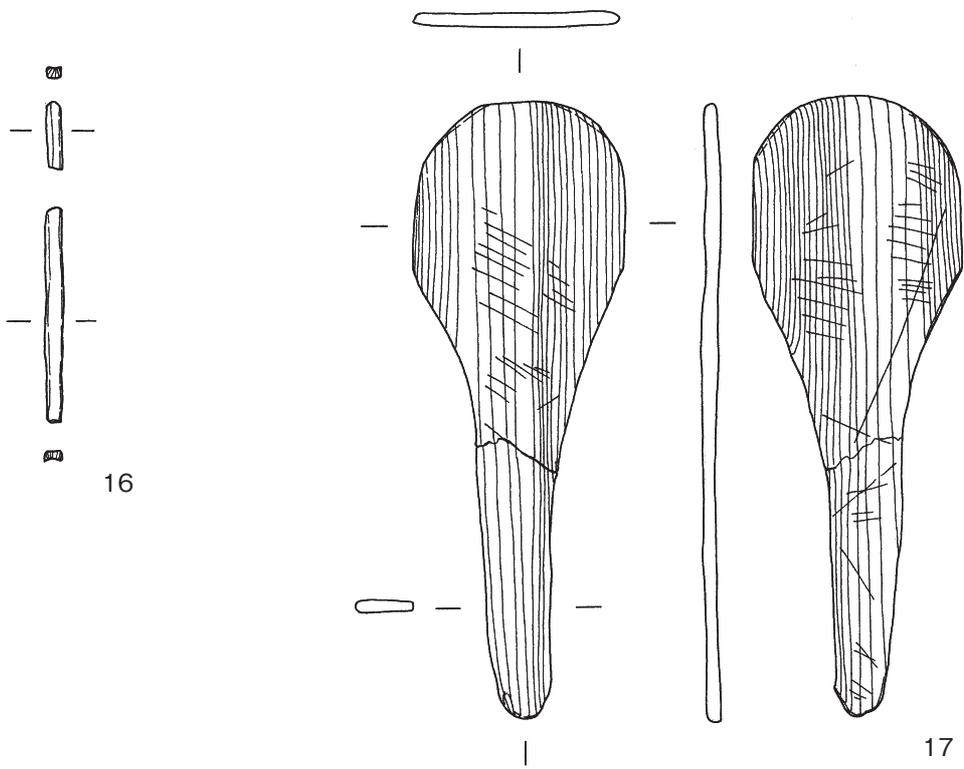
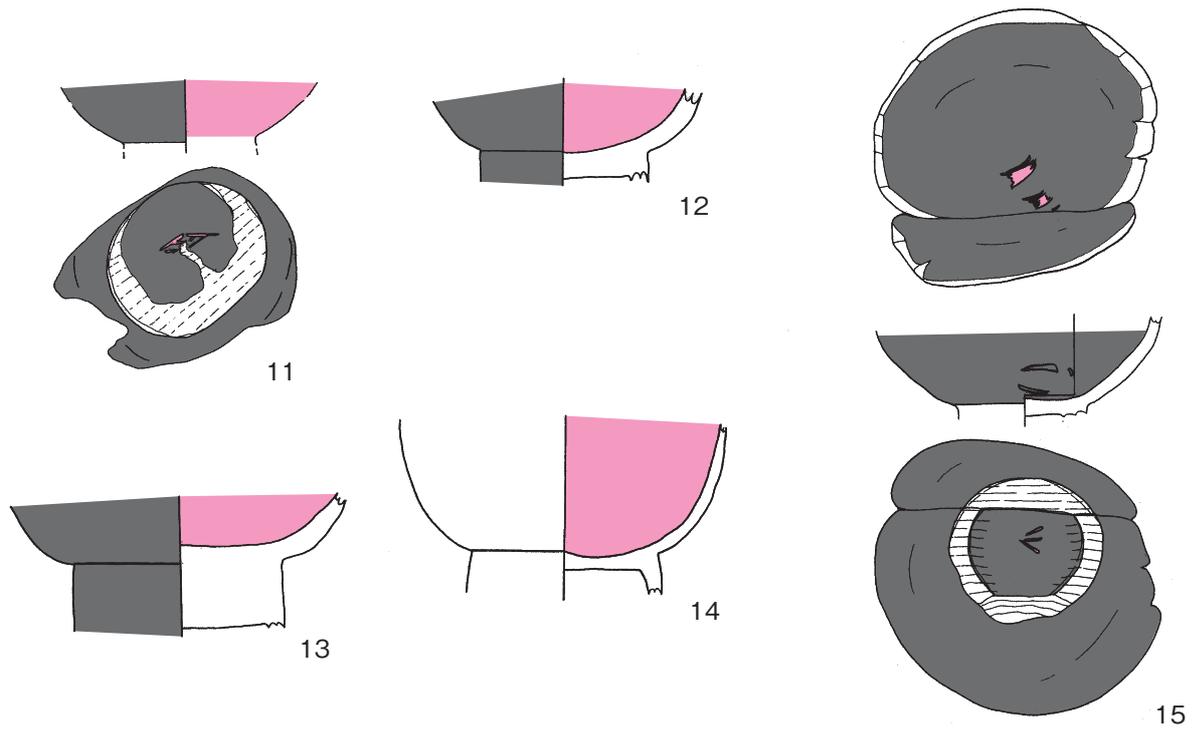
7区ではほかに、木製品ではないが葉や貝、馬の歯なども出土する。

16次では19号土壇から桃の種子が出土する。



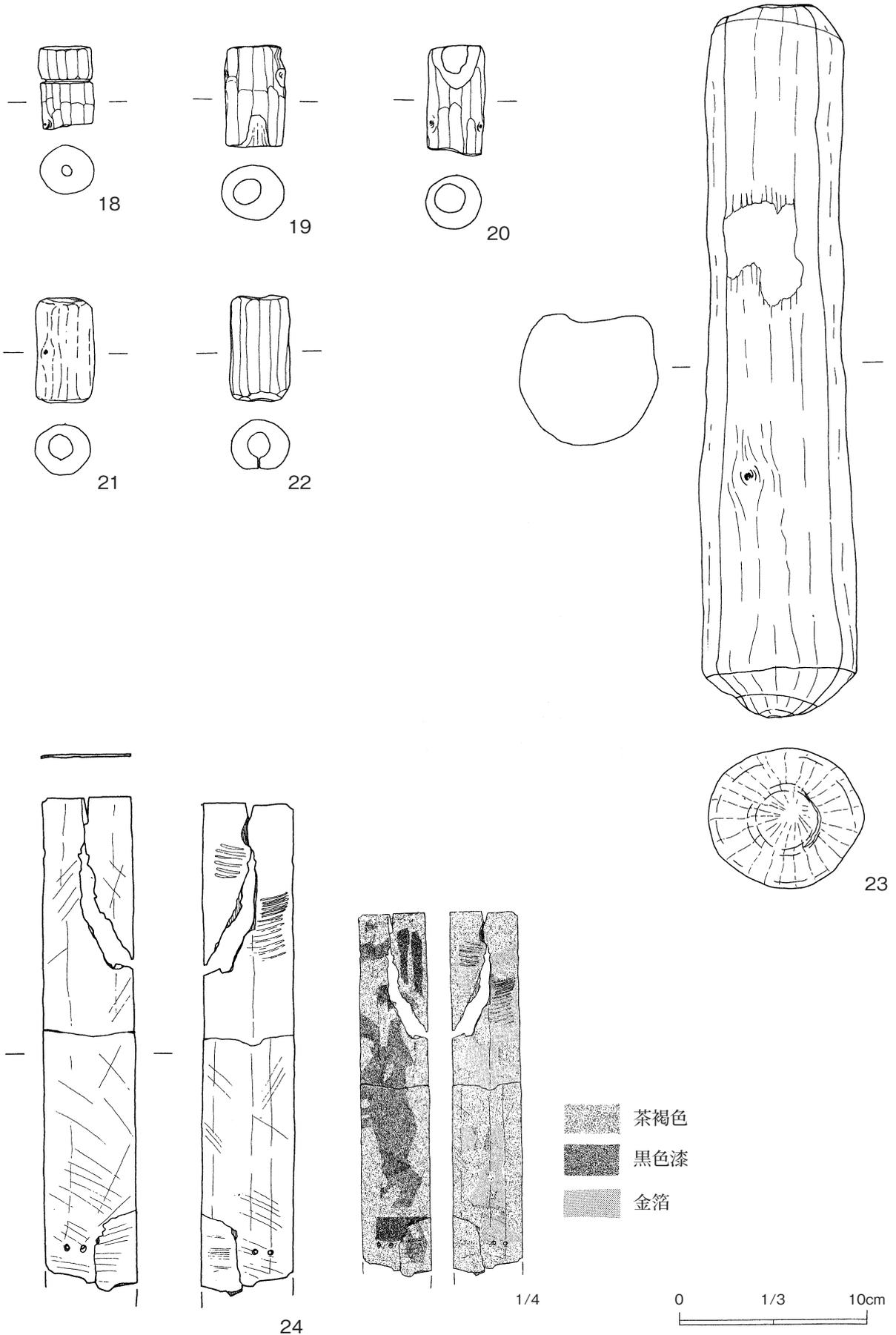
0 1/3 10cm

第65図 木製品 1

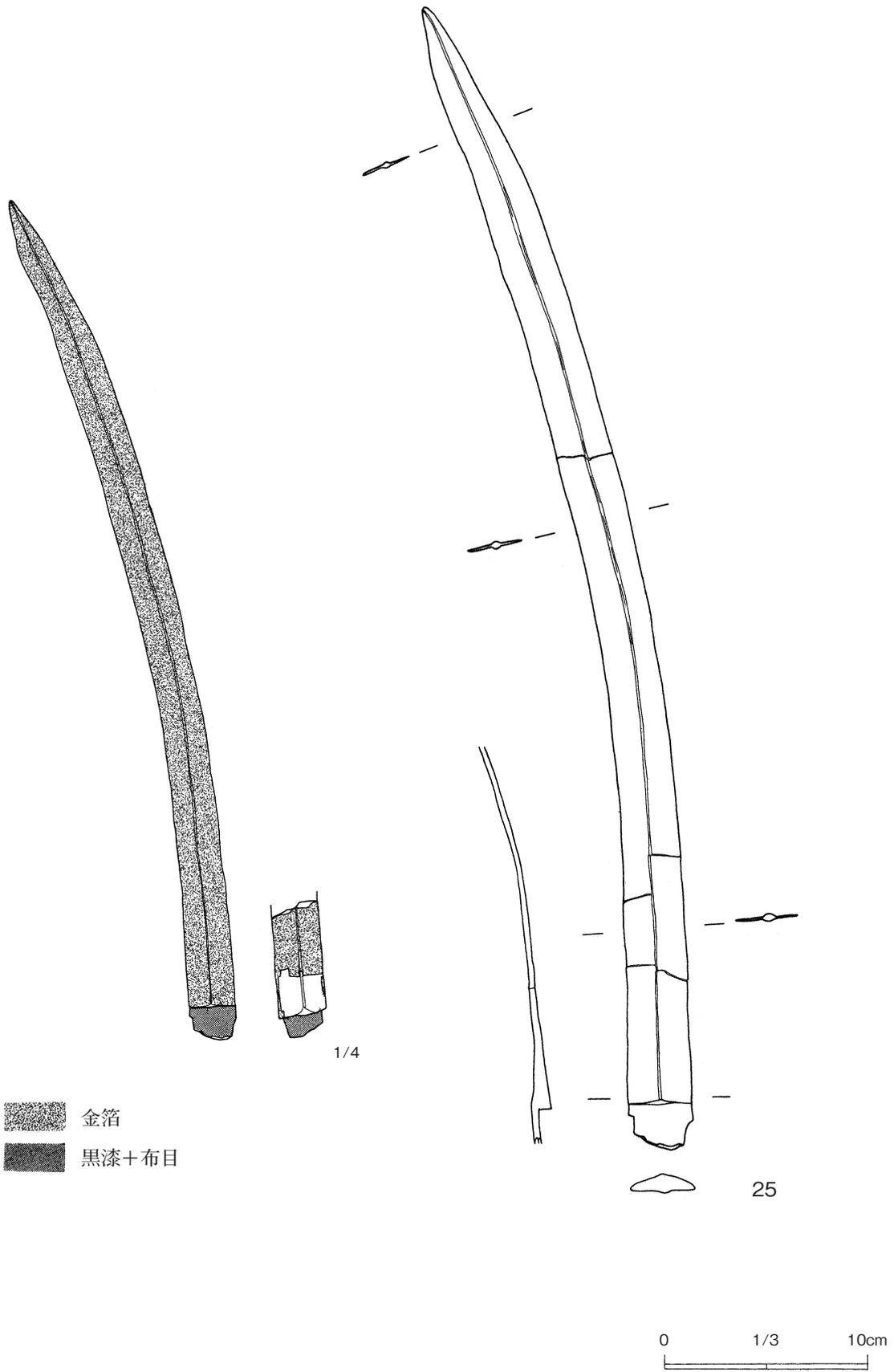


0 1/3 10cm

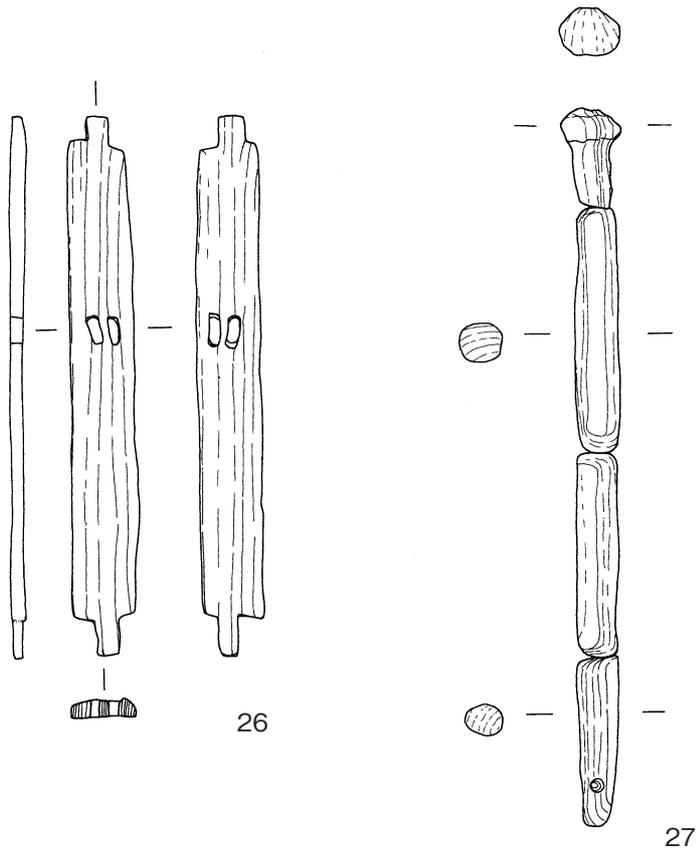
第66図 木製品 2



第67図 木製品3



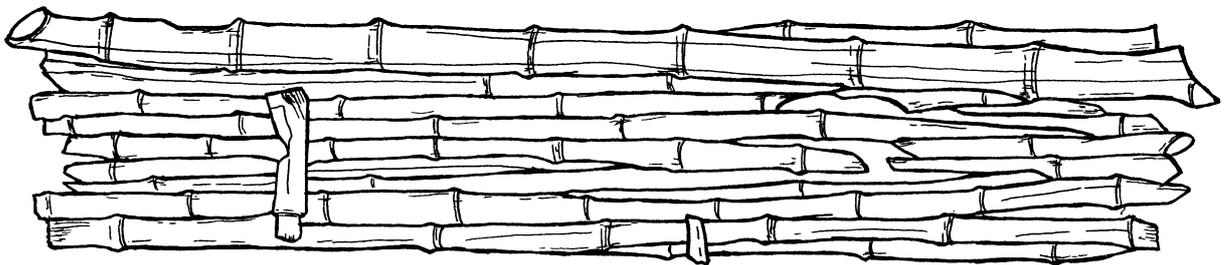
第68図 木製品4



26

27

0 1/3 10cm



28

0 1/10 50cm

第69図 木製品 5

() は残存値

法量の単位は cm

図 No.	遺物名	出土地点	法量	特徴	備考	遺物 ID
1	桶-側板	KB07 1号溝 (B-2G No48)	長さ7.8/幅3.6/ 厚さ0.9	小型。板目取り		661-0705-0007-0010
2	桶-底板	KB07 5号井戸 (D-5GN087)	長さ≒20.4/ 厚さ0.2~1.0	樹種はモミ属。非常に薄い箇所があり		661-0705-0007-0022
3	桶-底板	KB08 10号井戸 (C-5G No249)	径≒16.8/厚さ1.0	板目取り		661-0705-0008-0004
4	桶-側板	KB08 10号井戸 (C-5G No245)	長さ16.8/幅11.8/ 厚さ1.3	板目取り。節の周辺を整形		661-0705-0008-0006
5	曲物-側板	KB07 1号溝 (B-1G No50)	長さ(12.6)/ 高さ(2.6)/厚さ0.1	非常に薄い	3-2と同一個体と考えられるが、接合箇所の確認は出来なかった	661-0705-0007-0013
6	曲物-側板	KB07 1号溝 (B-1G No50)	長さ(13.2)/ 高さ(2.8)/厚さ0.1	非常に薄い	3-1と同一個体と考えられるが、接合箇所の確認は出来なかった	661-0705-0007-0013
7	三宝の縁	KB07 1号溝 (B-1G No41)	長さ(5.0)/ 高さ3.4/厚さ0.3	樹種はスギ。木釘残る。表面に黒い付着物あり	小破片のため詳細不明	661-0705-0007-0005
8	白木椀	KB11 6号溝(No8)	口径。器高等不明/ 厚さ0.7	胴部小破片のため詳細不明	含水率高く。遺物の劣化が進む	661-0705-0011-0004
9	漆椀片	KB07 1号溝 (B-1G No45)	口径≒12.0/ 器高(3.4)	内面赤色外面黒色漆塗。外面に赤色で花文を施文。椿か	口縁部小破片のため全体像は不明	661-0705-0007-0009
10	漆椀	KB07 1号溝 (C-2G No17)	口径11.2/器高6.4/ 底径6.4	内面赤色外面黒色漆塗。施文は無し	口縁の一部欠損	661-0705-0007-0034
11	漆椀	KB07 1号溝 (B-2G No49)	口径不明/器高(1.8)/ 底径≒6.6	内赤色外黒色漆塗。高台裏に赤色で四つ菱を施文	高台付近のみ残存。全体像は不明。含水率高く状態悪し	661-0705-0007-0012
12	漆椀	KB07 1号溝 (C-2G No64)	口径不明/器高(3.5)/ 底径6.5	樹種はハンノキ属ハンノキ亜属。内面赤色外面黒色漆塗。施文の有無は確認出来ず	高台付近のみ残存	661-0705-0007-0020
13	漆椀	KB11 6号溝(No4)	口径不明/器高(5.0)	内面赤色外面黒色漆塗か。施文の有無も確認出来ず	漆はほとんど剥落	661-0705-0011-0001
14	漆椀	KB11 6号溝(No6)	口径不明/器高(6.5)	内面赤色外面黒色漆塗。施文の有無は確認出来ず	漆は剥落し、劣化が進み自立は出来ず	661-0705-0011-0003
15	漆椀	KB12 4号溝(No167)	口径不明/器高(4.5)/ 高台径≒6.0	内外面黒色漆塗。見込み。胴部、高台裏に赤色で施文。文様の意匠は不明	含水率非常に高く自立出来ず。漆の剥落も著しい	661-0705-0012-0001
16	箸	KB08 9号井戸	長さ8.5/幅0.7/ 厚さ0.4	樹種はウツギ属。表面に付着物あり	小片で詳細は不明	661-0705-0008-0005
17	杓子	KB07 1号溝 (B-1G No44)	長さ24.5/幅8.1/ 厚さ0.6	器面に多数の傷あり。転用の可能性もあるのでは		661-0705-0007-0028
18	編具-錘	KB07 1号溝 (B-1G No60)	長さ4.5/径≒2.9/ 孔径0.6	樹種は広葉樹。全体に面取り。中央付近に切り込みあり		661-0705-0007-0018
19	編具-錘	KB07 1号溝 (B-1G No43)	長さ5.5/径≒3.3/ 孔径≒1.6	樹種はニワトコ。面取りの痕跡あり	一部欠損	661-0705-0007-0007
20	編具-錘	KB07 1号溝	長さ6.0/径2.9/ 孔径1.6	樹種は広葉樹(散孔材)。面取りの痕跡あり	一部欠損	661-0705-0007-0023
21	編具-錘	KB07 1号溝 (B-1G No58)	長さ5.2/径≒3.0/ 孔径1.3	面取りの痕跡無し		661-0705-0007-0016
22	編具-錘	KB07 1号溝	長さ5.6/径≒3.0/ 孔径1.4	面取りの痕跡あり	一部欠損	661-0705-0007-0024
23	竪杵	KB07 1号溝 (C-2G No18)	長さ(38.5)/ 最大径 8.4	樹種はエノキ属	約半分残存	661-0705-0007-0002
24	前立状製品	KB11 5号溝(No1)	長さ(26.3)/幅4.8/ 厚さ0.15	表裏に金箔を施す。下2箇所穿孔有り、取り付け部か?非常に薄い	片側端部欠損。4破片に割れている	661-0705-0011-0006
25	前立	KB07 1号溝 (B-1G No52)	長さ(58.1)/幅3.0/ 厚さ0.3	全体に金箔を施す。取り付け部に漆と思われる付着物あり	取り付け部の一部が欠損	661-0705-0007-0001
26	部材(ホゾ付き板材)	KB07 1号溝 (B-1G No61)	長さ21.6/幅2.6/ 厚さ0.6	ホゾ有り。中央に長方形の穿孔有り	用途不明	661-0705-0007-0019
27	材/加工材(撞木状)	KB08 8号井戸 (C-4G No147)	長さ28.5/幅≒1.5/ 頭部径≒2.5	樹種判明せず	用途不明	661-0705-0008-0003
28	竹束	KB07 1号溝	長さ150/幅30			

第24表 木製品一覧表 1

() は残存値

法量の単位は cm

調査名	遺物名	出土地点	法量	特徴	備考	遺物 ID
KB11	櫛	KB11一括	幅8.8/長さ4.6/ 厚さ0.2	軽くとともきれいで 非常に薄く棟から刃 先にかけて湾曲	騎西城跡出土の櫛としては新 しいものカ	661-0705- 0011-0008
KB07	桶-側板か	KB07 1号溝 (B-1G No34)	長さ(8.0)/ 幅7.0/厚さ1.0	板目取り。一部炭化		661-0705- 0007-0004
KB07	曲物-側板	KB07 1号溝 (C-2G No48)	計測出来ず		含水率高く劣化が進み破片化	661-0705- 0007-0011
KB07	漆椀	KB07 1号溝 (B-1G No51,56)	口径不明/器高(2.2)/ 底径6.5	内外面黒色漆塗。胴部 外面に赤色で施文、意 匠は不明。高台裏の施 文の有無は不明	破片化して全体像は不明であ るが、胴部破片の大きさから大 型の椀可能性あり	661-0705- 0007-0014
KB07	漆椀	KB07 1号溝 (B-2G No59)	口径≒11.0/ 器高(6.5)/底径6.0	内外面黒色漆塗。胴部に 赤色で施文、意匠は不明。 高台裏は削平されている ため施文の有無は不明	含水率が高く破片化が進む	661-0705- 0007-0017
KB07	漆椀片	KB07 1号溝 (C-2G No19)	口径、器高等不明/ 厚さ0.8	内面赤色外面黒色漆塗。外面 には赤色で施文の痕跡あり	含水率が高く破片化が進む	661-0705- 0007-0003
KB07	漆椀片	KB07 1号溝 (C-2G No44)	口径、器高等不明/ 厚さ1.0	内面赤色、外面は漆剥 落のため不明	含水率が高く破片化が進む	661-0705- 0007-0008
KB07	漆椀片	KB07 1号溝	口径、器高等不明/ 厚さ0.7	内面赤色外面黒色漆塗。外面 に赤色で施文、意匠は不明	含水率が高く破片化が進む	661-0705- 0007-0025
KB11	漆椀片	KB11 6号溝(No5)	口径、器高等不明/ 厚さ0.5	胴部破片。内面赤色外面黒色 漆塗。外面に赤色で施文、意 匠は不明	含水率高く劣化進行し破片化	661-0705- 0011-0002
KB11	漆椀片	KB11一括	口径、器高等不明/ 厚さ0.8	胴部破片。内面赤色外面黒色 漆塗。外面に赤色で施文、意 匠は不明	含水率高く劣化が進行し破片 化したため詳細は不明	661-0705- 0011-0007
KB12	漆椀片	KB12 4号溝(No169)	口径、器高等不明/ 厚さ0.5	内面赤色外面黒色漆塗。 施文の有無は確認出来ず	小破片のため詳細不明。漆の剥 落も著しい	661-0705- 0012-0005
KB07	材/板材	KB07 1号溝	長さ(9.8)/幅(5.6)/ 厚さ1.6	片面炭化	含水率高く劣化進行中	661-0705- 0007-0027
KB07	材/板材片	KB07 1号溝	長さ(2.6)/幅(2.1)/ 厚さ0.05	柁目取りか	小破片のため詳細不明	661-0705- 0007-0026
KB07	材/板材片	KB07 3号井戸 (D-5G No69)	長さ(11.5)/幅(9.5)/ 厚さ1.5	板目取り。一部炭化	炭化していない部分の劣化が 進行中	661-0705- 0007-0030
KB07	材/板材片	KB07 5号井戸 (D-5G No85)	長さ(5.0)/高さ(2.0)/ 厚さ0.4		含水率高く劣化進行中	661-0705- 0007-0032
KB07	材/木片	KB07 1号井戸	計測出来ず	状態悪く詳細不明	含素率が非常に高い	661-0705- 0007-0032
KB08	材/板材片	KB08 1号井戸	長さ(15.4)/幅(8.5)/ 厚さ0.4		含水率高く劣化進行中	661-0705- 0008-0001
KB08	材/板材片	KB08 3号井戸 (B-4G No52)	長さ(5.5)/幅(5.4)/ 厚さ0.2	柁目取り。非常に薄い	含水率高く劣化が進行し破片 化	661-0705- 0008-0002
KB12	板材	KB12 4号溝No168	長さ(14.0)/幅(3.5)/ 厚さ0.3	詳細不明		661-0705- 0012-0002
KB12	角材	KB12か	長さ(19.3)/幅3.9/ 厚さ4.1	整形痕がわずかに認 められる。板目取り	破片化が進み状態の良好な物 を計測	661-0705- 0012-0006
KB12	板材	KB12 4号溝(No189)	長さ(13.2)/幅1.5/ 厚さ0.4	柁目取り		661-0705- 0012-0004
KB12	撞木状製品	KB12か	長さ(14.5)/径1.7	詳細不明	計測時には遺物が崩壊してい て撞木部は確認出来なかった	661-0705- 0012-0005
KB07	竹片	KB07 4号井戸	計測出来ず	状態悪く詳細不明	含水率高く劣化進行中	661-0705- 0007-0031
KB07	樺	KB07 1号溝 (C-2G No65)	計測出来ず		劣化が進行し破片化	661-0705- 0007-0015
KB07	樺	KB07 1号溝 (C-2G No57)	計測出来ず		劣化が進行し破片化	661-0705- 0007-0021
KB07	馬の歯	KB07 3号土壌 (C-3G No55)	計測せず	詳細不明		661-0705- 0007-0033
第16次	竹	第16次19号土壌	長さ(5.2)/径不明		劣化し破片化	661-0704- 0016-0001
第16次	種子	第16次19号土壌	未計測	桃	2コ	661-0704- 0016-0001

第25表 木製品一覧表2

(2) 自然科学分析 一木製品の樹種

パリーノ・サーヴェイ株式会社

1. 試料

試料はKB7・8区出土の木製品8点である。KB7区の木製品は、針葉樹2種類(スギ・モミ属)、広葉樹5種類(エノキ属・ニワトコ・広葉樹)としか判明しなかった。KB8区の出土木製品はウツギ属と判明した。試料の詳細は樹種同定結果と共に第26表に掲載した。

2. 方法

剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切断を作成し、ガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察、同定する。

3. 結果

樹種同定の結果を第26表に示す。また、主な解剖学的特徴を以下に記す。

ウツギ属 (*Deutzia*) ユキノシタ科

散孔材で管壁は薄く、横断面では多角形、ほぼ単独で散在する。道管は階段穿孔を有する。放射組織は大型の異性で、1~4細胞幅、100細胞高以上。鞘細胞が認められる。

スギ (*Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Dom)

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅はやや広い。樹脂細胞が晩材部に認められる。放射組織柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか。分野壁孔はスギ型で、1分野に1~2個。放射組織は単列、1~15細胞高。

ハンノキ属ハンノキ亜属 (*Alnus subgen Alnus*)

カバノキ科

試料は板目面の切片が作製できなかった。散孔材で管孔は単独又は2~4個が放射方向に複合する。

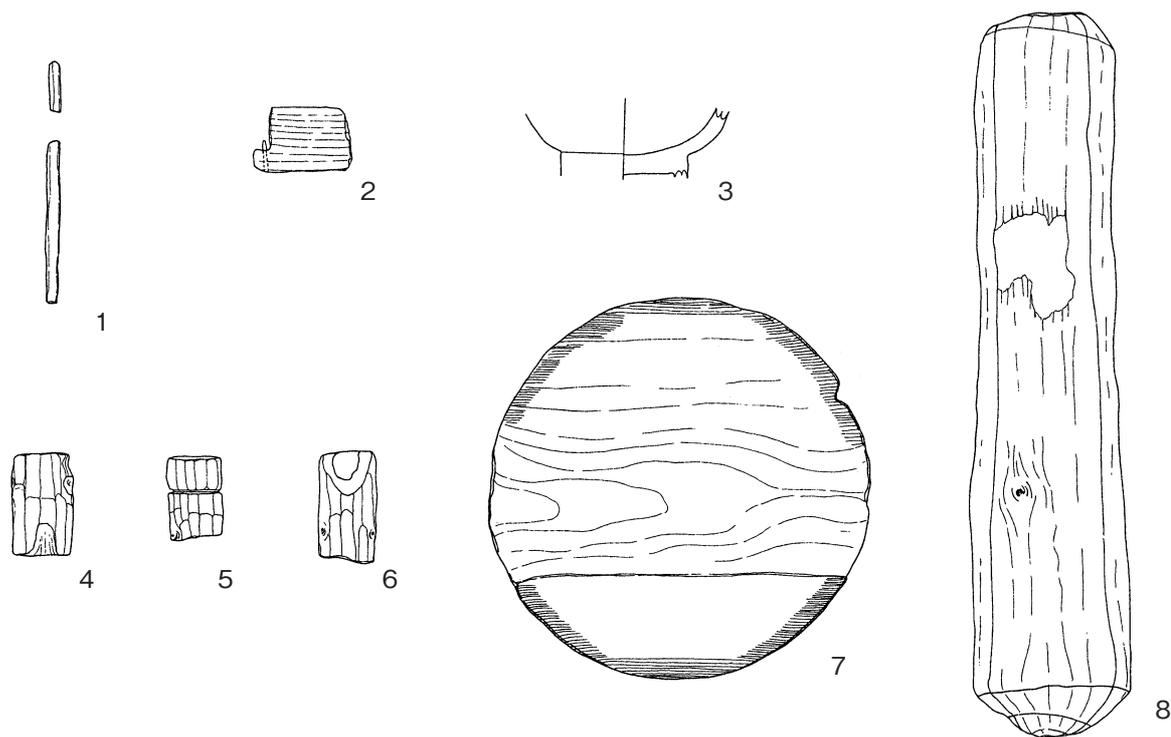
道管は階段穿孔を有し、壁孔は対決状に配列する。放射組織は同性。木口面でみる限り、単列の組織と集合組織とが認められる。

モミ属 (*Abies*) マツ科

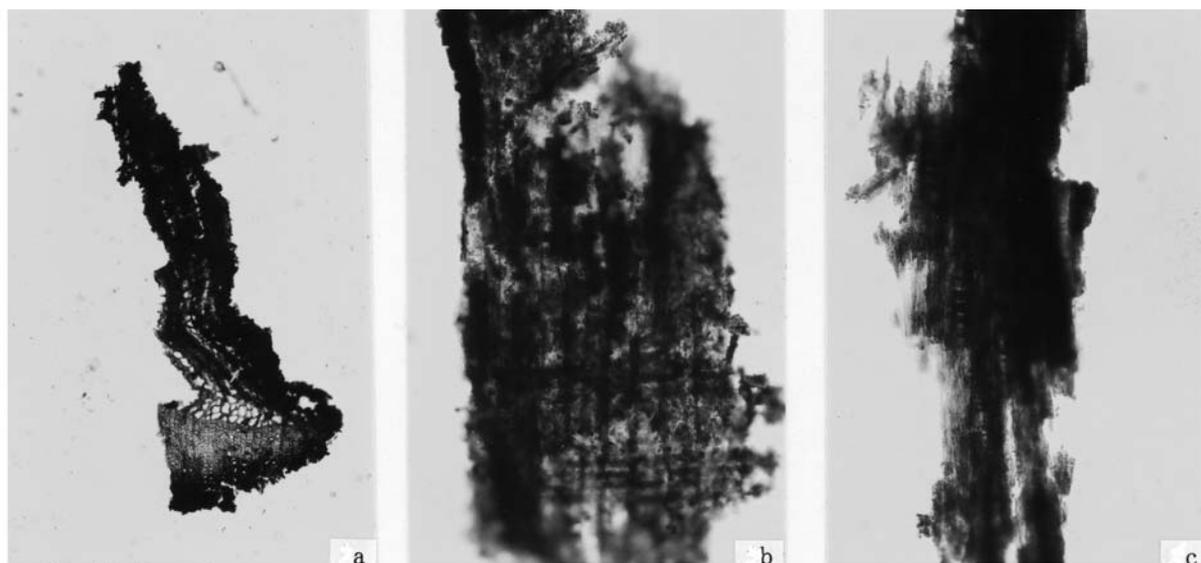
軸方向組織は仮道管にのみで構成される。仮道管は早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される。柔細胞壁は保存が悪いが、垂直壁に数珠状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型で1分野に1~4個。放射組織は単列、1~20細胞高。

エノキ属 (*Celtis*) ニレ科

試料は年輪界が観察できなかったが、道管径の変化から環孔材と判断した。孔圏外の小道管は塊状に複合して接線・斜方向の文様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁には螺旋肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、1~15細胞幅、1~50細胞高で鞘細胞が認められる。



第70図 木製品6



スギ (試料NO.2)
a : 木口 b : 柁目 c : 板目

試料No	遺物名	樹種	遺物ID
1	箸	ウツギ属	661-0705-0008-0005
2	三宝の縁?	スギ	661-0705-0007-0005
3	漆椀	ハンノキ属ハンノキ亜属	661-0705-0007-0020
4	編具-錘	ニワトコ	661-0705-0007-0007
5	編具-錘	広葉樹	661-0705-0007-0018
6	編具-錘	広葉樹 (散孔材)	661-0705-0007-0023
7	桶-底板	モミ属	661-0705-0007-0022
8	竪杵	エノキ属	661-0705-0007-0002

第26表 木製品一覧表3

第3節 金属製品

金属製品は鉄製品と銅製品がある。それぞれ用途別に記述するが、銭貨は別に扱う。

(1) 鉄製品

○生活に関するもの

「衣・化粧」の毛抜き(3)は先端つまみ部分が屈曲し、基部はコの字状である。ほぼ完形。

暖房の火箸(1・2)はいずれも把手が捻れ、溝が螺旋を描く。2の頭部は巻かれる。体部断面は円形あるいは方形である。1は頭部を2は下半を欠く。

「灯り」の火打金(4・5)は山形に分類され、4は全形が三角形、5は頂部が立ち上がる。両端部はいずれも丸い。

住の釘(6)は断面円形で、頭部は明瞭ではない。

○いくさに関するもの

小札状製品(7)は長方形と思われ厚さ3mmで、威し穴は確認できない。

小柄(8・9)はいずれも破片で、8は刃部のみ、9は茎および刃部先端を欠損する。刃幅1.4~1.8cm(残存)である。

鉄鎌(10・11)はいずれも先端が欠損している。10は、平根で鎌身が6.4cmと長い。11は雁股で、U字状を呈する。

○ほか

12~14は環状製品としたが、12には下部に付属物がある。13は圧着しているが本来楕円形であったものか。14は不整形で上部に付属物がある。

(2) 銅製品

○生活に関するもの

「衣・化粧」の毛抜き(15)は完形であるが刃部が屈曲している。基部はコの字状である。この毛抜きの両側面には毛彫りで文字が刻まれている。右面には「花はくれな井」、左面には「柳はみとり」とあり「花は紅柳は緑」と読める。禅宗から「あるがまま」を表していると思われるが、刻まれた由来は

不明である。鏡(16)は欠損しており縁の部分が延ばされたものと思われる。断面は丸みを帯びた三角形。

鋌(17)は頭部円形である。

「嗜好・遊び」の煙管(18~24)は雁首と吸口がある。雁首は首の形態が個体ごとに異なり18は太く短く、20は細く長く、19はその中間の形態である。19の小口部は段を有する。吸口も形態が異なるが、22は肉厚で両小口が膨らみを持つ。21の小口は段を有する。

匙(25)は欠損しているが円形で中央が窪むものと思われ、茎状のものが付く。外面に刺突痕があり内面は鉛色である。非常に薄く0.2~0.3mm程度で実用に供したものか。

○いくさに関するもの

26は断面U字状で取付穴が2か所あり一部鍍金が残る。甲冑の覆輪か。筭(27)は先端が屈曲しているが復元長12.3cmである。頂部に耳かき、体部に魚々子文を充填した楕円の区画(図アミ部分)が配される。高紐鞆(28)は紡錘形で中型、断面が反り黒色の付着物がある。29は八双鋌としたがあるいは煙管火皿が潰れたものか。目貫(30)は玉抱き龍を象ったものであるが顔が玉に向いていない珍しいものと思われる。玉は欠失している。小柄(31・32)は柄が欠損したもので、32には片側のみに文様が鋳出されている。柄頭(33)には側面に固定用の釘穴が、内面に2条の凹みが付く。鉏(34・35)はいずれも欠損で認定に不安を残す。35は芯に鉄を用い、片面の銅は溶融している。36は鋳で分解している。弾丸(37~42)、いずれも窪みを有するなど不整形である。37~40は鉛製、41・42は銅製。46は弾丸の溶融したものか。

○ほか

43は方形の箱状のもので縁部に連続するZ状の文様を浮き出す。2か所固定用の釘穴がある。45はU字状のもので鉛製。46は鉛塊と思われるが弾丸の溶けたものか。

(3) 銭貨

総数49枚が確認されている。うち近世の寛永通宝が6点、文久永宝が1点、近代以降の一銭が1点、他は中世以前の渡来銭である。

寛永通宝は新があり、KB7・8区で出土している。79・84は「文」の背文がある。文久永宝 (95)

は背面波紋で、第16次3号土壌で出土している。

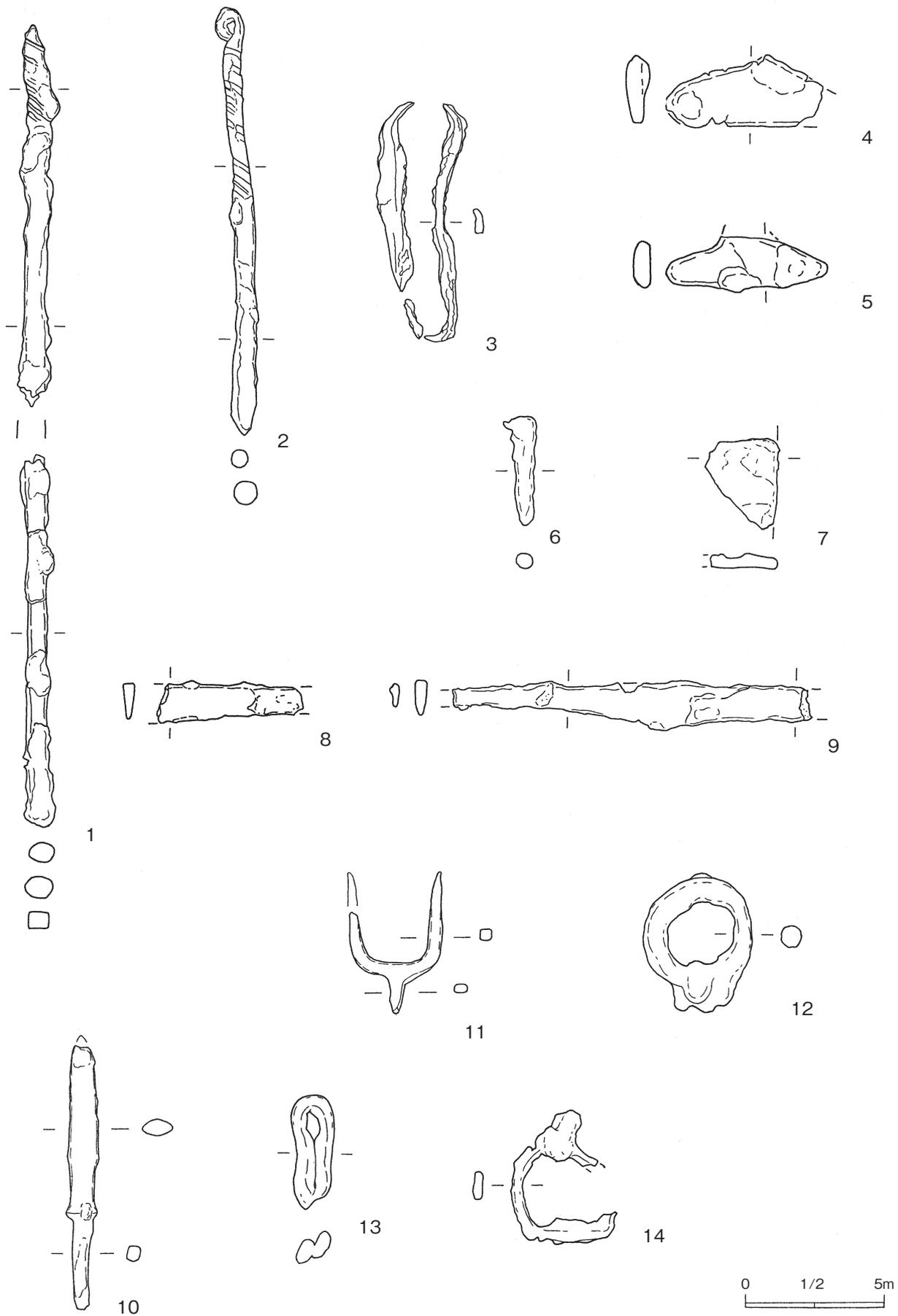
出土状況は、56・57はKB7区の2壙でかわらけに供伴しており墓壙の副葬品であろう。また、KB8区のC・D-5・6グリッドで寛永通宝がまとまって出土している。

() は残存値

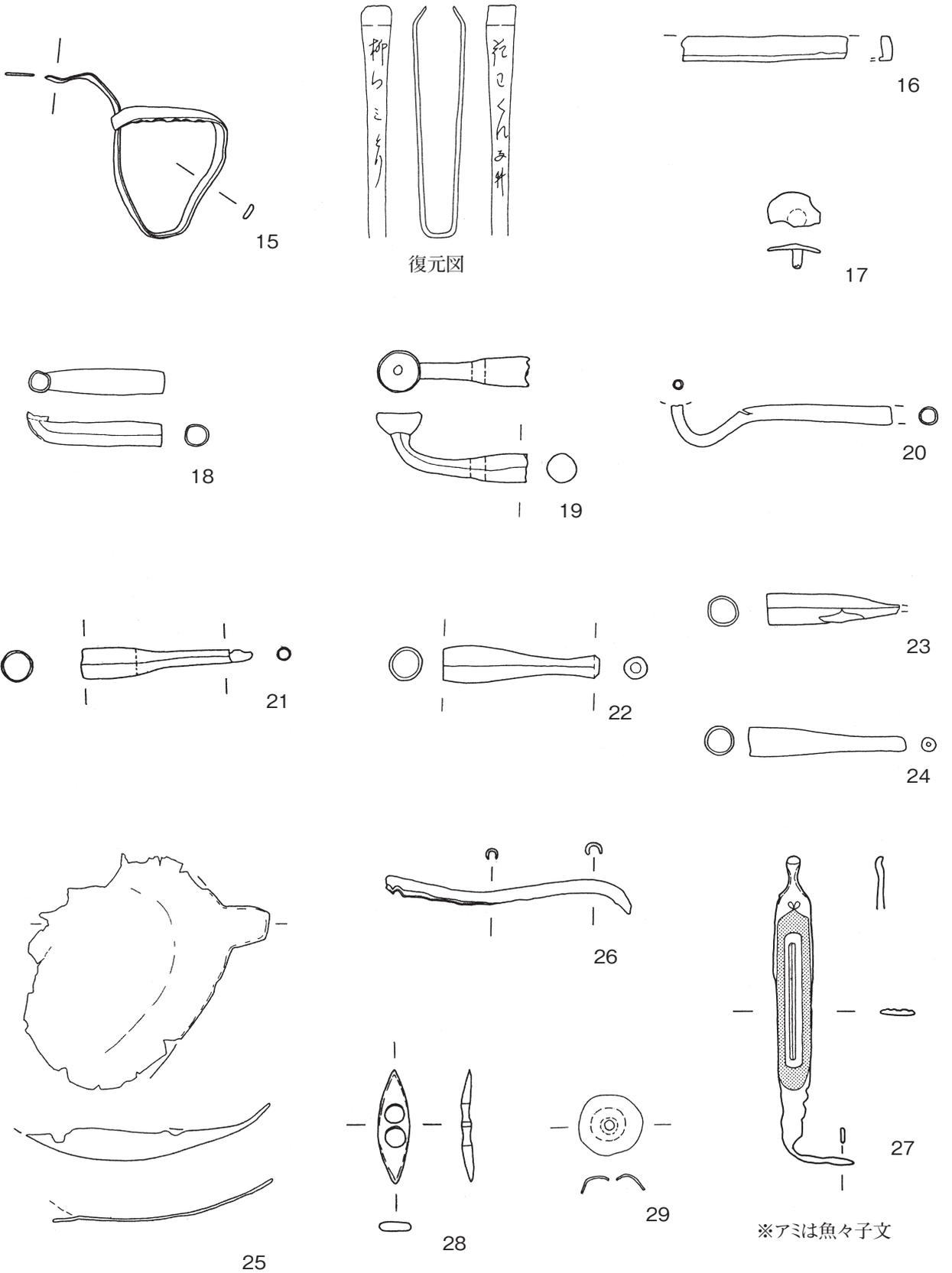
法量の単位は cm

図No	遺物名	材質	調査名	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物 ID	遺物 ID 2	備考
1	火箸状製品	鉄	KB8	D-5G No10	27.0	1.5	0.7	0008-0012		
2	火箸状製品	鉄	KB8	D-5G No13	15.6	1.1	0.6	0008-0013		
3	毛抜き	鉄	KB8	C-5G No204	8.7	3.4	0.9	0008-0009		
4	火打金状製品	鉄	KB8	D-5G No21	(5.3)	(2.5)	0.4	0008-0014		
5	火打金状製品	鉄	KB7	一括	5.6	(1.7)	0.2	0007-0014		
6	釘	鉄	KB8	D-6G No119	(4.0)	1.2	0.6	0008-0017		
7	小札状製品	鉄	KB8	一括	(3.2)	(2.5)	0.3	0008-0021		
8	小柄(刀身)	鉄	KB7	1溝 B-1G No24	(5.2)	1.4	0.4	0007-0001		
9	小柄(刀身)	鉄	KB8	C-5G No208	(13.0)	(1.8)	0.4	0008-0010		
10	鉄鏃(平根)	鉄	KB8	D-5G No30	(9.5)	1.1	0.6	0008-0015		
11	鉄鏃(雁股)	鉄	KB8	8溝 D-5G No71	5.2	3.4	0.4	0008-0002	町金118	
12	環状製品	鉄	KB8	C-4G No25	5.1	4.0	0.8	0008-0005		
13	環状製品	鉄	KB8	8溝 D-5G No35	4.1	1.6	0.5	0008-0001		
14	環状製品	鉄	第23次	B区No38	4.9	(3.8)	1.0	0023-0001		
15	毛抜き	銅	KB8	C-4G No57	6.4	5.9	0.1	0008-0008	町金165	
16	鏡	銅	KB8	4井 B-4G No7	5.6	0.8	0.3	0008-0002		
17	鋌	銅	KB8	D-6G No47	0.9	1.8	-	0008-0015	町金123	
18	煙管(雁首)	銅	KB7	1溝	4.7	0.9	-	0007-0001		
19	煙管(雁首)	銅	KB8	D-6G No14	5.3	1.0	-	0008-0009	町金75	
20	煙管(雁首)	銅	第23次	B区	7.4	0.6	-	0023-0001		
21	煙管(吸口)	銅	KB8	D-6G No1	5.8	1.1	-	0008-0012	町金82	
22	煙管(吸口)	銅	KB12	一括	5.4	1.1	-	0012-0002	町金89	
23	煙管(吸口)	銅	第23次	B区No69	4.7	1.0	-	0023-0003		
24	煙管(吸口)	銅	第23次	B区No101	5.4	1.0	-	0023-0004		
25	匙	銅	KB8	B-4G No20	(9.1)	(6.4)	1.1	0008-0006		
26	覆輪カ	銅	KB8	一括	(8.4)	(0.5)	-	0008-0018		
27	筭	銅	KB8	D-6G No6	10.7	1.3	0.2	0008-0013	町金114	
28	高紐鞋	銅	KB8	10井	3.7	1.1	0.3	0008-0028	町金7	
29	八双鋌カ	銅	KB8	C-4G No30	2.2	2.2	0.9	0008-0007	町金122	煙管火皿カ
30	目貫	銅	KB8	一括	4.0	1.8	1.5	0008-0020	町金35	
31	小柄(柄)	銅	KB8	一括	1.7	1.4	0.1	0008-0017		
32	小柄(柄)	銅	第23次	B区No6	5.5	1.4	0.5	0023-0002		
33	柄頭	銅	KB7	1溝 C-2G No33	4.1	2.0	0.08	0007-0004	町金3	
34	鑷	銅	KB8	D-5G No25	(2.8)	(2.0)	0.1	0008-0010		
35	鑷カ	銅	KB7	南表土	(3.7)	(2.6)	(0.7)	0007-0002		
36	鐺	銅	KB8	一括	2.2	3.5	0.1	0008-0026		
37	彈丸	鉛	KB8	A-2G No8	1.1	-	-	0008-0005		6.2g
38	彈丸	鉛	KB8	D-5G No32	1.3	-	-	0008-0011		11.1g
39	彈丸	鉛	KB8	一括	1.2	-	-	0008-0021		8.6g
40	彈丸	鉛	KB11	5溝 No13	1.3	-	-	0011-0001		10.5g
41	彈丸	銅	KB11	一括	1.2	-	-	0011-0003		6.7g
42	彈丸	銅	KB12	一括	1.2	-	-	0012-0001		6.4g
43	飾り金具カ	銅	KB11	2壙	8.7	2.4	0.1	0011-0002		
44	吊り金具	銅	KB8	一括	3.7	0.5	0.1	0008-0027	町金158	
45	金具	鉛	KB8	一括	2.6	0.6	0.7	0008-0025		
46	塊状品	鉛	KB8	一括	1.5	2.0	0.5	0008-0016		7.2g

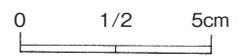
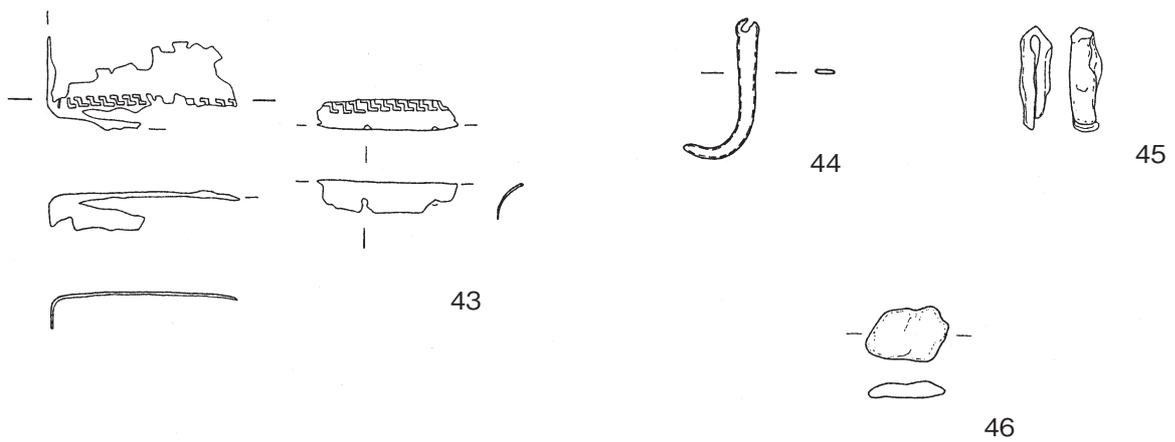
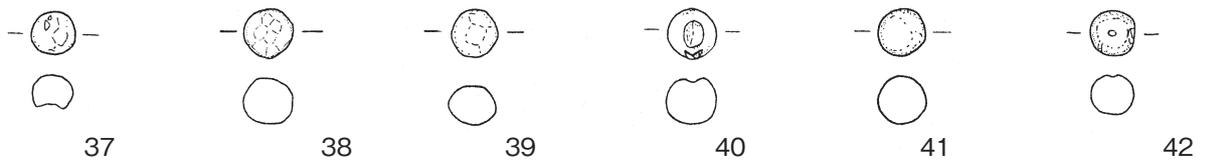
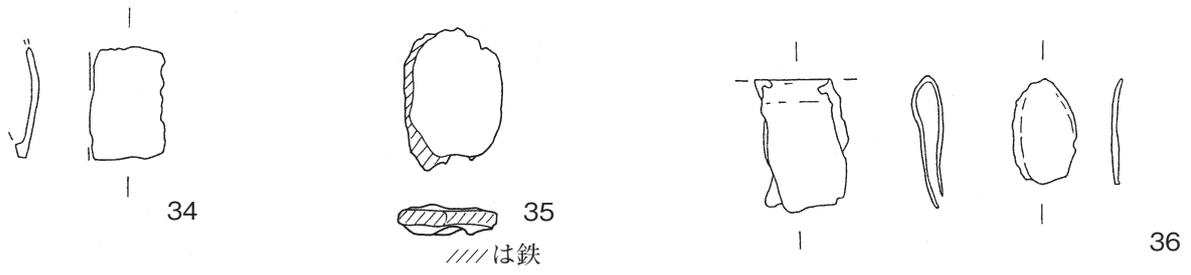
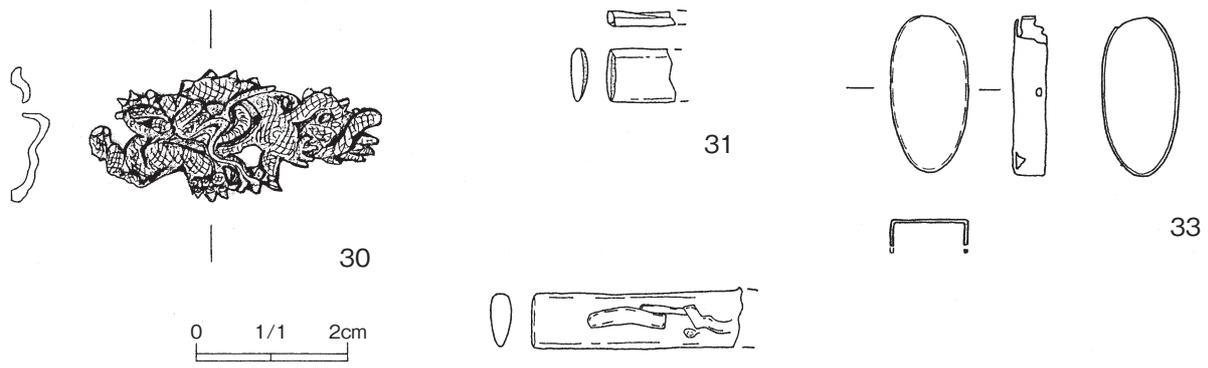
第27表 金属類一覧表 1



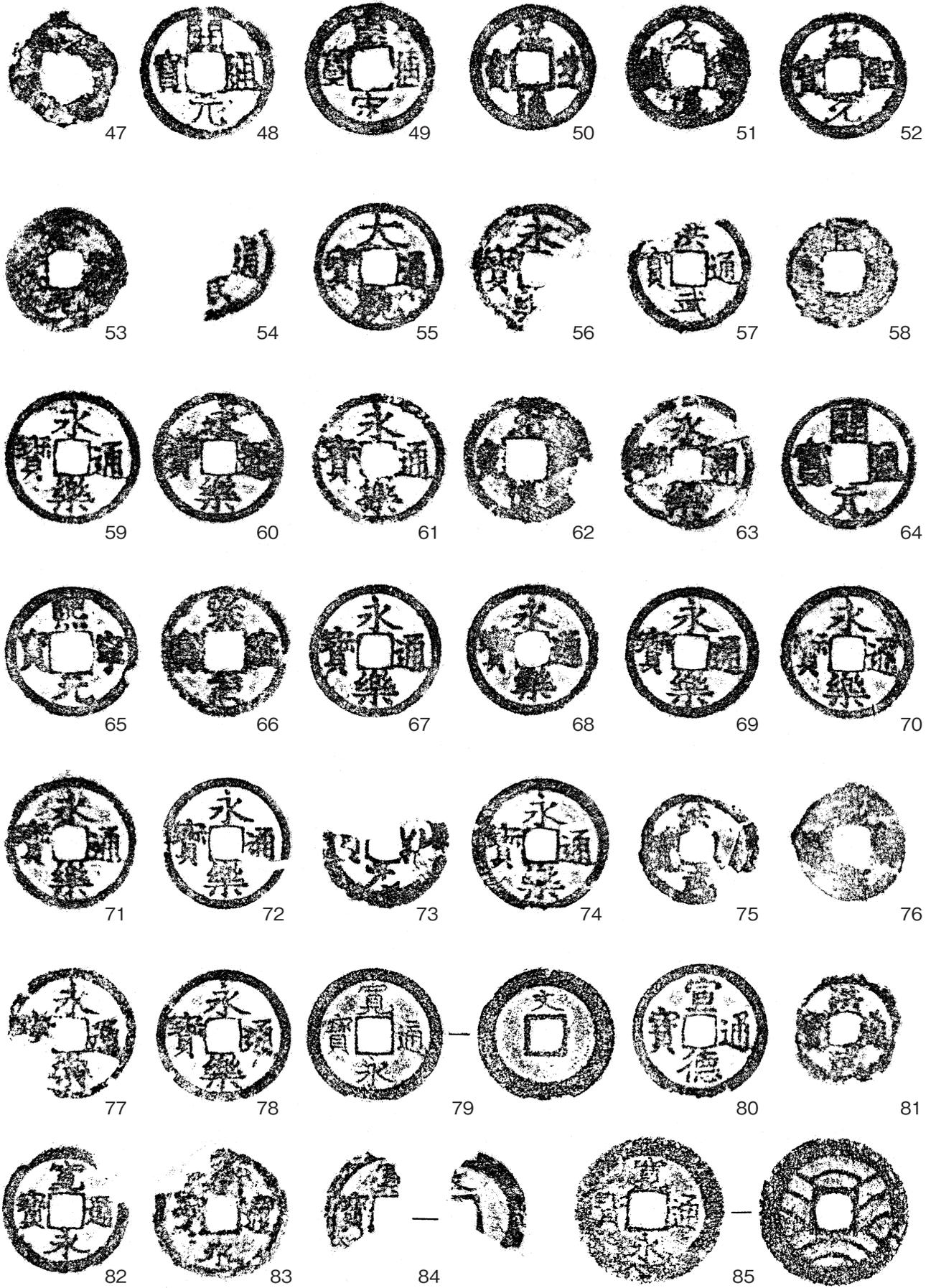
第71図 金属製品1 (鉄)



第72図 金属製品2 (銅1)

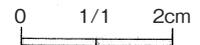
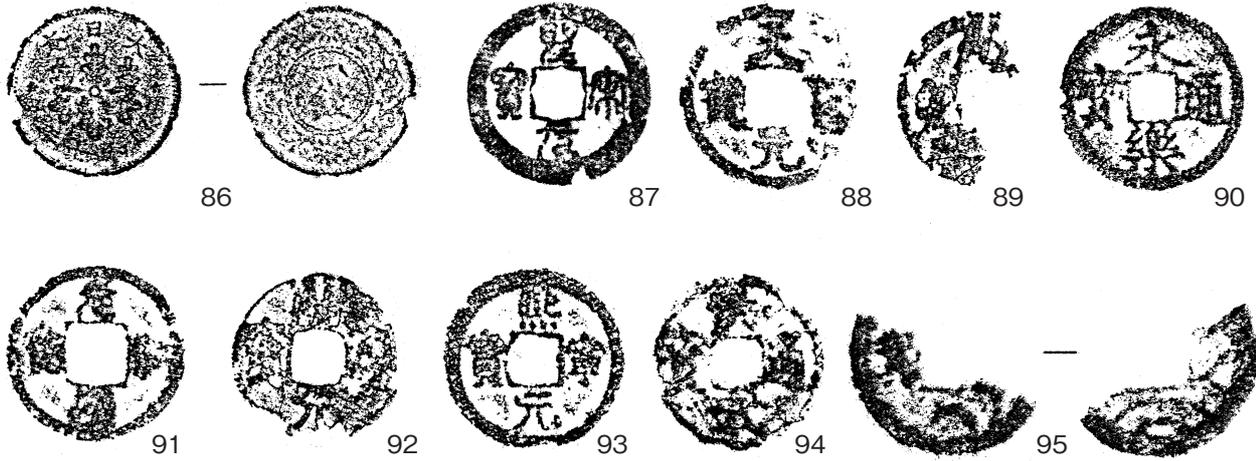


第73図 金属製品3 (銅2・鉛)



第74図 金属製品4 (錢貨1)

0 1/1 2cm



第75図 金属製品5 (錢貨2)

No	調査名	出土地点	錢種(錢貨名は番号順)
47	KB7	1溝 B-2G No.38	不明
48~53	KB7	5溝 C-3G No.83	開元通宝、皇宋通宝、元豊通宝、元■通宝、紹聖元宝、聖宋元宝
54	KB7	5井	洪武通宝
55	KB7	6井	大観通宝
56	KB7	2壙 C-3G No.25	永楽通宝
57	KB7	2壙 C-3G No.27	洪武通宝
58	KB7	C-2G No.5	寛永通宝(新)
59	KB7	C-3G No.2	永楽通宝
60	KB7	C-3G No.5	永楽通宝
61	KB7	C-3G No.98	永楽通宝
62	KB7	D-4G No.16	元祐通宝
63	KB7	D-5G No.22	永楽通宝
64	KB7	E-6G No.40	開元通宝(真書)
65	KB7	E-6G No.42	熙寧元宝(真書)
66	KB7	一括	熙寧元宝(篆書)
67~70	KB7	一括	永楽通宝 4
71	KB7	一括	永楽通宝
72	KB8	8溝 C-5G No.215	永楽通宝
73	KB8	8溝 D-5G No.57	淳化元宝(真書)
74	KB8	4井	永楽通宝
75	KB8	9井	洪武通宝
76	KB8	B-3G No.7	熙寧元宝(篆書)
77	KB8	C-4G No.23	永楽通宝
78	KB8	C-4G No.75	永楽通宝
79	KB8	C-5G No.109	寛永通宝(新) 背文「文」
80	KB8	C-5G No.118	宣徳通宝
81	KB8	D-5G No.26	洪武通宝
82	KB8	C-5G No.130	寛永通宝(古)
83	KB8	D-6G No.19	寛永通宝(古)
84	KB8	D-6G No.120	寛永通宝(新) 背文「文」
85	KB8	一括	寛永通宝 波紋
86	KB8	一括	一銭
87	KB11	5溝 No.2	聖宋元宝(篆書)
88	KB12	3溝 No.76	天聖元宝(真書)
89	KB12	3溝 No.77	元■■宝
90	KB12	3溝 No.78	永楽通宝
91	KB12	3溝 No.85	元祐通宝(篆書)
92	KB12	4溝 No.150	開元通宝
93・94	KB12	12溝	熙寧元宝、洪武通宝
95	第16次	3壙	文久永宝 波紋

第28表 金属類一覽表2

第4節 石製品類

ここでは、成形したものを使用した石製品と使用による損耗形態を呈す石器を石製品として、墓標・供養塔である板碑・五輪等を石造物として扱う。

いずれの遺物も遺構出土があるが流れ込みであろう。

(1) 石製品

石臼は1～51で、茶臼・粉挽臼・搗臼がある。茶臼は2・5・13・15・38・48である。44は搗臼、他は粉挽臼である。挽木の挿入口は、9・12・19・20・31・40・41・46・50に見られるが、いずれも貫通している。堅く固定するためか。11・12は上臼が復元されているが、いずれも破片が接合したもので11は8点の破片が、12は20点を超える破片が接合したものである。いずれも3号土壌出土で意図的な破壊によるものであろう。44は、唯一石材はデイサイトで、搗臼とした。各所に摩耗痕があり砥石としても使用されたようである。

硯(52・53)は、いずれも陸の部分で、52は平面長方形、53は不整形と思われる。53は中央が窪み周縁及び下側面が摩耗している。

砥石(54～79・89)は直方体を基本形とし、損耗により変形するものがある。泥岩質のものがほとんどである。61は小型で薄い。54・57は緑泥片岩製で条線が見られ、54は片面が摩耗している。58は角閃石安山岩製で磨面を各所に有する。72・73は泥岩製と思われ72は中央が窪む。54・57は板碑由来か。89は緑泥片岩製である。

磨石(80～88・90～110)は礫の原形が残るものが多く、使用により形成された面が不規則に存在する。デイサイト製が多数を占める。85・90・97はやや大型で置き砥か。82にはタール状のススが付着する。名称が縄文時代のものを連想させるがいわゆる砥石と区別するために分割しておく。

砥石・磨石共に金属を砥いだことによる線条痕が見られ、鎌や武器類などの刃物を対象としていたものであろう。

111は石英製で擦痕・潰れが認められるもので火打石として扱った。判別は困難であるが火打金の出

土例から当然存在するものとして想定しておくべきものである。

(2) 石造物

【板碑】板碑は26点を数えるが、すべて小破片である。133は他のものより彫りが深く大型のものと思われる。

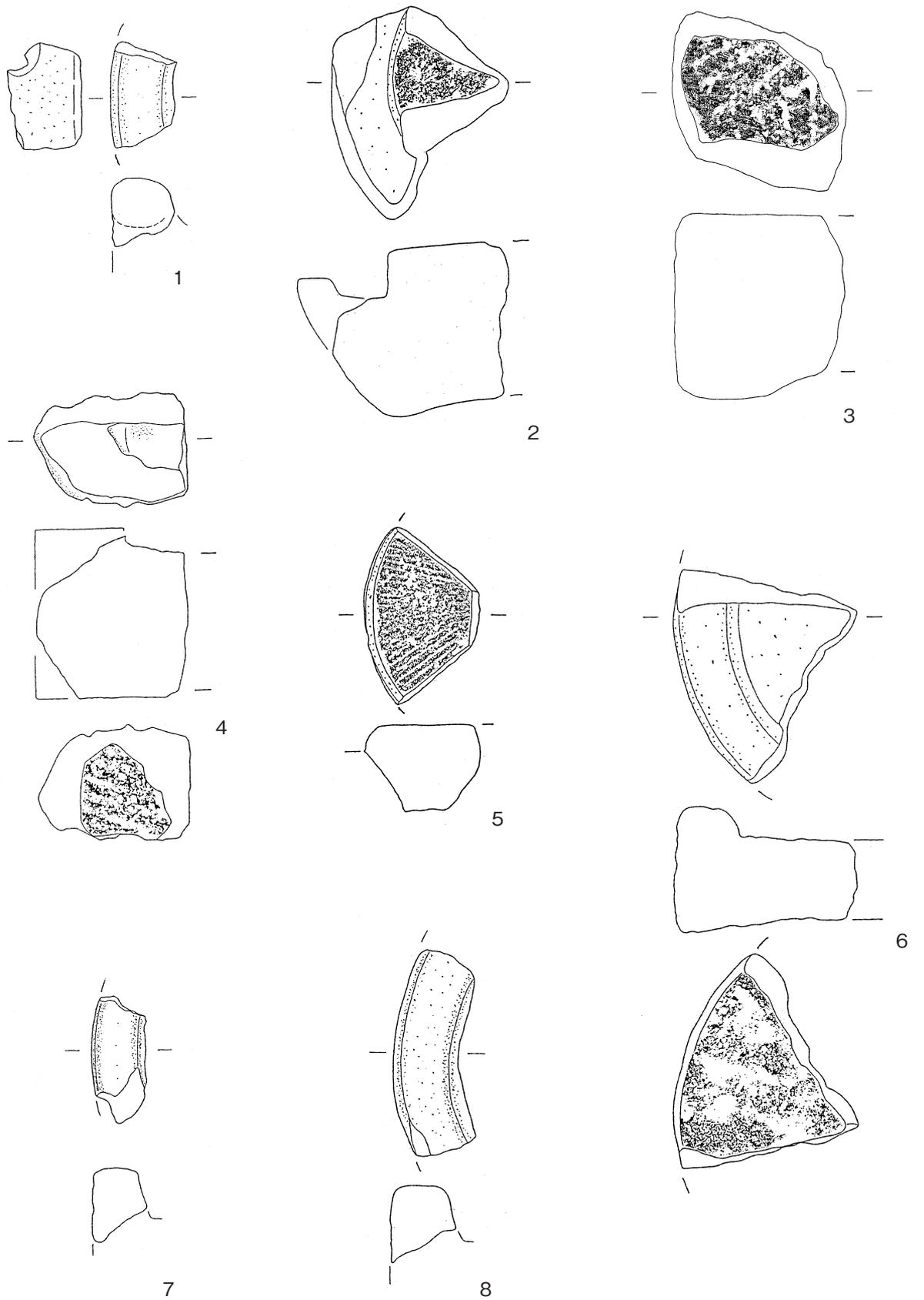
○銘文など 年号は115に文安二年(1445)と、125には元年十一月十一日とある。キリークは113・114・117・119・124・131・133・134で、119は月輪を伴う。経文は112・125・131・132に刻まれる。

○使用痕 2次使用としては表面に摩耗痕・線条痕が認められるものがあり(113・122・132・134)、砥石として使用されたものであろう。潰れ(118・132)が認められる。同様に使用によるものか。

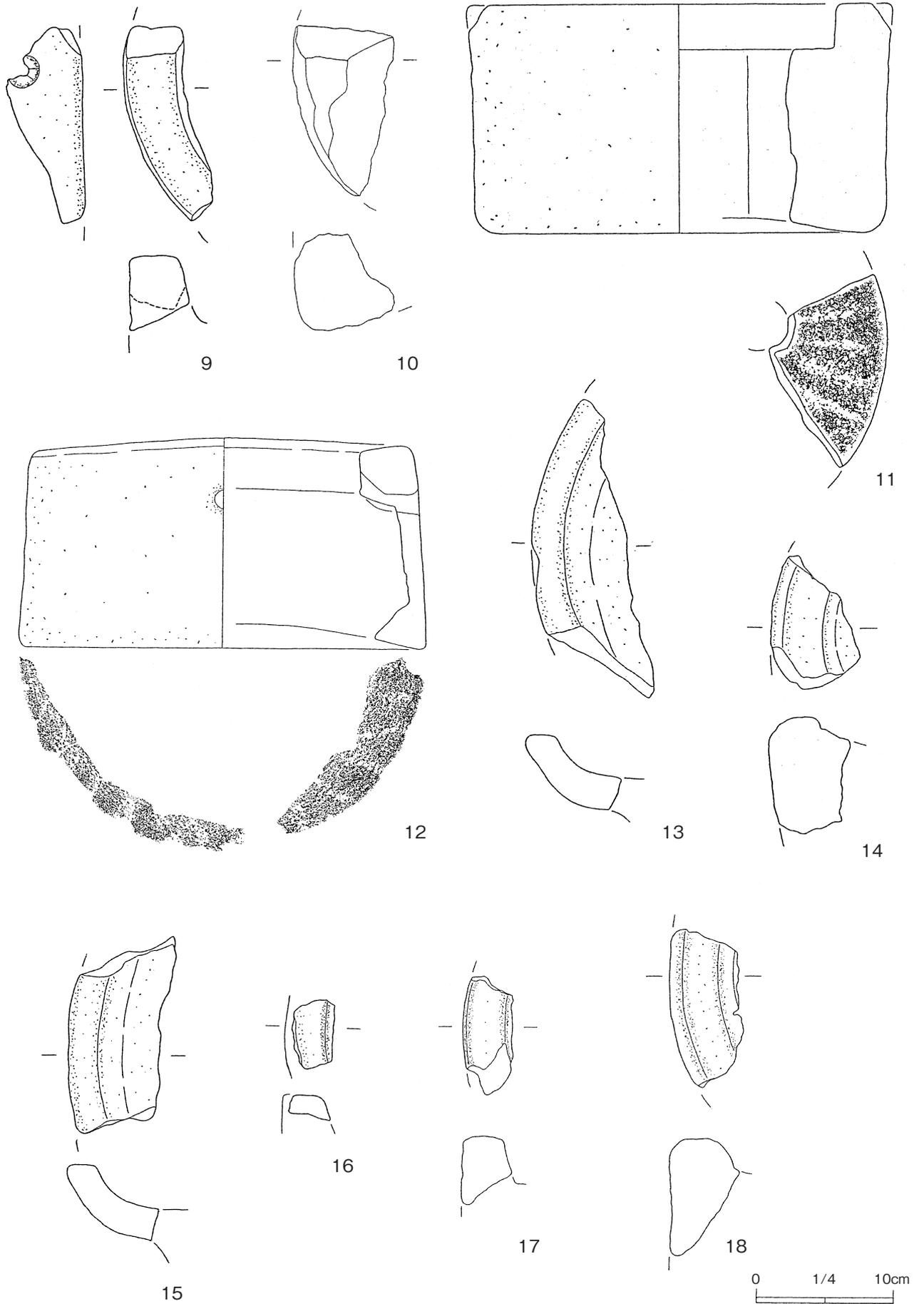
○付着物 廃棄以降であろうか、煤(112・113・115・116・135)・黒色付着物(117・124)が認められる。なんらかの焼却や戦乱時の燃焼に伴うものであろう。117は漆の可能性もある。

○台石 138は挟りを有し板碑の台石と思われる。

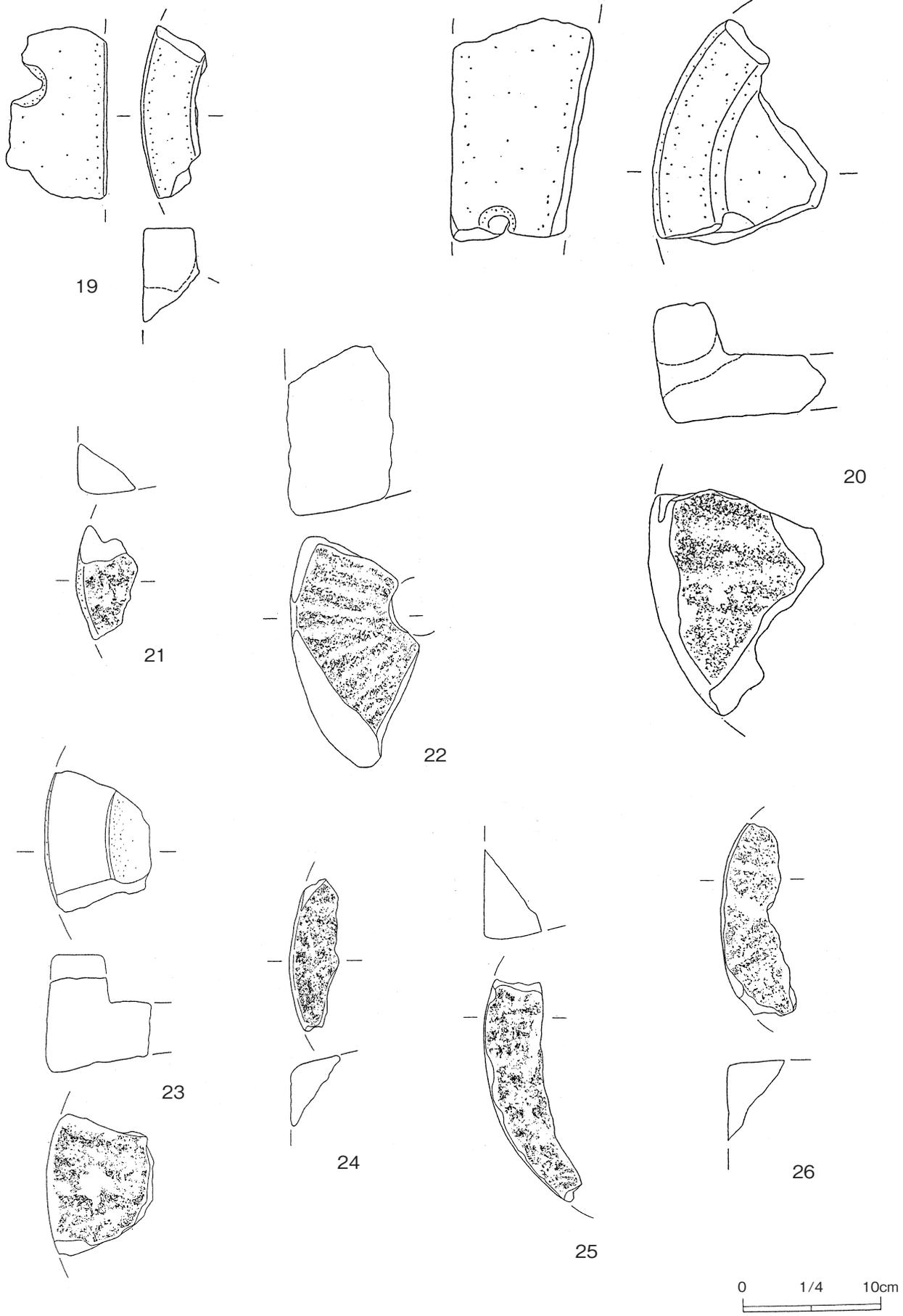
【五輪塔】139・140は火山性の黒色の安山岩製か。五輪塔の地輪と思われる。



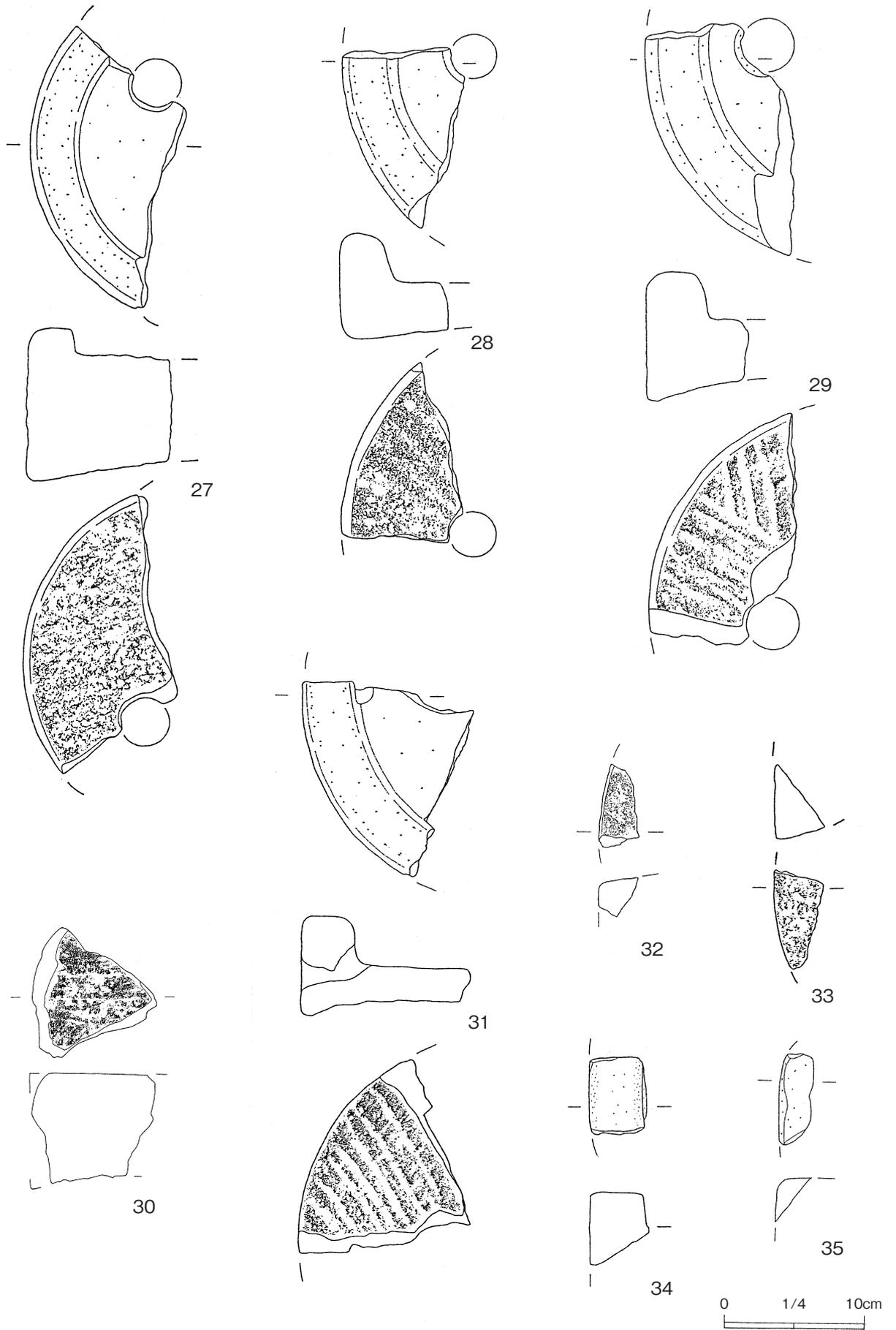
第76図 石製品1 (石臼1)



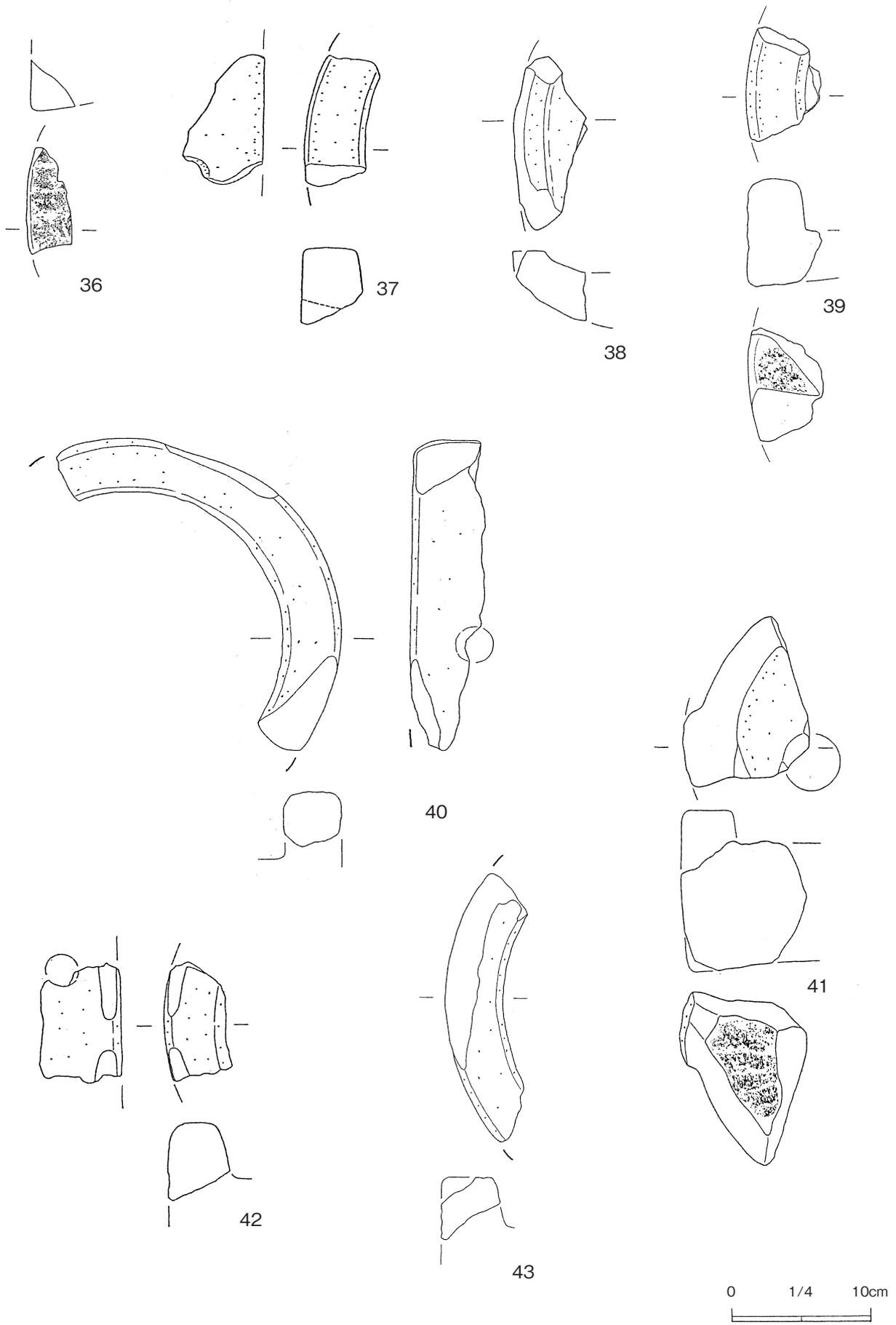
第77図 石製品2 (石白2)



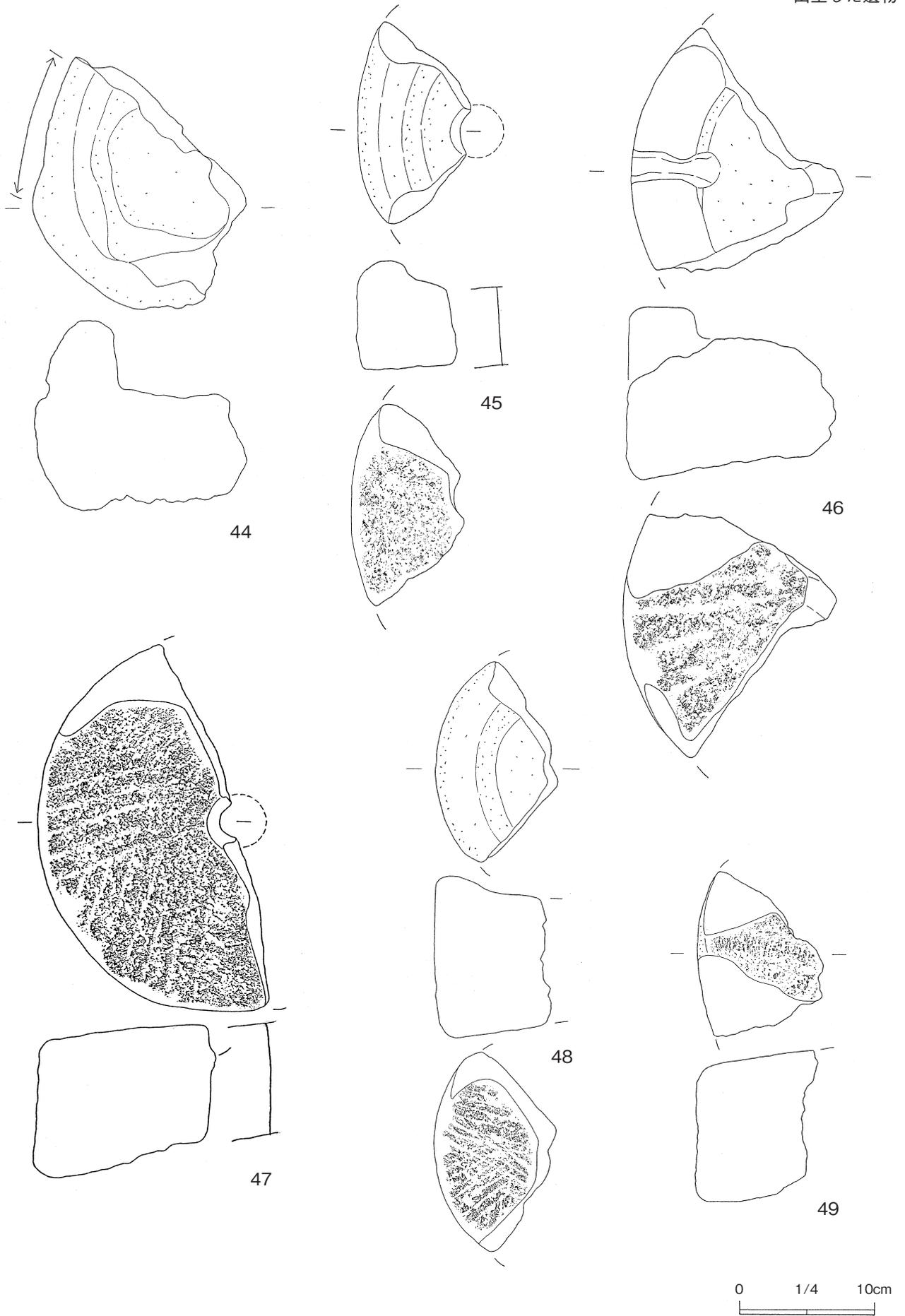
第78図 石製品3 (石臼3)



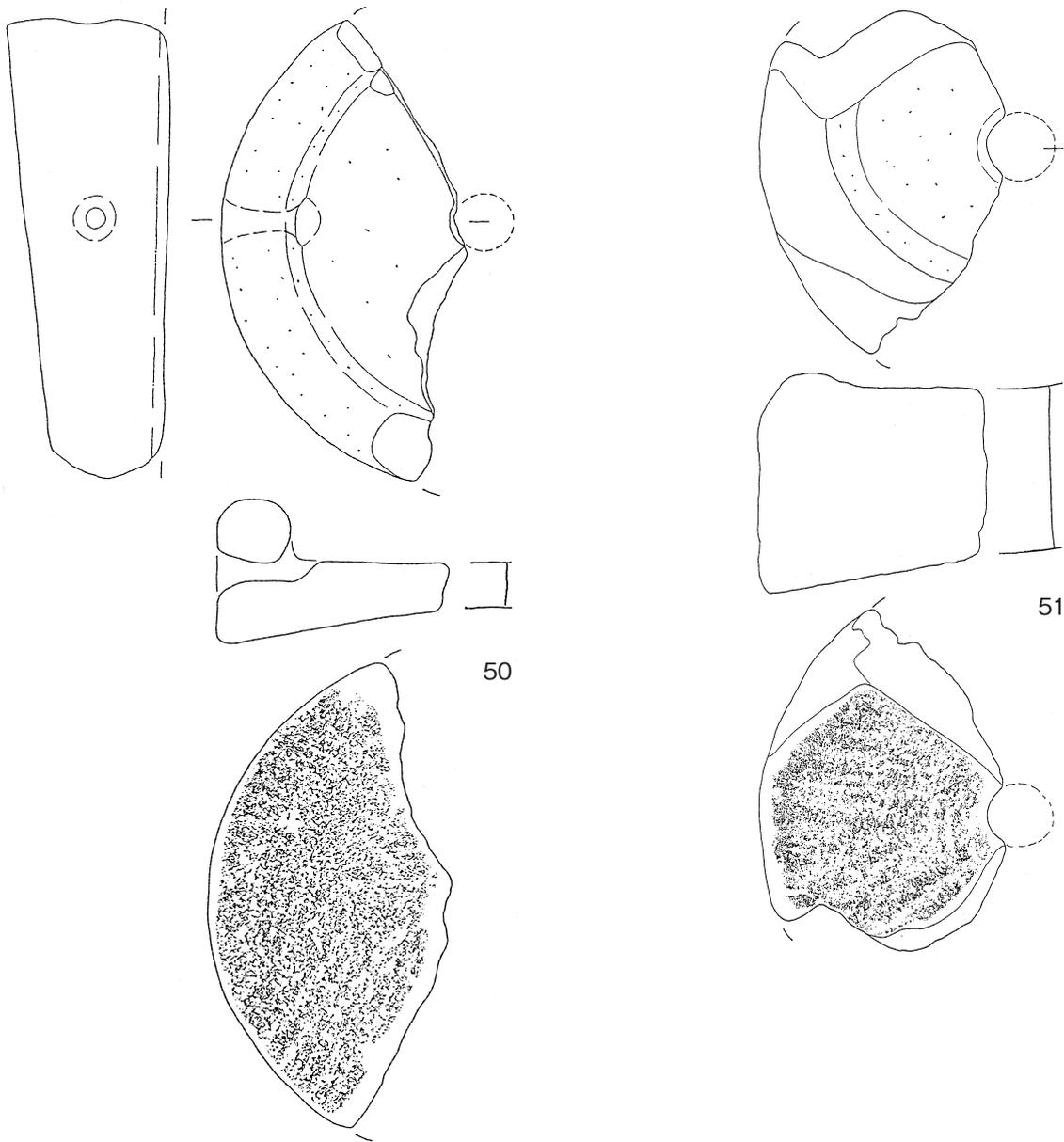
第79図 石製品4 (石臼4)



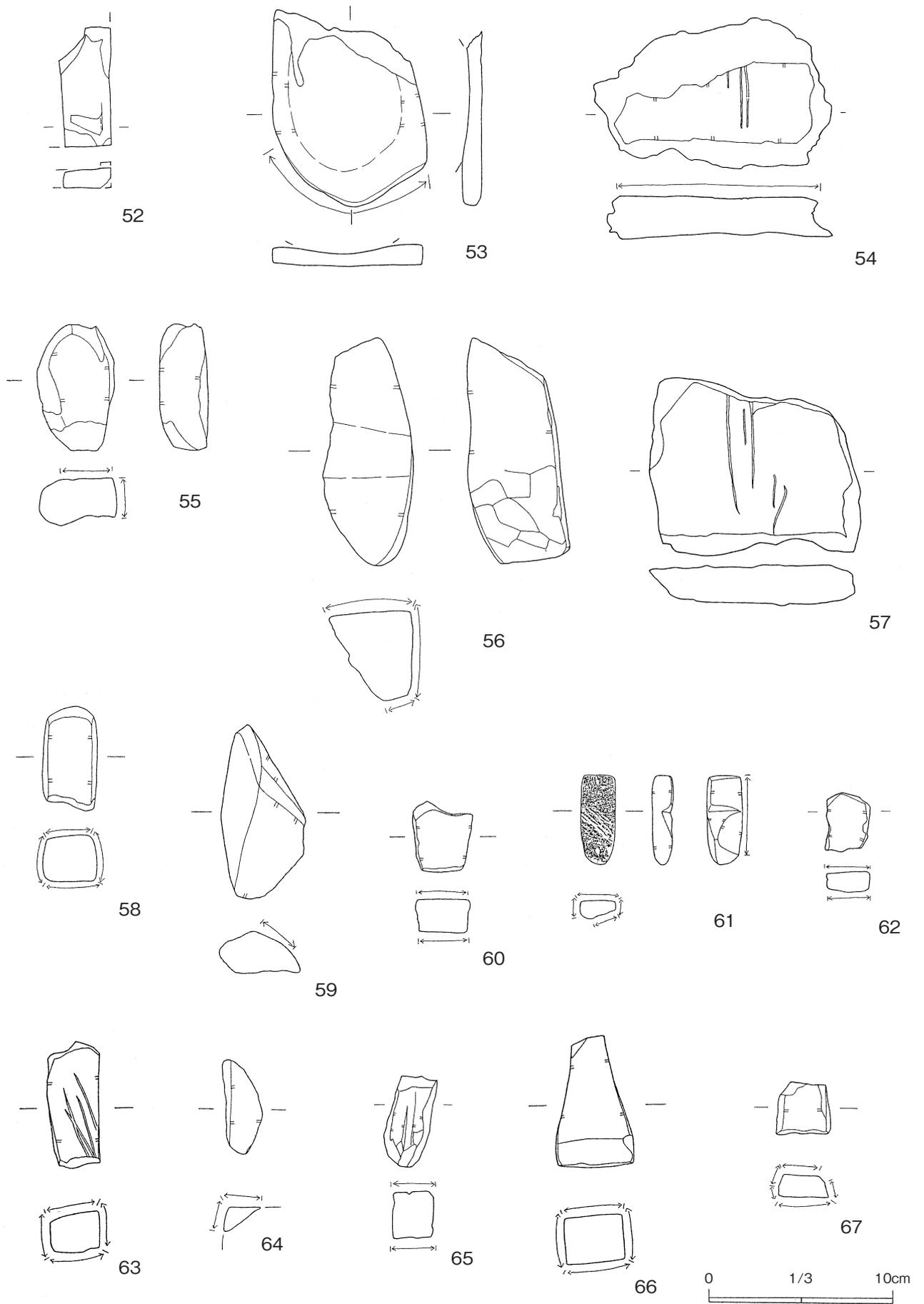
第80図 石製品5 (石臼5)



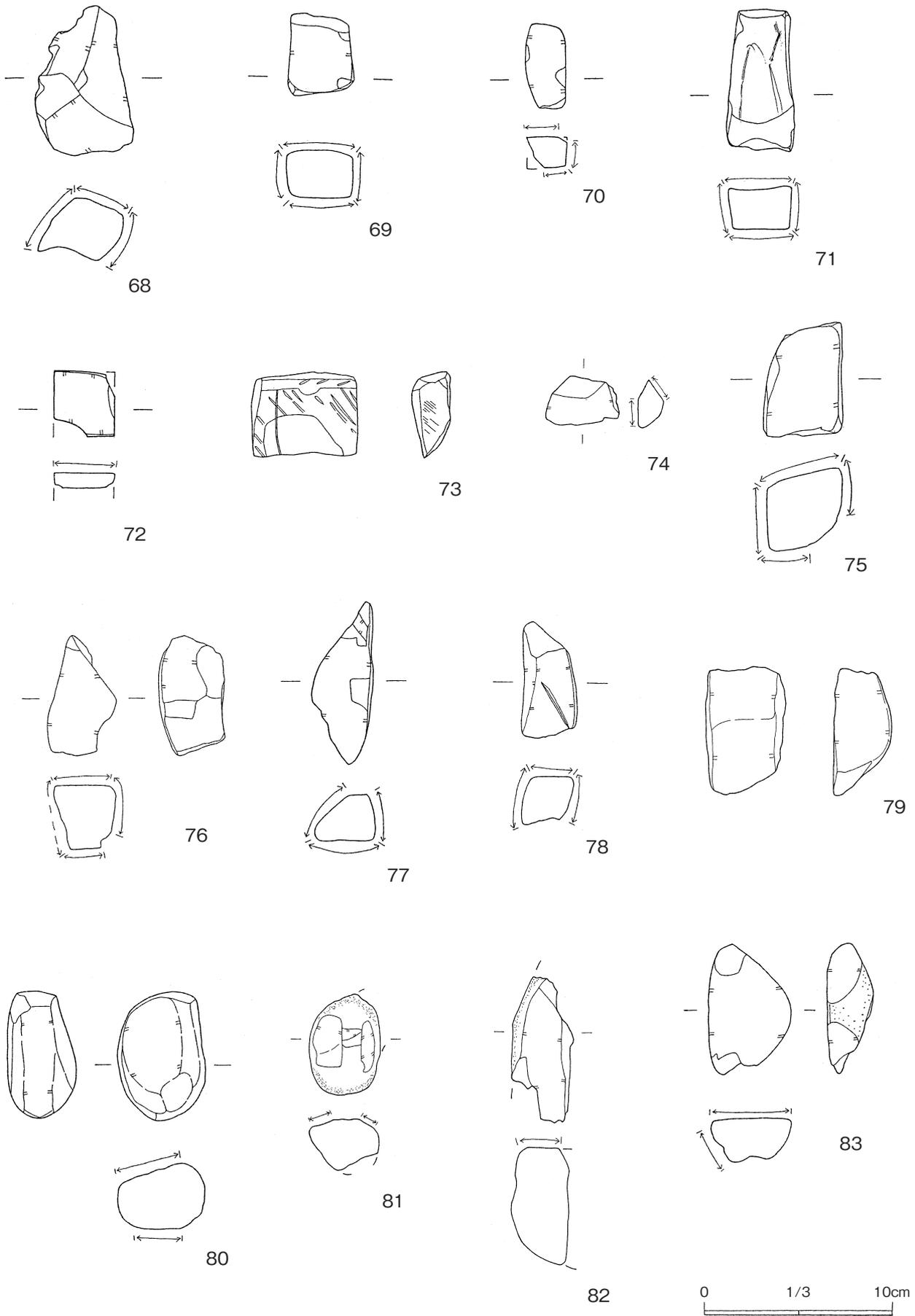
第81図 石製品6 (石白6)



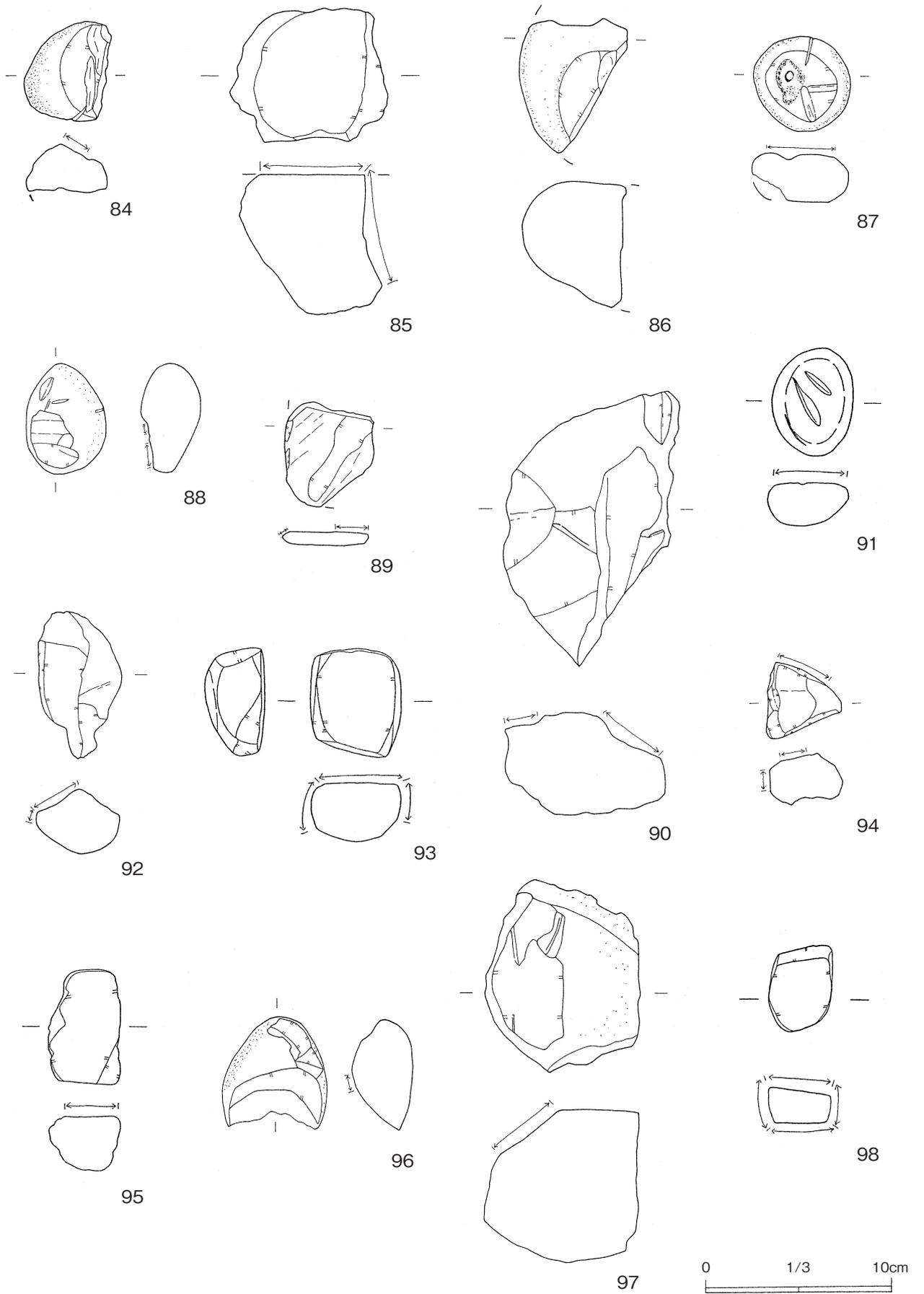
第82図 石製品7 (石臼7)



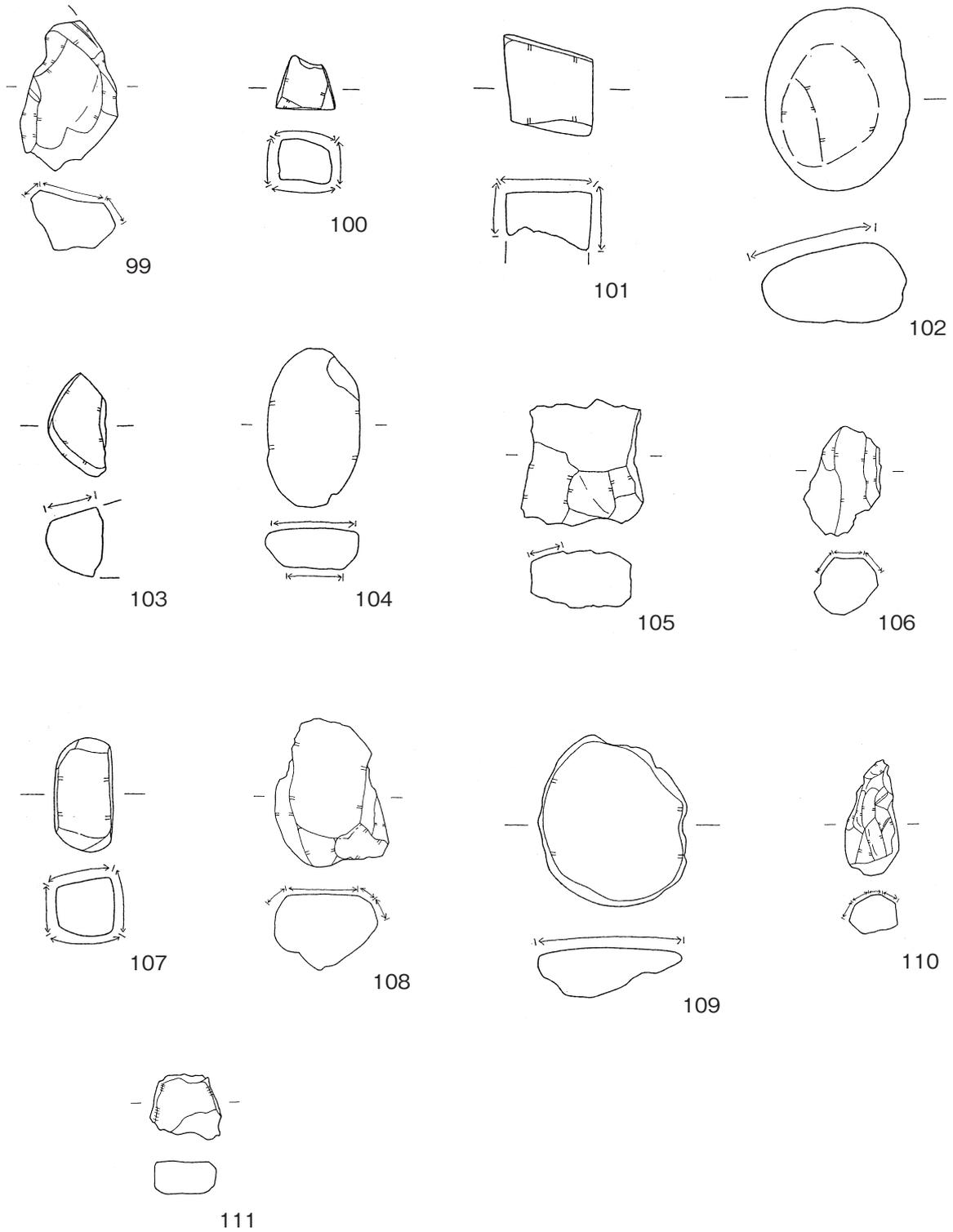
第83図 石製品8 (硯・砥石1)



第84図 石製品9 (砥石2・磨石1)



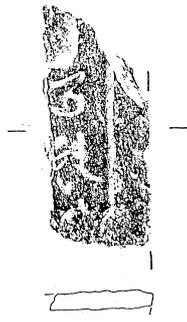
第85図 石製品10 (磨石2)



0 1/3 10cm

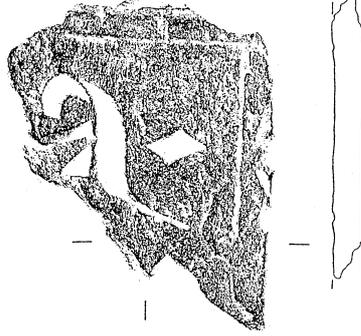
第86図 石製品11 (磨石3・火打石)

光明真言



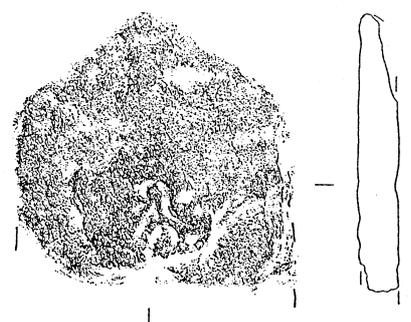
112

キリーク



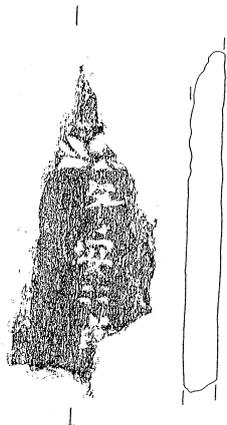
113

キリーク



114

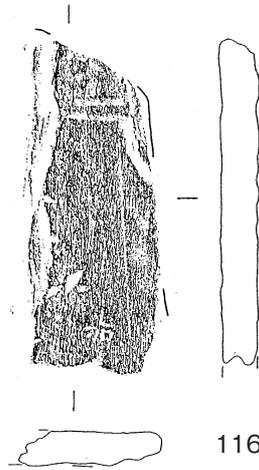
蓮座文安二年



115

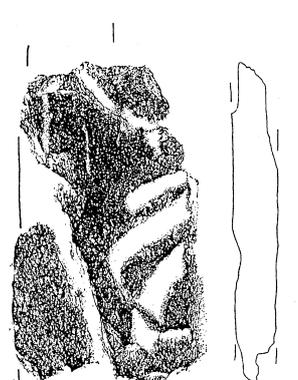
蓮座

嘉

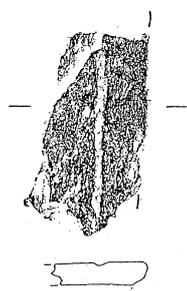


116

キリーク

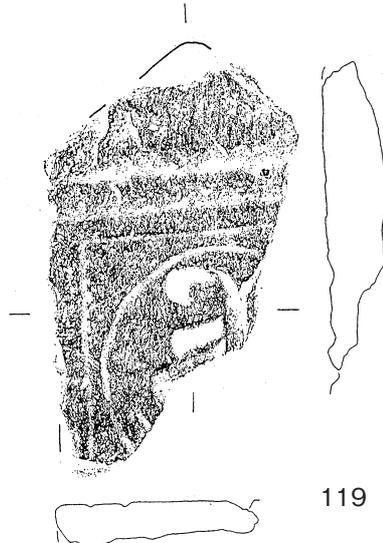


117



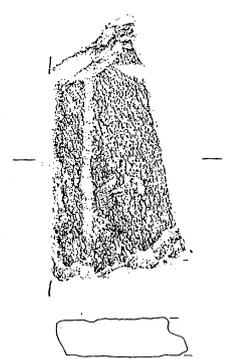
118

キリーク(月輪)

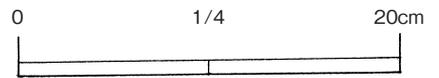


119

蓮座

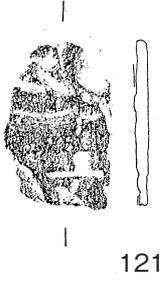


120



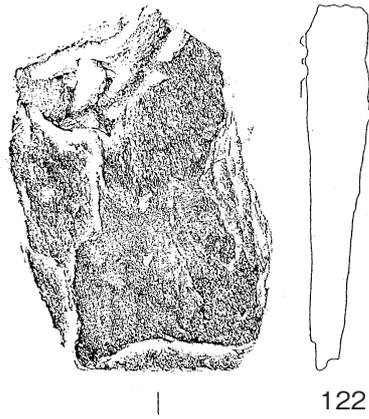
第87図 石製品12 (板碑1)

蓮座文^カ

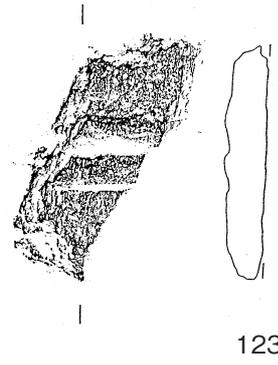


121

蓮座



122



123

キリク



124

華經^カ
佛
元年
十一月
十二日



125

蓮座



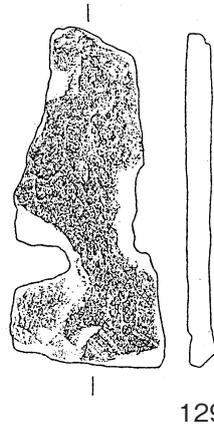
126



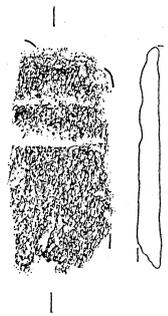
127



128



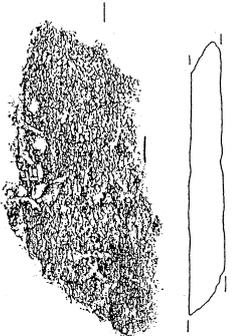
129



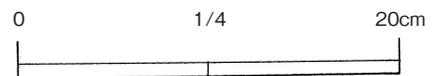
130

キリク(蓮座)

文



131



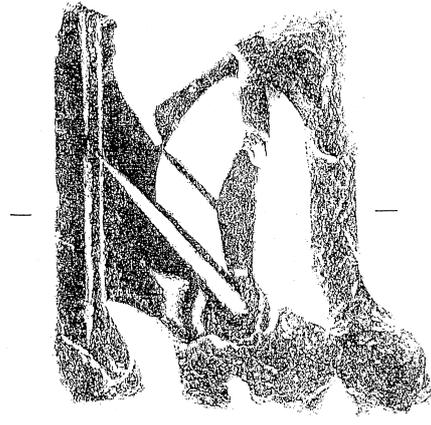
第88図 石製品13 (板碑2)

「業障」



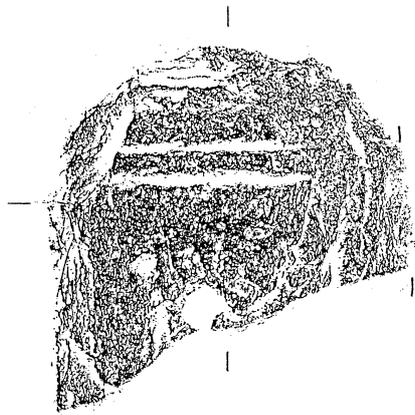
132

キリーク(蓮座)



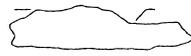
133

キリークカ



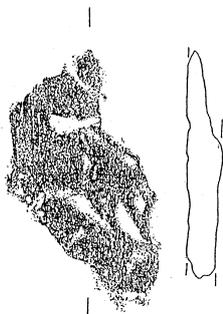
134

キリークカ



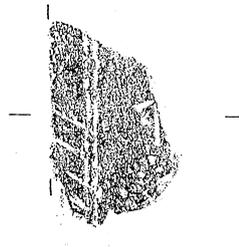
135

キリークカ
蓮座

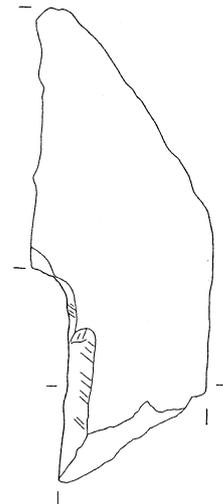


136

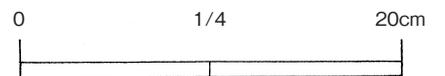
(真言梵字の一部)



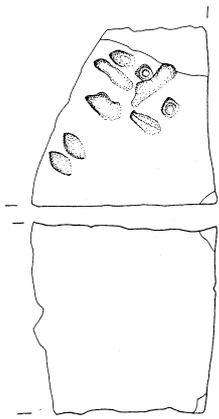
137



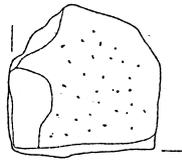
138



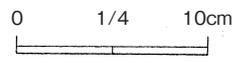
第89図 石製品14 (板碑3)



139



140



第90図 石製品15 (五輪塔)

() は残存値

法量の単位は cm

図No.	遺物名	材質	調査名	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物 ID	遺物 ID 2	備考
1	粉挽臼(上臼)	普通輝石安山岩	KB7	1溝 C-2G No70		(7.4)	(4.7)	石10		
2	茶臼(下臼)	角閃石安山岩	KB7	1溝 C-2G No78		(14.5)	(12.0)	石16		
3	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	KB7	1溝 C-2G No87		(11.8)	(12.8)		0007-0002	
4	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB7	1溝 D-5G No3		(10.4)	(10.9)		0007-0001	
5	茶臼(下臼)	角閃石安山岩	KB7	11溝 E-6G No62		(12.2)	(5.9)	石11		
6	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB7	15溝 C-2G No99		(14.5)	(8.5)	石30		
7	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB7	9井		(7.3)	(5.7)	石24		
8	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB7	1壙 B-2G No24		(14.0)	(5.3)	石9		
9	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB7	1壙 B-2G No27		(14.4)	(5.4)	石23		
10	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	KB7	1壙 B-2G No29		(12.6)	(7.2)	石15		
11	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB7	1壙 B-2G No32、 3壙 C-3G (No40 ・52・61・63)、B-2 G No28		(30.6)	(16.8)	石29		
12	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB7	3壙 C-3G (No29 ~33・37・42~48・ 50・53・58・62・64・ 66~70・77)		(30.0)	(15.5)	石31		
13	茶臼(下臼)	角閃石安山岩	KB7	3壙 C-3G No39		(21.8)	(5.4)	石21		
14	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB7	3壙 C-3G No65		(9.9)	(8.6)	石14		
15	茶臼(下臼)	角閃石安山岩	KB7	3壙 C-3G No71		(14.5)	(5.4)	石20		
16	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB7	D-4G No40		(5.1)	(1.8)	石26		
17	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB7	D-5G No12		(8.7)	(5.0)	石25		
18	粉挽臼(上臼)	不明	KB7	E-5G No7		(11.7)	(8.6)	石19		
19	粉挽臼(上臼)	安山岩	KB7	E-6G No13		(12.5)	6.7	石18		
20	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB7	E-6G No21		(16.2)	(8.6)	石17		
21	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB7	E-7G No21		(8.2)	(3.5)	石27		
22	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB7	E-6G No47		(16.9)	(12.2)	石28		
23	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB7	一括		(10.3)	(6.8)	石13		
24	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	KB8	側溝北		(11.1)	(5.1)	石15		
25	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB8	1井 B-3G No66		(16.0)	(6.5)	石18		
26	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	KB8	1井 B-3G No74、C-4No14		(14.0)	(5.7)	石06		
27	粉挽臼(上臼)	普通輝石安山岩	KB8	1井 B-3G No70		(20.1)	(10.8)	石12		
28	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB8	4井 B-4G No55		(12.8)	(7.5)	石09		
29	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB8	6井 C-5G No60		(16.5)	(9.2)	石11		
30	粉挽臼(下臼)	普通輝石安山岩	KB8	4井 B-4G No79		(8.9)	(8.0)		0008-0001	
31	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB8	6井 C-5G No61		(14.0)	(7.0)	石10		
32	粉挽臼(下臼)	普通輝石安山岩	KB8	B-3G No25		(6.1)	(2.9)	石8		
33	粉挽臼(上臼)	普通輝石安山岩	KB8	B-3G No34		(7.2)	(5.3)	石7		
34	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB8	B-4G No6		(5.6)	(5.2)	石5		
35	粉挽臼(下臼)	普通輝石安山岩	KB8	C-4G No29		(5.6)	(3.2)	石2		
36	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB8	C-4G No139		(7.7)	(3.1)	石4		
37	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB8	C-5G No19		(9.2)	(5.4)	石1		
38	茶臼(下臼)	普通輝石安山岩	KB8	C-5G No159		(12.5)	(5.1)	石3		
39	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB12	1溝		(8.3)	(7.8)	石8		
40	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	KB12	3溝		(27.5)	(5.3)	石11		
41	粉挽臼(上臼)	普通輝石安山岩	KB12	4溝No161		(12.3)	(9.3)	石10		
42	粉挽臼(上臼)	安山岩	KB12	4溝No170		(8.7)	(5.5)	石9		
43	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	第16次	2井No13		(19.4)	(4.5)	石1		
44	搗臼	デイサイト	第23次	T2溝 No123		(15.9)	(14.2)	石2		旧B区2溝
45	粉挽臼(上臼)	礫岩	第23次	T2溝 No155		(15.2)	(8.2)	石4		旧B区2溝
46	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	第23次	T2溝 No171		(18.3)	(10.7)	石5		旧B区2溝
47	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	第23次	T2溝 No181		(27.2)	(11.5)	石7		旧B区2溝
48	茶臼(上臼)	角閃石安山岩	第23次	T20壙No108		(15.0)	(12.2)	石6		旧B区7壙
49	粉挽臼(下臼)	不明	第23次	B区No100		(12.3)	(11.4)	石3		
50	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	第23次	B区No189		(25.7)	(8.0)	石1		
51	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	第23次	B区No63		(19.3)	(12.3)	石8		
52	硯	不明	KB8	C-5G No160	(6.7)	(1.1)	3.0		0008-0002	
53	硯	不明	第23次	B区No65	(11.1)	(8.6)	(1.1)	石10		
54	砥石	緑泥片岩	KB7	1溝 C-2G No82	(8.4)	(13.1)	2.4		0007-0001	
55	砥石	泥岩	KB7	11溝 E-6G No58	7.1	4.3	2.6	石3		

第29表 石製品類一覧表 1

() は残存値

法量の単位は cm

図No	遺物名	材質	調査名	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物 ID	遺物 ID 2	備考
56	砥石	泥岩	KB7	11溝 E-6G No59	12.7	5.1	5.0	石8		
57	砥石	緑泥片岩	KB7	15溝 C-2G No106	9.9	(11.7)	2.1		0007-0002	
58	砥石	角閃石安山岩	KB7	D-5G No25	5.9	3.1	2.6	石7		
59	砥石	泥岩	KB7	一括	9.8	4.7	2.4	石6		
60	砥石	泥岩	KB7	一括	4.0	3.3	1.9	石5		
61	砥石	泥岩	KB7	一括	5.0	2.0	1.0	石4		
62	砥石	泥岩	KB7	一括	3.3	2.5	1.1		0007-0003	
63	砥石	泥岩	KB8	8溝 C-5G No217	7.1	2.9	2.3	石16		
64	砥石	泥岩	KB8	A-2G No11	5.3	(2.3)	(1.4)	石20		
65	砥石	泥岩	KB8	C-4G No111	5.1	3.0	2.6		0008-0001	
66	砥石	泥岩	KB8	C-4G No113	7.4	4.3	2.3	石13		
67	砥石	泥岩	KB8	C-5G No115	3.0	3.0	1.3	石19		
68	砥石	泥岩	KB8	C-5G No180	8.2	5.3	3.4	石17		
69	砥石	泥岩	KB8	一括	4.6	3.6	2.6	石29		
70	砥石	泥岩	KB11	1溝	4.7	2.3	1.8	石2		
71	砥石	砂岩	KB11	一括	7.8	3.7	2.3	石1		
72	砥石	泥岩	KB11	一括	3.6	3.3	0.8	石3		
73	砥石	泥岩	KB12	3溝 1T No10	4.7	5.8	2.1	石1		
74	砥石	泥岩	KB12	3溝 1T No25	2.7	4.0	1.4		0012-0001	
75	砥石	泥岩	KB12	4溝 No30	6.2	4.3	4.2	石3		
76	砥石	泥岩	KB12	4溝 No41	8.7	5.0	4.7	石5		
77	砥石	泥岩	KB12	4溝 No192	8.8	3.4	3.3	石2		
78	砥石	泥岩	KB12	一括	6.3	3.1	2.6	石4		
79	砥石	泥岩	第23次	T2溝 No130	7.0	4.4	3.2	石9		旧 B 区2溝
80	磨石	デイサイト	KB7	1溝 B-2G No50	7.0	3.7	3.6	石1		
81	磨石	デイサイト	KB7	6溝 C-4G No28	(5.6)	(3.9)	(2.8)		0007-0004	
82	磨石	ホルンフェルス	KB7	3井 D-5G No66	(8.0)	(3.4)	(6.4)		0007-0005	スス付着(タール状)
83	磨石	デイサイト	KB7	3壙 C-3G No28	7.2	4.5	2.4	石2		
84	磨石	デイサイト	KB7	C-4G No15	5.5	4.8	(2.7)		0007-0006	
85	磨石	デイサイト	KB7	E-6G No45	7.5	8.7	7.8		0007-0007	
86	磨石	デイサイト	KB7	E-6G No74	7.6	6.0	6.9		0007-0008	
87	磨石	デイサイト	KB7	一括	5.3	5.3	2.7		0007-0009	
88	磨石	デイサイト	KB8	1溝	6.1	4.4	3.3		0008-0002	
89	砥石	緑泥片岩	KB8	8溝 C-4G No93	(5.8)	5.0	0.8		0008-0007	
90	磨石	デイサイト	KB8	3井 B-4G No50	15.3	9.7	5.7		0008-0003	
91	磨石	デイサイト	KB8	21壙 C-9G No136	5.9	4.5	2.4	石27		
92	磨石	デイサイト	KB8	B-2G No5	8.2	4.6	3.6		0008-0004	
93	磨石	デイサイト	KB8	C-4G No5	6.0	5.0	3.3	石22		
94	磨石	デイサイト	KB8	C-4G No24	4.3	4.1	2.8		0008-0005	
95	磨石	デイサイト	KB8	C-4G No55	6.4	4.0	3.0	石24		
96	磨石	デイサイト	KB8	C-4G No65	7.2	5.7	3.3		0008-0006	
97	磨石	デイサイト	KB8	C-5G No114	10.7	8.6	8.5		0008-0008	
98	磨石	デイサイト	KB8	一括	4.8	3.5	1.9	石28		
99	磨石	デイサイト	KB8	一括	(7.3)	4.7	2.9		0008-0009	
100	磨石	デイサイト	KB8	一括	2.6	2.9	2.6	石21		
101	磨石	デイサイト	KB8	一括	4.9	4.4	(2.8)	石23		
102	磨石	デイサイト	KB8	一括	8.9	7.0	3.9	石26		
103	磨石	デイサイト	KB8	一括	5.1	(2.7)	(3.4)	石25		
104	磨石	デイサイト	KB11	5溝 No16	7.7	4.5	1.9		0011-0001	
105	磨石	デイサイト	KB12	1壙 P	6.3	6.0	2.8		0012-0002	
106	磨石	デイサイト	KB12	4溝 No56	5.4	3.8	2.8		0012-0003	
107	磨石	デイサイト	KB12	12溝	5.6	2.9	2.8	石6		
108	磨石	デイサイト	KB12	14溝	7.3	5.6	3.7		0012-0004	
109	磨石	デイサイト	KB12	一括	8.4	7.2	2.4	石7		
110	磨石	デイサイト	KB12	一括	6.6	2.7	1.9		0012-0005	
111	火打石	石英	KB8	北	3.3	3.5	1.6		0008-0010	

第30表 石製品類一覧表 2

図No	遺物名	調査名	出土地点	縦×横×厚	遺物ID	備考
112	板碑	KB7	1溝 B-1G No54	14×6×1	0007-0001	側面平坦、スス付着
113	板碑	KB7	1溝 C-2G No63	18×14×2	0007-0002	側面平坦、スス付着、砥石として使用
114	板碑	KB7	1溝 D-5G No6	16×15×2	0007-0003	
115	板碑	KB7	E-5G No17	19×9×2	0007-0004	スス付着
116	板碑	KB7	E-6G No29	18×9×2	0007-0005	スス付着
117	板碑	KB7	E-6G No30	17×10×2	0007-0006	黒色の付着物あり 漆?
118	板碑	KB7	E-6G No34	11×7×1	0007-0007	側面潰し加工
119	板碑	KB7	一括	22×13×3	0007-0008	
120	板碑	KB7	一括	15×7×2	0007-0009	側面平坦 斜め
121	板碑	KB7	一括	9×6×1	0007-0010	
122	板碑	KB8	一括	19×14×3	0008-0001	表裏摩擦による平滑面、砥石として使用
123	板碑	KB8	3井 B-4G No28	14×10×2	0008-0002	
124	板碑	KB8	7井 C-5G No62	19×11×2	0008-0003	黒色付着物
125	板碑	KB8	C-5G No98	18×13×1	0008-0004	
126	板碑	KB8	C-5G No102	8×7×2	0008-0005	
127	板碑	KB8	C-5G No103	11×6×1	0008-0006	
128	板碑	第16次	19壇 No4	20×6×2	0016-0001	
129	板碑	第16次	19壇 No9	18×8×2	石2	
130	板碑	第23次	T2溝 No131	12×5×1	0023-0001	旧B区2溝。側面平坦
131	板碑	第23次	T2溝 No143	17×8×2	0023-0002	旧B区2溝
132	板碑	第23次	T2溝 No145	15×7×2	0023-0003	旧B区2溝。裏面平滑、砥石として使用、側面平坦、断面潰れ、使用によるもの
133	板碑	第23次	T2溝 No154	22×20×4	0023-0004	旧B区2溝。側面平坦斜め、断面潰れ顕著
134	板碑	第23次	T20壇 No109	19×18×4	0023-0005	旧B区7壇。表裏平滑、使用(砥石)によるもの 側面平坦
135	板碑	第23次	B区No46	16×12×2	0023-0006	スス付着
136	板碑	第23次	B区No70	14×9×2	0023-0007	
137	板碑	第23次	B区No158	11×9×1	0023-0008	側面三角
138	板碑台石	KB7	1溝 B-2G No54	25×10×3	0007-0011	左右は差込口、成形時の削痕が残る
139	五輪塔(地輪)	KB8	1井 B-3G No73	10×10×10	0008-0001	
140	五輪塔(地輪)	KB8	1井 B-3G No78	8×8×5	石14	

第31表 石製品類一覧表 3

第V章 出土遺物補遺

騎武49次 1は鉄製品で刀子の刀身部。2はスタンブ形石器で下部を欠損し、下端周縁部が敲打により潰れている。3～31は石器・石製品で、縄文時代のものも一部含まれる可能性もあるが、ほぼ中近世のものと思われる。

砥石 3～12は扁平な石に砥面・磨り痕を残すもので、砥石とした。3・4・6・8・10～12は緑泥片岩製。6の表面、9の裏面にノミ痕が確認でき、板碑由来と思われる。側面に磨り痕・潰れがあるのは3・7～11で、手持ちによる敲打などの作業が想定できる。5の表面には擦痕が認められる。

磨石 13～21は礫由来のもので本来の形態を残すもの・近いものが多い。13は角閃石安山岩製・16～21はデイサイト製で磨り面を各所に残す。特に16は大型で置き砥としても使用されたと思われる。14・15は礫の形態を残すもので、各所に擦痕・磨り痕が認められ、15は下部の刃部状の先端が良く摩耗している。

敲石 22～26は敲石で礫の周縁が敲打により剥離欠損や潰れが見られる。24の左側面に連続的な剥離が認められる。26は下部が欠損崩落し、両側面を横方向に磨った跡が残されている。

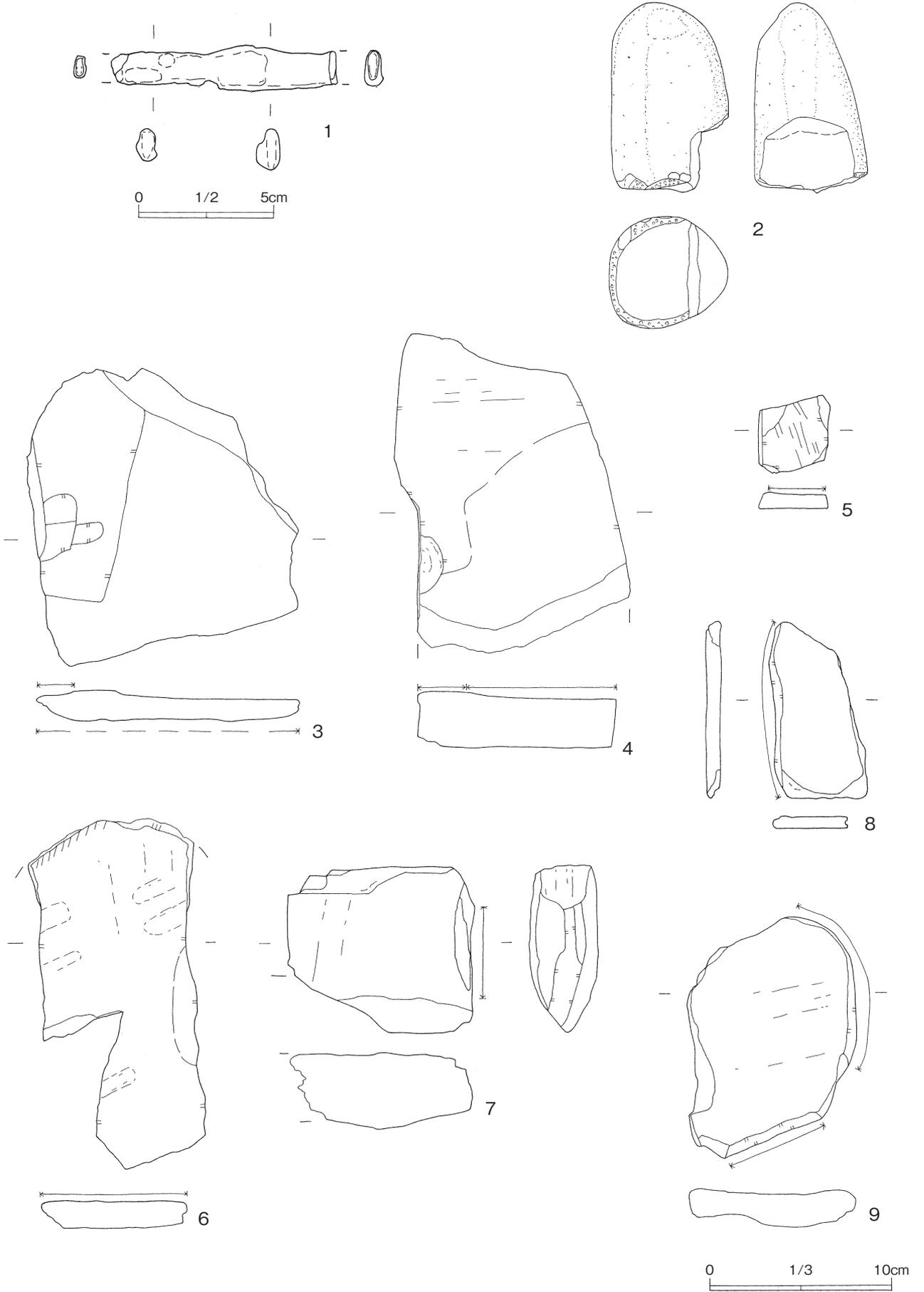
27・28は火打石でいずれも稜部に擦痕が残る。29は板碑片。30は中央に凹みを有し、台石として作業したものと思われる。黒色付着物が認められる。角閃石安山岩で、石臼由来か。31は上面全体が平坦に擦れて、条線が残る。台石と考えていたが茶臼の下臼が妥当であろう。

『加須市埋蔵文化財調査報告書第3集』で49次調査区には、金粒子付着土器・埴埴等の出土や井戸・柱穴の存在から、工房があったものと推定したが、今回補遺した石器・石製品がその証左になるものである。

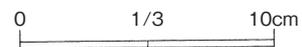
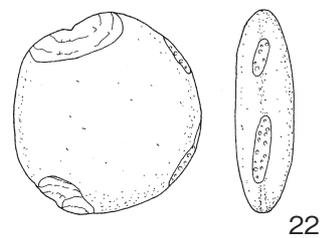
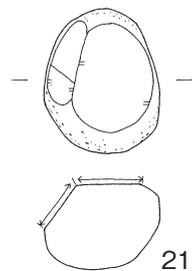
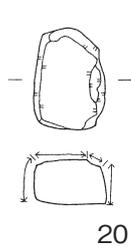
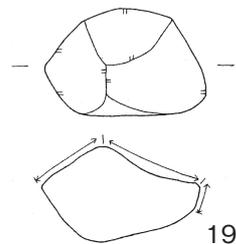
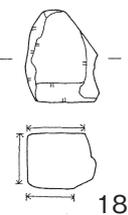
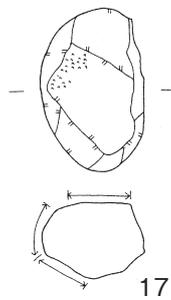
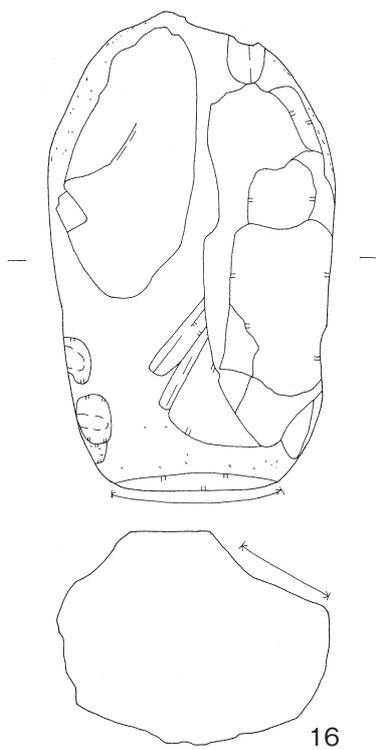
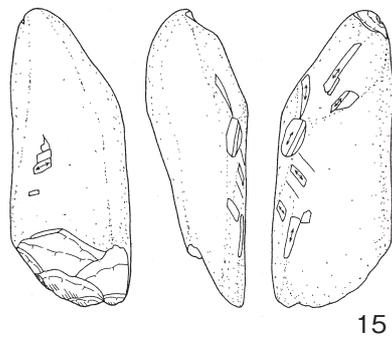
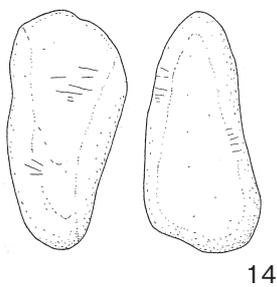
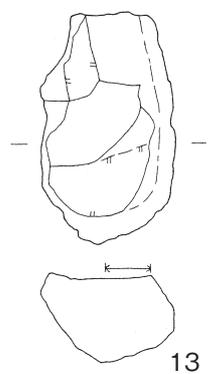
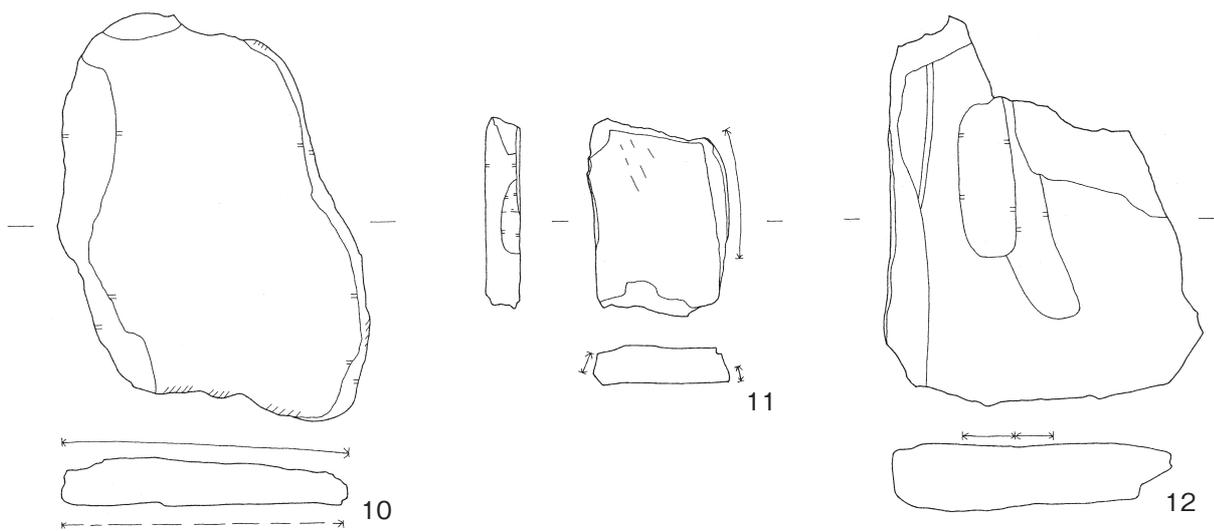
騎武51次 32はほうろくで、第1トレンチ出土。体部のみ1／4周の破片で、内耳が1箇所残る。『加須市埋蔵文化財調査報告書第7集』土器類174のほうろくと接合し、完形となる。

多賀谷氏館跡1次 33・34は土製の錘。縦長で、縦に穿孔される。33は下半欠損、34はほぼ完形で、表面が平滑である。

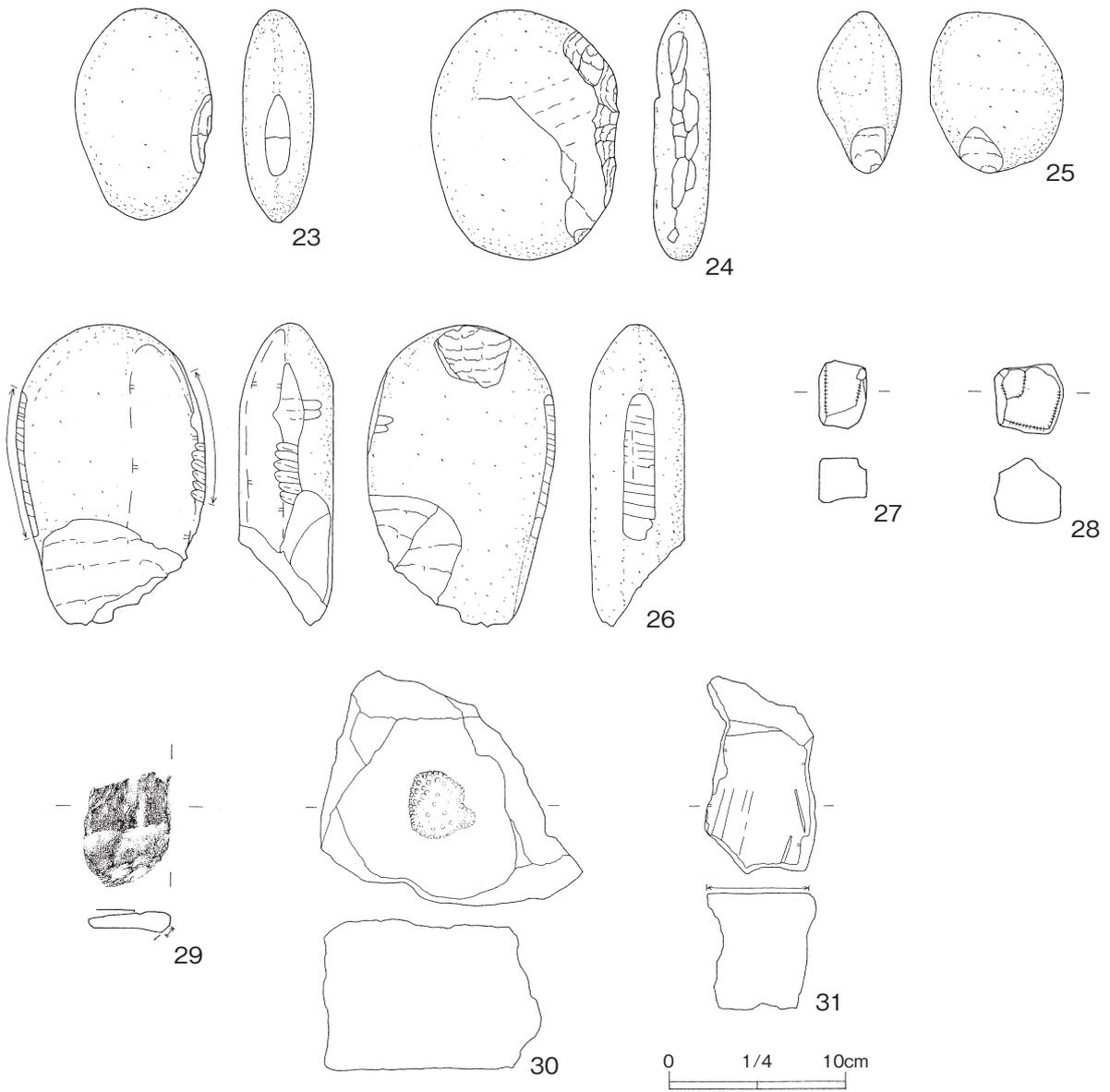
騎武49次



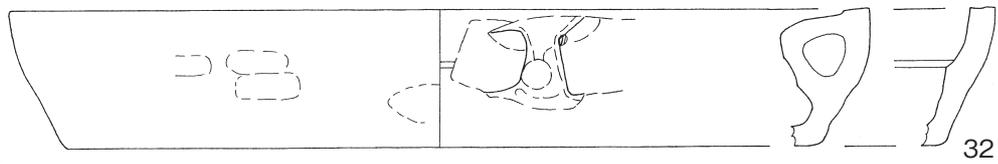
第91図 補遺1



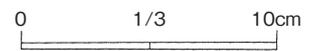
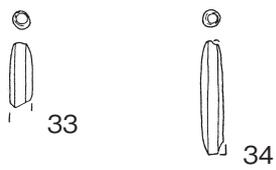
第92図 補遺2



騎武51次



多1次



第93図 補遺3

*は不確定な推定復元値、()は残存値 法量の単位は cm

図No	遺物名	材質	調査名	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物 ID	備考
1	刀子	鉄	騎武49次	No119	8.2	6.5	6.2	0049-0009	
2	スタンプ形石器	花崗岩	騎武49次	No359	10.2	6.5	6.2	0049-0001	
3	砥石	緑泥片岩	騎武49次	2井No131	16.6	15.0	1.6	0049-0010	
4	砥石	緑泥片岩	騎武49次	No19	17.9	13.1	3.1	0049-0018	
5	砥石		騎武49次	No21	4.3	4.0	0.9	0049-0014	
6	砥石	緑泥片岩	騎武49次	No49・157	19.6	(9.8)	1.6	0049-0011	被熱黒化
7	砥石		騎武49次	No51	(10.9)	9.3	4.3	0049-0015	
8	砥石	緑泥片岩	騎武49次	No68	9.9	5.4	0.7	0049-0013	
9	砥石	片岩	騎武49次	No69	13.5	9.4	2.0	0049-0012	
10	砥石	緑泥片岩	騎武49次	No299	16.5	12.0	1.8	0049-0009	
11	砥石	緑泥片岩	騎武49次	No322 12P	7.9	5.6	1.5	0049-0017	
12	砥石	緑泥片岩	騎武49次	No384	15.6	12.6	2.7	0049-0016	
13	磨石	角閃石安山岩	騎武49次	1溝No372	9.1	5.2	3.5	0049-0005	
14	磨石		騎武49次	3井	9.6	4.7	4.6	0049-0025	
15	磨石		騎武49次	No136	11.9	4.8	4.0	0049-0026	
16	磨石	デイサイト	騎武49次	No201	19.2	11.4	8.5	0049-0023	
17	磨石	デイサイト	騎武49次	No222 10P	6.5	4.0	3.0	0049-0003	
18	磨石	デイサイト	騎武49次	一括	3.7	2.8	2.2	0049-0004	
19	磨石	デイサイト	騎武49次	一括	6.4	4.3	3.8	0049-0006	
20	磨石	デイサイト	騎武49次	一括	4.1	2.8	1.8	0049-0007	
21	磨石	デイサイト	騎武49次	一括	5.8	3.4	3.4	0049-0008	
22	敲石		騎武49次	No42	8.1	7.4	2.2	0049-0019	
23	敲石		騎武49次	1溝No362	9.2	5.9	3.0	0049-0021	
24	敲石		騎武49次	2井No430	10.8	8.0	2.4	0049-0020	
25	敲石		騎武49次	No196土壇	7.0	5.7	3.5	0049-0022	
26	敲石		騎武49次	No383	13.1	8.0	4.0	0049-0024	
27	火打石	石英	騎武49次	一括	3.0	2.0	1.9	0049-0001	
28	火打石	石英	騎武49次	一括	3.0	2.9	2.8	0049-0002	
29	板碑	緑泥片岩	騎武49次	No72	(6.8)	(4.9)	(1.2)	0049-0020	枠線
30	台石	角閃石安山岩	騎武49次	1井	14.8	13.4	8.6	0049-0028	上面スス付着
31	台石	角閃石安山岩	騎武49次	No411	11.2	6.3	6.6	0049-0027	被熱黒化 茶白カ
32	土器・ほうろく		騎武51次	1T No43	口径 *34.0	底径 *30.0	高さ5.5	H08	
33	土器・土鍾		多1次	1溝	(3.6)	0.9		0001-0001	
34	土器・土鍾		多1次	No96	4.5	0.9		0001-0002	

第32表 補遺一覧表

第VI章 まとめ

第1節 KB7区調査

武家屋敷跡の西で南北軸の中程に位置する。『武州騎西之絵図』（17世紀初頭の制作か。以下絵図）では武家屋敷を東西に貫く主要路の南にあり、「石原善右衛門」屋敷地の東側無記名地周辺に相当する。

1号溝は、昭和58年に開始した土地区画整理前に東西に走行していた用水がクランクする箇所で、用水に沿うように屈曲している。この溝の底面には僅かに畝状の掘り残しが見られる。分割掘り下げなどの作業工程上のものか、意図的なものか不明である。遺物は、下層で竹束と前立が出土している。16世紀代までに収まると思われる。いずれもいくさに伴う遺物と見ると、永禄・天正期の所産の可能性はある。溝の使用時期は長く17世紀前半の遺物が覆土中位で出土しておりまた、近年までの用水に沿って確認されたことから絵図作成当時にも所在していたことが予想される。絵図への記載を省略したものか、石原善右衛門屋敷の南に所在する堀につながるものかいずれの可能性も残す（第1集ではKB1区12溝が相当するとした）。

第2節 KB8区調査

武家屋敷跡の西側に7区同様南北の中程に位置する。『絵図』では武家屋敷を東西に貫く主要路の南にあり、「加藤孫太夫」屋敷地周辺に相当する。

絵図の時期に相当しそうな溝は8号溝で浅く区画を意識した溝と思われる。また、北側にピットや井戸が多く分布し、建物が繰り返し建築されたことを示している。遺構外であるが良好な土器類・金属製品が出土し、当区域における16c~17c初めの活動の痕跡を示している。

第3節 KB11・12区調査

いずれも武家屋敷跡の西端に位置する。『絵図』では、11区は「真言宗 観音寺」及びその北の無記

名地周辺に、12区は「片山惣兵衛・竹藪・堀・御蔵屋舗」周辺に相当する。

11区は観音寺の西側で、1及び5号溝（6層）が西端を区画するものか。

前立状製品は同遺構出土の土器から17世紀後半以降で、仏具関連を指摘されている。

12区は、1・2・4号土壇の並びが特異であるがその機能を理解できない。

また、絵図との対照では御蔵屋舗の南に巡らされた障子堀の延長が検出される位置に3号溝が走行する。最も近い調査地点である第40次の堀と比べると規模及び形状が3堀に似る。しかし堀が2列であり、これについては、低地に近くなるので1列に減じたものか、あるいは手前で北へ屈曲あるいは掘削を止めたものか検討の余地を残す。

第4節 騎西城跡武家屋敷跡 第16・23次調査

いずれも武家屋敷跡の西に位置し、16次は南北軸中程にあり、23次はやや南寄りにある。『絵図』では、16次は主要路の南、当区域を屈曲して走行する堀の北側に所在する無記名地周辺に相当する。23次は観音寺境内周辺に相当する。

16次では、19号土壇がKB4区の大規模な土壇に似るが、北壁面に階段状の段がみられ、地下室の可能性はある。年代は廃城以後。

23次では、土壇が多く確認されたが所属時期を確定できなかった。T3号井戸が騎西城期に該当するか。遺構外南寄りで集中出土した土器類は良好な資料で廃城期前後のものである。

第5節 遺構の変遷

溝については、遺物の流れ込みや確認できなかった遺構に伴う遺物がある。さらに掘り返し・長い埋没時間など時期決定に不確実な部分を伴うが、今後の叩き台として年代の変遷を追う。但し各段階には他時期の遺構が共存するものと思われる。

第1段階（15c中～16c）

7区では1号溝、2号土壙が、8区では6号溝、3・4・6・7号井戸が相当する。12区では3号溝・2号井戸がこの時期まで遡る可能性がある。

第2段階（17世紀前半）

7区では1号溝が引き続き継続し、6号溝・6号井戸がある。北側に分布するピット群を道路に隣接する建物跡と想定したが確認できなかった。8区では2a・8号溝、9・10号井戸がある。絵図の時期に相当する遺構であろう。

第3段階（17世紀後半）

7区では5号井戸、KB8区では30号土壙、11区では5号溝が、12区では4・11号溝、1号土壙が相当する。廃城後の遺構である。

第4段階（18世紀以降）

7区では8・10・11号溝、2～4号井戸が、8区では調査区中央に分布する土壙に多く、4・5・7・8・10・16・23・29号土壙がある。11区では1号溝が、12区では小規模な溝（1・2・8・12・16号溝）や5号土壙がある。

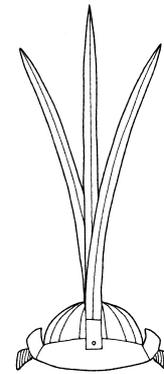
第6節 出土遺物について

○前立

KB7区1号溝下層から出土した前立(第68図25)は、当遺跡では唯一である。11区前立は、左に傾き1点で成立するには不自然で、現在のところ三本の菖蒲の葉を象ったものを想定している。(下図)

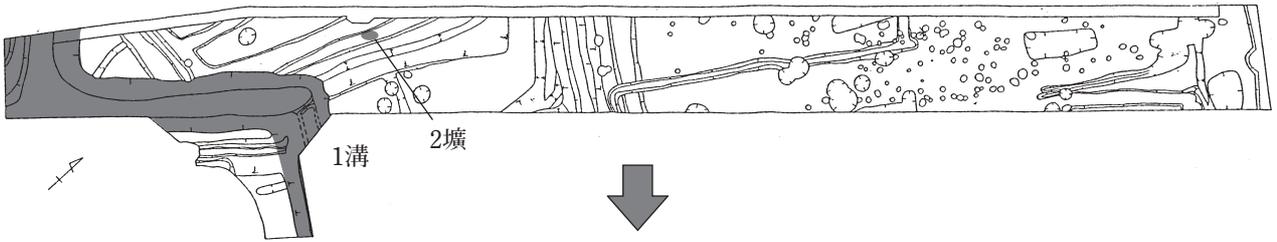
○竹束

KB7区1号溝下層から出土した竹束(第69図28)も当遺跡唯一である、出土状態から結束されていたものと思われる。床や柵などの構造物の可能性も考えられるが、いくさ関連で、火縄銃の盾としておく。

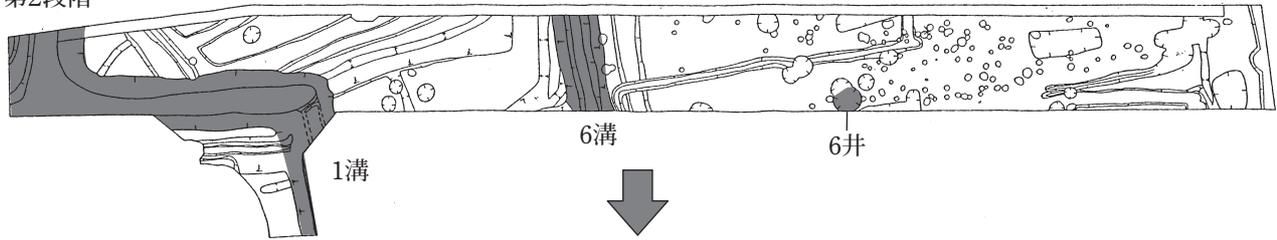


第95図 前立の復元

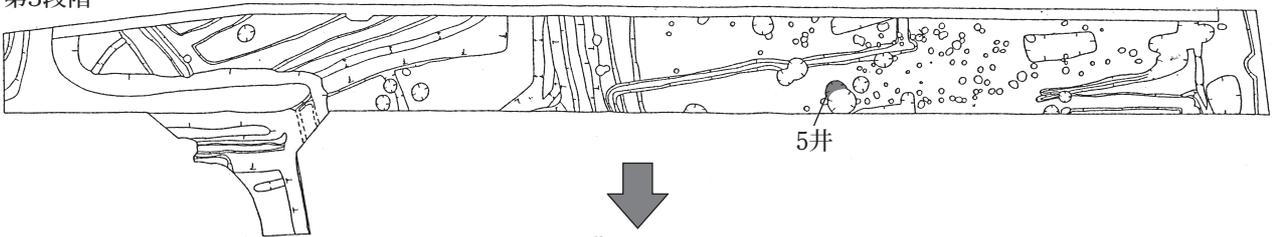
第1段階



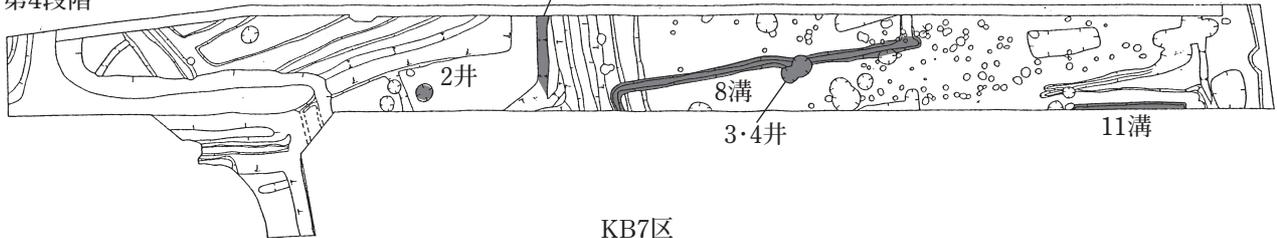
第2段階



第3段階



第4段階

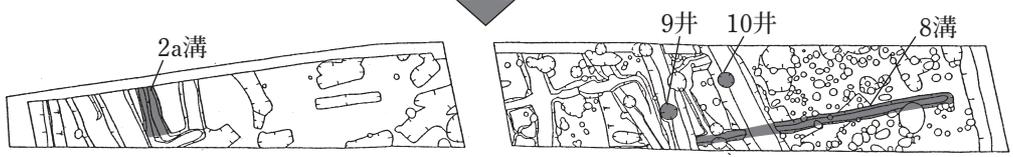


KB7区

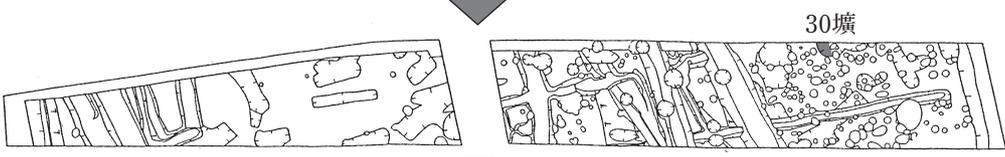
第1段階



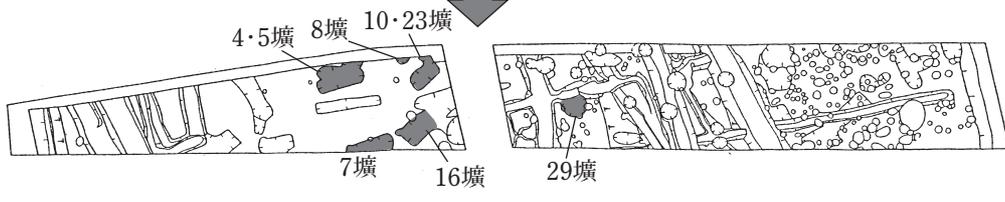
第2段階



第3段階



第4段階



KB8区

第96図 遺跡の変遷

引用参考文献

- 安芸毬子・大成可乃・大貫浩子・坂野貞子・成瀬晃司・堀内秀樹 1999 東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（1）『東京大学構内遺跡調査研究年報』2 別冊
- 秋本太郎 2008 「戦国期北関東のかわらけ—戦国大名支配との関連—」『中世東国の世界 3 戦国大名北条氏』
- 大成可乃 2011 東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（2） 東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要7 『東京大学構内遺跡調査研究年報』7
- 浅野晴樹 1988 「関東における中世在地産土器について」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』第4号
- 1991 「東国における中世在地系土器について—主に関東を中心に—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第31集
- 大橋康二 1984 「肥前陶磁の変遷と出土分布」『国内出土の肥前陶磁』佐賀県立九州陶磁文化館
- 小野正敏 1982 「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No.2 貿易陶磁研究会
- 2000 「遠江の出土陶磁器組成の特徴」『横地城跡 総合調査報告書 資料編』菊川町教育委員会
- 笹間良彦 1981 『図録 日本の甲冑武具事典』柏書房
- 塩野博編 2001 『騎西町史』考古資料編1 騎西町教育委員会
- 1999 『騎西町史』考古資料編2 騎西町教育委員会
- 2005 『騎西町史』通史編 騎西町教育委員会
- 九州近世陶磁学会 2000 「九州陶磁の編年」九州陶磁学会
- 2001 「国内出土の肥前陶磁」東日本の流通をさぐる 九州陶磁学会
- 島村範久ほか 1997 「騎西武家屋敷跡城 妙光寺第1・2次発掘調査報告書」騎西町遺跡調査会報告書第2集
- 島村範久 2005 「騎西（私市）城跡」『シンポジウム 埼玉の戦国時代 検証 比企の城』資料集 史跡を活用した体験と学習の拠点形成事業実行委員会
- 2005 「騎西（私市）城跡」『戦国の城』
- 2009 「騎西城武家屋敷跡 第40次発掘調査報告書」騎西町遺跡調査会報告書第6集
- 嶋村英之 2011 「騎西城武家屋敷跡 第17・28・35・36・39・41・43次調査」加須市埋蔵文化財調査報告書第1集 加須市教育委員会
- 2012 「騎西城武家屋敷跡第13・18・25・32・33・34・38・49次調査 騎西城跡第9・10次調査」加須市埋蔵文化財調査報告書第3集 加須市教育委員会
- 嶋村英之・嶋村薫
- 2008 「萩原遺跡第2・3・6・7次発掘調査」騎西町遺跡調査会報告書第3集 騎西町遺跡調査会
- 2013 「騎西城武家屋敷跡第4～6・10～12・46・47・53～56次調査」加須市埋蔵文化財調査報告書第5集 加須市教育委員会
- 2013 「騎西城武家屋敷跡 KB4・5区 第15・26次調査—中近世編—」加須市埋蔵文化財調査報告書第6集 加須市教育委員会
- 2014 「騎西城武家屋敷跡第2・3・8・9・50・51次調査 騎西城跡第3・12・14・15次調査 多賀谷氏館跡第1～3次調査」加須市埋蔵文化財調査報告書第7集 加須市教育委員会
- 2015 「萩原遺跡第1・4・5次 中郷遺跡第1次 五番遺跡第3・4次 種垂城跡第1～5次道智氏館跡第1次調査」加須市埋蔵文化財調査報告書第8集 加須市教育委員会
- 嶋村英之・島村範久・嶋村薫
- 2011 「騎西城武家屋敷跡 KB大英寺・1・2区調査—中近世編—」加須市埋蔵文化財調査報告書第2集 加須市教育委員会
- 2012 「騎西城武家屋敷跡 KB3・6・9区 第19・20・21・29次調査—中近世編—」加須市埋蔵文化財調査報告書第4集 加須市教育委員会
- 田中 信 1996 「川越市内出土の中世土師器について—特に河越館跡および周辺出土を中心に—」『川越市埋蔵文化財調査報告書 (XI)』川越市教育委員会
- 2005 「山内上杉氏の土器（かわらけ）とは」『戦国の城』高志書院

- 2005 「出土遺物からみた山内上杉（越後上杉氏）の城・陣所」『シンポジウム 埼玉の戦国時代
検証 比企の城』資料集 史跡を活用した体験と学習の拠点形成事業実行委員会
- 2010 「葛西城と扇谷上杉氏のかわけ」『葛西城と古河公方足利義氏』雄山閣
- 塚田良道 1989 「忍城跡の発掘調査」『行田市郷土博物館研究報告』Vol 1 行田市郷土博物館
- 中野晴久 1994 「生産地における編年について」『全国シンポジウム中世常滑焼をおって』資料集
- 2005 「常滑・渥美窯」『陶磁器から見る静岡県の中世社会』菊川城館遺跡国指定記念シンポジウ
ム資料集
- 成瀬晃司 1997 「江戸遺跡出土資料による磁器碗・皿の変遷—文様、銘款を中心に—」 東京大学埋蔵文化
財調査室研究紀要1 『東京大学構内遺跡調査研究年報』1
- 服部実喜 2008 「かわらけから見た北条氏の権力構造」『中世東国の世界3 戦国大名北条氏』
- 藤澤良祐 1987 「本業焼の研究（1）」研究紀要VI 瀬戸市歴史民俗資料館
- 1988 「本業焼の研究（2）」研究紀要VI 瀬戸市歴史民俗資料館
- 1989 「本業焼の研究（3）」研究紀要VI 瀬戸市歴史民俗資料館
- 2002 「瀬戸・美濃大窯の再検討」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯
- 2008 「中世瀬戸窯の編年」
- 堀内秀樹 1997 「東京大学本郷構内の遺跡における年代的考察」 東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要1『東
京大学構内遺跡調査研究年報』1
- 横田賢次郎・森田 勉 1978 「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』4

圖 版



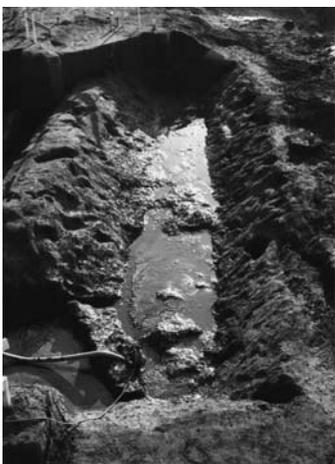
完掘



1号溝 完掘 (北から)



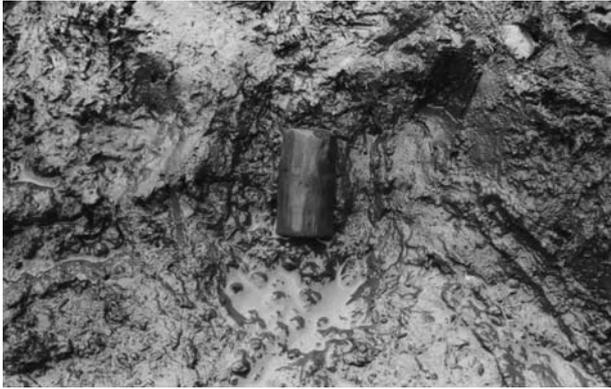
同 畝状掘残し



同 畝状掘残し (左下)



同 完掘 (西から)



1号溝 編具一錘 (木-19) 出土



同 端反坏 (土-10) 出土



同 部材 (木-26) 出土



5号溝 完掘 (西から)



6 (右) ・ 7 (左) ・ 8 (左上) 号溝 完掘



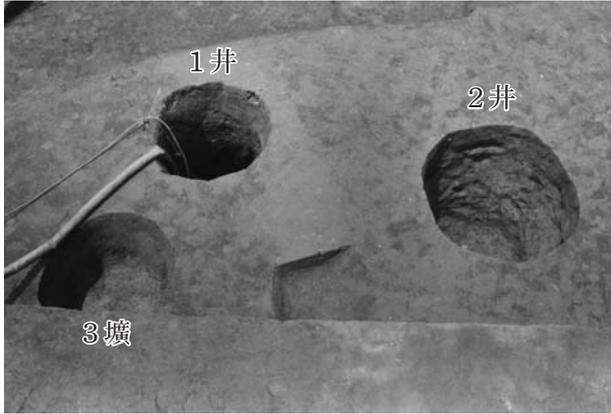
1 ・ 15号溝 完掘



8号溝 完掘 (北から)



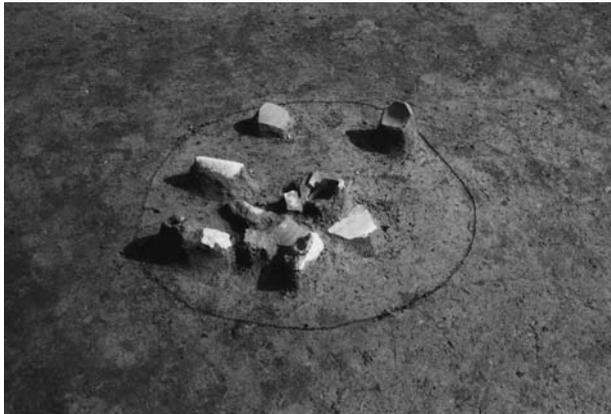
15号溝 完掘



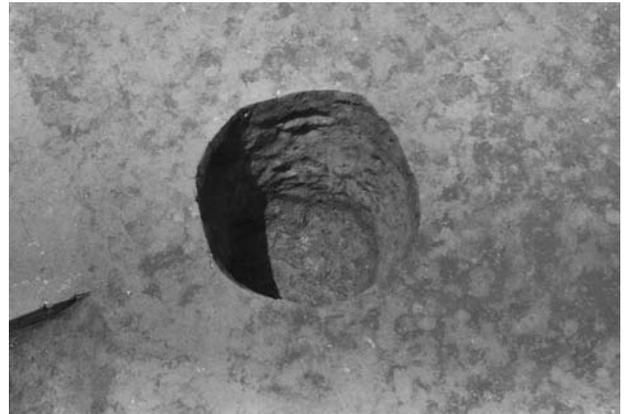
1・2号井戸・3号土壙 完掘



1号井戸 完掘



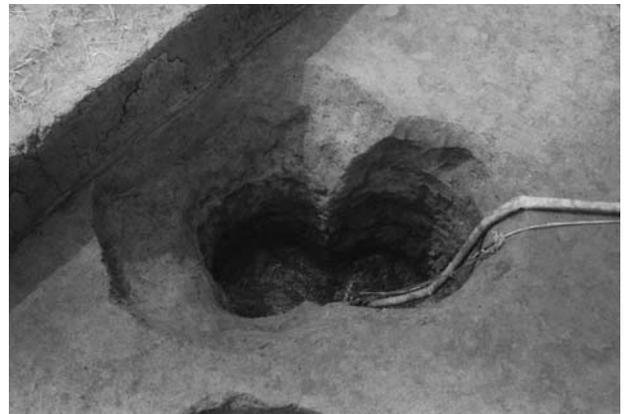
1号井戸 遺物出土



2号井戸 完掘



3 (右)・4 (左)号井戸 完掘



5 (右)・6 (左)号井戸 完掘



5号井戸 瀬戸美濃天目 (土-28) 他出土



6号井戸 かわらけ (土-36) 出土



7号井戸 完掘



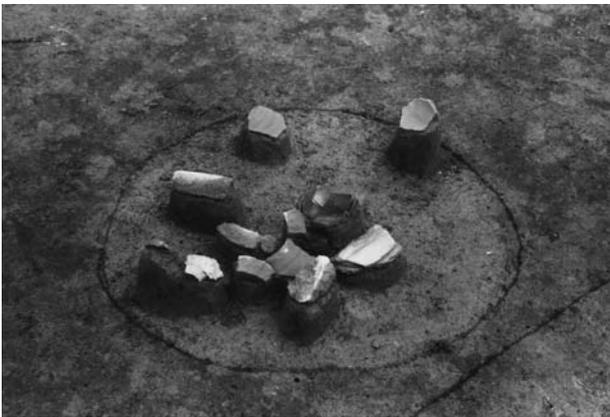
8号井戸 完掘



9号井戸 完掘



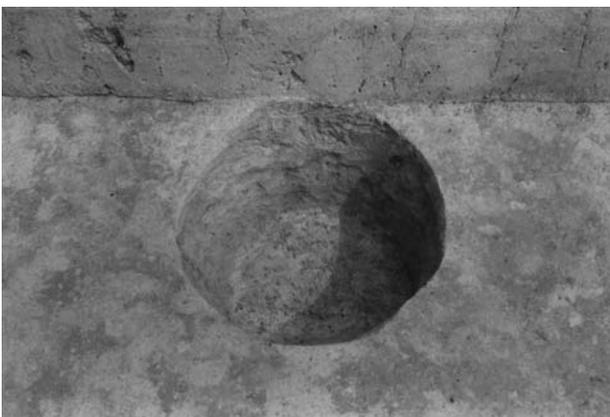
1号土壇 完掘



1号土壇 遺物出土



3号土壇 遺物出土



3号土壇 完掘



8号土壇 遺物出土



南区 完掘 (南から)



中区 完掘 (北から)



北区 完掘 (北から)



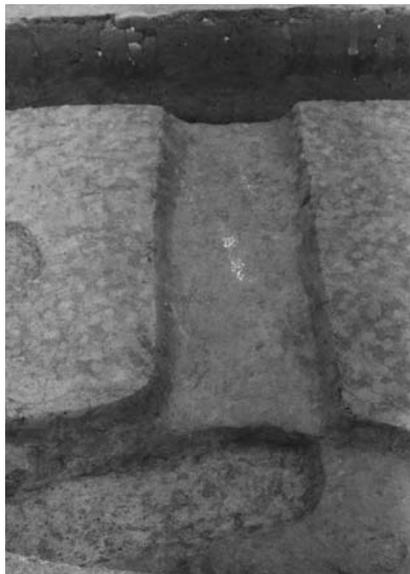
1号溝 完掘



2a~c号溝 完掘



2b号溝 完掘



3号溝 完掘



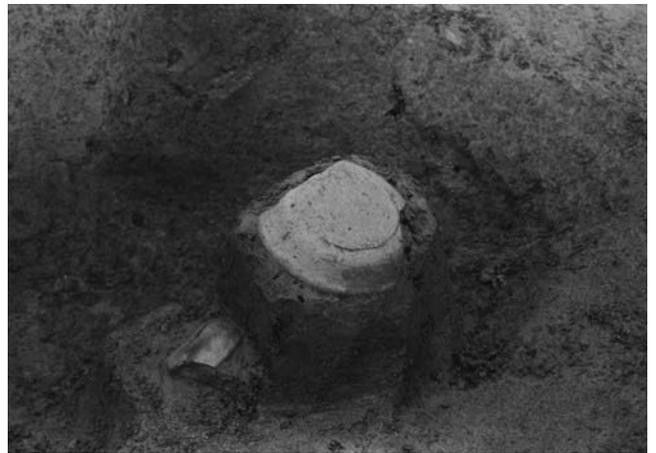
4号溝 完掘



8号溝 遺物出土



8号溝 瀬戸美濃香炉(土-155)・
かわらけ(土-158)出土



同 かわらけ(土-157)出土



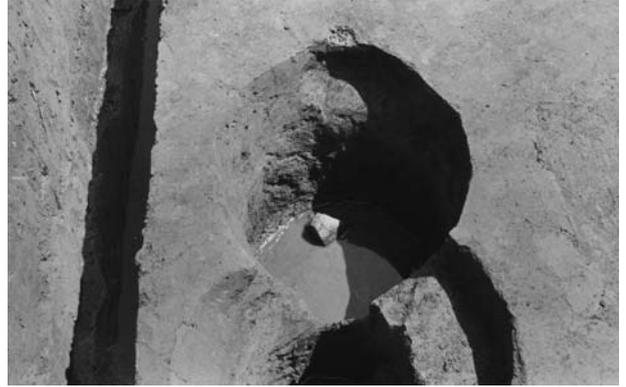
9号溝 完掘



13号溝 完掘



1号井戸 完掘



3号井戸 遺物(未図化)出土



3(上)・4号井戸 完掘



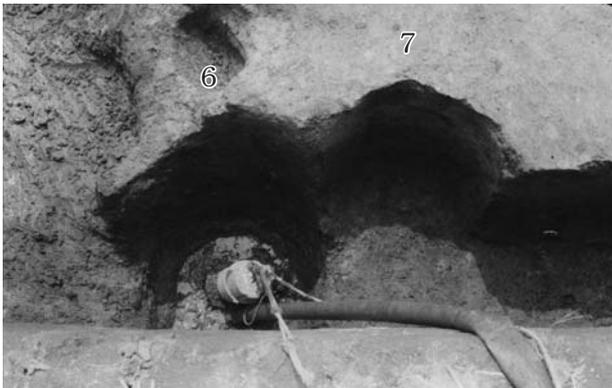
5号井戸 板材(未図化)出土



5号井戸 完掘



5号井戸 遺物(未図化)出土



6・7号井戸 完掘



8号井戸 完掘



10号井戸 完掘



13号井戸 完掘



南区北端 完掘



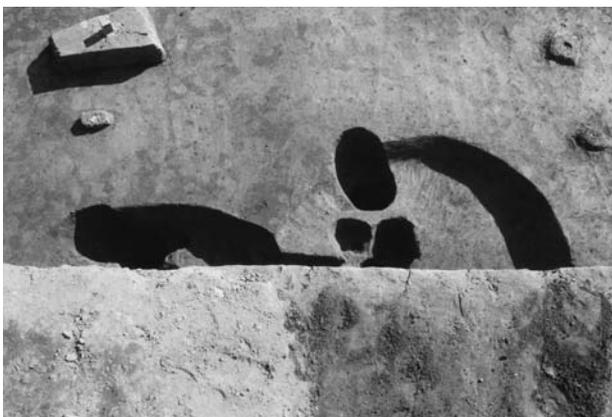
10号土壇 完掘



15号土壇 完掘



15号土壇 かわらけ(土-189)出土



30・31号土壇 完掘



34・35号土壇 完掘



かわらけ (土-328) 出土



瀬戸美濃腰折皿 (土-243) 出土



瀬戸美濃反皿 (土-262) 出土



瀬戸美濃菊皿 (土-256) 出土



弾丸 (金-37) 出土



筭 (金-26) 出土



煙管 (金-19) 出土



完掘 (南から)



6号溝 完掘



1号土壙 完掘



2号土壙 完掘



1・3号土壙 完掘



調査前風景



北区 完掘 (南から)



北区 完掘 (北から)



3号溝 完掘



3号溝 肥前染付碗 (土-436) 出土



4 (右)・16(左)号溝 完掘



4号溝 唐津刷毛目文鉢 (土-454) 出土



4号溝 瀬戸美濃丸皿 (土-447) 出土



7~11 (左より)号溝 完掘



1号井戸 完掘



1(上)・4号土壇 完掘



中央区 完掘



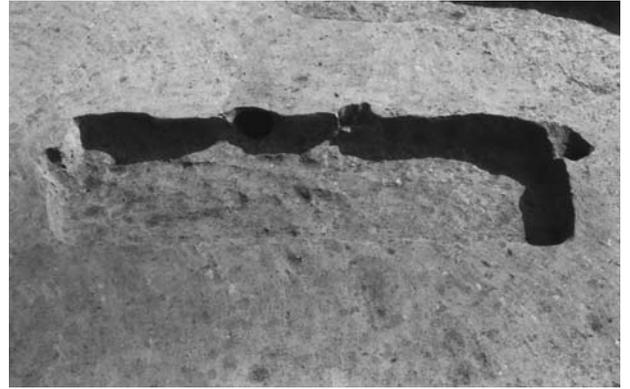
1～4号土壇 完掘



1号土壇 かわらけ(土-478) 出土



5号土壙 完掘



6号土壙 完掘



8号土壙 完掘



11号土壙 完掘



12号土壙 完掘



13号土壙 完掘



4号溝 漆碗 (木-15) 他出土



煙管 (金-22) 出土



調査前風景



完掘



1号溝 完掘



2号井戸 完掘



1号土壇 完掘



3号土壇 完掘



4号土壇 完掘



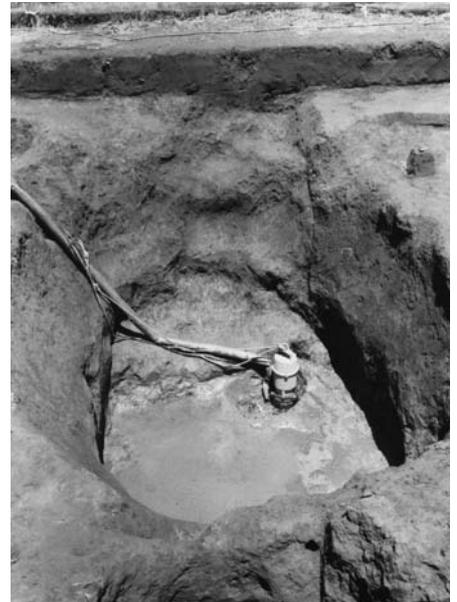
5号土壇 完掘



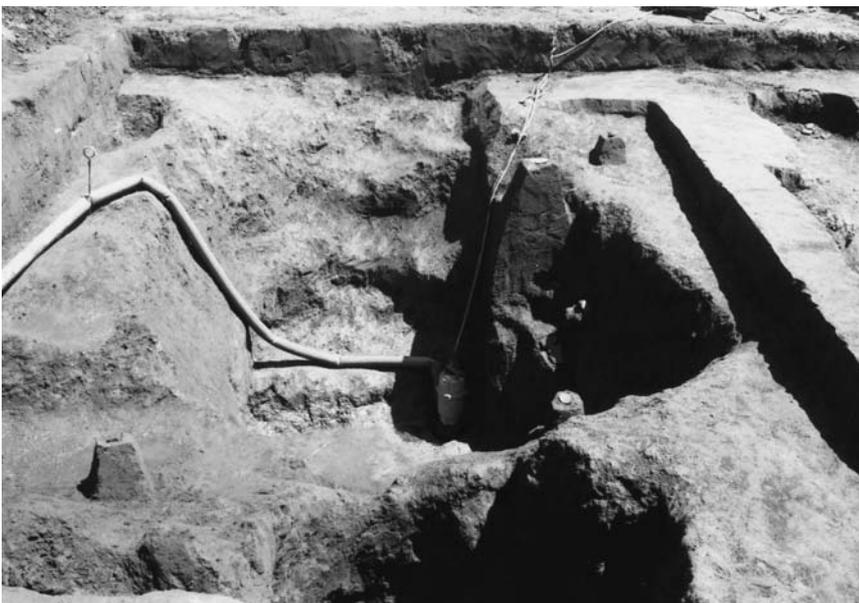
8号土壙 完掘



12号土壙 完掘



19号土壙 完掘



19号土壙 遺物出土



調査前風景



A区 完掘 (北から)



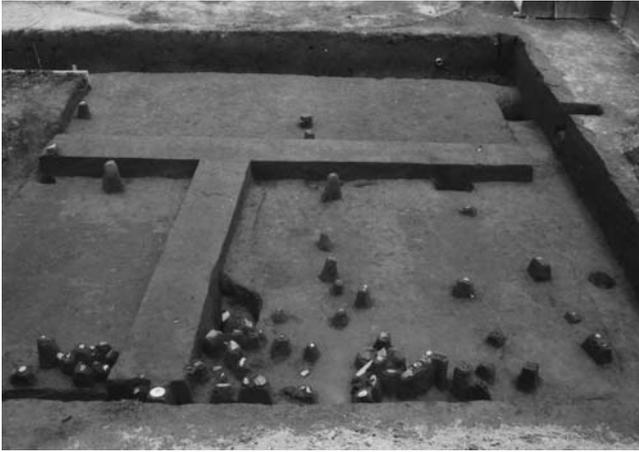
B区 完掘 (北から)



B区 完掘 (南から)



A区 完掘 (南から)



遺物出土 (北から)



瀬戸美濃志野丸皿 (土-542) 出土



かわらけ (土-555) 出土



煙管 (金-24) 出土



T1号溝 完掘



T2号溝 完掘



T1号井戸 完掘



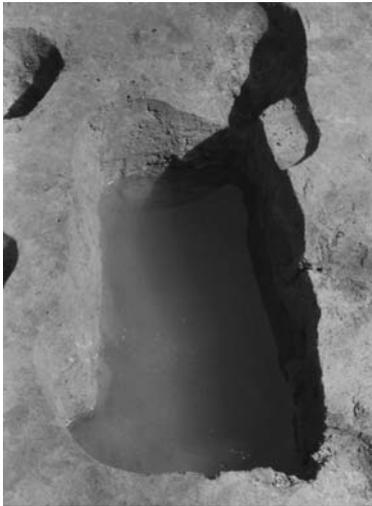
T3号井戸 完掘



T2号井戸 完掘



T2号土壙 完掘



T3号土壙 完掘



T7号土壙 完掘



T20号土壙 完掘



石臼(石-50) 他出土



12



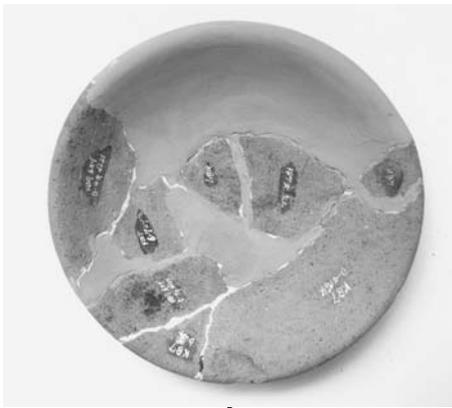
23



13



33



21



36



40



45



43



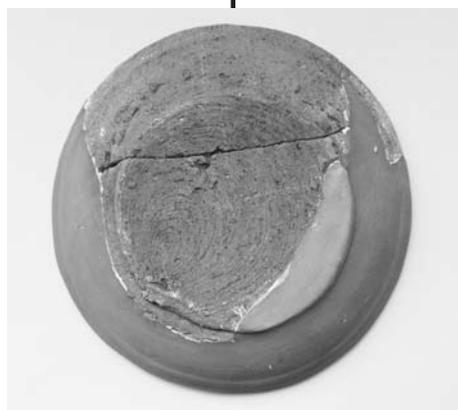
48



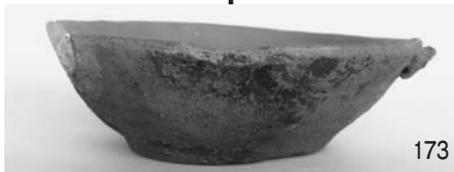
44



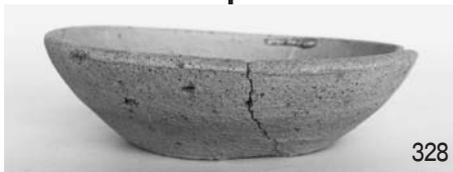
109



KB7区3・KB8区1 かわらけ



KB8区2 かわらけ



328



344



329



478



330



537



555



557

第23次 かわらけ



14

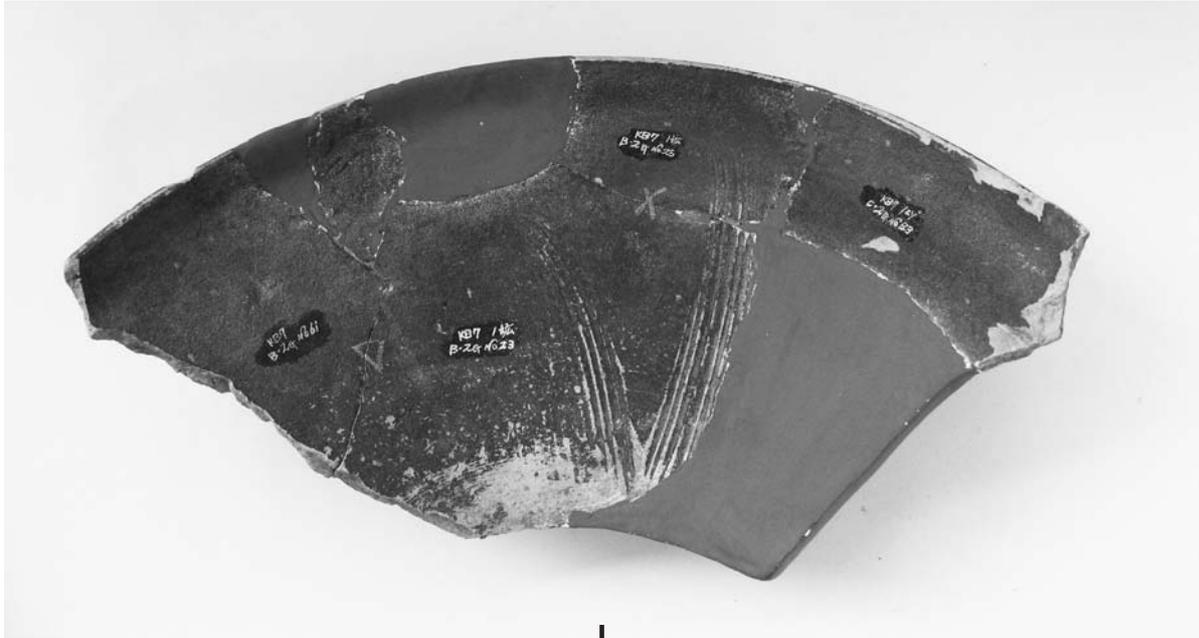


442



183

ほうろく



挿鉢



13



15



19



44



45



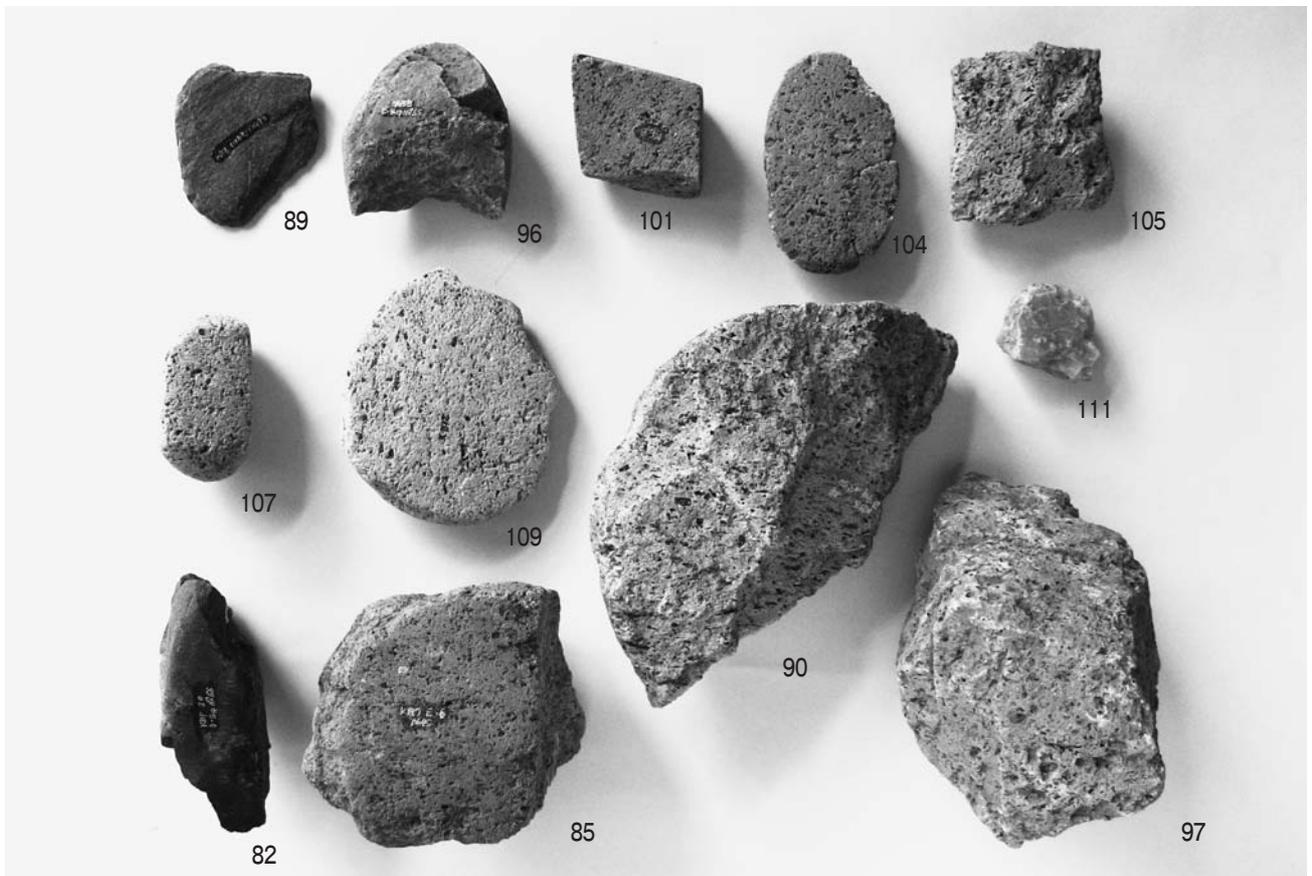
46



50



砥石



磨石・火打石



113



133



114



134



119

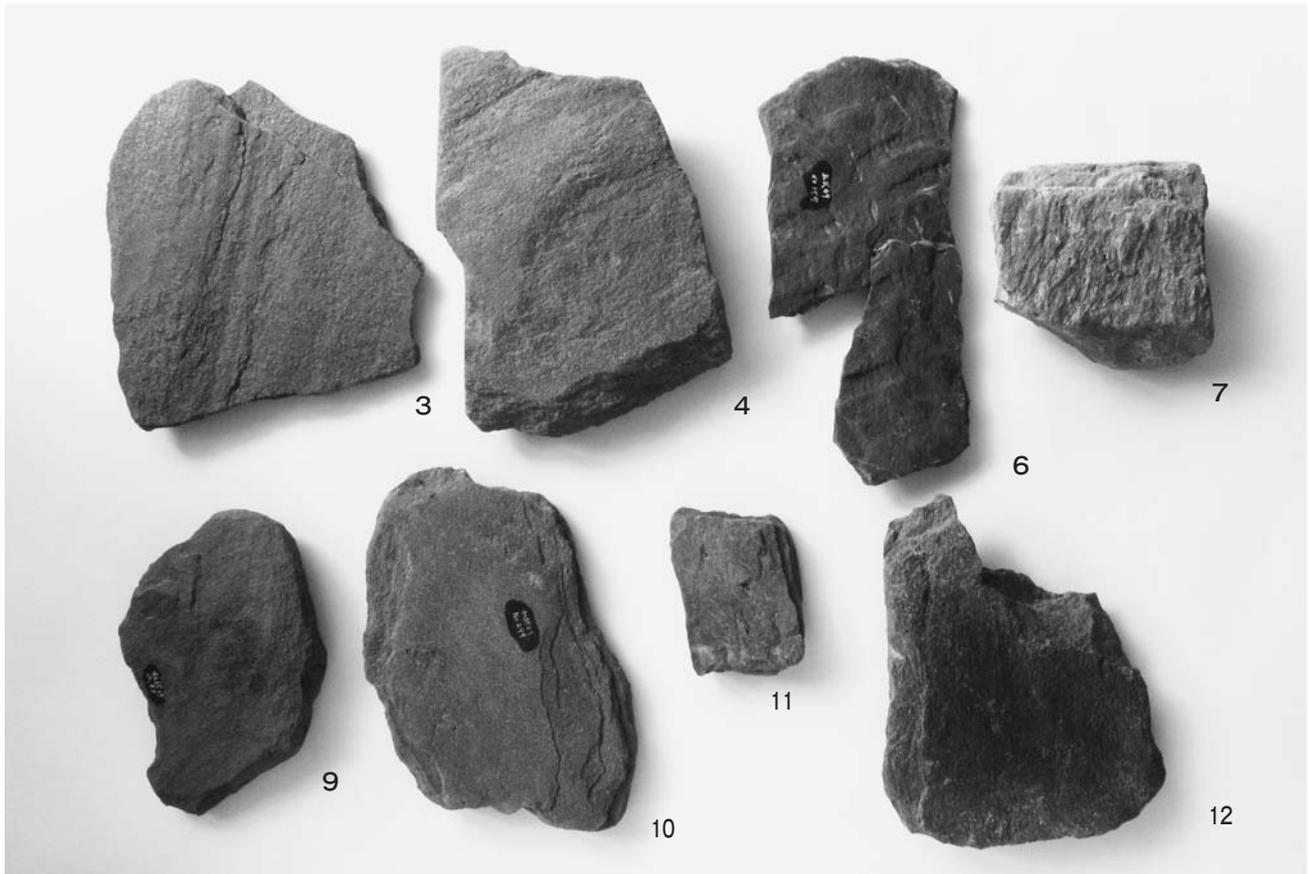


138



139

板碑・五輪塔



騎武49次 砥石



同 磨石・敲石

報告書抄録

フリガナ	キサイジョウブケンシキアト							
書名	騎西城武家屋敷跡 KB7・8・11・12区 第16・23次調査							
副書名								
巻次								
シリーズ名	加須市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第9集							
編著者名	嶋村英之 嶋村薫							
編集機関	加須市教育委員会							
所在地	〒347-8501 埼玉県加須市三俣二丁目1番地1							
発行年月日	西暦2016年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
<small>きさいじょう</small> 私市城 <small>ぶけやしきあと</small> 武家屋敷跡	<small>かぞし</small> 埼玉県加須市 <small>ねごや</small> 根古屋字前 7区129-1他 8区123-1他 <small>なかじゆく</small> 字中宿 11区 190他 12区 187他 16次 仮51-6 23次 仮36-1 ,7	11421	070	36°6'7"	139°35'5"	19860210~1128	470	区画 整理
				36°6'9"	139°35'1"	19860210~1201	440	
				36°6'11"	139°34'9"	19870112~0210	230	
				36°6'13"	139°34'9"	19871201~1988 0129	540	
				36°6'6"	139°35'7"	19900427~0531	62	
				36°6'9"	139°34'8"	19910603~0806	298	
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		
私市城 武家屋敷跡	城館跡	7区中近世 8区中近世 11区中近世 12区中近世 16次中近世 23次中近世		溝15/井戸10/土壇17 溝14/井戸11/土壇37 溝9/土壇8 溝16/井戸2/土壇20 溝1/井戸1/土壇14 溝2/井戸3/土壇20		陶磁器・前立・竹束 陶磁器・刀装品 陶磁器・前立状製品 陶磁器 陶磁器・かわらけ 陶磁器・かわらけ		
要約	KB7区では幅4mの溝下層からいくさに関連する竹を束ねたものや両面金箔を貼った兜の前立が出土した。KB8区では、北・中区で井戸・ピットの集中が見られ、建物が継続して建てられたものと思われる。12区の前立状木製品は、金箔が貼られた仏具であろうか。12区では御蔵屋舗の南に巡る障子堀の検出が予想されたが確認されず検討を要する。							

加須市埋蔵文化財調査報告書 第9集

騎西城武家屋敷跡

KB7・8・11・12区 第16・23次調査

—中近世編—

平成28年3月31日発行

発行 加須市教育委員会

〒347-8501 埼玉県加須市三俣二丁目1番地1

印刷 関東図書